

2020 年度 早稲田大学卒業生調査
報告書

2021 年 10 月

早稲田大学 大学総合研究センター

研究倫理番号 2020-252

全体要旨

本報告書は、大学総合研究センターが 2007 年度学部に入學した卒業生を対象に実施した卒業生調査の集計、分析結果を掲載した報告書である。調査は、2020 年の 12 月から 2021 年の 2 月までに 8,762 名を対象に大学に登録されたメールアドレス、住所にメール、ダイレクトメールを送付し、1,350 件の回答を得た（回収率 15.4%）。回収率に学部ごとの大きな偏りはないものの、本調査の回答者は在学時の成績が比較的高い層である点に留意する必要がある。

第 1 章では、本調査の概要や対象者の在学時の学習・生活環境について整理し、第 2 章では、本調査で初めて質問項目に設定したディプロマ・ポリシーに基づく学修成果（DP）の修得度と在学時の学びの関係を検証した。おもな結果は次の 3 点である。第一に、DP として掲げられた 6 つの修得度の平均値は自立と寛容の精神が最も高く（3.356）、国際性が最も低かった（2.657）。第二に、各 DP の修得度と通算 GPA を従属変数として入学前、入学時、在学時の質問項目を独立変数とした重回帰分析を行うと、概ね在学時に「授業内容について、他の学生と議論した」経験や「よい教員に巡り合えた」経験がある方が DP の修得度は高く、「資格取得や教職、国家試験勉強」に熱心であるほど修得度が低い傾向にある。第三に、通算 GPA については、入学前の経験である「高校 3 年時の成績」が高く、また在学時の経験として一般教育科目やゼミに熱心であるほど通算 GPA が高く、特別な理由なく授業を欠席しているほど通算 GPA は低い。各 DP の修得プロセスは、必ずしも同じではないものの、「授業内容について、他の学生と議論した」や「よい教員に巡り合えた」経験は、共通して DP 修得に寄与している。

第 3 章では、大学・学部の志望度に関する回答から志望度タイプを作成し、それぞれのタイプのインプットやスループット、アウトプット、役立ち度、校友関連の分析を行った。4 つのタイプの分布で、最も多かったのは、大学も学部も第一志望である層であった（51.7%）。次に多かったのは、大学は第一志望ではあるが学部は第一志望ではない層（20.3%）、3 番目は、大学は第一志望ではないが学部は第一志望である層（16.0%）、そして 4 番目が大学学部ともに第一志望ではない層であった（12.0%）。各分析では、大学入学から在学時の学習、生活、そして 10 年後における役立ち度などにおいて違いが見られる結果となった。

第 4 章では、大学入学前の居住地と卒業後 10 年を経た現在の居住地の 2 時点の回答から首都圏（埼玉県、千葉県、東京都・神奈川県）・非首都圏をもとに移動タイプを作成し、それぞれのタイプのインプットやスループット、アウトプット、役立ち度、校友関連の分析を行った。4 つのタイプの分布は、入学前も現在の居住地も首都圏である「首都圏首都圏」は 4 つのタイプのなかで最も高く（54.0%）、入学前は首都圏であったが、現在首都圏以外に居住する「首都圏非首都圏」は作成したタイプのなかで最も割合が少なかった（7.8%）。一方、大学入学前の居住地が非首都圏であった者に着目すると、現在の居住地が首都圏である「非首都圏首都圏」は 23.5%であり、現在の居住地が非首都圏の者は 14.7%であった。各分析では、入学時や校友関連の活動で違いは見られるものの、在学時の学習、学生生活ではそれほど違いが見られない結果となった。

目次

第1章 調査概要と対象について.....	p. 3
1-1. 調査概要.....	p. 3
1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境.....	p. 7
第2章 学修成果に関する分析.....	p. 9
第2章概要.....	p. 9
2-1. 学修成果の記述分析.....	p.10
2-2. 学修成果と在学時の学修・生活の関係.....	p.13
2-3. 定性的データの分析.....	p.18
第3章 志望度タイプの分析.....	p.31
3-1. タイプの基本情報と概要.....	p.31
3-2. インプット.....	p.36
3-3. スループット.....	p.41
3-4. アウトプット1.....	p.49
3-5. アウトプット2.....	p.52
3-6. 役立ち度.....	p.54
3-7. 校友関連.....	p.58
第4章 移動タイプの分析.....	p.61
4-1. タイプの基本情報と概要.....	p.61
4-2. インプット.....	p.65
4-3. スループット.....	p.70
4-4. アウトプット1.....	p.78
4-5. アウトプット2.....	p.81
4-6. 役立ち度.....	p.83
4-7. 校友関連.....	p.87
付録 全体の集計データ.....	p.90

第1章 調査概要と対象について

大学総合研究センターは、2018年度から学部卒業後10年時点の卒業生に対して、早稲田大学の教育改善の一環として客観的データを得るために卒業生調査を実施し、2020年度は第3回目の調査を行った。

これまでの調査では、在学時の学びと卒業後のアウトプット（役立ち度や満足度）との関係に着目し分析を行い、早稲田大学の教育の効果を検証した。一方、2020年度は在学生に対して、これまでの学生生活調査を踏襲し、学修成果や学修行動を加えた学生生活・学修行動調査¹を実施し、ディプロマ・ポリシーの修得についても検証が始まったところである。

本報告書では、これまでの調査分析を踏襲しつつ、新規項目として2つを設定した。1つ目は、学修成果として現在早稲田大学で掲げられているディプロマ・ポリシーを卒業生に対しても設定した。2つ目は、早稲田大学の卒業生（校友）として、現在早稲田大学とどのような関わりがあるのかについても調査した。これらを踏まえつつ、学部卒業時点での成果と在学時の学びや生活との関係を検証した（第2章）。

具体的な分析にあたっては、昨年度は入試区分別に在学中の学修行動やアウトプットについて分析しており、本報告書では、①大学・学部志望度別の分析、②入学前、卒業後の居住地から移動タイプを分けて分析した。①については既存研究において注目される項目であり、実際昨年度の分析結果においても一般入試における学部第一志望が相対的に低い結果が示されるなど（早稲田大学大学総合研究センター 2020²、p.18）、引き続き注視したい項目であり、より焦点を充て分析を行った（第3章）。②については本学の出身地域の多様性や地方性を卒業後から探る試験的な分析を行った（第4章）。なお調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析、報告書執筆は同センター遠藤健が担当し、報告書編集補助を学生スタッフ丸川拓己が担当した。

1-1. 調査概要

上述した分析を行うにあたって、課題としてきたのは回収数・回収率である。特に、卒業後の転居情報が更新されていないケースがあり、2019年度は回収率5.9%と十分な回収数を得られていなかった。そこで2020年度調査からは、学内の研究倫理申請を行った上で在学時に登録されたメールアドレス宛にもウェブ回答URLを送付した。その結果、以下のように回収数・回収率は昨年度の543件（5.9%）から1,350件（15.4%）に増加した。調査に協力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

¹ 早稲田大学大学総合研究センター、2021、『2020年度 学生生活・学修行動調査報告書』。

² 早稲田大学大学総合研究センター、2020、『2019年度 卒業生調査』。

対象者：2007年度学部入学者（昨年度：2006年度学部入学者）

回収時期：2020年12月26日～2021年2月10日（昨年度：2019年12月26日～2020年2月10日）

調査方法：①ウェブ回答 URL を登録されたメールアドレスに送付、②ウェブ回答 URL が印刷されたダイレクトメールの郵送（昨年度：ウェブ回答 URL が印刷されたダイレクトメールの郵送）

送付数：8,762（昨年度：9,193）

回答数：1,350（昨年度：543）

回答率：15.4%（昨年度：5.9%）

また、分析の前に秘匿化された調査対象者（母集団）のデータ（n=8,762）と本調査結果とを結合した。調査対象者の母集団と回答者の比較によって、回答者はどのような卒業生なのか、在学時のデータからその一端を明らかにし、解釈する上での助けとなる。ここでは学部、性別、学内奨学金制度の利用、成績の情報から検討する。

学部については、図1-1の通りである。教育学部や文学部の割合が母集団と比較して2%程度高く、逆に商学部は2.3%低いものの、全体的にそこまで大きな偏りは見られない。

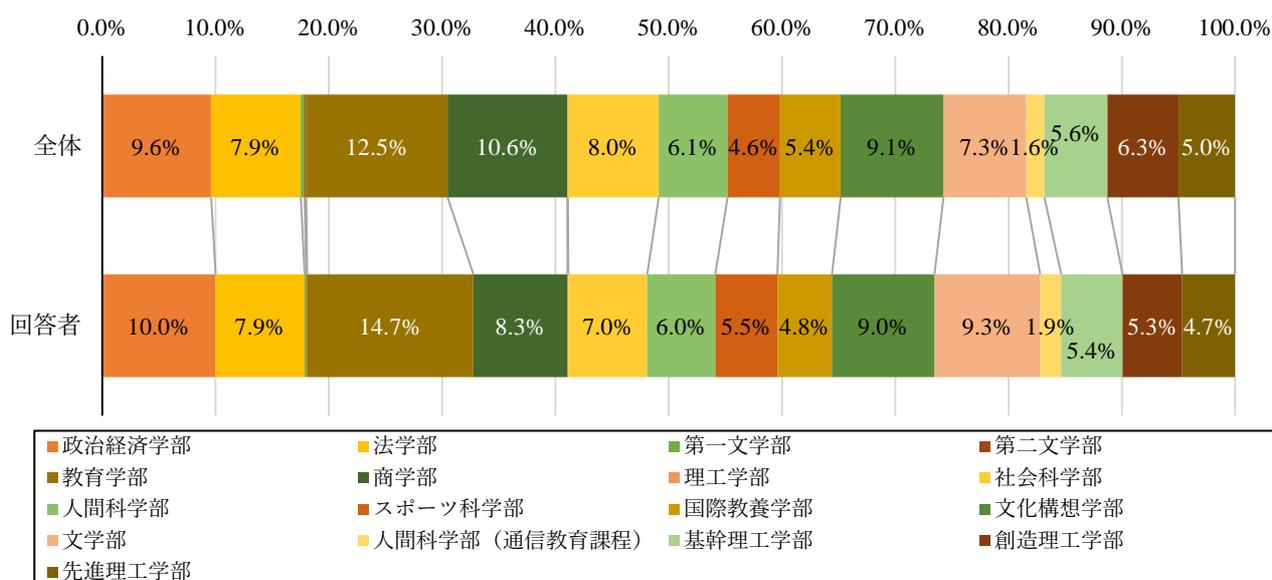


図1-1 母集団と回答者の学部の割合

次に回答者の学内に登録された性別の割合と比較すると（図1-2）、母集団全体よりも回答者の女性比率が多い（40.8% > 35.7%：図1-3）。また早稲田大学の給付型奨学金の利用状況を見ると（図1-4）、母集団全体と比較して回答者は給付奨学金を利用したものが多い（18.4% > 14.6%：図1-5）。

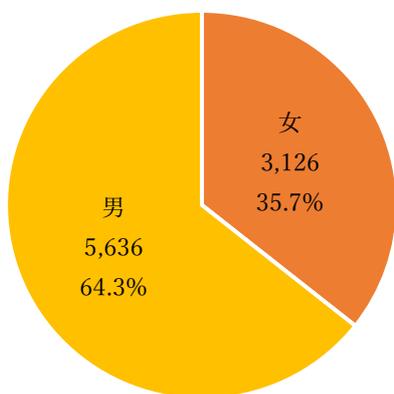


図1-2 母集団・性別

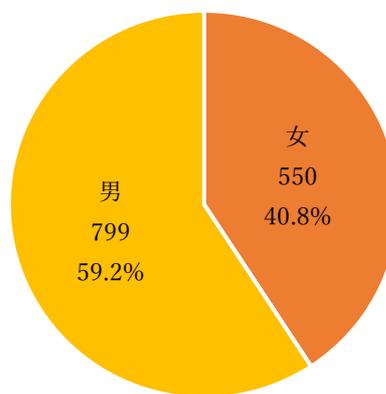


図1-3 回答者・性別

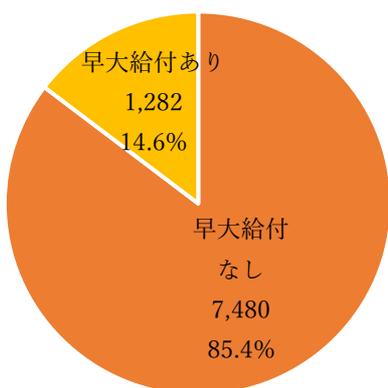


図1-4 母集団・早大給付有無別

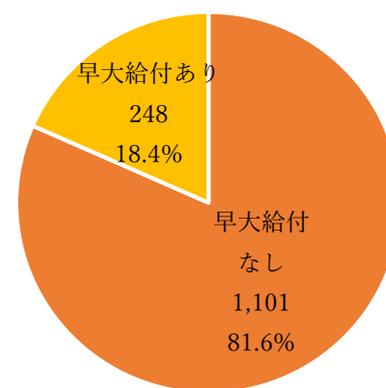


図1-5 回答者・早大給付有無別

成績については通算 GPA を一指標として検証する。早稲田大学の GPA は各授業の成績のグレードポイント (A+ (4)、A (3)、B (2)、C (1)、不可 (0)) に応じて点数化され、それらを平均したものが通算 GPA となる。まず母集団全体の箱ひげ図を示すと (図 1-6) 平均値 2.285、中央値 2.267 であった。一方、回答者は (図 1-7)、平均値 2.415、中央値 2.426 となり、母集団より高い値である。よって、本調査の回答者は在学時の成績が比較的高い層である点に留意する必要がある。

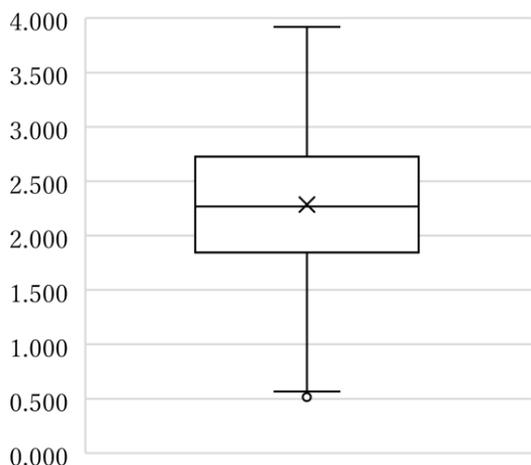


図 1-6 母集団・通算 GPA の箱ひげ図

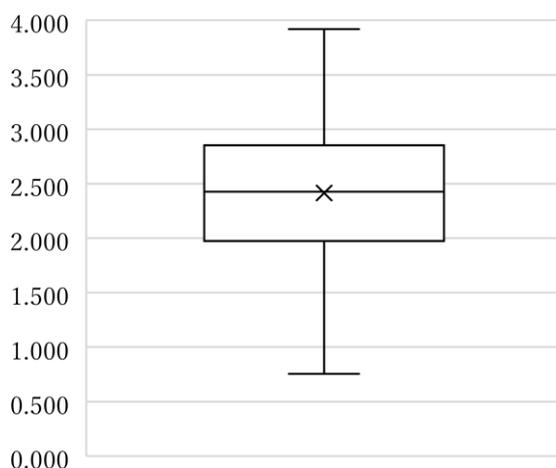


図 1-7 回答者・通算 GPA の箱ひげ図

1-2. 調査対象者の在学時の学習・生活環境

次に、本調査の対象とする2007年度学部入学生の在学時の学習・生活環境について整理する。表1-1では早稲田大学、高等教育政策、社会のカテゴリーで2007年～2010年度にかけて生じた比較的大きな出来事を作成した。

表1-1 2020年度卒業生調査対象者の在学時の出来事

	早稲田大学	高等教育政策	社会
2006年		・センター試験英語で初めてリスニングが導入される	・第1次安倍政権発足
2007年4月/9月	入学		
2007年4月	・創立125周年。 ・第一・第二文学部を文化構想学部・文学部に、理工学部を基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部に変更・再編。		
2008年	・「Waseda Next 125」発表。 ・専門職大学院教職研究科設置。 ・教務部外局としてFD推進センターを10月に設置。 ・「こうはいナビ」による、学生・職員共同で新入生をサポートするプロジェクトを実施 ・「ボランティア、フィールドワーク型授業」を19科目開講	・「学士課程教育の構築に向けて」(答申) ・「質の高い大学教育推進プログラム」公募開始	・リーマン・ショック
2009年	・「授業の到達目標」「半期15回分の授業計画」を明示するようシラバス項目の見直しを実施 ・「Course N@vi」は約17,000科目中約5,000科目で活用		・政権交代
2011年3月	卒業式中止		東日本大震災
2011年3月/9月	標準年限卒業		

まず、基本的な前提として理解しておくべきは調査対象者が在学していた期間、特に入学と卒業時点で早稲田大学、社会にとって大きな出来事が生じていた点である。調査対象者が入学した2007年は早稲田大学の創立125周年にあたり、当時の白井総長の式辞では「これまでの伝統に立脚して、建学の理念を踏襲した、新たな大学像を具現化する契機の年と位置づけて、様々な改革が実行されて」(早稲田大学校友会2007、p.52)³ いると述べ、改革のキーワードとしてグローバリゼーションとイノベーションをあげている。早稲田大学が提供する「豊富で実際的な講義や演習、サークル活動そして、大学のグローバルな役割に対応する国際的なプログラム」は入学者に「高い学力と人間力を与え」、「高い充足感を持って人生を送れる高い教養を育むのに役立つ」と入学式では述べた。

³ 早稲田大学校友会、2007、『早稲田学報』1164号。

具体的に 2007 年度の事業計画では①21 世紀にふさわしい新たな教育研究体制への転換の完了、② 2008 年度以降の中長期計画の策定、③創立 125 周年記念事業および記念行事の完遂が示された。①については、「これまで本学が目指してきた目標（国際化・情報化時代にふさわしい教養教育の実践、高度専門職業人の育成、社会と連携した研究開発の活性化）を着実に達成させ、21 世紀にふさわしい基盤を強化」、②については、「建学の理念を継承しつつ時代に合った新たな視点を盛り込んだ中長期計画の策定」を示した。なお前年度の事業として「教育の早稲田」の実現の一環として、文学部、理工学部の再編実施、全学部共通科目「オープン科目」の科目数の増加等、低学年のうちから「考える力」を養うゼミ形式の更なる充実を報告している（早稲田大学校友会 2007、p.49）。

上述した②については、2008 年に「Waseda Next 125」を発表し、創立 150 年に向けた各改革のロードマップを示し、同年には、FD 推進センターが設置され、教育のグローバル化として海外からの留学生の受入れ、日本人学生の海外留学の促進、世界各国からの留学生との交流の充実を図ったと報告した（早稲田大学校友会 2009⁴）。以上のように、調査対象者が在学している間に、全学基盤教育の充実と教育のグローバル化推進を図っていったことが特徴としてあげられる。一方、卒業時には 2011 年 3 月に発生した東日本大震災によって、2010 年度の卒業式は中止となり、就職時から様々な影響を受けた調査対象者も少なくないと予想される。

また、高等教育政策においては、2008 年に文部科学省中央教育審議会にて「学士課程教育の構築に向けて」が答申され「学士力」が示され、また経済産業省「社会人基礎力」が示されるなど、大学と社会を繋ぐコンピテンスの獲得と、その獲得に向けた学士課程プログラムの質保証に関する議論、実践が本格化した時期にあたる。具体的には、大学教育改革を促進する教育 GP 事業の公募が始まり、2008 年に公募された「質の高い大学教育推進プログラム」には国際教養学部の「多文化・多言語社会に向けての教養教育」が採択された。

このように調査対象者の在学中は、昨年度の調査対象者と同様、全学的に教育改善の取り組みが実行され始めた時期にあたり、かつ教育組織の改革によって新たに誕生した文学部・文化構想学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部で初めて学んだ卒業生を含む。これらの基本情報も本報告書のなかで適宜参照する。

⁴ 早稲田大学校友会、2009、『早稲田学報』1176 号。

第2章 学修成果に関する分析

第2章概要

第2章では、本調査で初めて質問項目に設定したディプロマ・ポリシーに基づく学修成果（DP）の修得度と在学時の学びの関係を検証した。

検証の前提として、6つのDP間の関係と学内データベースから得られた学生の通算GPAとの関係についても検証した。その結果、DPとして掲げられた6つの修得度（①構想・構築力、②問題発見・解決力、③コミュニケーション力、④健全な批判精神、⑤自立と寛容の精神、⑥国際性）の平均値は⑤自立と寛容の精神が最も高く（3.356）、⑥国際性が最も低かった（2.657）。DP間で国際性が最も低い点は既に在学学生を対象として行った学生生活・学修行動調査とも同様の結果である（大学総合研究センター 2021）。また、DP間の相関関係は、⑥国際性を除いた項目間で概ね中程度以上の相関が確認でき、⑥国際性は他の項目間の相関と比べやや低い結果となった。

次に、在学時の正課教育（専門科目、一般教育科目、ゼミ、卒業論文作成）とDP修得度の相関関係は、概ねやや弱い正の相関が確認された。学修行動との関係では、「自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした」、「授業内容について、他の学生と議論した」、「授業内容について、教員と議論した」、「よい教員に巡り合えた」は、6つのDP修得度と弱い正の相関が確認できた。「語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした」、「留学生と一緒に学んだ」は、⑥国際性と中程度の相関が見られた。

学内データベースから得られた通算GPAと各DP修得度はいずれも正ではあるが相関は弱い。DP総得点と通算GPAの散布図では、通算GPAは相対的に低いものの、DP修得度はそれなりに高い層を確認できる。

最後に、各DPの修得度と通算GPAを従属変数として入学前、入学時、在学時の質問項目を独立変数とした重回帰分析を行った。分析の結果、①DPに掲げられる諸能力は、概ね在学時に「授業内容について、他の学生と議論した」経験や「よい教員に巡り合えた」経験がある方が修得度は高く、「資格取得や教職、国家試験勉強」に熱心であるほど修得度が低い傾向にある。また入学時の変数として用いた進学理由もDP修得に正に関連しているものもある。一方、通算GPAについては、入学前の経験である「高校3年時の成績」が高く、在学時の経験として一般教育科目やゼミに熱心であるほど通算GPAが高く、特別な理由なく授業を欠席しているほど通算GPAは低い。

今回のDPを中心とした学修成果の検証では、DP間、通算GPAとの関係性を精査した上で、分析を行った。それぞれの学修成果の修得プロセスは、必ずしも同じではないものの、「授業内容について、他の学生と議論した」や「よい教員に巡り合えた」経験は、共通してDP修得に寄与している。

2-1. 学修成果の記述分析

第2章では、学修成果に関する分析を行う。前回の報告書においては、6つのアウトプットとして①専門的な知識・技術、②幅広い知識・教養、③論理的思考能力、④表現力・プレゼンテーション能力、そして⑤1～2年成績、⑥3～4年成績について回答者の自己報告をもとに検証した。それぞれを従属変数とした回帰分析結果は、正課教育に熱心であるほど、アウトプットが高い関係が示され、また授業内容についてよく議論しているほど、アウトプットが高い結果が示された。また、大学関係の活動（早稲田祭や100キロハイク等）に熱心であるほど、②幅広い知識・教養、③論理的思考能力、④表現力・プレゼンテーション能力が高い関係も見いだされた。

本報告書では、基本的に前年度の枠組みを踏襲しつつ、DPとして掲げられた6つの能力（①構想・構築力、②問題発見・解決力、③コミュニケーション力、④健全な批判精神、⑤自立と寛容の精神、⑥国際性）の修得度を検証した。なお調査対象者の在学時には早稲田大学のディプロマ・ポリシーは設定されていないものの、在学生との比較の観点等から今回用いた。

まず変数作成にあたっては、6つの項目について1ないし2項目の質問項目を設け、それぞれについて「早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか」という教示文のもと4件法（身につけてない、あまり身につけてない、まあまあ身についた、身についた）で修得度を尋ねた（図2-1）。

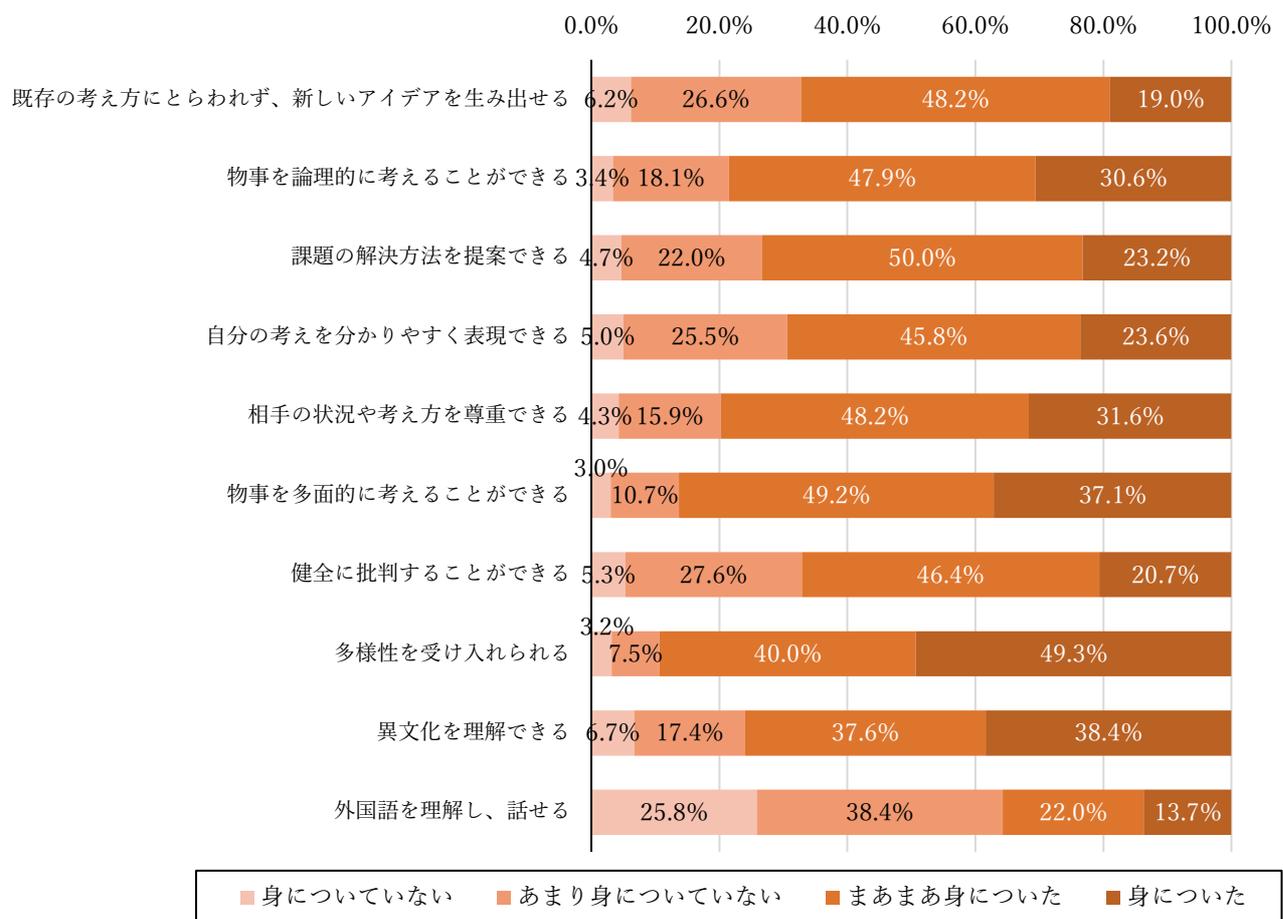


図2-1 ディプロマ・ポリシーに関する能力の修得度

これらの結果を見ると、修得度が比較的高いのは、「多様性を受け入れられる」や「物事を多面的に考えることができる」である。一方で「外国語を理解し、話せる」は他の項目と比較して顕著に低い結果となった。これらを上述した6つの能力に整理したのが表2-1である。これらの平均値をレーダーチャートで示すと（図2-2）、「自立と寛容の精神」が比較的高く（3.356）、「国際性」が比較的低い（2.657）。「国際性」の修得度が相対的に低い点は、既に在学生を対象に行った学生生活・学修行動調査でも示されており、世代を超えた早稲田生の課題であるようだ。

表2-1 DP 修得度の記述統計

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
構想・構築力	1,298	1.00	4.00	2.798	0.818
問題発見・解決力	1,295	1.00	4.00	2.989	0.740
コミュニケーション力	1,297	1.00	4.00	2.977	0.710
健全な批判精神	1,297	1.00	4.00	3.018	0.691
自立と寛容の精神	1,298	1.00	4.00	3.356	0.757
国際性	1,296	1.00	4.00	2.657	0.799

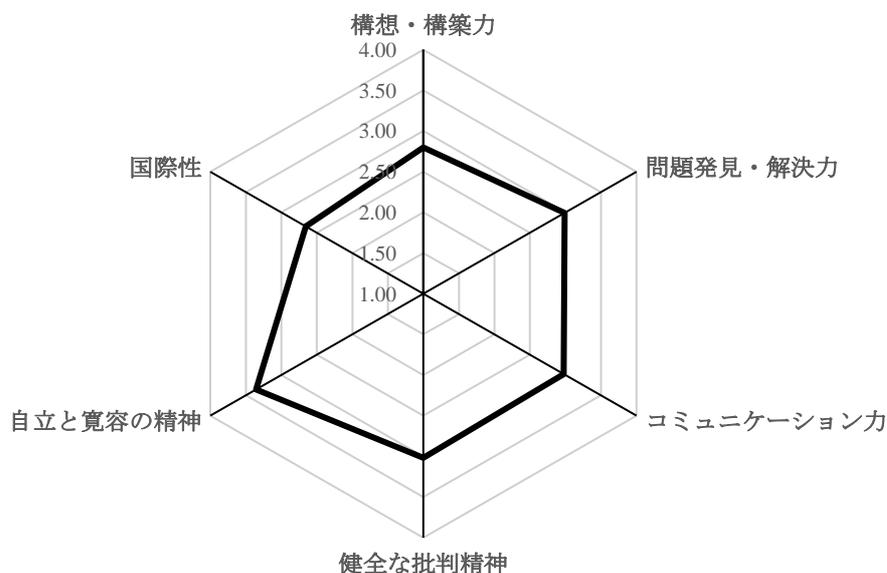


図2-2 DP 修得度の平均値

次に、それぞれの6つの能力間の関係について確認する（表2-2）。すると、「国際性」を除いた項目間では中程度以上の相関を確認できる。最も相関係数が高いのは、「コミュニケーション力」と「健全な批判精神」間の関係であった（.716）。一方で、「国際性」については、他の5つの項目と弱～中程度の相関にとどまっている。相関係数が最も高いのは、「自立と寛容の精神」（.514）であり、最も低いのは、「問題発見・解決力」（.273）であった。

表 2-2 DP 間の相関係数

	構想・構築力	問題発見・解決力	コミュニケーション力	健全な批判精神	自立と寛容の精神
問題発見・解決力	.622**				
コミュニケーション力	.608**	.691**			
健全な批判精神	.594**	.660**	.716**		
自立と寛容の精神	.415**	.381**	.516**	.565**	
国際性	.314**	.273**	.406**	.387**	.541**

** $p < 0.1$

次に出身学部ごとに6つの能力の修得度を平均値で示す(図2-3)。なお、2007年に新入生を受入れた学部のみに限定した。すると、人間科学部(通信教育課程)は「国際性」を除きいずれの項目でも高い結果となった。また「国際性」については国際教養学部が他の学部よりも顕著に高い(3.78)。このように学部ごとにも違いが見られる結果となった。この結果は、これまで卒業生調査同様、社会人学生が多いことも一要因として考えられる。

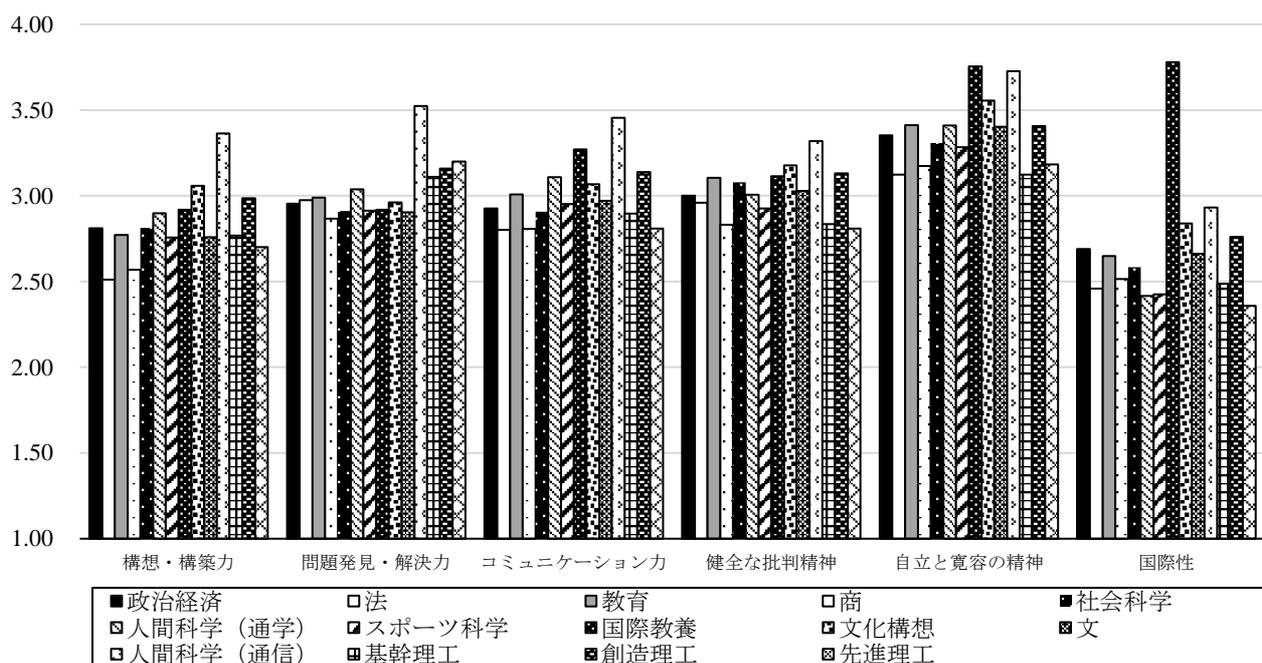


図 2-3 学部別の DP 修得度の平均値

2-2. 学修成果と在学時の学修・生活の関係

次に前節に示した6つの能力と在学時の教育・生活との関係を示す。各項目は前年度の調査でも用いた項目である。まず在学時に表2-3に示される教育経験や学生生活に熱心に取り組んでいたのかについて尋ねた。なお、各項目の回答は次のように括弧内の数値を割り当てた。経験しなかった(1)、不熱心(2)、やや不熱心(3)、やや熱心(4)、熱心(5)。6つの能力との相関関係を見ると、1~4の正課教育と6つの能力は弱い相関関係を確認できる。正課外教育については「8. ボランティア」と「国際性」が弱い相関関係(.242)にある以外は、明確な相関関係を見いだせない。

表2-3 在学時の教育・生活とDPの相関係数

	構想・構築力	問題発見・解決力	コミュニケーション力	健全な批判精神	自立と寛容の精神	国際性
1. 専門科目	.256 **	.375 **	.320 **	.308 **	.217 **	.185 **
2. 一般教育科目	.219 **	.282 **	.255 **	.239 **	.184 **	.238 **
3. ゼミ	.277 **	.341 **	.345 **	.295 **	.218 **	.178 **
4. 卒業論文作成	.257 **	.291 **	.306 **	.238 **	.177 **	.133 **
5. 部活動、サークル活動	.016	-.045	.056	-.004	.045	.029
6. 学内のアルバイト	.100 **	.097 **	.095 **	.057 *	.048	.070 *
7. 学外のアルバイト・定職	.014	.033	.065 *	.030	.046	.089 **
8. ボランティア	.124 **	.083 **	.133 **	.100 **	.100 **	.242 **
9. インターンシップ	.051	.053	.066	.055 *	.073 **	.107 **
10. 早稲田大学以外での勉強	.072 **	.088 **	.067 *	.113 **	.073 **	.166 **
11. 資格取得や教職、国家試験勉強	.004	.063	.037	.056 *	.008	.060
12. 大学関係の活動	.107 **	.072 **	.107 **	.077 **	.107 **	.149 **

** $p < 0.1$ 、** $p < 0.5$

また6つの能力と具体的な学修行動との関係を示す。表2-4に示した各項目の経験について次のように括弧内の数値を割り当てた。まったくあてはまらない(1)、あまりあてはまらない(2)、ややあてはまる(3)、あてはまる(4)。6つの能力との相関関係を見ると、「4. 授業内容について、他の学生と議論した」や「5. 授業内容について、教員と議論した」、「10. よい教員に巡り合えた」が弱~中程度の相関関係にある。この結果は、上述した前年度の分析結果とも類似しており、早稲田大学 Vision 150 で掲げられている革新戦略「対話型、問題発見・解決型教育への移行」が、ディプロマ・ポリシーの修得にも繋がることを示唆している。また、授業等を通して学生と接する教員の重要性についても前年度同様示唆された。

なお、ディプロマ・ポリシーの修得度は、卒業生調査を通じた間接評価を学修成果として用いている。第1章で述べたように、本調査からは秘匿化された学内データとの結合を行っており、直接評価である履修科目の成績(通算GPA)との関係を検証した(表2-5)。その結果、6つの項目全てが正に有意な関係にはあるものの、極めて弱い相関関係であることが明らかになった。回答者の通算GPAと6つの能力の総得点(DP総得点:最小値6~最大値24)の散布図を示すと(図2-4)、やや右肩上がりのように見えるが、相関係数は低い(.160、 $p < 0.01$)。広汎に分散しているのは、①通算GPAは相対的に低いものの、DP総得点は高い群(図の左上)、また②通算GPAは高いもののDP総得点は低い群(図の右下)が一定数いるためである。

表 2-4 在学時の学修行動と DP の相関係数

	構想・構築力	問題発見・解決力	コミュニケーション力	健全な批判精神	自立と寛容の精神	国際性
1. 図書館を利用した	.156**	.183**	.168**	.196**	.148**	.113**
2. 読書（漫画や雑誌を除く）をした	.199**	.239**	.208**	.245**	.154**	.170**
3. 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	.286**	.362**	.334**	.287**	.182**	.215**
4. 授業内容について、他の学生と議論した	.334**	.401**	.360**	.363**	.244**	.229**
5. 授業内容について、教員と議論した	.339**	.378**	.355**	.333**	.202**	.238**
6. 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	.146**	.128**	.199**	.125**	.171**	.452**
7. 留学生と一緒に学んだ	.140**	.143**	.187**	.155**	.228**	.455**
8. 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	.203**	.142**	.180**	.174**	.163**	.257**
9. 特別な理由なく授業を欠席した	-.081**	-.134**	-.147**	-.096**	-.068*	-.082**
10. よい教員に巡り合えた	.342**	.401**	.393**	.344**	.278**	.248**

** $p < 0.1$ 、* $p < 0.5$

表 2-5 通算 GPA と DP の相関係数

	構想・構築力	問題発見・解決力	コミュニケーション力	健全な批判精神	自立と寛容の精神	国際性
通算 GPA	.102**	.173**	.156**	.101**	.085**	.100**

** $p < 0.1$

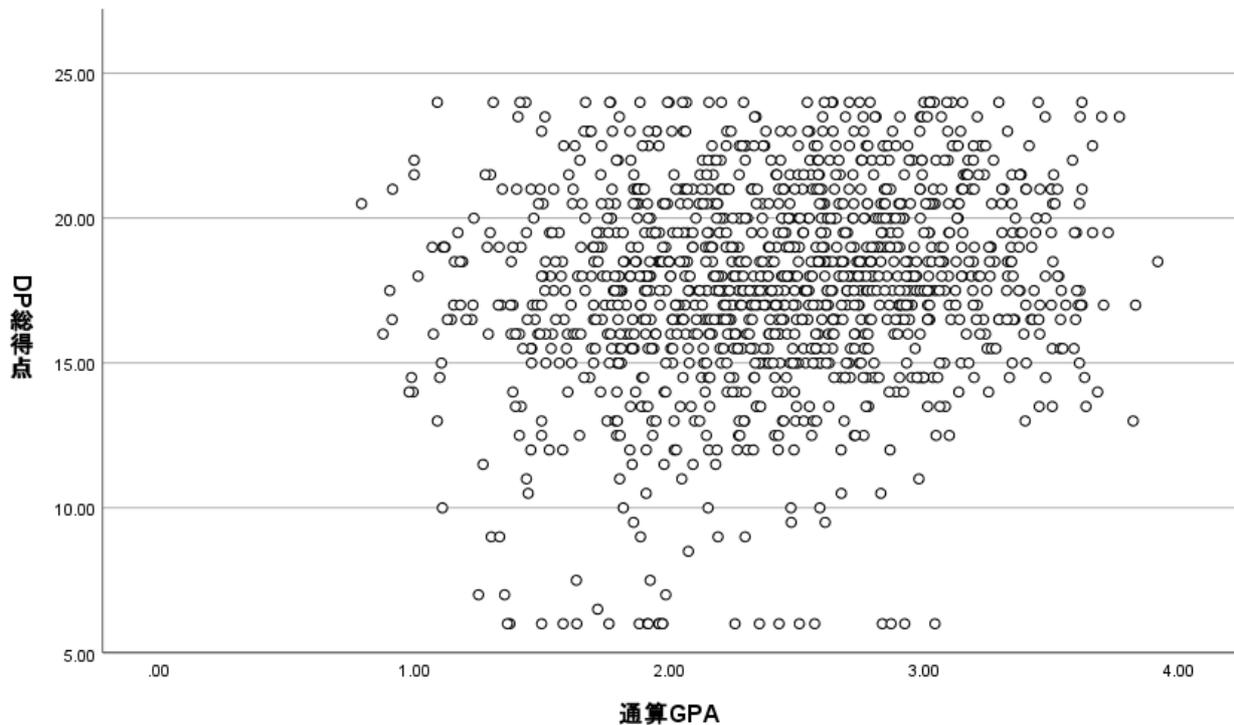


図 2-4 通算 GPA と DP 総得点の散布図

以上のようにディプロマ・ポリシーそのものの基礎統計や教育・生活、学修行動との関係を確認した。前年度からの結果と類似する結果であり、一方で在学時の直接評価と今回用いる間接評価（能力の修得度）には相関関係はあまりないことが示された。

以上の分析結果を踏まえつつ、入学前や入学時の変数、そして在学時の学びや生活を独立変数、これまで述べてきた6つの能力と通算 GPA を従属変数とした重回帰分析を行った。用いた独立変数の詳細は表2-6の通りで、分析結果は表2-7である。

表2-6 分析に用いる独立変数の記述統計

大項目	中項目	変数名	変数処理	N	平均値	標準偏差	最小値	最大値				
入学前	中学経験	1	【勤労性】少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」、「どちらかといえばあてはまる」、「あてはまる」にそれぞれ1~4を割当て。	1322	3.18	1.01	1.00	4.00			
			【まじめさ】学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ		1321	2.91	1.00	1.00	4.00			
			【忍耐力】なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた		1321	3.06	0.94	1.00	4.00			
			【勤労性】【まじめさ】【忍耐力】の主成分		1320	0.00	1.00	-2.88	1.17			
	高3成績	2	高校3年の成績	「下のほう」、「やや下」、「真ん中ぐらい」、「やや上」、「上のほう」にそれぞれ1~5を割当て。	1323	3.70	1.26	1.00	5.00			
入学時	受験理由	3	勉強したい分野がその学部にあったから	「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」、「とてもあてはまる」にそれぞれ1~4を割当て。	1315	3.37	0.76	1.00	4.00			
		4	就職に有利であると思ったから		1311	2.92	0.97	1.00	4.00			
		5	将来の希望する職業分野を勉強できるから		1312	2.84	0.95	1.00	4.00			
		6	資格の取得が有利であるから		1307	1.95	0.94	1.00	4.00			
		7	指導してほしい教員がその学部にいるから		1308	1.73	0.84	1.00	4.00			
		8	学力（偏差値など）が適当であったから		1313	3.06	0.85	1.00	4.00			
		9	進路選択の幅が広い学部を選択した		1312	2.89	1.00	1.00	4.00			
		10	高校の先生や家族または塾などで勧められたから		1312	2.35	1.09	1.00	4.00			
		11	伝統・校風が好きだから		1313	2.97	0.98	1.00	4.00			
		12	国際化が進んでいるから		1308	2.22	0.94	1.00	4.00			
		在学時	在学時の活動①		13	専門科目	「経験しなかった」、「不熱心」、「やや不熱心」、「やや熱心」、「熱心」にそれぞれ1~5を割当て。	1297	3.96	0.94	1.00	5.00
					14	一般教育科目		1297	3.72	0.90	1.00	5.00
15	ゼミ			1298	3.80	1.17		1.00	5.00			
16	卒業論文作成			1295	3.60	1.33		1.00	5.00			
17	部活動、サークル活動			1296	3.76	1.43		1.00	5.00			
18	学内のアルバイト			1298	1.92	1.37		1.00	5.00			
19	学外のアルバイト・定職			1299	3.63	1.19		1.00	5.00			
20	ボランティア			1298	1.80	1.25		1.00	5.00			
21	インターンシップ			1297	1.79	1.29		1.00	5.00			
22	早稲田大学以外での勉強			1293	2.02	1.39		1.00	5.00			
23	資格取得や教職、国家試験勉強			1298	2.39	1.51		1.00	5.00			
24	大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）			1298	2.30	1.45		1.00	5.00			
在学時	在学時の活動②			25	図書館を利用した	「まったくあてはまらない」、「あまりあてはまらない」、「ややあてはまる」、「とてもあてはまる」にそれぞれ1~4を割当て。		1298	3.57	0.70	1.00	4.00
				26	読書（漫画や雑誌を除く）をした			1296	3.25	0.87	1.00	4.00
				27	自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした			1298	2.80	1.03	1.00	4.00
				28	授業内容について、他の学生と議論した			1297	2.72	0.99	1.00	4.00
		29	授業内容について、教員と議論した	1298	2.32		1.02	1.00	4.00			
		30	語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	1297	1.66		1.00	1.00	4.00			
		31	留学生と一緒に学んだ	1296	1.89		1.10	1.00	4.00			
		32	授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	1298	1.93		1.13	1.00	4.00			
		33	特別な理由なく授業を欠席した	1298	2.34		1.12	1.00	4.00			
		34	よい教員に巡り会えた	1297	3.06		0.92	1.00	4.00			
		在学時	在学時の活動③	35	短期留学経験		2週間~3ヶ月未満の留学経験を1、それ以外を0を割り当	1298	0.11	0.31	0.00	1.00
				36	中長期留学経験		3ヶ月以上の留学経験を1、それ以外を0を割り当て。	1298	0.08	0.27	0.00	1.00

表 2-7 学修成果の回帰分析結果

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		
	DP総得点	構想・構築力	問題発見・解決力	コミュニケーション力	健全な批判精神	自立と寛容の精神	国際性	通算GPA_1	通算GPA_2		
入学前	1 中学経験主成分									1	
	2 高校3年の時		-.067					.136	.144	2	
入学時	3 勉強したい分野がその学部にあったから	.093	.089	.084	.092	.061	.094			3	
	4 就職に有利であると思ったから					-.064	-.066	-.061		4	
	5 将来の希望する職業分野を勉強できるから									5	
	6 資格の取得が有利であるから									6	
	7 指導してほしい教員がその学部にいるから									7	
	8 学力（偏差値など）が適当であったから	.066			.053	.071		.059	-.052		8
	9 進路選択の幅が広い学部を選択した	.061	.076	.080		.063			-.065	-.056	9
	10 高校の先生や家族または塾などで勧められたから										10
	11 伝統・校風が好きだから	.107	.089	.073	.117	.158	.067		-.074	-.073	11
	12 国際化が進んでいるから	.118	.105				.106	.241			12
	在学时	13 専門科目	.091		.116	.072	.083		.096	.158	13
		14 一般教育科目	.069					.078	.112	.167	14
15 ゼミ		.064			.087	.071		.151	.167	15	
16 卒業論文作成								.077	.113	16	
17 部活動、サークル活動									-.051	17	
18 学内のアルバイト								.052	.075	18	
19 学外のアルバイト・定職										19	
20 ボランティア										20	
21 インターンシップ										21	
22 早稲田大学以外での勉強										22	
23 資格取得や教職、国家試験勉強		-.061	-.069		-.065		-.064		.096	.092	23
24 大学関係の活動									-.079	-.074	24
25 図書館を利用した											25
26 読書（漫画や雑誌を除く）をした											26
27 自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした											27
28 授業内容について、他の学生と議論した		.120	.092	.144	.083	.149	.096				28
29 授業内容について、教員と議論した			.106	.075	.076						29
30 語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした								.179			30
31 留学生と一緒に学んだ		.079					.116	.173			31
32 授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）											32
33 特別な理由なく授業を欠席した									-.293		33
34 よい教員に巡り合えた		.192	.139	.180	.162	.129	.145	.095			34
35 短期留学経験								.061			35
36 中長期留学経験			-.067	-.077				.123	.094	.102	36
n	1,236	1,246	1,243	1,245	1,245	1,246	1,245	1,246	1,246		
F値	21.004	10.375	15.894	13.723	11.675	7.140	21.891	24.138	19.074		
有意確率	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001		
Adj.R ²	.368	.213	.302	.269	.236	.151	.377	.401	.337		

有意（5%水準以下）な標準化係数のみ表示

従属変数には、①6つの能力の総得点（DP 総得点）と各6つの能力（②～⑦）、そして通算 GPA について2つのモデルで分析した（⑧、⑨）。なお参考までに前年度の調査結果も示す（表2-8）。

分析の結果、明らかになったのはおもに5点である。第一に、DP に掲げられる諸能力は、概ね在学時に「28. 授業内容について、他の学生と議論した」経験や「34. よい教員に巡り合えた」経験がある方が修得度は高く、「23. 資格取得や教職、国家試験勉強」に熱心であるほど修得度が低い傾向にある。第二に、入学時の変数として用いた進学理由も DP 修得に正に関連しているものもある。そして第三に、「国際性」は入学時の進学理由として「12. 国際化が進んでいるから」を選択しているほど高く（.241）、在学中の「35. 短期留学経験」も国際性と正の関係にはあり（.061）、「36. 中長期留学経験」は国際性の修得により効果はありそうだ（.123）。第四に、通算 GPA については、入学前の経験である「2. 高校3年時の成績」が高く、在学時の経験として「13. 専門教育」、「14. 一般教育科目」やゼミに熱心であるほど高く、逆に特別な理由なく授業を欠席しているほど通算 GPA は低い（⑧）。この通算 GPA については「33. 特別な理由なく授業を欠席した」の係数が高く、またモデルの決定係数もそれなりに高い（.401）。そこで⑨では「特別な理由なく授業を欠席した」を外し分析した。その結果、「17. 部活動、サークル活動」は通算 GPA と負の関係にあった。この結果は、学生の自己申告に基づいた成績を用いた前年度の調査結果とも整合的である。

以上のように、間接評価に該当する6つの能力については前年度の分析結果とほぼ同様であり、直接評価である通算 GPA はまた異なる結果にあった。他方で本分析のみでは解釈が難しい結果もある。たとえば、「36. 中長期留学経験」は②構想・構築力（-.067）や③問題発見・解決力（-.077）と負の関係にあり、入学時の理由についても一部通算 GPA（⑧、⑨）と負の関係にある項目もある。この点のより深い解釈と分析は課題としたい。

表2-8 6つのアウトプットの規定要因（2019年度）

		①	②	③	④	⑤	⑥
		専門的な知識・技術	幅広い知識・教養	論理的思考能力	表現力・プレゼンテーション能力	1～2年成績	3～4年成績
入学前	中学経験					+	
	高校3年時の時					+	+
入学時	勉強したい分野がその学部にあったから	+	+	+			
	就職に有利であると思ったから	-					
	将来の希望する職業分野を勉強できるから	+					
	資格の取得が有利であるから	+					
	指導してほしい教員がその学部にいたから	+		+			
	学力（偏差値など）が適当であったから	+					
	進路選択の幅が広い学部を選択した						
	高校の先生や家族または塾などで勧められたから						-
在学時	専門科目	+		+		+	+
	一般教育科目		+	+	+	+	+
	ゼミ	+		+	+		
	卒業論文作成	+	+		+	+	+
	部活動、サークル活動					-	-
	アルバイト					-	
	ボランティア						
	インターンシップ					+	+
	早稲田大学以外での勉強						
	資格取得や教職、国家試験勉強						
	大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイイクなど）		+	+	+		
	n	523	523	523	523	523	523
	F値	17.956	11.192	8.636	7.634	14.671	15.449
	有意確率	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001	<.001
	Adj.R ²	.429	.319	.235	.211	.355	.368

2-3. 定性的データの分析

これまで学修成果についておもに定量的な分析によって、能力や GPA と在学時の学びや生活との関係を検証した。本節では、定量的分析に加え定性的データからも学修成果獲得に関する在学時の学修や生活との関係について示す。用いる項目は Q40「あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。」(以下、役立ち経験)に対する自由回答である。

また教育改善の要望に関する自由回答も参照する。教示文は Q41「授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。」(以下、改善意見)である。

(1) 役立ち経験

役立ち経験について自由回答の全体像を捉える。分析対象は記述のあった 867 件であり、分析には KH コーディングを用いた。まずどのような語句が出現しているのかを上位 150 に限定して示す(表 2-9)。最も多いのが「仕事」(249)、次いで「学ぶ」(135)、「多様」(131)、「役立つ」(119)、「知識」(113)が続いた。この上位 5 つからは学びが仕事に活かされているという記述が一定程度あり、キーワードとして「多様」そして「知識」がより出現している。上位 50 までを見ると、他のキーワードとして「10. 論理」(73)、「13. 思考」(70)、「30. コミュニケーション」(43)、「41. 解決」(36)、「46. 受け入れる」(34)など先に示した 6 つの能力に関連する語句も出現している。50 以降についても「53. 英語」(30)、「91. 国際」(17)など国際性に関する語句、「69. 尊重」(22)、「94. 多角」(17)、「111. 構築」(14)、「114. 伝える」(14)なども 6 つの能力と深い関係がある語句としてあげられる。

一方で、仕事のみならず「23. 私生活」(54)においても在学時の学びや生活は活かされているものと推察される。また本学で得たものとしては必ずしも能力だけではなく、「32. 友人」(43)や「105. 人脈」(15)、「113. 仲間」などの人間関係に関するものもあげられる。

以上は回答により出現している語句から記述統計を示したものである。次に、これら語句間の出現パターンを共起ネットワークによって可視化する(図 2-5)。最小出現数は 20、語句間の線は上限 60 に設定し、円は出現数が多いほど大きくなる。結果を見ると、まず出現パターンが類似している語句が 11 のまとまり(図右上の Subgraph)として整理される。それらを便宜的に命名し、整理した(表 2-10)。

これらの関係からはこれまで分析の中心にした 6 つの能力が明確にはないものの、ある程度示されている。特に出現数で示した通り、最も役立った経験としてグループ 1 の多様性に関する記述が多く、早稲田大学の特徴が示されているのかもしれない。また「3. 論理的思考力」や「8. 留学関係」、「10. 課題解決」は 6 つの能力にまさに示されている語句が自由回答中にもより出現していた。以上、大まかな回答傾向を示した。さらに、元となる回答データの一部を示す。

表 2-9 役立ち経験の抽出語上位 150 語

No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数
1	仕事	249	51	生きる	32	101	学び	15
2	学ぶ	135	52	サークル	30	102	指導	15
3	多様	131	53	英語	30	103	資料	15
4	役立つ	119	54	課題	30	104	出来る	15
5	知識	113	55	基礎	30	105	人脈	15
6	大学	94	56	卒業	29	106	文化	15
7	人	91	57	価値	28	107	異なる	14
8	経験	90	58	分析	27	108	会計	14
9	思う	80	59	勉強	26	109	環境	14
10	論理	73	60	議論	25	110	教養	14
11	生かす	72	61	教員	25	111	構築	14
12	考える	71	62	法律	25	112	専攻	14
13	思考	70	63	問題	25	113	仲間	14
14	自分	70	64	留学	25	114	伝える	14
15	活かす	66	65	海外	24	115	良い	14
16	物事	61	66	生活	24	116	バックグラウンド	13
17	役に立つ	60	67	特に	24	117	視点	13
18	関係	59	68	意見	23	118	就職	13
19	感じる	58	69	尊重	22	119	柔軟	13
20	現在	56	70	文章	22	120	出る	13
21	考え方	55	71	語学	21	121	多面	13
22	力	55	72	考え	21	122	大きい	13
23	私生活	54	73	出会う	21	123	直接	13
24	得る	49	74	必要	21	124	働く	13
25	専門	47	75	科目	20	125	スポーツ	12
26	持つ	45	76	姿勢	19	126	学べる	12
27	スキル	44	77	職場	19	127	見る	12
28	業務	44	78	非常	19	128	行動	12
29	能力	44	79	方法	19	129	高校	12
30	コミュニケーション	43	80	会社	18	130	仕方	12
31	時代	43	81	活きる	18	131	自身	12
32	友人	43	82	活用	18	132	数学	12
33	社会	41	83	教育	18	133	生徒	12
34	人間	41	84	経済	18	134	卒論	12
35	ゼミ	40	85	行う	18	135	多く	12
36	身	40	86	取り組む	18	136	大いに	12
37	研究	39	87	進める	18	137	大学院	12
38	活動	38	88	捉える	18	138	大切	12
39	様々	38	89	分野	18	139	直結	12
40	今	37	90	交流	17	140	内容	12
41	解決	36	91	国際	17	141	さまざま	11
42	在学	36	92	情報	17	142	外国	11
43	作成	36	93	相手	17	143	機会	11
44	多い	36	94	多角	17	144	財産	11
45	学生	34	95	論文	17	145	取得	11
46	受け入れる	34	96	プレゼン	16	146	重要	11
47	授業	34	97	関わる	16	147	場面	11
48	理解	34	98	使う	16	148	対応	11
49	学部	33	99	精神	16	149	調査	11
50	早稲田	33	100	早稲田大学	16	150	読む	11

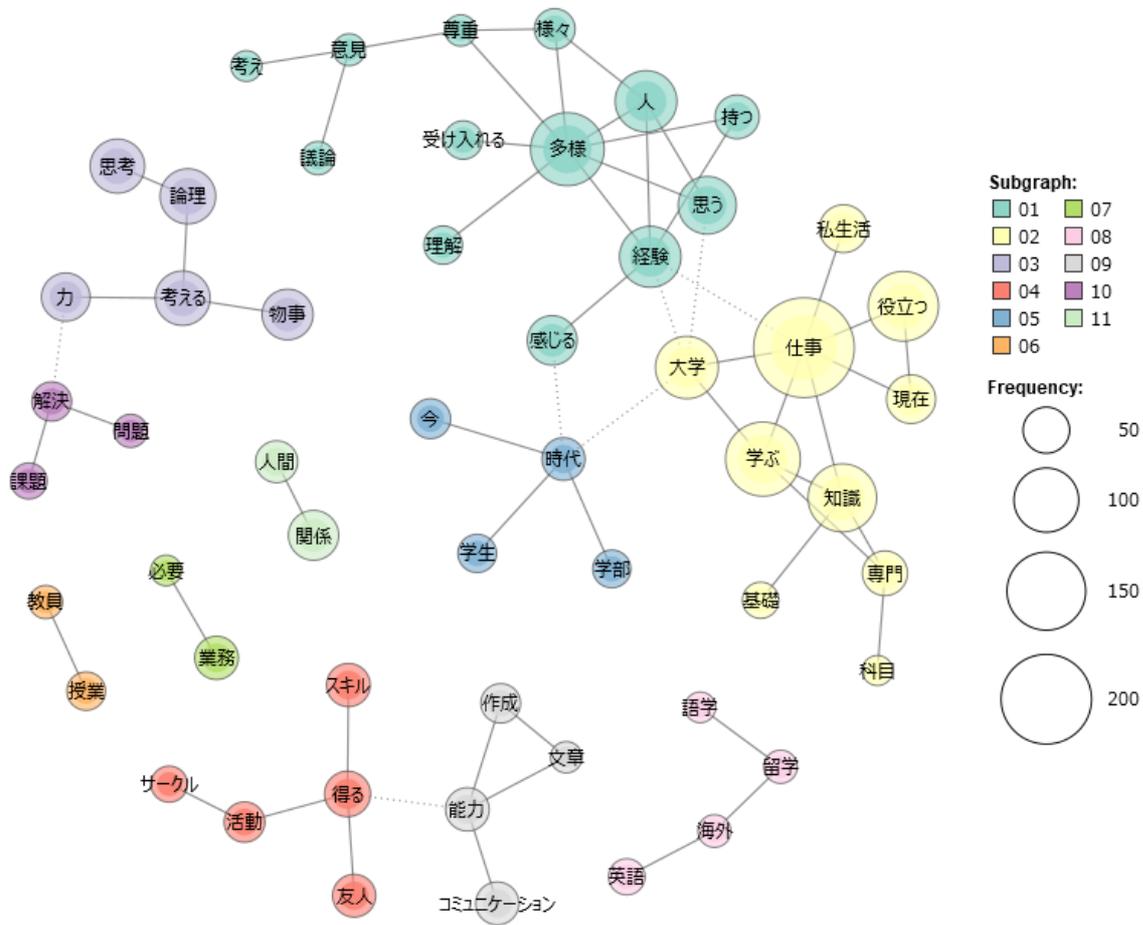


図 2-5 役立ち経験に関する語句の共起ネットワーク

表 2-10 役立ち経験に関する共起ネットワークのグループ

グループ名	おもな語句	グループ名	おもな語句
1 多様性	多様、理解、受け入れる	7 業務の必要	業務、必要
2 役立ち	仕事、役立つ、学ぶ	8 留学関係	留学、海外、英語
3 論理的思考力	論理、思考、考える	9 文章作成	文章、作成、能力
4 得たもの	得る、サークル、友人	10 課題解決	課題、問題、解決
5 学部生時代	時代、学生、学部	11 人間関係	関係、人間
6 授業	授業、教員		

まずグループ1の多様性については一部の回答を取り上げると、学内の環境(回答ID:390、603、1053)・文化(486)・学生や教員(822、868、1142、1339)そのものが多様であるとの記述が多くある。それらを感じられる具体的な場面としてゼミや演習でのディスカッション(502)やサークル(1049)があげられている。

390	キャンパス内で様々なバックグラウンドの仲間に出会うことで、多様性を受け入れることができるようになったことで、仕事で様々な人と関わることが苦にならない。
486	早稲田には考え方の多様性を受け入れ、他者を尊重する文化がありました。その考え方は仕事や私生活において今でも私を支えています。
502	ゼミや演習でのディスカッションを通して、物事に対する考え方の多様性や人の個性を学んだと感じています。現職では新卒から同じ会社の者もいれば中途入社もあり、また出身地も様々、社会人としての経験も様々な人がいる中で業務を進める際に、とても役立っていると思います。また、イタリア語を勉強したことで、少しイタリア語がわかることが珍しがられることもあり、会話のアイスブレイクとして役に立っています。
603	人間関係の構築の仕方、早稲田のように多様性、知的な好奇心があふれる方が多い場所でそれらを学べた事は社会に出るに当たり非常に役に立っている。
822	多様性を受け入れることができている。国際性、ジェンダー、生き方など、早稲田で出会った人たちは枠に囚われず、グローバル視点に近いと思う。
868	さまざまな学生がいて、さまざまな教授がいてという環境そのものが多様性であり、今の価値観の大部分が大学時代に築かれたと思っています。
1049	国際交流サークルにて、早稲田大学へ留学する各国の学生と数多く交流しました。本経験により、LGBTやバイアス等が注目される以前から、自身の多様性は育まれていたと感じます。
1053	仕事・私生活に共通しているが、常識や固定観念にとらわれず、物事を柔軟に考えることができていると思われる(意識的・無意識的にそのような思考になっている)。卒業学部の性質上、専門知識を直接的に活かすことはできないが、考え方などは早稲田大学で培われたものだと考えている。良し悪しはあるが、多様性の高い環境で大学生活を過ごすことができたのは、目に見えないながらも、非常に重要なことだったと思われる。
1142	物事や考え方の多様性を尊重して受け入れること。中学や高校はどうしても出会う人の範囲が狭かったが、早稲田大学に入学して様々な人種・地域・思考をバックグラウンドに持つ人に出会えたことは経験としてよかった。
1339	多様なバックグラウンドを持つ人達との交流や留学などを通じて視野が広がり、多様性を受け入れる土壌が育まれた。実際に社会に出ると大学での経験以上に多様な人々と関わることとなり、社会人経験を通じて更に視野が大きく広がったと感じるが、その基礎は確実に大学で培われたものにあると思う。

またグループ2について知識に注目してみると、統計学(205)や化学(324)、一般教養(604)、教育学(639)、会計学(739)、経済学(1252)、哲学(1277)など学問が役立っているとの回答があり、私生活においても役立っている回答もあった(1348)。さらに、このような知識を習得する上でハードな教育資源でもある図書館も卒業後も継続的に活用されている(665)。

205	統計学が仕事上のデータ分析や調査に役立っている。法律解釈の基礎知識によって、職務上の関連法規を学ぶのが苦ではなくなっている。
324	業務の関係で学んだ化学系の専門知識が生かされている
604	一般教養としての知識・ロジカルシンキングは仕事、私生活いづれでも思考・整理の基礎として生かされていると思う
639	人事として働いておりますので、決めつけずに対応する姿勢(ダイバーシティ)や教育学の知識や考

	え方が役に立っています。また、提案書を作る際にデータを調査して論理的にまとめる力は論文でついたと思います。
665	政令市職員です。自治体シンクタンクに配属された際、研究や報告書の執筆にゼミや卒業論文執筆の経験が非常に生かされました。また卒業後も継続して図書館が利用できることが、在学中に得たスキルを活用し新たな知識取得をするための資源となっています。実際研究計画を立てるために既存研究の調査に利用し大変助かりました。私生活では在学中に得た友人と今でも交流があり、卒業後の交友関係の大きな一部となっています。
739	会計学を専門的に学び、仕事で役立っている。現在財務部門で働いており、会計の知識は必須の為、大いに生かされていると感じている。
1252	金融機関で勤めているため、簿記や経済学等の知識は役に立っています。また、プレゼンやロジカルシンキング等のスキルの授業も参考になりました。ただ、もっと本気で授業に取り組めば良かったと思うことが多いです。
1277	哲学専攻だったが、問いを立てることが重要な仕事なので、知識、考え方ともに仕事に直接の、間接につながる。
1348	ゼミ（産業エコロジー）で得た知識は、主婦として毎日の買い物をする際にその製品の誕生から廃棄までのコストや環境負荷を考慮する習慣に繋がっていると思う。

次にグループ3の論理的思考力について見ると、文理を問わず学問で培われたとの回答（99、298）やゼミやレポート、卒業論文作成、グループワーク（740、933、1081、1210、1228、1232）といった正課教育に加え、正課外活動によっても培われたとの回答もあった（1321）。

11	議論を通じた論理的思考能力や、健全な批判技術については仕事のあらゆる場面で活用されている。
99	電気工学、制御工学、ソフトウェアについては仕事で使用している。また、物理学の勉強により培った論理的な思考方法は一番の財産になっている。また、一般教養も人と世間話をする際に役に立っていると思う。
298	哲学や現代思想の講義での学びは深く論理的に考えることに役立っている。
740	ゼミを通して論理的に発表する思考を身につけ、仕事にも活かしている。
933	社内でのプレゼンテーションの機会が多いため、卒業論文作成を通じて養った論理的な思考力や相手に伝える力が常に役立っています。
1081	授業で学んだ論理的思考や他者とのグループワークでの結論の出し方は生かされていると感じる。
1210	レポートや卒論を書く上で必要だった論理的思考力が役に立っている。
1228	業務上、直接的に知識として活かしたり、考え方として活かしている。卒論で身につけた文章作成や論理的思考は仕事上必須である。
1232	主に2つ。①論理的な思考②問題の仮定と検証、が役に立っている。田中愛治先生のゼミに所属していたが、この2点に関して勉強させてもらったことがとても活かされていると感じる。具体的には問題が起きた時に、その原因を仮定し、数字などで検証する。それから根本的な原因に対するアプローチ、解決策を考えるようにしている。
1321	スキルや経験に落とし込めないような、無形の人間力が早稲田で培われたと考えています。また、弁論部での活動を通じて得た多様性への想像力、論理的思考や良い友人関係は今でも大きな資産です。

またグループ8の留学関係については、海外で、あるいは海外と仕事をする上で直接的に役立っているとの記述が多くを占めており、語学のみならず、他者の文化を理解する力（107、1067）が培われたとの記述も確認できた。

107	現在海外担当部署にいるが、言葉はもちろんのこと、取引先の多様なバックグラウンドや文化を理解してコミュニケーションをとる能力が求められており、それらは在学中の留学で身につけたものが大いに重要になっている。
202	多様な価値観を持つ国内外の人達との交流を持てたことは大変貴重であり、留学できたことは現在の職場で海外に赴任したときになんの抵抗もなく現地に馴染むことができ自分自身の財産になっていたかと思う。
330	留学経験と英語での授業や友人との交流を経て、現在外資系クライアントを担当。日本だけでなくグローバルとのやりとりにも経験を活かしていると感じている。
380	語学系のサークルに入っていたため、語学学習に抵抗感なく留学する事ができ、結果的に現在の外資金融職へ就職する事ができた。
1067	留学で得たコミュニケーション能力（語学力含む）や多様性への理解が、海外の方とビジネスを進める上で活かされている。
1172	留学で得られた経験は、英語公用語の現在の職場で言語的にも言語以外の面でも役立っています。

以上のように、定性的データによっても在学時の学びや生活が卒業後に活かされている事例を示した。これらの定性的データは定量的分析結果をより深く解釈できる貴重なデータと言えよう。

(2) 改善意見

他方で早稲田大学への改善意見についても示したい。これらを解析し、改善を図ることは10年の間隔はあれど、現在の在学生のさらなる成長・発達を促す契機になると考えられる。

まず記述のあった586件を対象にどのような語句が出現しているのか上位150に限定して示す(表2-10)。最も多いのが動詞の「思う」(242)、次いで「授業」(219)、「学生」(146)、「教員」(89)、「多い」(87)が続いた。この上位5つには大学教育の中心である授業に関する記述が多く、なかでも教員や授業の履修人数の多さ(クラス規模)に関する記述も比較的多くある。上位50までについて見ると、授業に関するキーワードとしては「10. 科目」(51)、「12. ゼミ」(48)、「19. カリキュラム」(36)、「29. 専門」(28)、「46. 少人数」(22)などより具体的な改善意見があるようだ。また、「30. 留学」(28)、「49. 就職」に関する記述も一定程度ある。50以降について授業に関するものは「54. 教養」(19)、「58. 議論」(18)、「83. ディスカッション」(13)が見られた。また国際性に関する記述も「76. 外国」(14)、「95. 語学」(12)があげられ、「59. サポート」(17)、「102. 支援」(11)、「125. 進路」(10)、「127. 相談」(10)などは学生支援や就職活動、キャリアに関する記述と予想される。以上のように大まかな傾向を把握するために、出現回数を示したところ、授業を中心として、留学や学生・キャリア支援等、多岐にわたる記述を確認できた。

次に586件の回答を最小出現数は15、語句間の線は上限60に設定し、共起ネットワークで示した(図2-6)。出現パターンが類似するグループについては、表2-10で示した。一見してシンプルに何を改善すべきか、項目を読み取りやすい。グループ1では、授業に関する記述が多く、「多い」と「人数」にも共通性が見られることから、出現数でも述べたように、授業規模に関する記述と推察される。さらに、教員、カリキュラム、科目、サポート、留学などいずれも教育改善にとって重要なキーワードが並ぶ。以下では、元となる回答データの一部を示す。

表2-11 改善意見の抽出語上位150語

No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数
1	思う	242	51	入学	20	101	仕事	11
2	授業	219	52	活動	19	102	支援	11
3	学生	146	53	環境	19	103	試験	11
4	教員	89	54	教養	19	104	時代	11
5	多い	87	55	身	19	105	取れる	11
6	講義	64	56	人数	19	106	出来る	11
7	大学	62	57	力	19	107	状況	11
8	感じる	60	58	議論	18	108	大変	11
9	学部	58	59	サポート	17	109	難しい	11
10	科目	51	60	持つ	17	110	年	11
11	良い	50	61	自身	17	111	非常	11
12	ゼミ	48	62	必修	17	112	文学部	11
13	社会	47	63	意識	16	113	オンライン	10
14	英語	44	64	学科	16	114	意味	10
15	機会	44	65	交流	16	115	意欲	10
16	学ぶ	42	66	行う	16	116	学内	10
17	教授	42	67	高い	16	117	企業	10
18	卒業	37	68	場	16	118	記憶	10
19	カリキュラム	36	69	評価	16	119	教室	10
20	必要	36	70	形式	15	120	厳しい	10
21	当時	35	71	言う	15	121	個人	10
22	特に	34	72	充実	15	122	使う	10
23	勉強	33	73	選択	15	123	自主	10
24	研究	32	74	分野	15	124	出席	10
25	受ける	32	75	悪い	14	125	進路	10
26	自分	30	76	外国	14	126	前	10
27	経験	28	77	関係	14	127	相談	10
28	指導	28	78	質	14	128	多く	10
29	専門	28	79	対応	14	129	入れる	10
30	留学	28	80	知識	14	130	必須	10
31	今	27	81	変わる	14	131	一般	9
32	在学	27	82	面白い	14	132	学べる	9
33	もう少し	26	83	ディスカッション	13	133	現在	9
34	自由	26	84	ビジネス	13	134	将来	9
35	考える	25	85	レベル	13	135	人間	9
36	時間	25	86	学習	13	136	制度	9
37	人	25	87	学問	13	137	政治	9
38	先生	25	88	国際	13	138	生	9
39	増やす	25	89	作る	13	139	設ける	9
40	教育	24	90	情報	13	140	全く	9
41	生徒	24	91	増える	13	141	多様	9
42	改善	23	92	他	13	142	担当	9
43	出る	23	93	低い	13	143	日本	9
44	内容	23	94	聞く	13	144	入る	9
45	少ない	22	95	語学	12	145	能力	9
46	少人数	22	96	受講	12	146	目的	9
47	単位	22	97	方法	12	147	友人	9
48	分かる	22	98	キャリア	11	148	キャンパス	8
49	就職	20	99	コミュニケーション	11	149	印象	8
50	早稲田	20	100	学費	11	150	学術	8

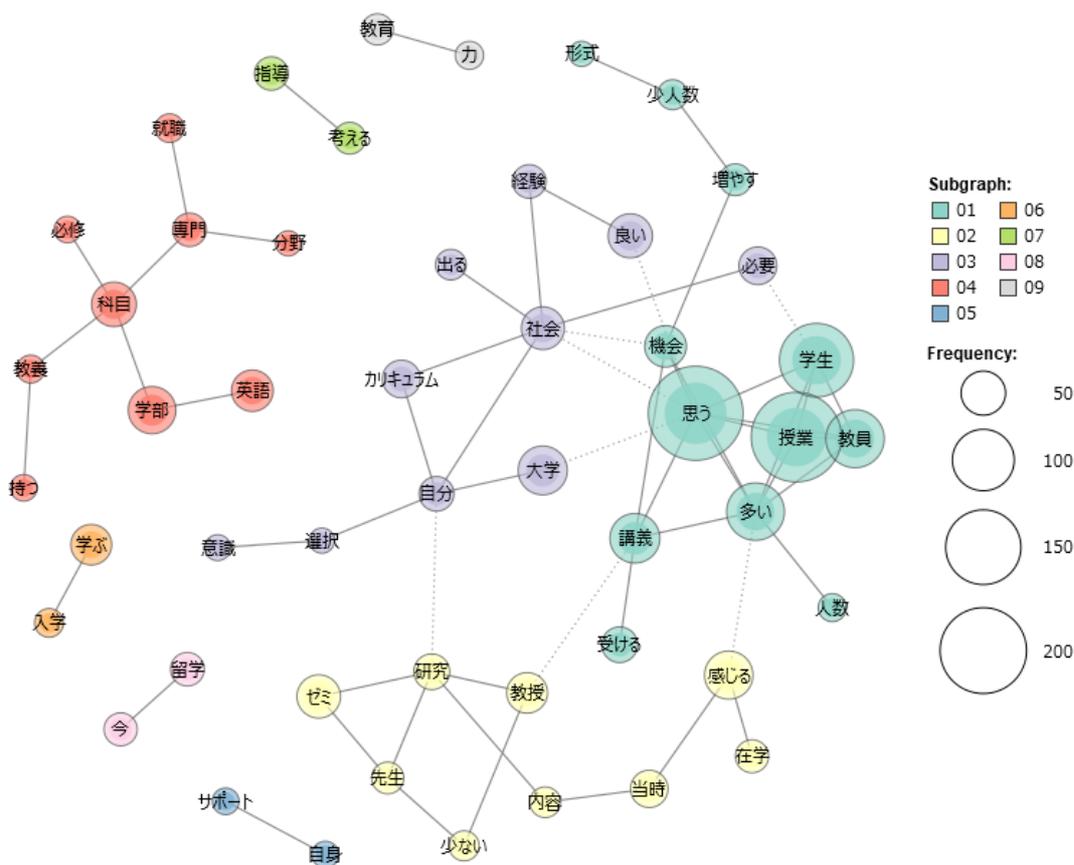


図 2-6 改善意見に関する語句の共起ネットワーク

表 2-12 改善意見に関する共起ネットワークのグループ

グループ名	おもな語句	グループ名	おもな語句
1 授業	授業、学生、講義	6 学び関連	学ぶ、入学
2 教員	教授、ゼミ、研究	7 指導	指導、考える
3 カリキュラム	カリキュラム、社会、大学	8 留学	留学、今
4 科目	科目、学部、英語	9 教育	教育、力
5 サポート	サポート、学生		

まずグループ1の授業について、特に講義に言及した記述を示す。回答を見ると、授業規模が大きく(29、322)、より小人数の授業の充実(322、344)や教授方法を改善(466、524、914、1015、1128、1298)することによって、教員と学生、あるいは学生間の双方向的な授業の充実(933、1250)を望む意見がある。既に述べた通り、現在早稲田大学ではVision 150で小人数授業、対話型授業充実を推進しており、その方向性を支持している傾向にあるといえよう。

29	学部の授業について、大人数の講義が多かったため、あまり教授と会話する機会がなかった点。
301	今になってみると大教室での講義型授業はオンラインでもよかったのかもしれない

322	大人数過ぎる。現在、国立の大学院で少数講義を受けているが、非常に質が高い。早大ももう少し人数を絞って議論ができるような環境を作るべきだと思う。
344	小規模な講義を増やし、教授と学生が話し合える環境があるとより熱心になると思います。
466	講義に対する学生の意見が十分に反映されていない。
494	もっと議論を活発に行う講義が多くあって良かったと思う
524	一方的な教授からの講義ではなく、アクションラーニング型のプログラムや、学生自身が考え、議論するようなプログラムが必要だと思う。
914	もう少し真面目に講義を受ける環境を作るべき。特に、当時は大講義室での講義はひどかった。今はどうかかわからないが、講義へのコミットの状態（質問や議論の参加など）を出席の有無に反映させるなどすべき。
933	私の所属していた学部には、大教室で教員から一斉に教わる講義が多く、学生同士でディベートをする機会が少なかったように思います。社会に出たあと、多様性を理解する訓練を積んでおくべきだったと痛感しました。
1015	講義形式がほぼ全てだったので、グループワークなどでできればもっと社会に出た際に生きてくると思う。
1128	在学当時は、講義形式の授業が多かったように思えます。現在はアクティブラーニング形式の授業が増えていますでしょうか？是非アクティブラーニング形式の授業を推進していただきたいと、思っています。
1250	ゼミまで行かないまでも、もっと双方向にやりとりする講義があっても良いと思う
1298	大人数型の講義のやり方、進め方。教員側も学生側もモチベーションをあまり感じていないのではないか？

また、グループ2の教員に関する意見としては距離が遠く、議論できる機会が少なかった（41、74、255）という意見があり、授業方法の改善、FDや評価制度の導入（47、167、172、1054）を望む声もあった。他方で、教員の多忙さや研究に一定の理解を示し（499、612）、評価志向への危惧を懸念する意見もあった（893）。

41	学生数が多すぎて教員と関わる時間が少ない
47	教員のFDをもっと行って欲しい。
74	教員との距離が遠く、当時はあまり相談できる雰囲気ではありませんでした。
167	個々の教員の資質によると思いますが、レポートや試験の結果（評価）に対して、必ず学生全員にフィードバックをするように義務付ける事を望みます。
172	大教室で教員が一方的に喋るのは授業として成り立っていなかったもので、相互通行のコミュニケーション、アウトプットができる授業や、生徒一人一人が自身で考える授業があるといいと思います。
255	学生同士もしくは学生と教員が「議論する」機会が少ないと感じる。
499	自分の研究ばかりに熱心な教員もいたので、もっと学生、授業に興味を持ってほしい。
612	教員が非常に多忙であり、かつ負担が一部の教員に偏っているであろうことが学生から見ても明らかであった。しかし、多忙な教員ほど学生の満足度が高いという側面もあったと感じる。そういった教員の負担を軽減すべきであると思っていた。
893	教員は、授業評価の数字を前に萎縮してほしくない
1054	教員の方の力量に差があり、当たり外れがある。教員の方への評価制度を設け一定水準の質を担保してほしい。
1127	教員と個々で話せる機会がもっと増えると良いと思う。私の場合は、一般教養がついていけず、授業後に何度も教授の部屋へ足を運んで教えもらった。授業後でも、対応してくれる教員がほとんどで、熱心な方が多かった。ですが、生徒は先生の部屋は直接行くことはやりづらいのか単位を落と

	してしまう人もいた。授業後でも、対応してもらえる方法をもっと周知したほうがいい。オンライン対応は進めていくといいと思う。
--	--

グループ3のカリキュラムに関する意見としては、学生の卒業後や未来から考えたカリキュラムの構築を望む意見や提案や(223、603、901)、社会との繋がりを意識できる、あるいはコンピテンスベースの教育(627、1053)の充実について意見があった。また、大学で学ぶ意義といった根本的な内容を入学して早い段階で意識できるカリキュラムの充実についても言及があった(1091)。また、具体的に、全学的に英語のスピーキング(129)やSTEM教育(279)の充実を望む記述もあった。なお当時導入され始めた全学共通科目(現在のGEC科目:旧オープン科目)について肯定的な意見もあった(1271)。

99	4年制で配属された研究室での研究テーマ選びに非常に苦勞したし失敗した。勉強はしてきたつもりだったが、自主性を育てることができていなかった。これは自分の努力不足が原因だったが、もしも1~3年生のうちから自主性を育てられるカリキュラムがあったらもっと良いかもしれない。
129	英語のスピーキングは、ビジネスに使用可能なレベルまで到達できる、全学部必須のカリキュラムを組む。
223	人類の未来、世界の未来、日本の未来、学生の未来を関連付けながら示し、学生が目指したい姿を考えることを促し、その姿を目指すために必要なカリキュラムを整えるべき。
240	受講者にとって何に役立つ授業か、何のためのカリキュラムかをより明確にすると良い。
279	すでに取り組みを開始されている認識ですが、STEMを意識したカリキュラムは、全学として推進していただきたいです。また、第一線で活躍する企業人を招いた講義などがあるとよいと思います。最近の取り組みとして、国際化は対外的に評価を得ているので、継続していただきたいです。
603	卒業後の進路を見据えたカリキュラムを学生に見せたほうが良いかなと感じます。目先の事だけしかやらないことになりすぎるので。
617	全ての学部・カリキュラムで卒業論文執筆を義務化すべき。一つの研究テーマに真摯に向き合い、論文を書くという経験は社会で必ず活きる。
627	知識や経験を実際の仕事で直面する課題等とどう関連付け、擦り合わせて、活用していくことができるか、という視点のカリキュラムがあれば、なお良かったと思う。
899	一年次、二年次で学ぶ道具としての数学やプログラミングについてはきめ細かいサポートや実践を意識できるカリキュラムであるとより良いと感じる
901	当時社会のことが分かっていなかった中で、各カリキュラムがどのように自分の将来に生きるのか分からないまま授業をこなしていた。より目的を社会での生活に沿って明確であればイメージがついたかもしれない。卒業生に各カリキュラムのテーマから業種、職種別に公私における優位度合いなどをサーベイし、カリキュラム表に表示してみたいはいかがだろうか。
976	自分で学んでみたい授業を選んでカリキュラムを組み立てることができたのはよかったです。
1053	実学に傾倒する必要はないが、社会とのつながりを意識させるようなカリキュラムやイベントを増やすのが良いかと思う(政財界の人との交流、講演、講義等)。
1091	主体的に通う大学において、改善すべき点では無いが、当時は大学で勉強することの意義、その後の社会にどう生きていく・活かしていくかのビジョンが描けておらず、結果としてただ何となく授業をうけるだけで、何となく単位を取るため授業に出てしまっていた。欲を言えば、大学生活の早い段階で、その点を自分事として捉えられるカリキュラムがあれば、より有意義な大学生活となったと思う。
1271	特にありません。オープン教育科目で学部カリキュラム以外の自分が興味ある分野が学べたことは良い経験になったため、今後もその幅を広げていただきたいです。

グループ5のサポートについては、大きく分けて2つの意見があった。1つ目は、就職活動やインターンシップ、キャリアに関するサポートである(34、100、141、1095)。2つ目は、自学やプログラミングなどのスキル学習のサポートである(646、899、924)。その他には地方出身者(141、822)や女性(1106)に対する支援の充実を望む記述があった。

34	企業へのインターンシップをサポートする体制を強化したほうが学生の成長・勤労意欲の上昇につながり良いのではないかと考えている。
100	リーマンの11学部卒、震災の13修士了の立場としては就職逆風がすさまじく就職サポートが手厚いとよかった。
141	やはり大きな大学なので、他の小さな大学と比べて学生一人一人に手厚いサポートができていないと思います。干渉しない自由な校風が魅力的ではあるものの、自分のように高校をでて上京し一人暮らしを始めたばかりの学生には少々酷でした。また、私自身現役の学生の就活アドバイザーを経験しましたが、卒業後に何をするかイメージできていない生徒に多々会いました。大学が卒業後の進路についてのプレゼンなど早い段階から行うことで生徒の助けになるのではないのでしょうか。
646	今思えば、研究が合わなかったので、開発よりのコースがあると良かったです。プログラミングや英語などのスキル学習の習慣化をサポートする仕組みが必要です。
822	多様な選択肢がある一方、国立大学のような狭くて深い探究や指導が難しい面もある。学生自身迷子にならないようなサポートがあると、特に地方出身者にとって助かるように思う。
899	一年次、二年次で学ぶ道具としての数学やプログラミングについてはきめ細かいサポートや実践を意識できるカリキュラムであるとより良いと感じる
924	ICT教育の推進、その上で自主学習のサポートや、学術と社会実装の接点を結ぶような領域で教授と学生が協力しての研究活動など。学術的な基礎知識は授業時間外にオンラインコースで自主学習を促し、実社会でも活用できる業務経験やコネクションを自分が選択した教授の元で得ていくような機会に多くの時間を割くこと。
1064	教員との交流はほとんどなく、自身をどう評価しているのかよく分からなかった。基本全て放任であるので、もう少し一人ひとりのサポートがあっても良いと思う。
1095	学問と自分の目指すキャリアとを、学生のうちにもう少し結びつけられると、学問にもより身が入り、卒業後も役に立ったのかなと思います。そのサポートをしていただくと良かったかと思えます。
1106	医療機関と連携してメンタルヘルスに問題を抱えた生徒が気軽に相談、利用できるメンタルケアのリソースをより充実させ、精神的ストレスから来る体調不良の長期化・悪化を早期に防ぐ取り組みを充実させて欲しい。また男性生徒の就職サポートとは別に日本において不利益を被りがちな女性生徒の就職サポート、卒業後も受けられるキャリアサポートを充実させて欲しい。

最後にグループ8の留学に関する自由記述を示す。留学しやすい環境づくり(764)や留学の有効性の発信(1055)について言及する記述や、早稲田大学で学ぶ留学生とのさらなる交流を充実すべきとの意見が見られる(479、539、952)。

479	どの学部もグローバルな視野は必ず身につけられるよう、留学生との交流や英語の講義の機会など設けるべき。
539	留学生がたくさんいるのに、留学生と交流したり、留学生と関わる機会がほとんどありません。留学生と関わられる授業を増やしてほしいです。
764	今まで通りで良いが、留学をしやすい環境があれば良いと思う。自分も学生時代に留学をしておけばよかったと後悔している。
952	もっと留学生を受け入れ、留学しない学生にも刺激を受けさせ、世界で活躍できる人材を育てるべき。
1055	留学の重要性について、企業での活かし方、有用性の実態を、実体験を踏まえて詳細に知りたかつ

	た。
1078	どの学部でも 1、2 年次の留学を推奨し 4 年で卒業させる

第3章 志望度タイプの分析

3-1. タイプの基本情報と概要

第3章では、大学・学部の志望度でタイプを作成し、それぞれのタイプのインプット（3-2）やスループット（3-3）、アウトプット（3-4、3-5）、役立ち度（3-6）、校友関連（3-7）の記述分析の結果を示す。

タイプを作成するにあたって使用した質問項目の教示文は「Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。」であり、大学と学部それぞれに第一志望か否かを尋ねた。この回答をもとに4つのタイプを作成した（図3-1）。2020年度には在学生に対しても同質問項目があり、すでにまとめた結果を参照すると（図3-2：早稲田大学大学総合研究センター 2021、p.9）、本調査結果は、大学学部第一志望はやや少なく（51.7% < 55.8%）、大学第一志望学部非第一志望層はやや多い（20.3% > 16.5%）。このような若干の違いはあるものの、全体的な傾向はそれほど変わらない。最も多かったのは、大学も学部も第一志望である層であった（51.7%）。次に多かったのは、大学は第一志望ではあるが学部は第一志望ではない層（20.3%）、3番目は大学は第一志望ではないが学部は第一志望である層（16.0%）、そして4番目が大学学部ともに第一志望ではない層であった（12.0%）。

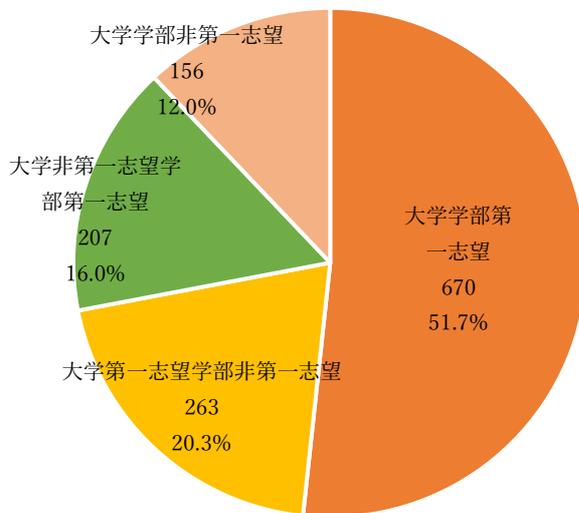


図3-1 志望度タイプの分布

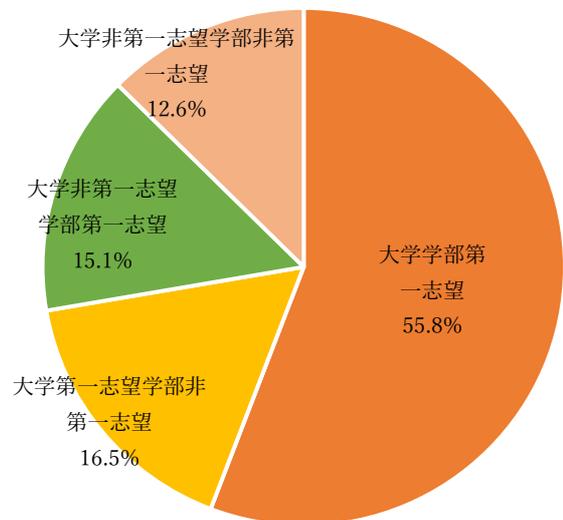


図3-2 志望度タイプの分布
(2020年度学生生活・学修行動調査)

また4つのタイプの分布を学部別（匿名）に示したものが図3-3になる。学部によってタイプの分布がかなり異なっている。大学学部ともに第一志望が最も多いのはL学部で100%、次いでH学部が80.3%であった。また大学は第一志望ではあるが学部は第一志望ではない層は、N学部（49.4%）やM学部（44.2%）に多い。次に、大学は第一志望ではないが学部は第一志望である層は、E学部（42.9%）

やK学部（36.3%）に多い。最後に、大学学部ともに第一志望ではない層は、F学部（17.3%）やD学部（17.1%）に多い。記述分析では全体の傾向を示していくが、学部ごとに分布が異なる点も前提として把握しておく必要がある。

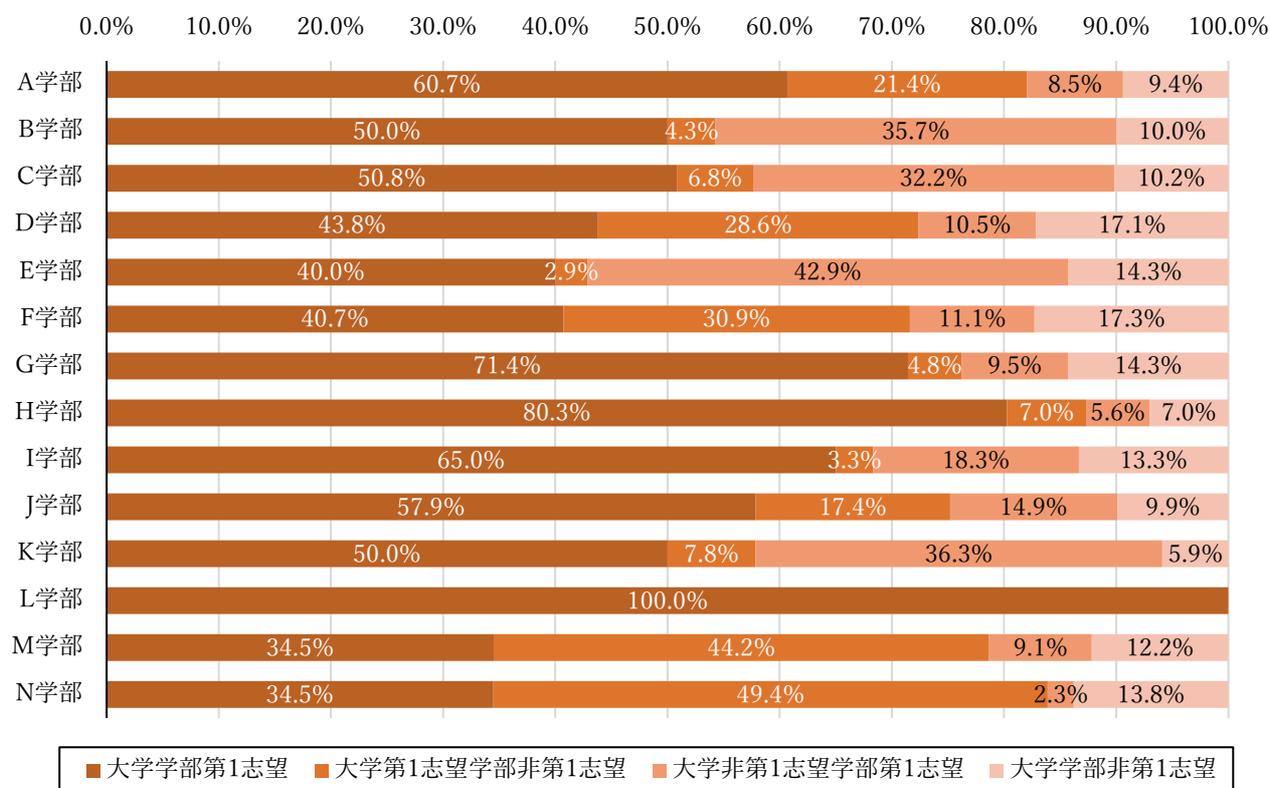


図3-3 志望度タイプの分布（学部別）

また入試区分ごとに志望度タイプを同様に示す（図3-4）。指定校推薦や自己推薦・AO入試等、それから附属・系属からの推薦は大学学部第一志望が8割程度なのに対して、一般入試では37.2%と相対的に低い。大学、学部のいずれか、あるいは双方の志望とミスマッチしつつも入学・卒業している層が一般入試では比較的多いことが示された。

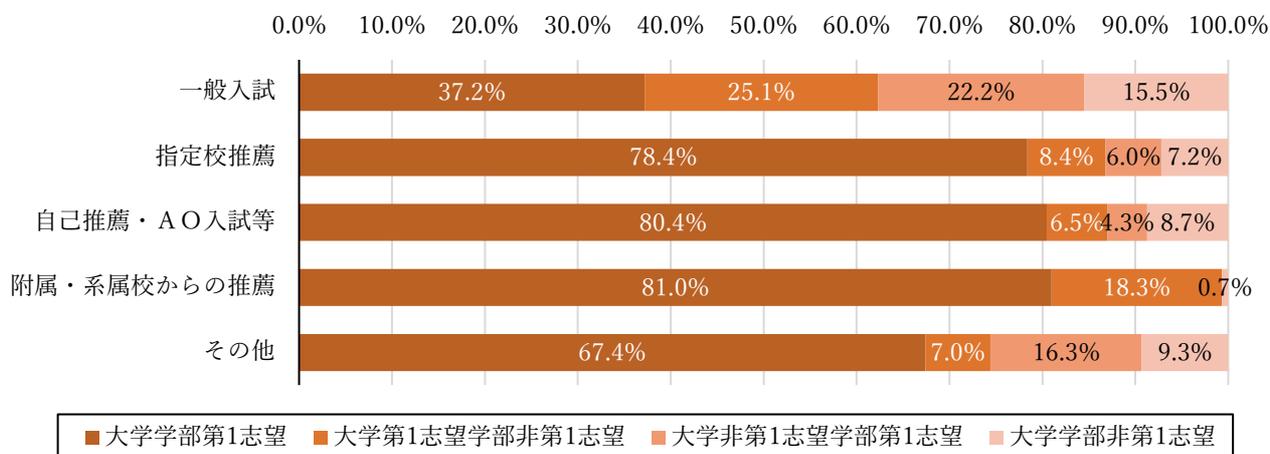


図3-4 志望度タイプの分布（入試区分別）

以下ではインプット（3-2）やスループット（3-3）、アウトプット（3-4、3-5）、役立ち度（3-6）、校友関連（3-7）についてタイプ別の分析結果を示す。表3-1では、第2章の表2-6で示した項目と表3-2に示す項目を用い、肯定的な回答がより高くなるよう得点化し、5%水準で有意に高い分析結果のみを要約し示した。たとえば、「1. 勉強したい分野」において「a. 大学学部第一志望」は「b. 大学第一志望学部非第一志望」と「d. 大学非第一志望学部」より有意に高い。また同様の結果は、「c. 大学非第一志望学部第一志望」においても確認できる。

この分析結果要約において、インプット（1~9）について「a. 大学学部第一志望」と「c. 大学非第一志望学部第一志望」は、「b. 大学第一志望学部非第一志望」や「d. 大学非第一志望学部」より有意に高い項目が多い。一方、「b. 大学第一志望学部非第一志望」はいずれのタイプよりも「7. 伝統・校風」の項目が有意に高く、「6. 周りの勧め」や「8. 国際化」の項目も「c. 大学非第一志望学部第一志望」よりも高い。

スループット（10~17）についても「a. 大学学部第一志望」と「c. 大学非第一志望学部第一志望」は、「b. 大学第一志望学部非第一志望」や「d. 大学非第一志望学部」より有意に高い項目が多い。特に「c. 大学非第一志望学部第一志望」は「11. ゼミ」や「13. 研究活動」、「15. 語学以外での外国語」においても他タイプよりも有意に高い。翻って、「b. 大学第一志望学部非第一志望」は他タイプよりも低い項目が多く、「a. 大学学部第一志望」よりも「16. 授業欠席」の項目が有意に高い。

アウトプット1（18~26）では、学部時代の主観的な成績、身に着けた能力に関する回答を分析した。分析結果要約からは「a. 大学学部第一志望」と「c. 大学非第一志望学部第一志望」は、特に「d. 大学非第一志望学部」より有意に高い項目が多い。

アウトプット2（27~29）においては卒業後の最終学歴や学習習慣に関する回答を分析した。結果として、「c. 大学非第一志望学部第一志望」が他タイプより有意に高い項目が多かった。やや特徴的なのは、「b. 大学第一志望学部非第一志望」は他タイプよりも最終学歴が相対的に低く、大学院進学する者は少ない点である。

役立ち度（30~34）については、在学時の教育、学生生活が現在役立っているかを尋ねた。ここでも「c. 大学非第一志望学部第一志望」が他タイプより有意に高い項目が多く、「30. 専門科目」や「32. ゼミ」においては全てのタイプよりも有意に高い。一方、「b. 大学第一志望学部非第一志望」は「33. 部活動、サークル活動」、「34. 学外のアパート」が前者は「c. 大学非第一志望学部第一志望」、後者は「a. 大学学部第一志望」よりも高い結果となった。

最後に校友関連（35~38）については、「c. 大学非第一志望学部第一志望」は「35. 現在学生、教職員と関わる」機会がより多いものの、早稲田大学に「38. 誇りに思うことはない」ようだ。一方、「b. 大学第一志望学部非第一志望」は「36. 早稲田スポーツの活躍に誇り」、「37. 早稲田を訪れる時に誇り」が「c. 大学非第一志望学部第一志望」よりも有意に高く、この2者は対照的な傾向を示した。

総じて、大学学部志望度をもとに作成した各タイプでは、大学入学から在学時の学習、生活、そして10年後における役立ち度などかなり違いが見られる結果となった。

表 3-1 志望度タイプ別の分析結果要約

	a.大学学部第一志望	b.大学第一志望学部 非第一志望	c.大学非第一志望 学部第一志望	d.大学学部非第一 志望
インプット				
1 勉強したい分野	+(b,d)		+(b,d)	
2 希望職業分野の勉強	+(b,d)		+(b,d)	
3 資格の取得	+(d)			
4 指導してほしい教員	+(d)			
5 学力が適当				+(a)
6 周りの勧め		+(c)		
7 伝統・校風	+(c,d)	+(a, c,d)		
8 国際化	+(d)	+(c,d)		
9 高3時の学力	+(b)			+(b)
スループット				
10 専門科目	+(b,d)		+(b,d)	
11 ゼミ				+(a,b,d)
12 学内アルバイト	+(b)		+(b)	
13 研究活動				+(b,d)
14 授業で学生と議論	+(b)		+(b)	
15 語学以外で外国語				+(b)
16 授業欠席		+(a)		
17 よい教員との出会い	+(b,d)			+(b,d)
アウトプット 1				
18 1~2年成績				+(b)
19 3~4年成績				+(a, b)
20 新しいアイデア	+(d)		+(d)	
21 論理的に考える	+(d)		+(d)	
22 課題解決を提案	+(b,d)		+(d)	
23 考えを分かりやすく表現	+(d)		+(d)	
24 相手を尊重	+(d)			
25 健全に批判	+(d)		+(d)	
26 外国語を理解し、話せる				+(d)
アウトプット 2				
27 最終学歴	+(b)		+(a,b,d)	+(b)
28 講座、セミナー、勉強会参加			+(b)	
29 本を読む			+(b)	
役立ち度				
30 専門科目	+(b,d)		+(a,b,d)	
31 一般教育科目			+(d)	
32 ゼミ			+(a,b,d)	
33 部活動、サークル活動		+(c)		
34 学外のアルバイト		+(a)		
校友関連				
35 現在学生、教職員と関わる			+(b)	
36 早稲田スポーツへの活躍に誇り		+(c)		
37 早稲田を訪れる時に誇り		+(c)		
38 誇りに思うことはない			+(a,b)	

表3-2 分析に用いた変数の記述統計

大項目	中項目	変数名	変数処理	N	平均値	最小値	最大値	
入学前	留学	37	高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。	「ない」、「短期（数週間～3ヶ月未満）」、「中期（3ヶ月以上～約半年：1学期のみを含む）」、「長期（半年以上：2学期以上を含む）」にそれぞれ1～4を割当て。	1,324	1.42	1.00	4.00
		38	1～2年の成績	「下のほう」、「やや下」、「真ん中ぐらい」、「やや上」、「上のほう」にそれぞれ1～5を割り当て。				
在学時	在学時の成績	39	3～4年の成績					
		40	既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる		1,298	2.80	1.00	4.00
卒業時／卒業後	能力の獲得度	41	物事を論理的に考えることができる		1,298	3.06	1.00	4.00
		42	課題の解決方法を提案できる		1,296	2.92	1.00	4.00
		43	自分の考えを分かりやすく表現できる		1,298	2.88	1.00	4.00
		44	相手の状況や考え方を尊重できる	「身につけていない」、「あまり身につけていない」、「やや身についた」、「かなり身についた」の回答についてそれぞれ1～4を割当て。	1,298	3.07	1.00	4.00
		45	物事を多面的に考えることができる		1,298	3.20	1.00	4.00
		46	健全に批判することができる		1,298	2.83	1.00	4.00
		47	多様性を受け入れられる		1,298	3.36	1.00	4.00
		48	異文化を理解できる		1,298	3.08	1.00	4.00
		49	外国語を理解し、話せる		1,297	2.24	1.00	4.00
		50	最終学歴	学部卒業を1、修士課程修了を2、博士課程修了を3とし、その他は除いた。	1,242	1.27	1.00	3.00
卒業時／卒業後	学習習慣	51	動いている企業等の教育・研修プログラムに参加する		1,278	2.67	1.00	4.00
		52	単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	「まったくない」、「あまりない」、「まあまあある」、「よくある」の回答についてそれぞれ1～4を割当て。	1,280	2.37	1.00	4.00
		53	学校に通う		1,279	1.47	1.00	4.00
		54	本を読む		1,281	3.15	1.00	4.00
卒業時／卒業後	役立ち度	55	専門科目		1,278	3.53	1.00	5.00
		56	一般教育科目		1,276	3.41	1.00	5.00
		57	ゼミ		1,278	3.28	1.00	5.00
		58	卒業論文・卒業研究		1,276	3.03	1.00	5.00
		59	部活動、サークル活動		1,276	3.23	1.00	5.00
		60	学内のアルバイト	「経験しなかった」、「まったく役立っていない」、「あまり役立っていない」、「やや役立っている」、「かなり役立っている」にそれぞれ1～5を割当て。	1,273	1.69	1.00	5.00
		61	学外のアルバイト		1,276	3.21	1.00	5.00
		62	留学		1,274	1.72	1.00	5.00
		63	ボランティア		1,266	1.65	1.00	5.00
		64	インターンシップ		1,268	1.64	1.00	5.00
65	早稲田大学以外での勉強		1,273	1.97	1.00	5.00		
66	資格取得や教職、国家試験勉強		1,273	2.30	1.00	5.00		
卒業時／卒業後	早稲田大学との関わり	67	早稲田大学に寄付をしている		1,223	0.08	0.00	1.00
		68	早稲田大学校友会の活動に参加している		1,223	0.07	0.00	1.00
		69	『早稲田学報』を読んでいる		1,223	0.68	0.00	1.00
		70	早稲田大学の学部、あるいは大学院（ビジネススクール含む）・エクステンションセンター・WASEDA NEO等の社会人教育機関に通っている	各項目に回答した場合を1、しない場合には0を割り当て。	1,223	0.01	0.00	1.00
		71	キャンパス近隣に居住し、現在の在学学生や教職員と多様な形で関わっている		1,223	0.02	0.00	1.00
		72	仕事を通じて、現在の在学学生や教職員と多様な形で関わっている		1,223	0.10	0.00	1.00
		73	大学時代の友人と定期的に関わっている		1,223	0.61	0.00	1.00
		74	普段、早稲田大学と関わることはない		1,223	0.13	0.00	1.00
		75	その他（具体的に）		1,223	0.04	0.00	1.00
		卒業時／卒業後	早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時	76	早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時		1,231	0.69
77	早稲田スポーツの活躍を知った時				1,231	0.54	0.00	1.00
78	早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時				1,231	0.37	0.00	1.00
79	早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時				1,231	0.43	0.00	1.00
80	国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時				1,231	0.41	0.00	1.00
81	早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時				1,231	0.35	0.00	1.00
82	早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時			各項目に回答した場合を1、しない場合には0を割り当て。	1,231	0.23	0.00	1.00
83	校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時				1,231	0.07	0.00	1.00
84	在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時				1,231	0.45	0.00	1.00
85	在学中のゼミのOB/OG会に出席した時				1,231	0.13	0.00	1.00
卒業時／卒業後	早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段	86	在学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）		1,231	0.45	0.00	1.00
		88	誇りに思う時はない		1,231	0.07	0.00	1.00
		89	その他（具体的に）		1,231	0.03	0.00	1.00
		90	早稲田大学や校友会からのメールマガジン		1,221	0.30	0.00	1.00
		91	早稲田大学や校友会Webサイトからのお知らせ・情報提供		1,221	0.14	0.00	1.00
		92	早稲田大学や校友会のSNS（Facebook、Twitter等）		1,221	0.12	0.00	1.00
		93	校友会広報誌「早稲田学報」		1,221	0.70	0.00	1.00
		94	大学広報誌「西北の風」	各項目に回答した場合を1、しない場合には0を割り当て。	1,221	0.02	0.00	1.00
		95	メディア（テレビ、新聞、ネット等）		1,221	0.56	0.00	1.00
		96	家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話		1,221	0.37	0.00	1.00
97	大学時代の友人や教職員との会合		1,221	0.34	0.00	1.00		
98	触れる機会は特になし		1,221	0.05	0.00	1.00		
99	その他（具体的に）		1,221	0.01	0.00	1.00		

3-2. インプット

・勉強したい分野がその学部にあったから

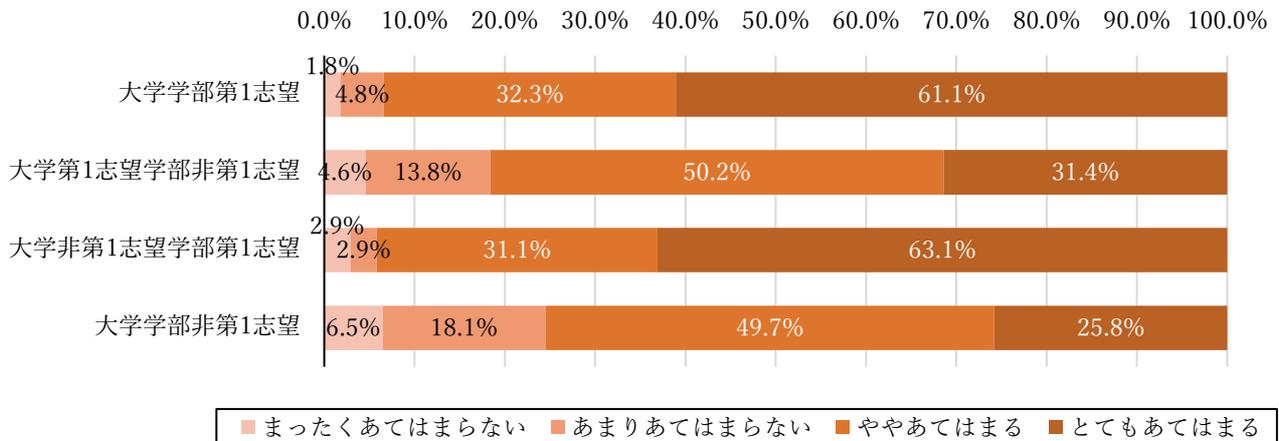


図3-5 受験理由_勉強したい分野がその学部にあったから (志望度タイプ別)

・就職に有利であると思ったから

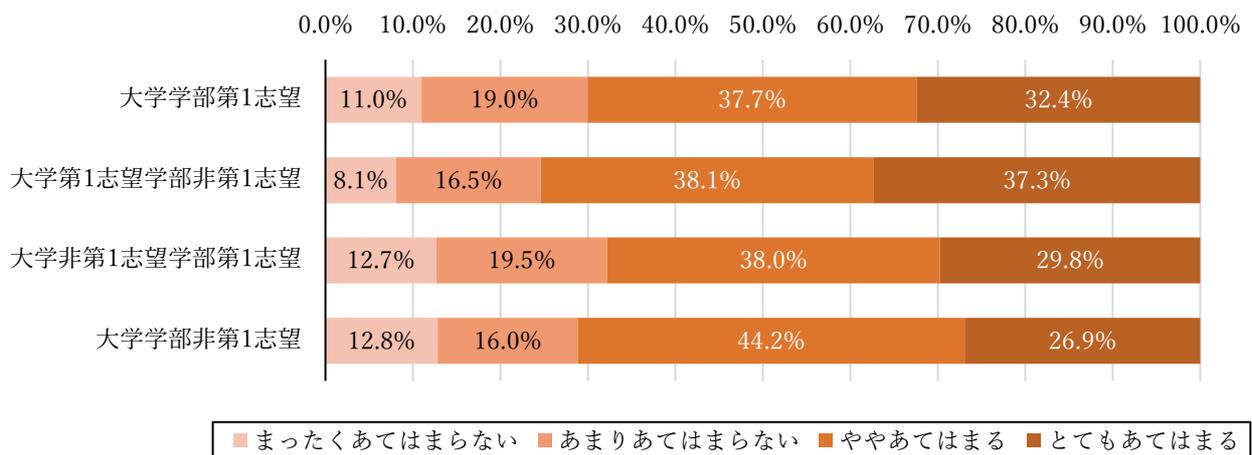


図3-6 受験理由_就職に有利であると思ったから (志望度タイプ別)

・将来の希望する職業分野を勉強できるから

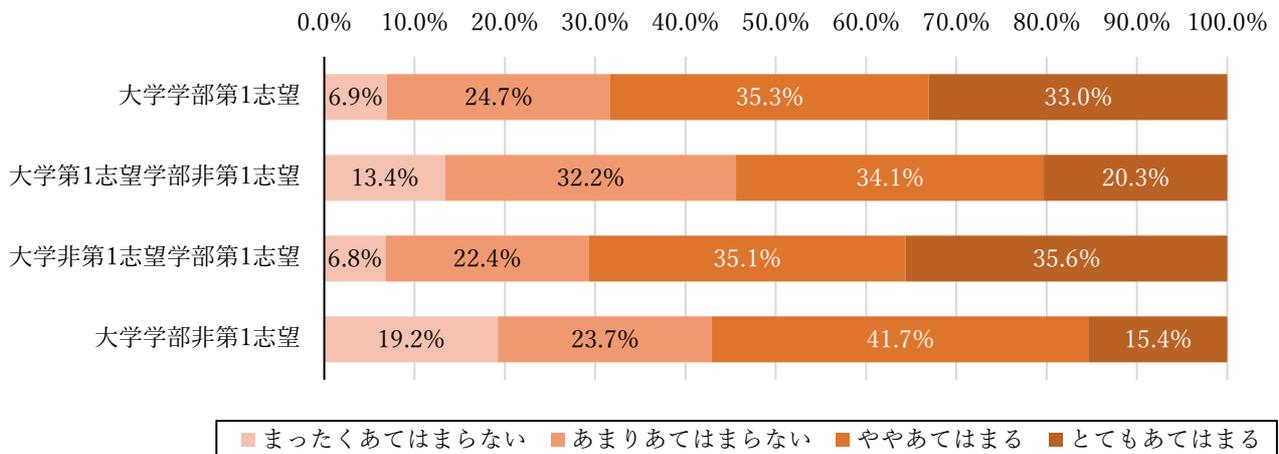


図3-7 受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから (志望度タイプ別)

・資格の取得が有利であるから

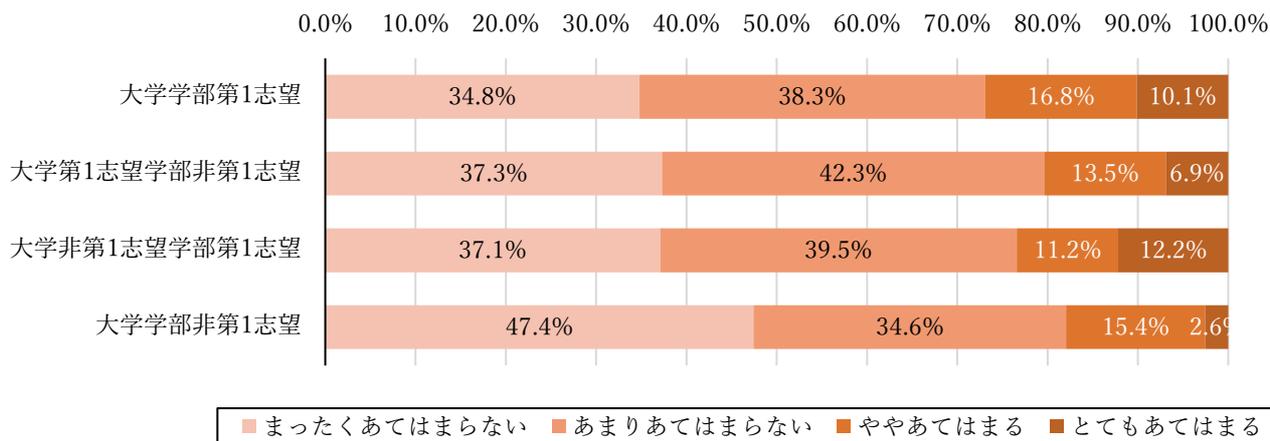


図3-8 受験理由_資格の取得が有利であるから (志望度タイプ別)

・指導してほしい教員がその学部にいるから

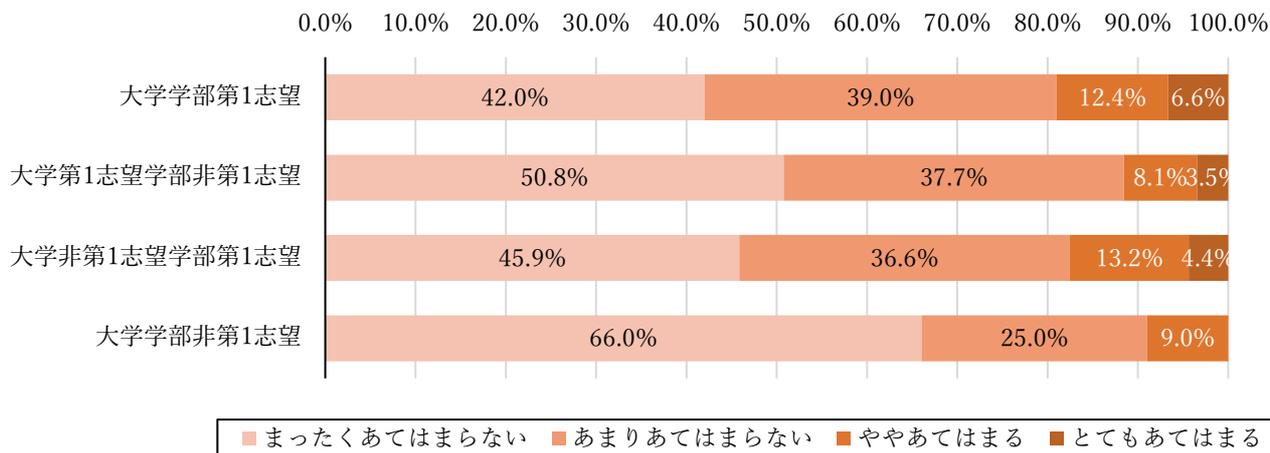


図3-9 受験理由_指導してほしい教員がその学部にいるから (志望度タイプ別)

・学力(偏差値など)が適当であったから

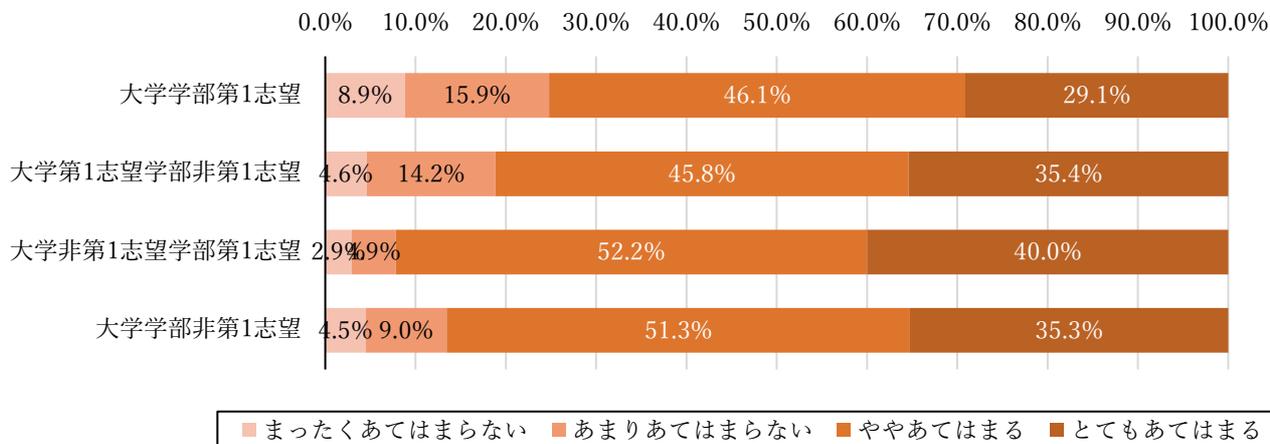


図3-10 受験理由_学力(偏差値など)が適当であったから (志望度タイプ別)

・進路選択の幅が広い学部を選択した

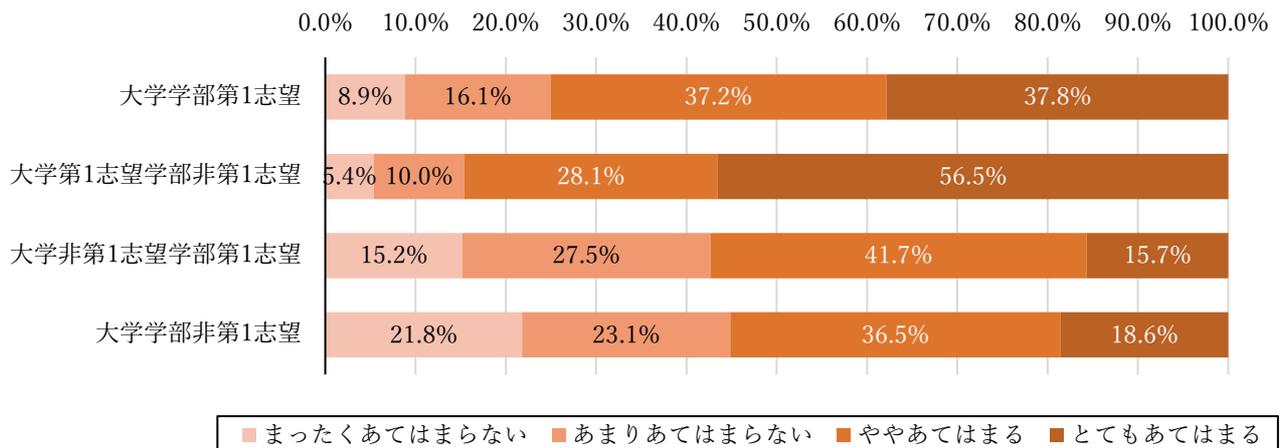


図3-11 受験理由_進路選択の幅が広い学部を選択した(志望度タイプ別)

・高校の先生や家族または塾などで勧められたから

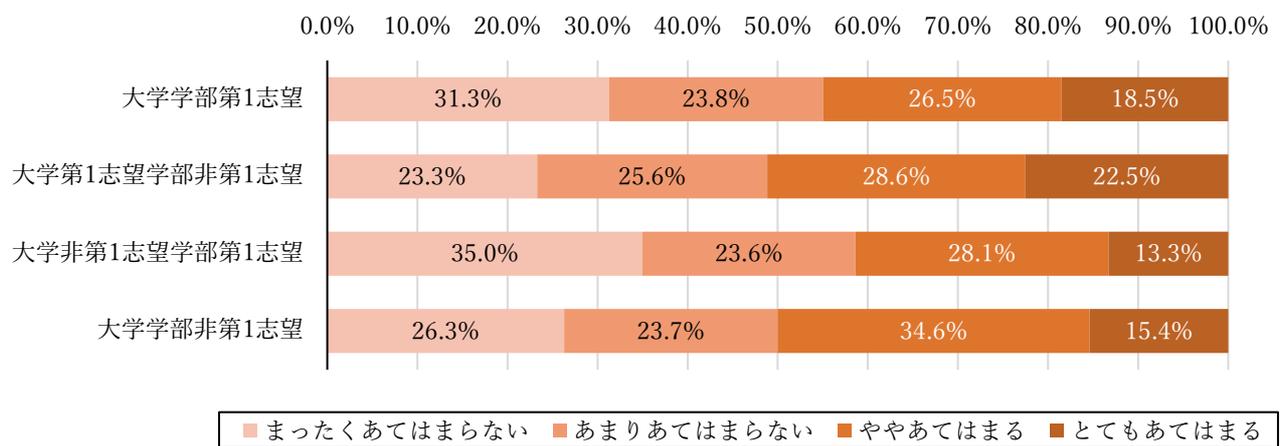


図3-12 受験理由_高校の先生や家族または塾などで勧められたから(志望度タイプ別)

・伝統・校風が好きだから

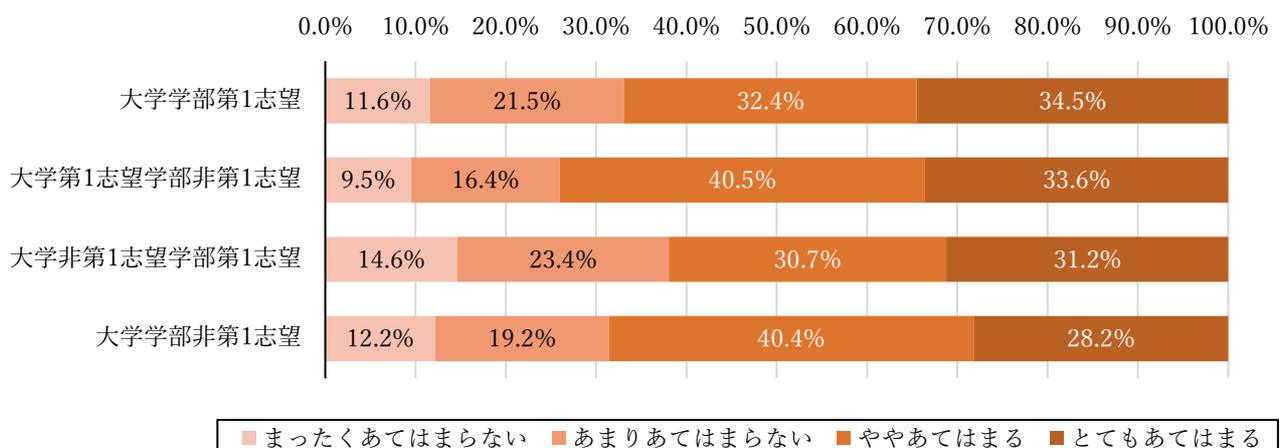


図3-13 受験理由_伝統・校風が好きだから(志望度タイプ別)

・国際化が進んでいるから

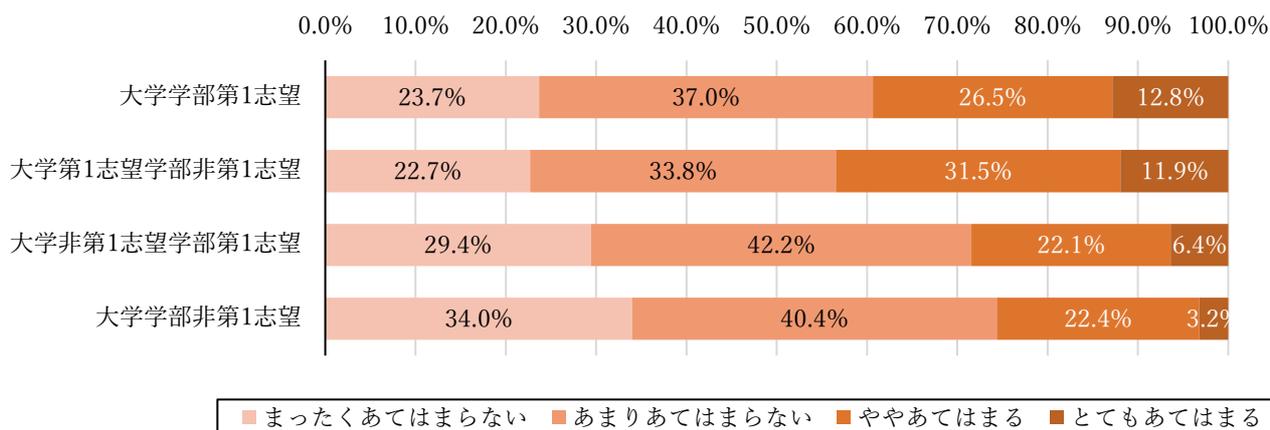


図3-14 受験理由_国際化が進んでいるから (志望度タイプ別)

・中学3年の時の成績

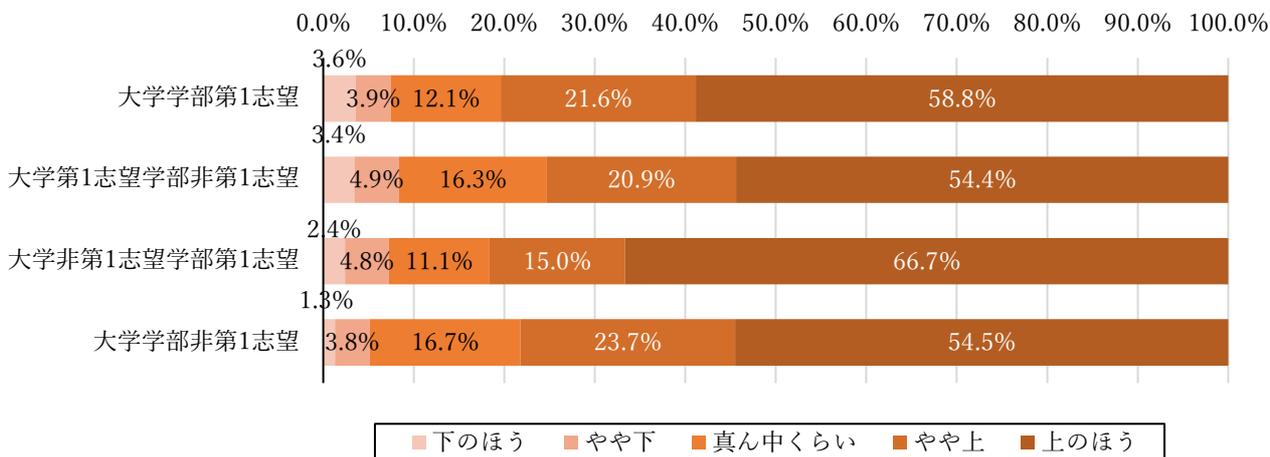


図3-15 中学3年の時の成績 (志望度タイプ別)

・高校3年の時の成績

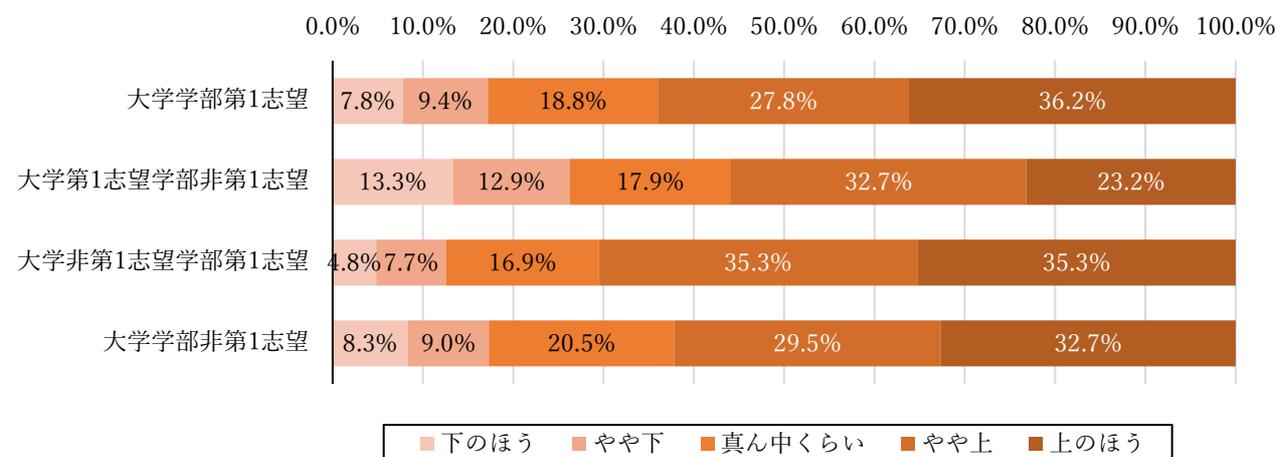


図3-16 高校3年の時の成績 (志望度タイプ別)

- ・少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

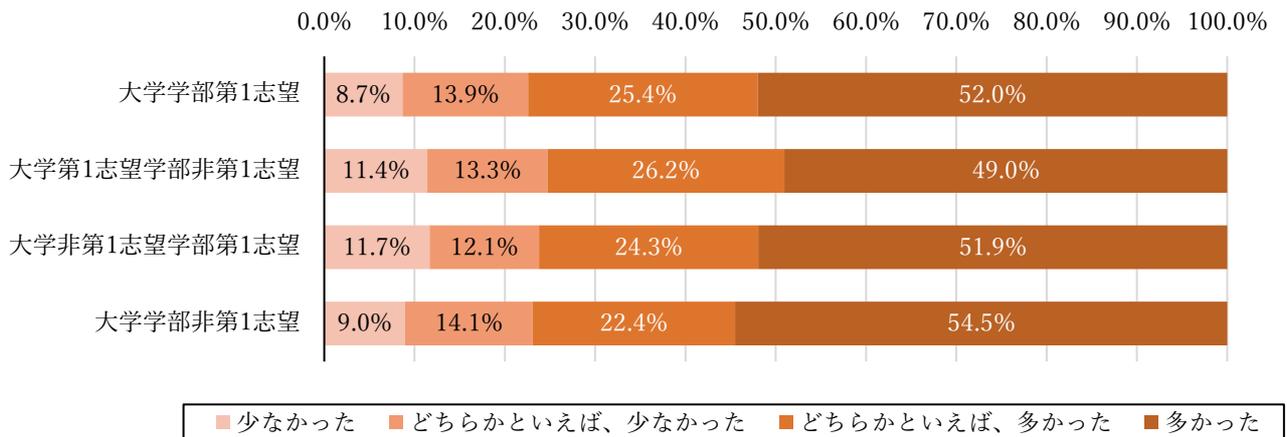


図3-17 中学時の経験（1）勤勉性（志望度タイプ別）

- ・学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

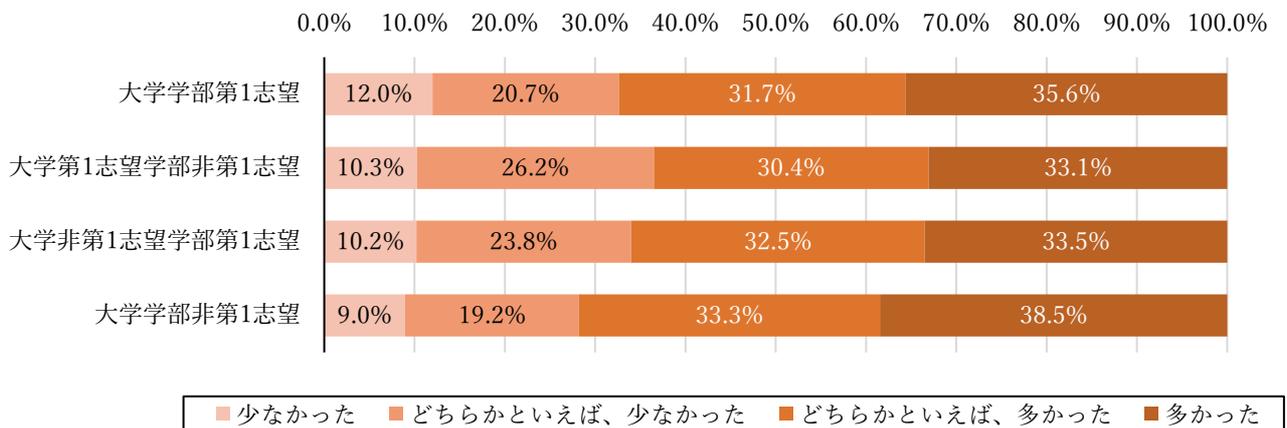


図3-18 中学時の経験（2）まじめさ（志望度タイプ別）

- ・なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

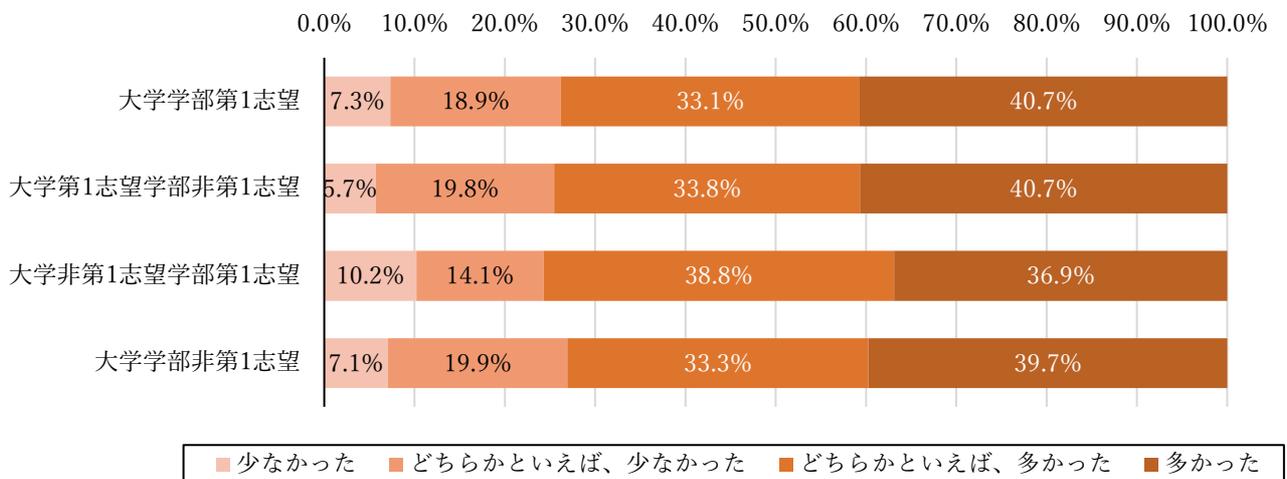


図3-19 中学時の経験（3）忍耐力（志望度タイプ別）

3-3. スループット

・専門科目

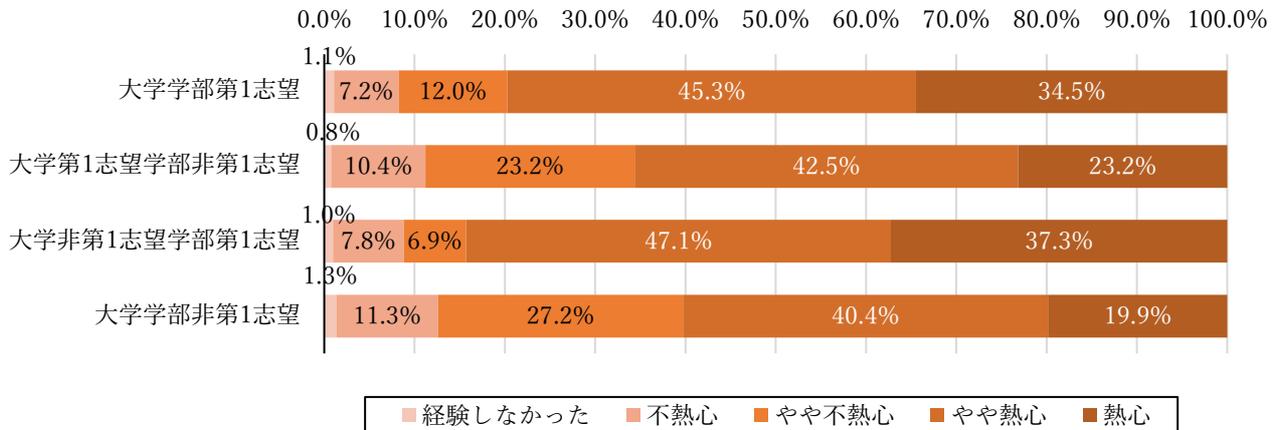


図3-20 在学時の活動の熱心さ__専門科目（志望度タイプ別）

・一般科目

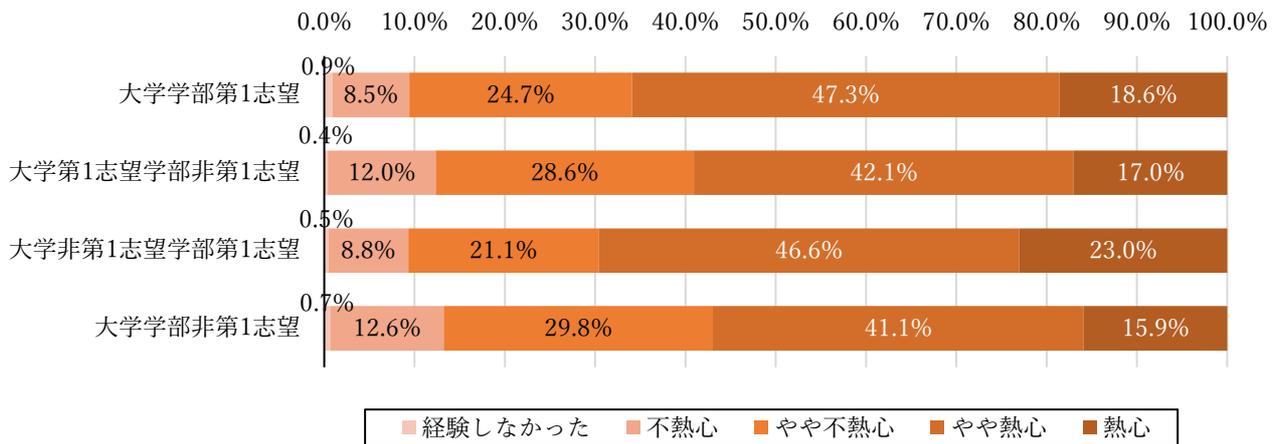


図3-21 在学時の活動の熱心さ__一般教育科目（志望度タイプ別）

・ゼミ

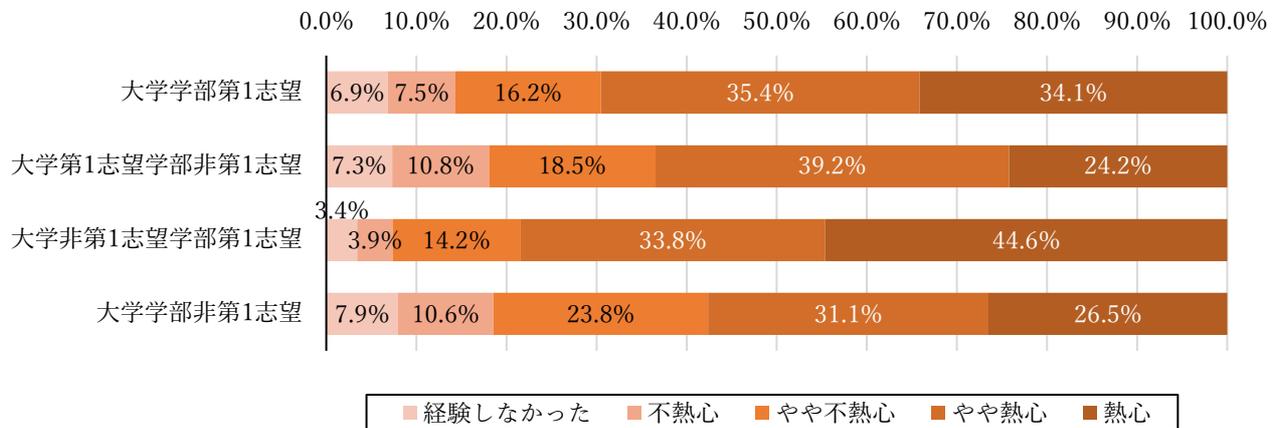


図3-22 在学時の活動の熱心さ__ゼミ（志望度タイプ別）

・卒業論文作成

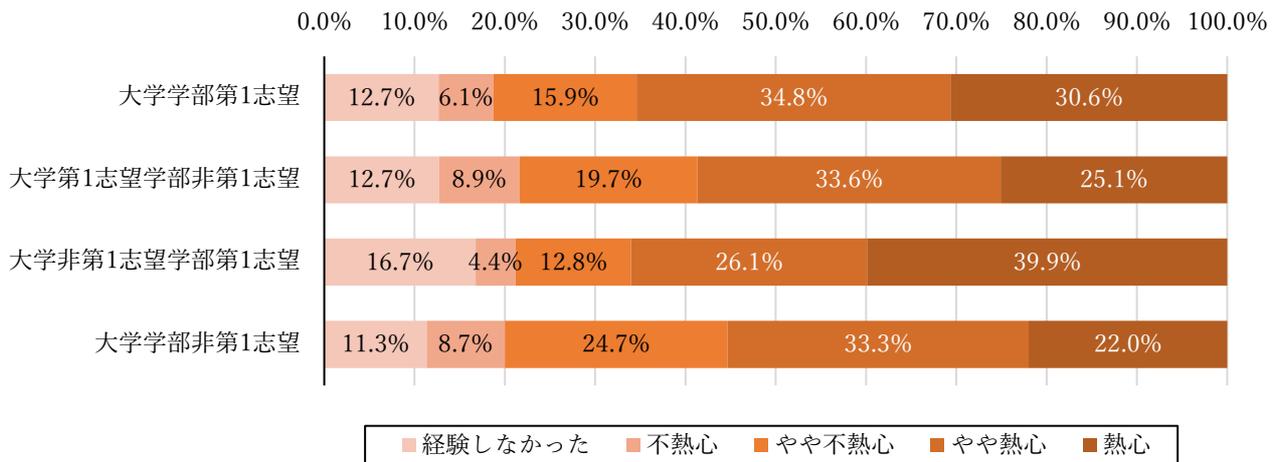


図 3-23 在学時の活動の熱心さ__卒業論文作成 (志望度タイプ別)

・部活動、サークル活動

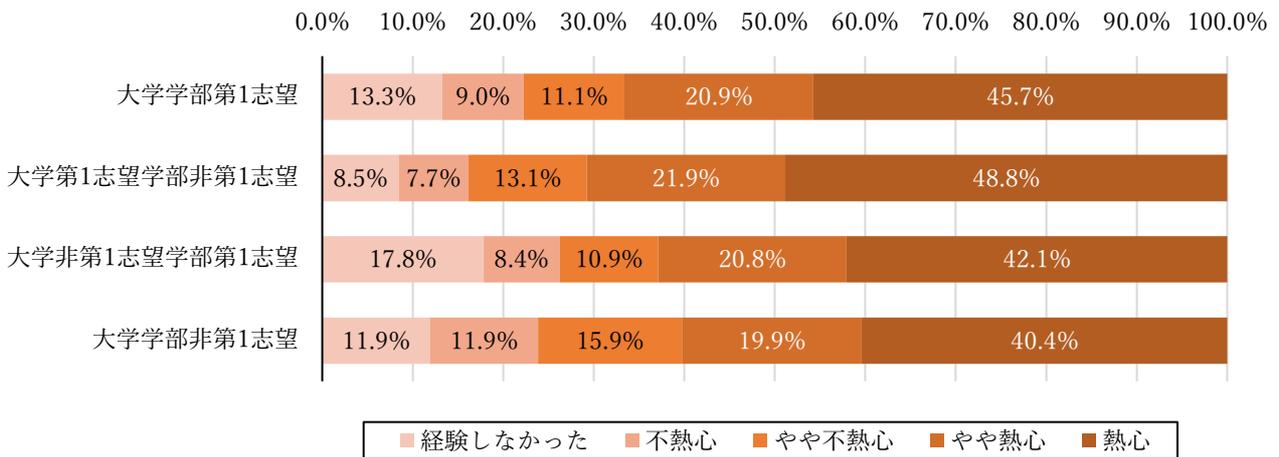


図 3-24 在学時の活動の熱心さ__部活動、サークル活動 (志望度タイプ別)

・学内のアルバイト

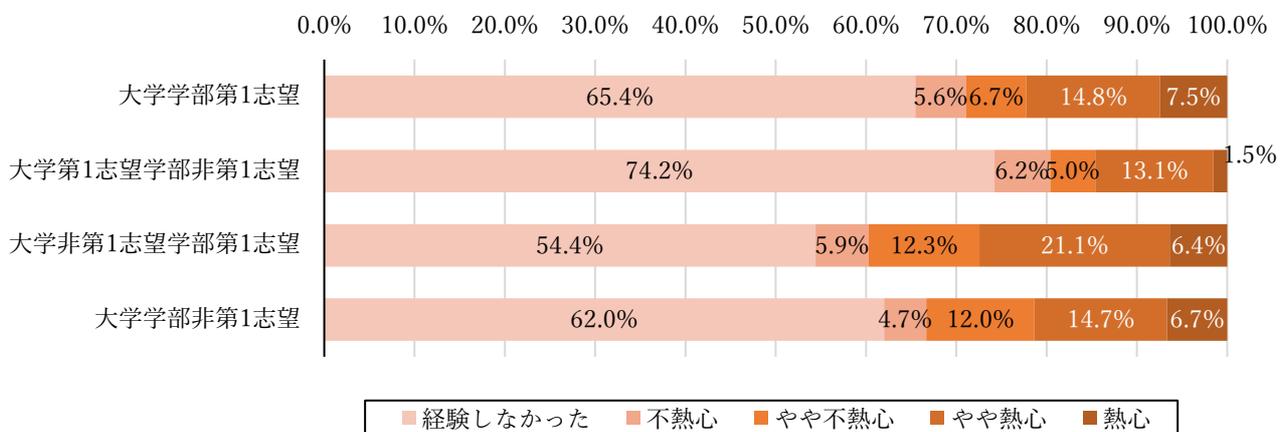


図 3-25 在学時の活動の熱心さ__学内のアルバイト (志望度タイプ別)

・学外のアパート・定職

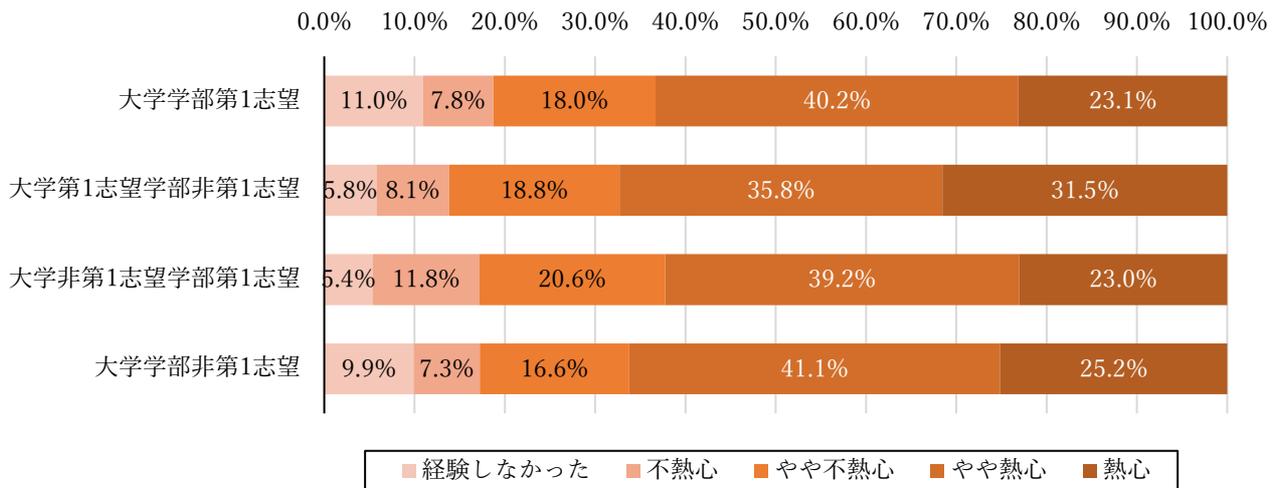


図3-26 在学時の活動の熱心さ__学外のアパート・定職（志望度タイプ別）

・ボランティア

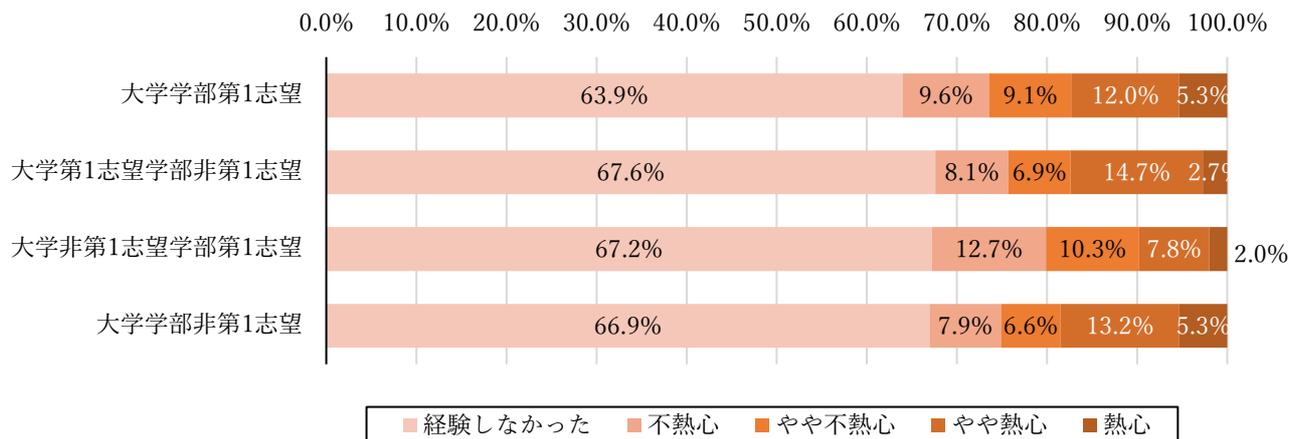


図3-27 在学時の活動の熱心さ__ボランティア（志望度タイプ別）

・インターンシップ

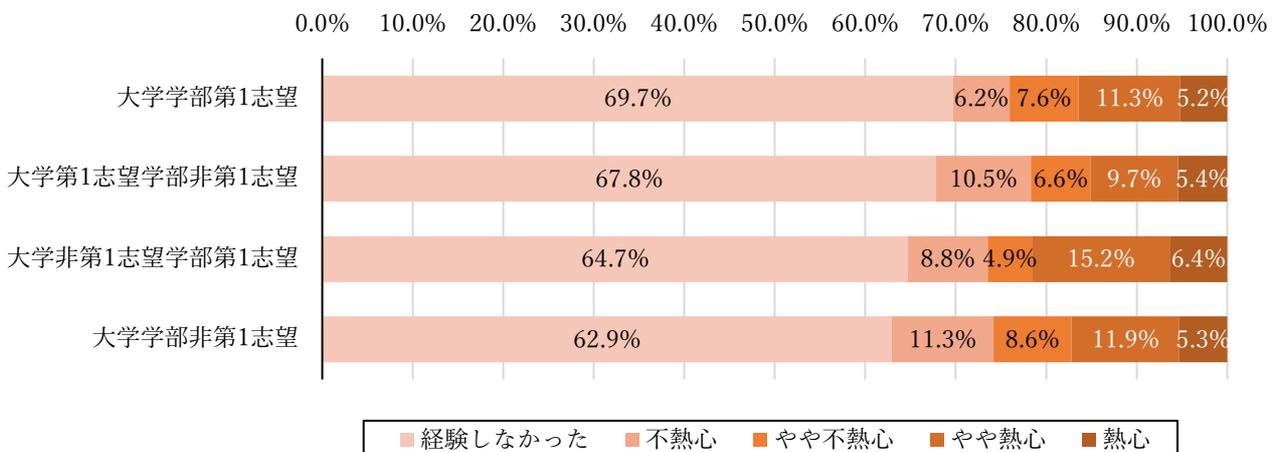


図3-28 在学時の活動の熱心さ__インターンシップ（志望度タイプ別）

・早稲田大学以外での勉強

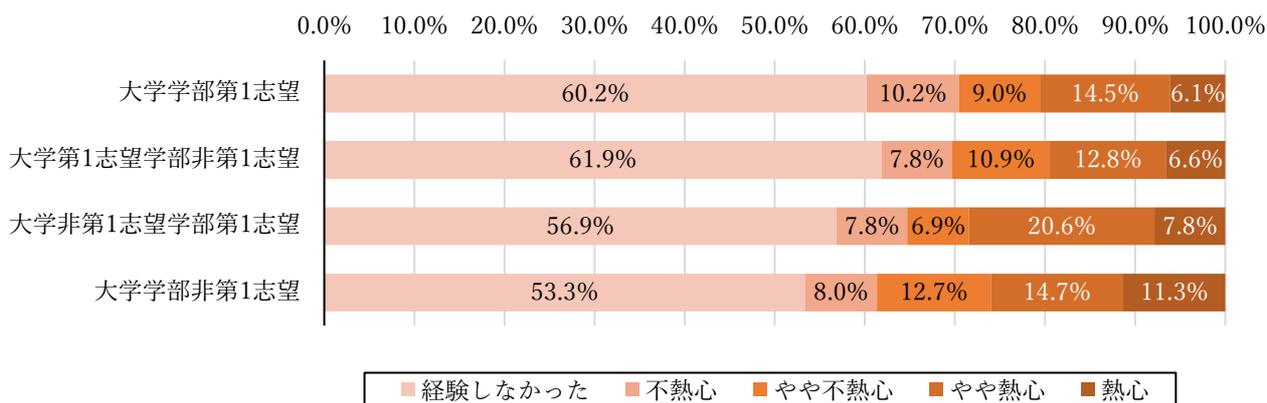


図3-29 在学時の活動の熱心さ__早稲田大学以外での勉強（志望度タイプ別）

・資格取得や教職、国家試験勉強

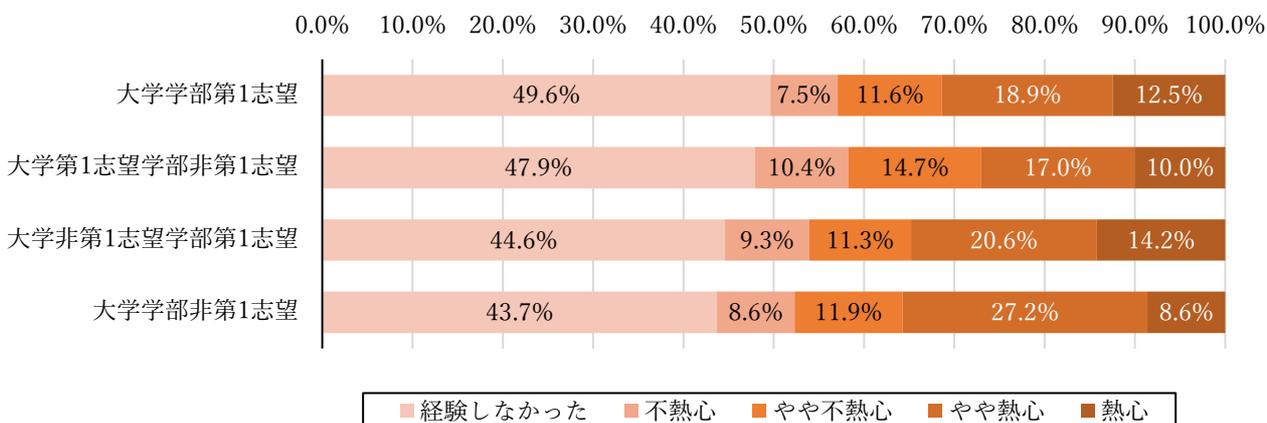


図3-30 在学時の活動の熱心さ__資格取得や教職、国家試験勉強（志望度タイプ別）

・大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

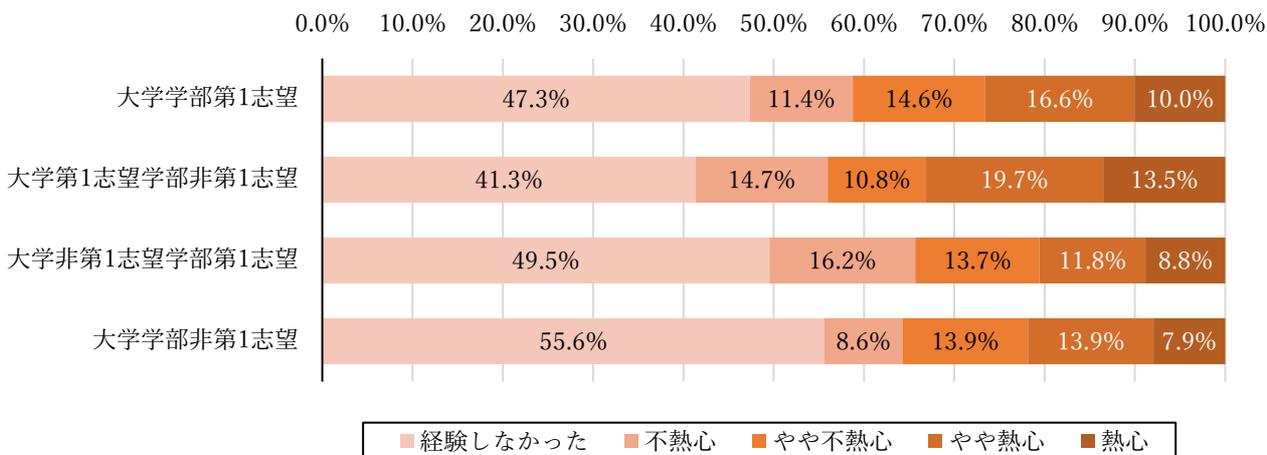


図3-31 在学時の活動の熱心さ__大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）（志望度タイプ別）

・図書館を利用した

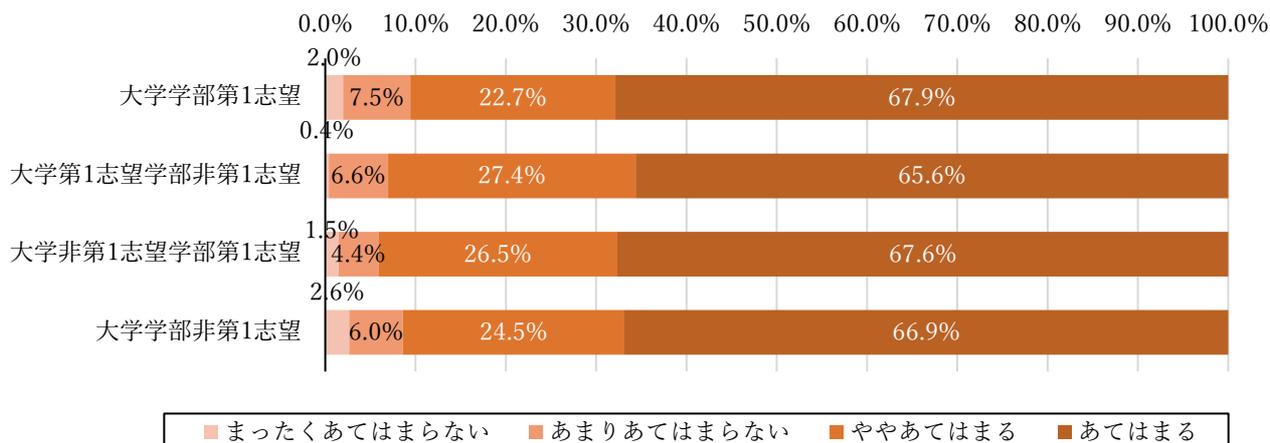


図3-32 在学時の活動_図書館の利用(志望度タイプ別)

・読書(漫画や雑誌を除く)をした

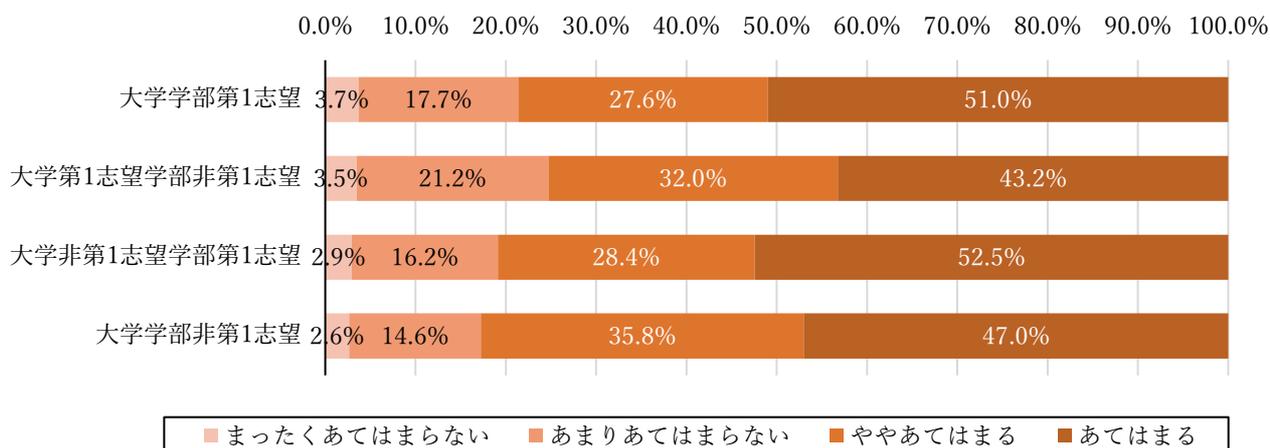


図3-33 在学時の活動_読書(志望度タイプ別)

・自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした

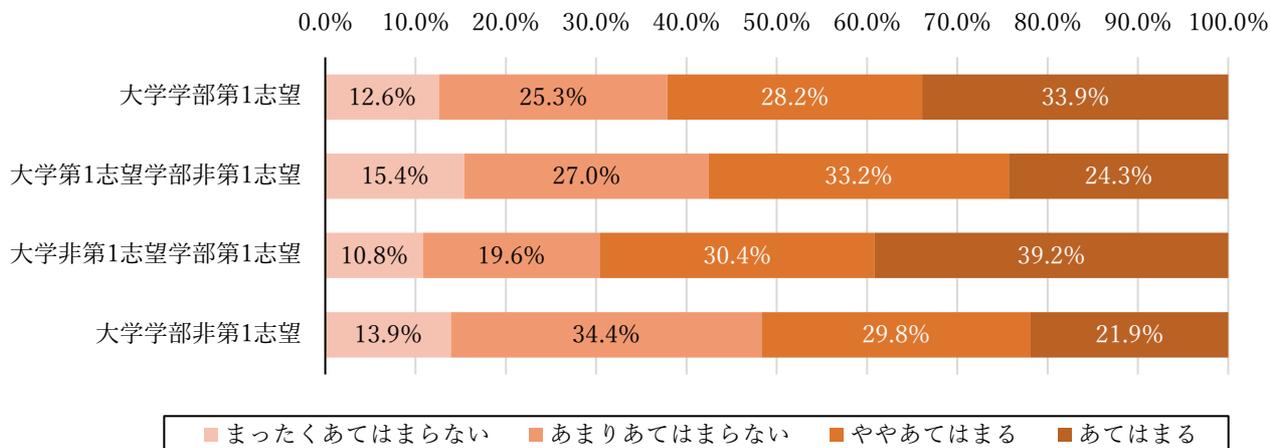


図3-34 在学時の活動_研究・発表(志望度タイプ別)

・授業内容について、他の学生と議論した

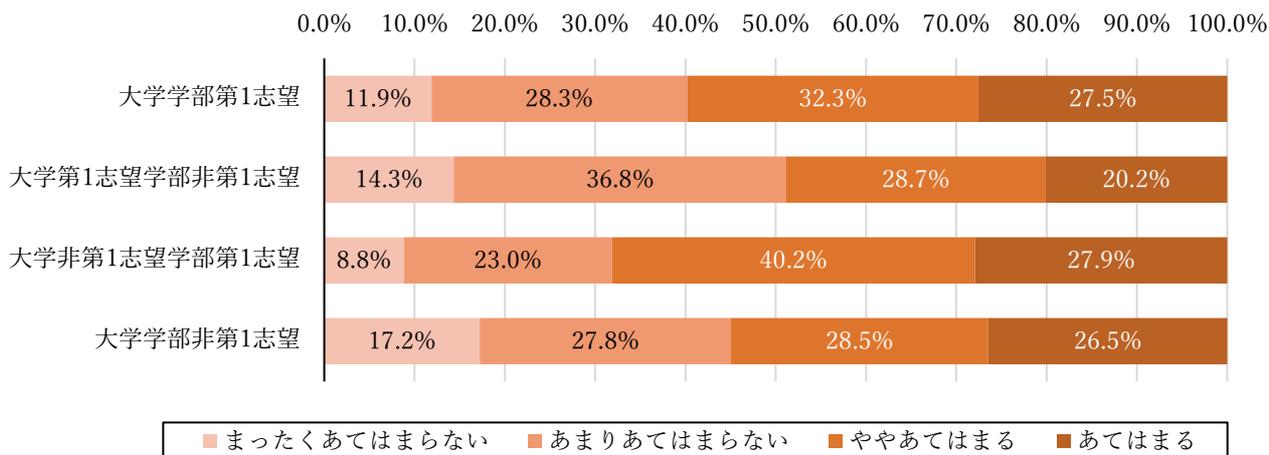


図3-35 在学時の活動_授業内容についての学生との議論 (志望度タイプ別)

・授業内容について、教員と議論した

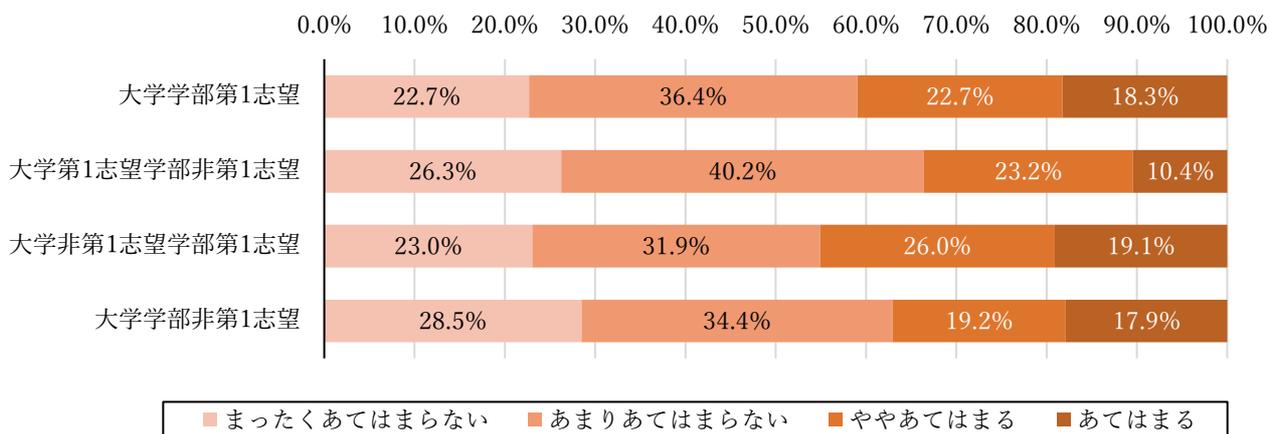


図3-36 在学時の活動_授業内容についての教員との議論 (志望度タイプ別)

・語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした

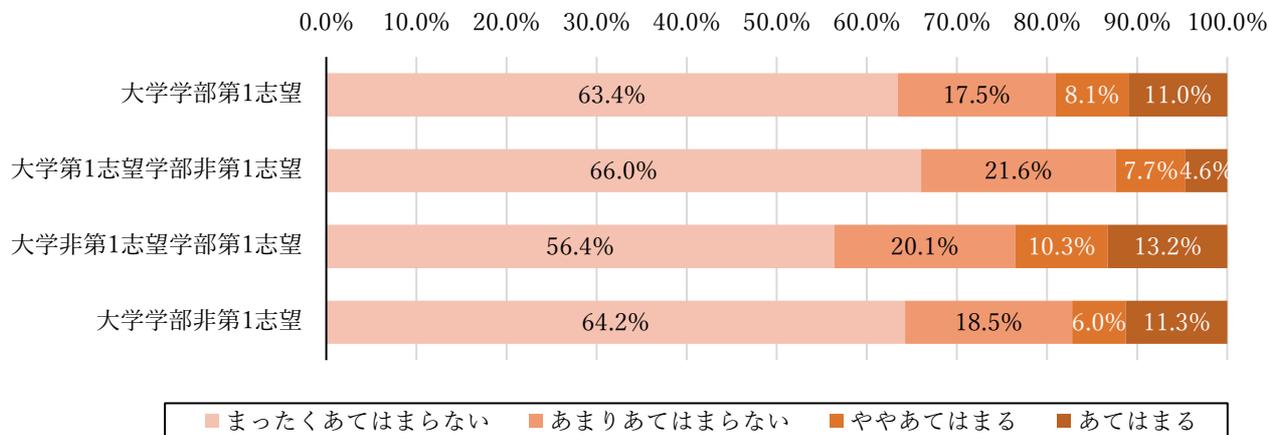


図3-37 在学時の活動_外国語での議論や発表 (語学の授業以外) (志望度タイプ別)

・留学生と一緒に学んだ

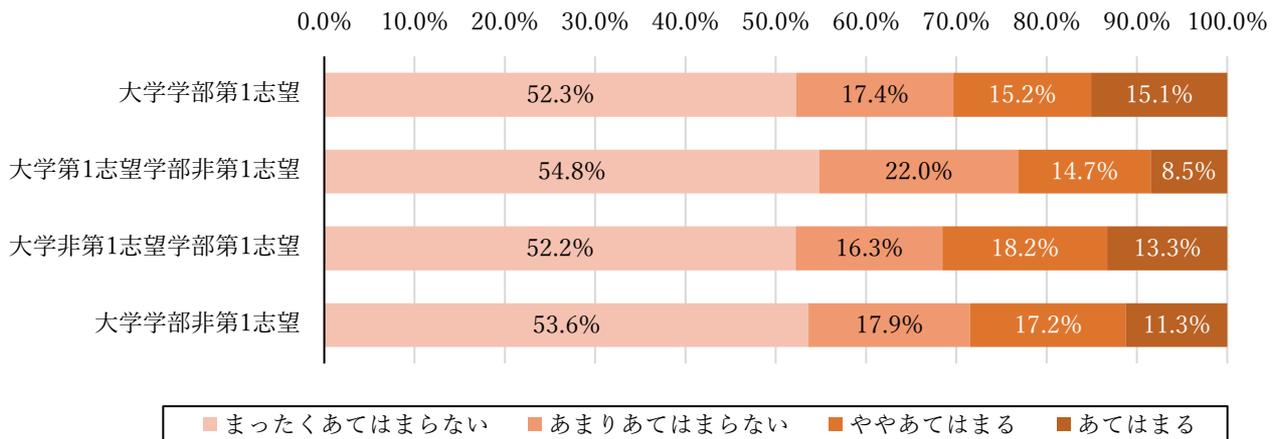


図3-38 在学時の活動_留学生との学習(志望度タイプ別)

・授業の一環として大学外で学んだ(フィールドワーク等)

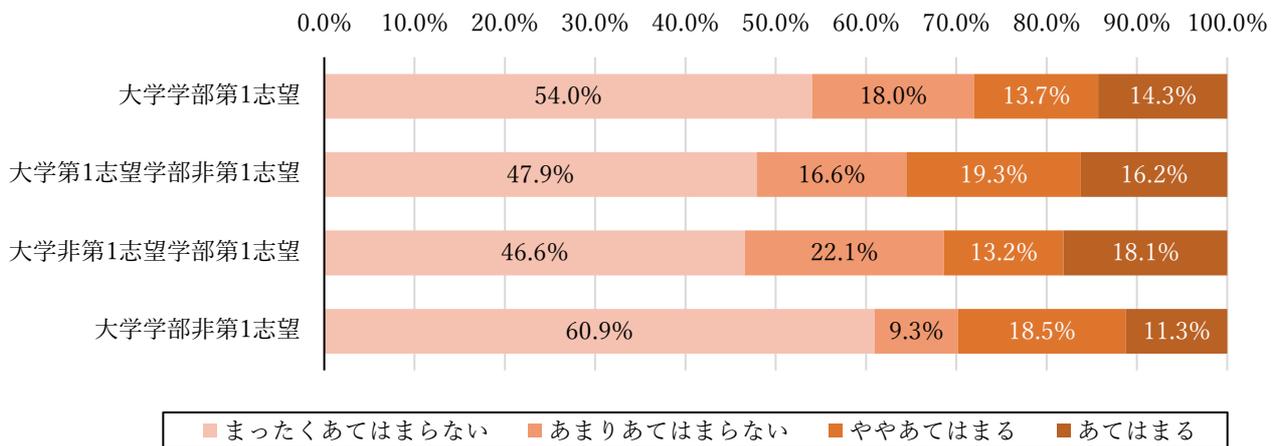


図3-39 在学時の活動_授業の一環としての大学外での学び(志望度タイプ別)

・特別な理由なく授業を欠席した

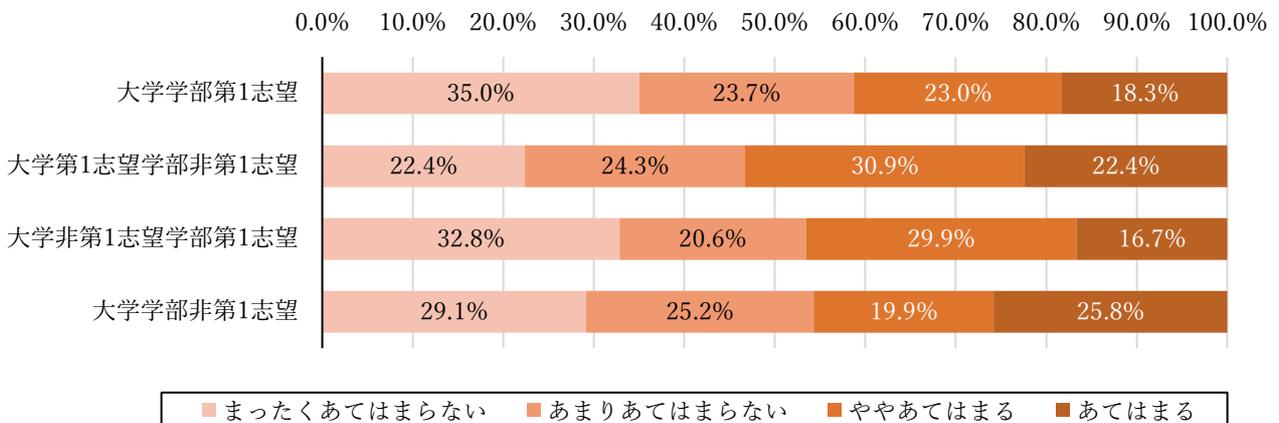


図3-40 在学時の活動_特別な理由のない授業の欠席(志望度タイプ別)

・よい教員に巡り合えた

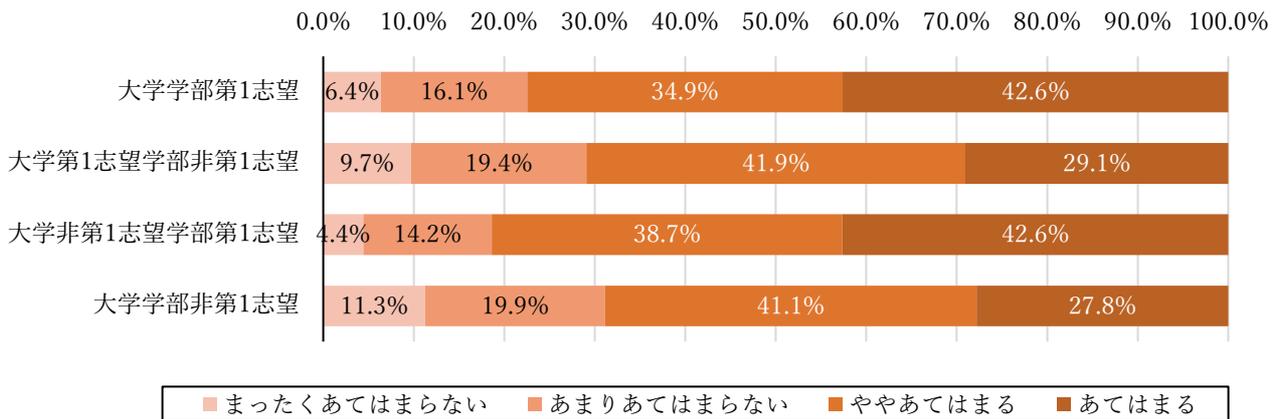


図3-41 在学時の活動__よい教員との出会い（志望度タイプ別）

・学部の成績（1～2年）

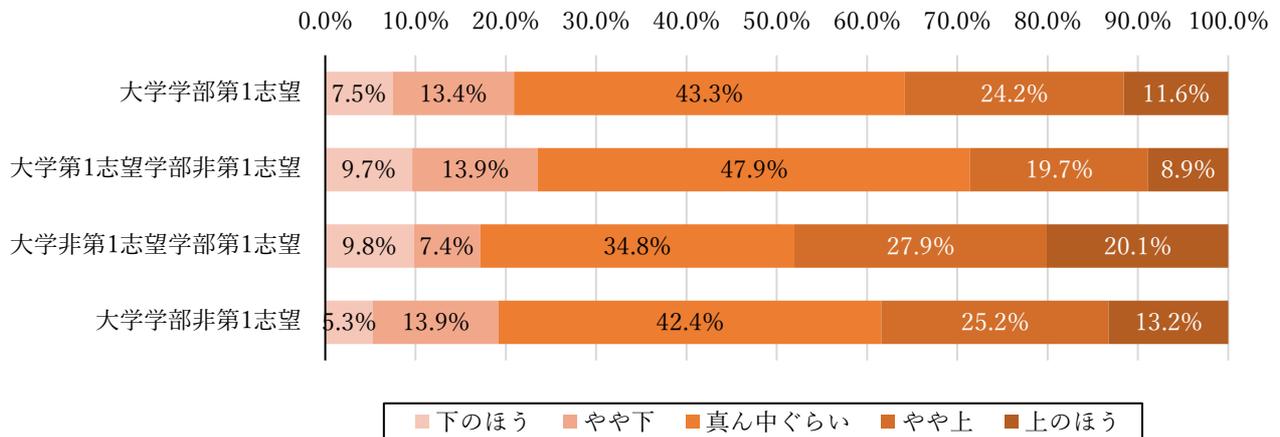


図3-42 在学時の成績（1～2年）（志望度タイプ別）

・学部の成績（3～4年）

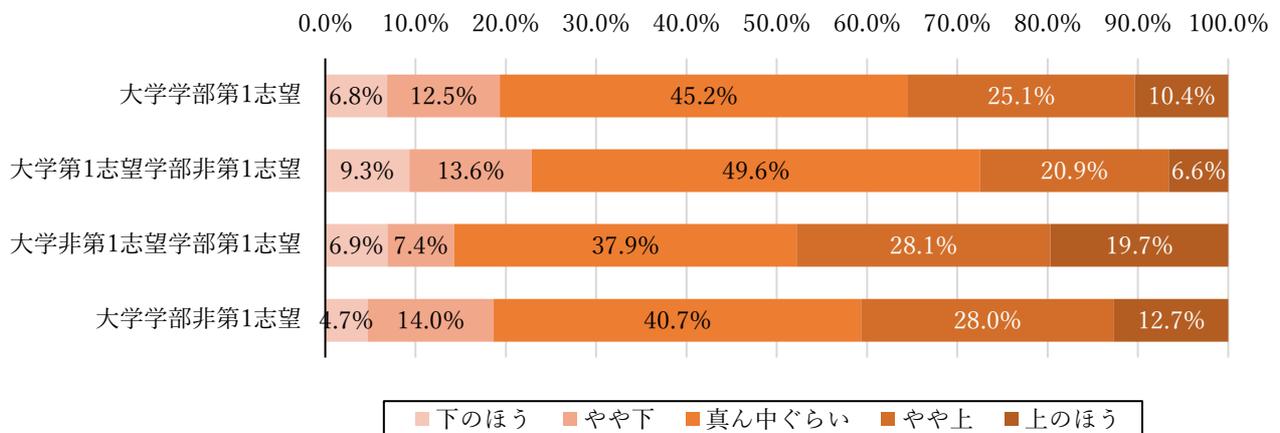


図3-43 在学時の成績（3～4年）（志望度タイプ別）

3-4. アウトプット1

- ・既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

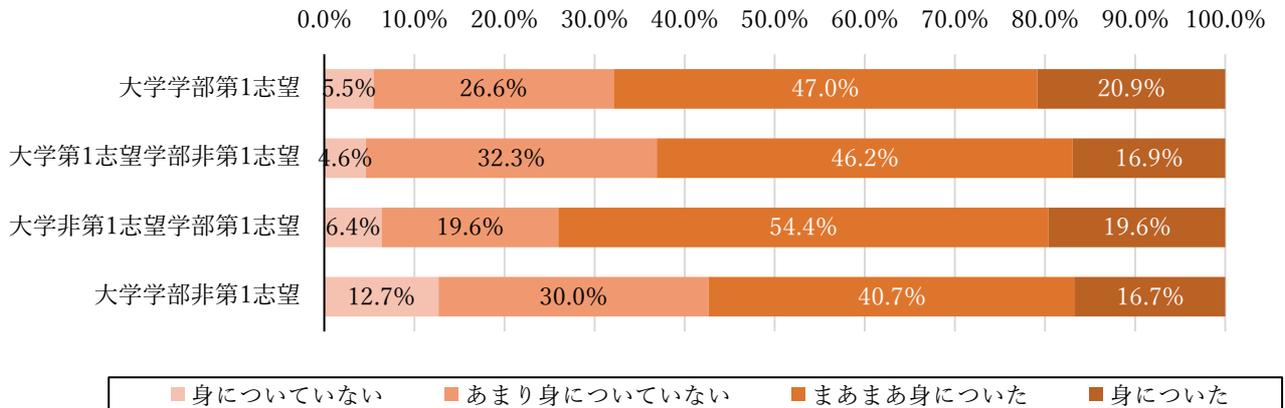


図3-44 学部で身につけたもの_アイデア創出力(志望度タイプ別)

- ・物事を論理的に考えることができる

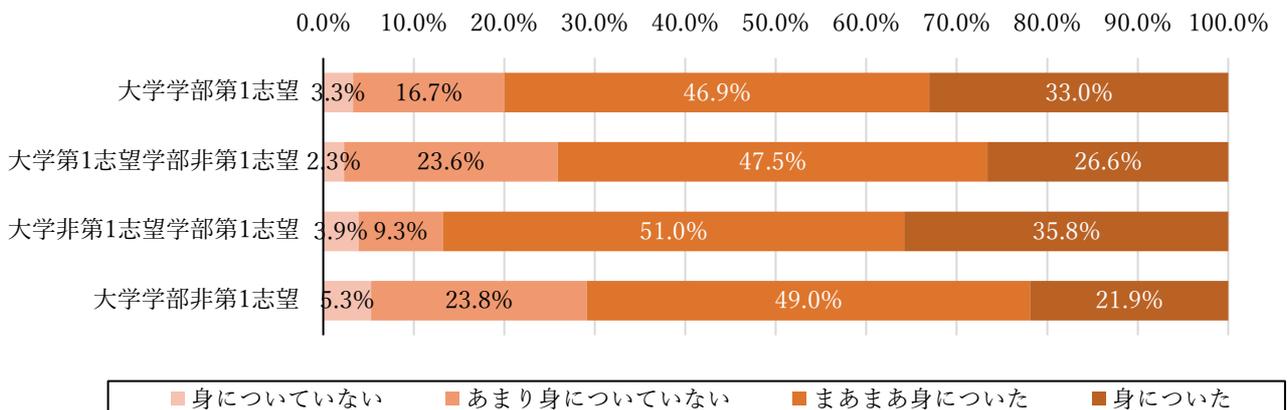


図3-45 学部で身につけたもの_論理的思考力(志望度タイプ別)

- ・課題の解決方法を提案できる

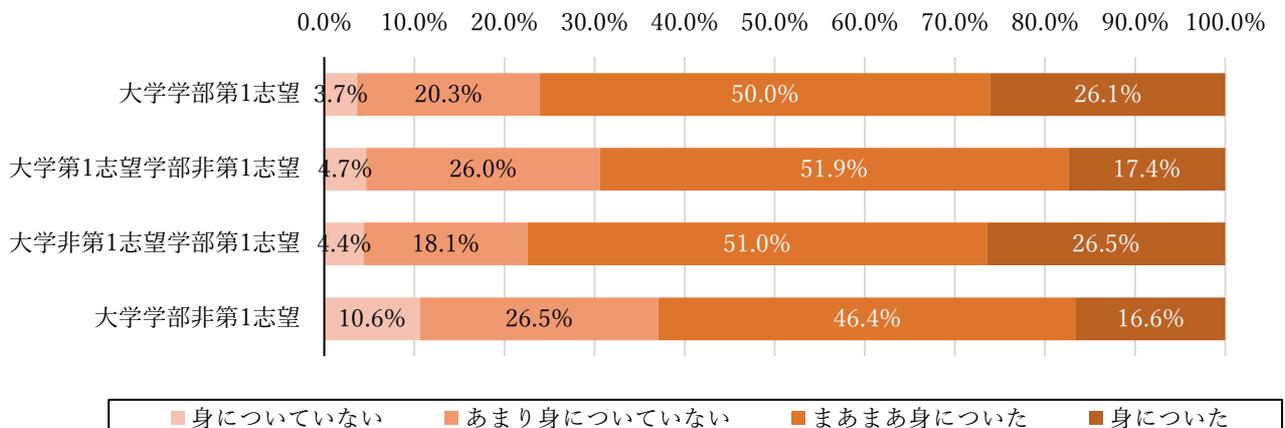


図3-46 学部で身につけたもの_課題解決力(志望度タイプ別)

- ・自分の考えを分かりやすく表現できる

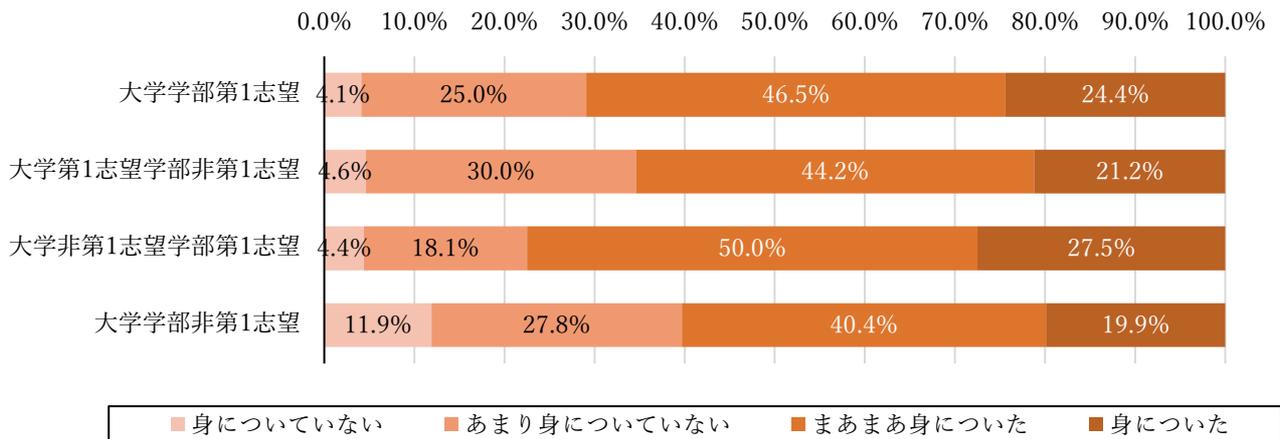


図3-47 学部で身につけたもの_表現力・プレゼンテーション能力（志望度タイプ別）

- ・相手の状況や考え方を尊重できる

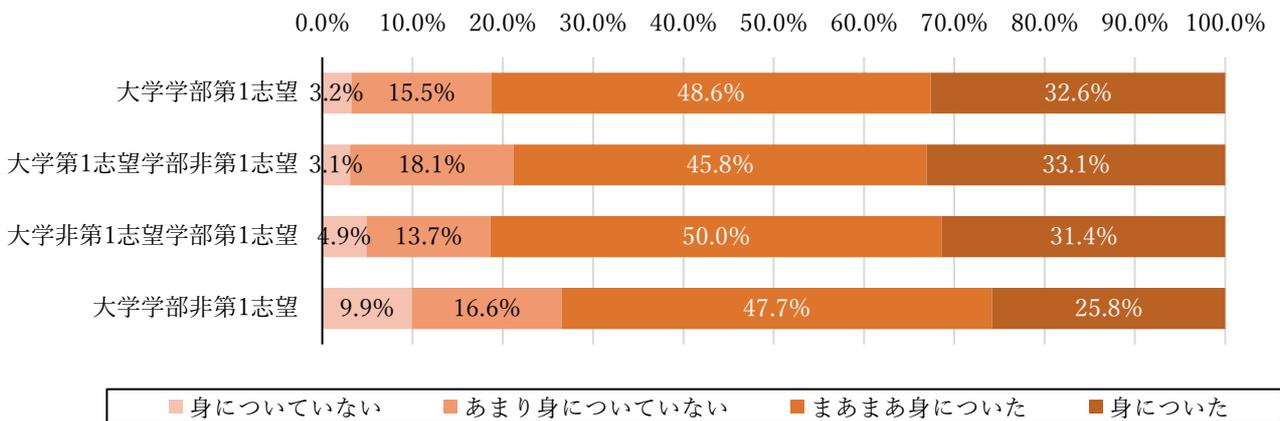


図3-48 学部で身につけたもの_相手の状況や考え方を尊重できる（志望度タイプ別）

- ・物事を多面的に考えることができる

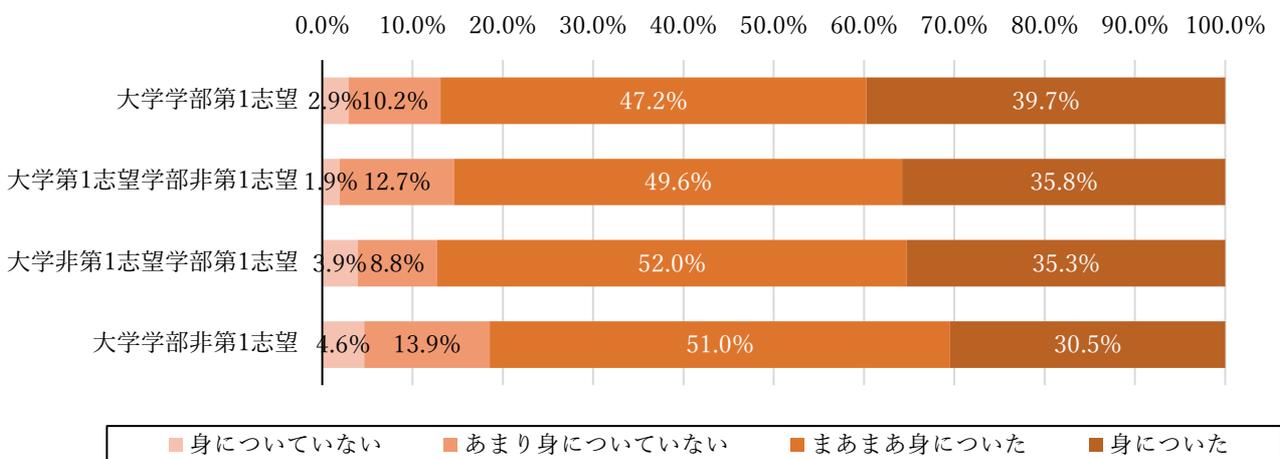


図3-49 学部で身につけたもの_物事を多面的に考えることができる（志望度タイプ別）

・健全に批判することができる

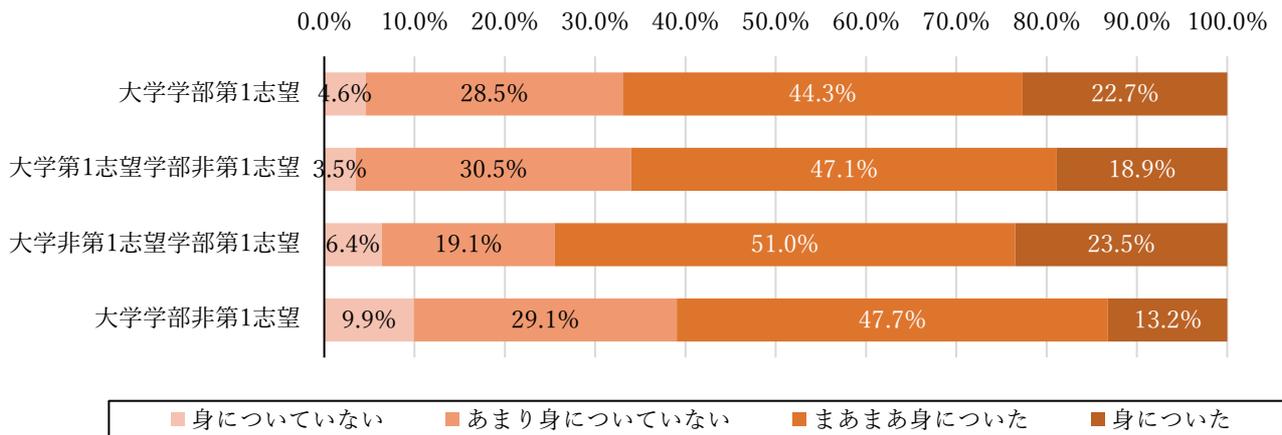


図3-50 学部で身につけたもの__健全に批判することができる（志望度タイプ別）

・多様性を受け入れられる

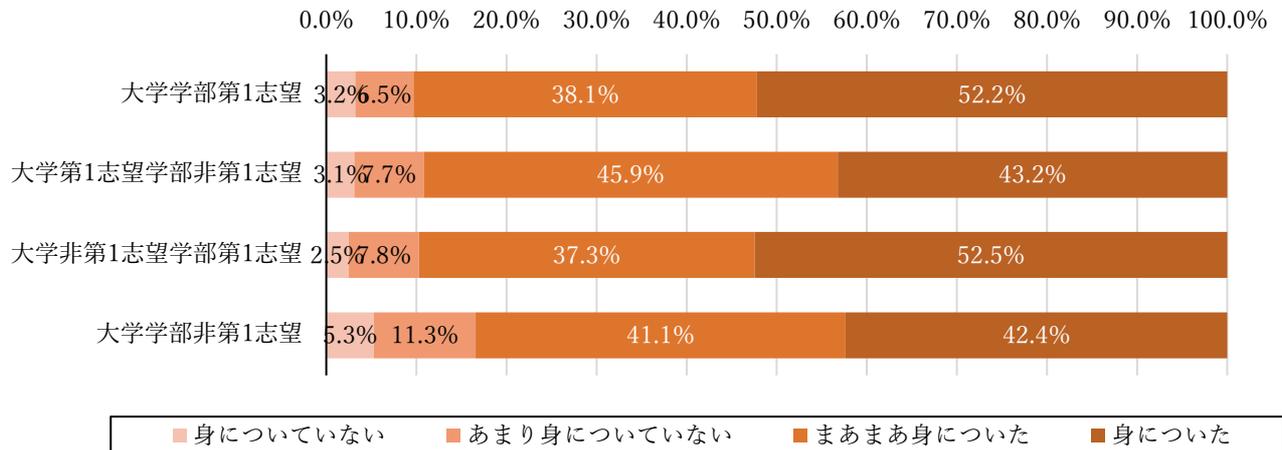


図3-51 学部で身につけたもの__多様性を受け入れられる（志望度タイプ別）

・異文化を理解できる

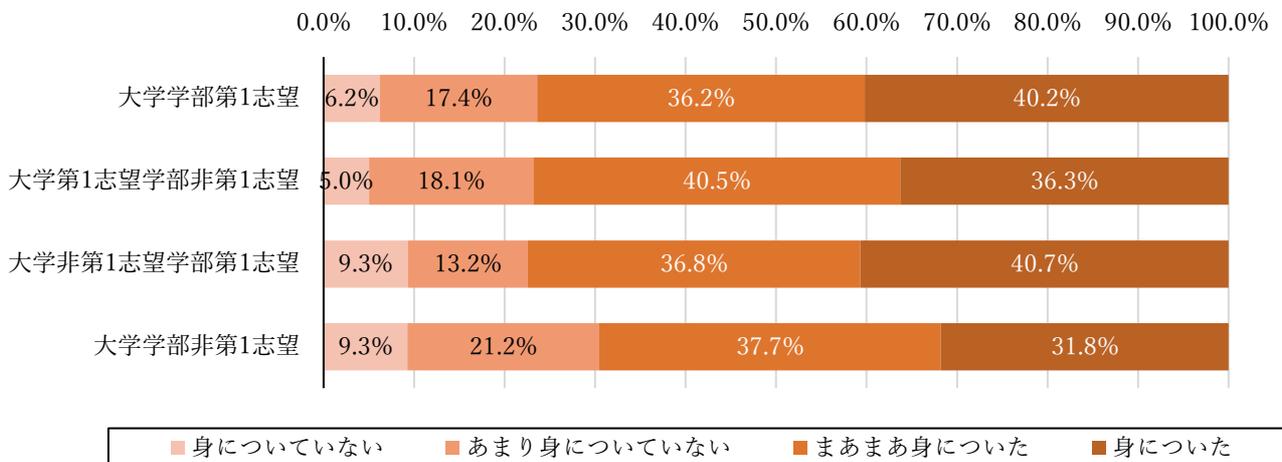


図3-52 学部で身につけたもの__異文化を理解できる（志望度タイプ別）

・外国語を理解し、話せる

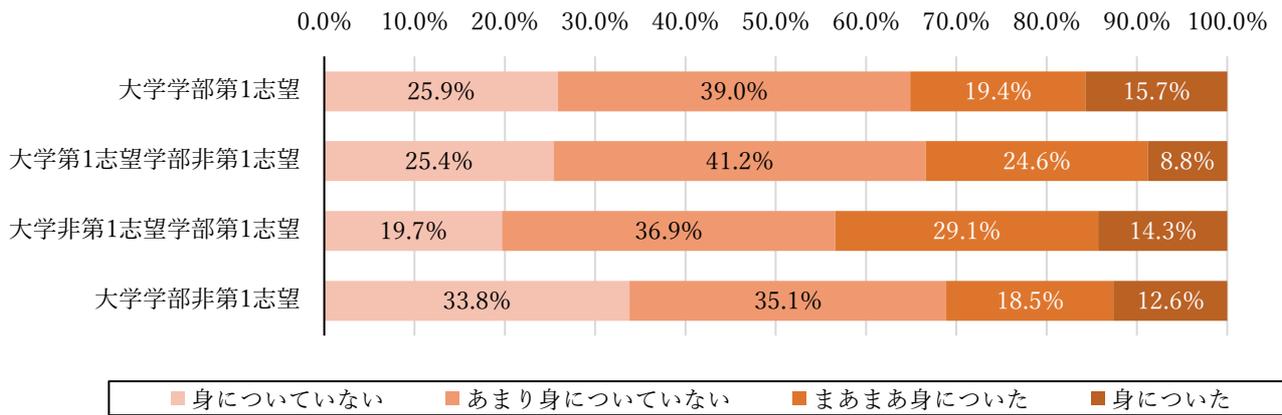


図3-53 学部で身につけたもの_外国語を理解し、話せる(志望度タイプ別)

3-5. アウトプット2

・最終学歴

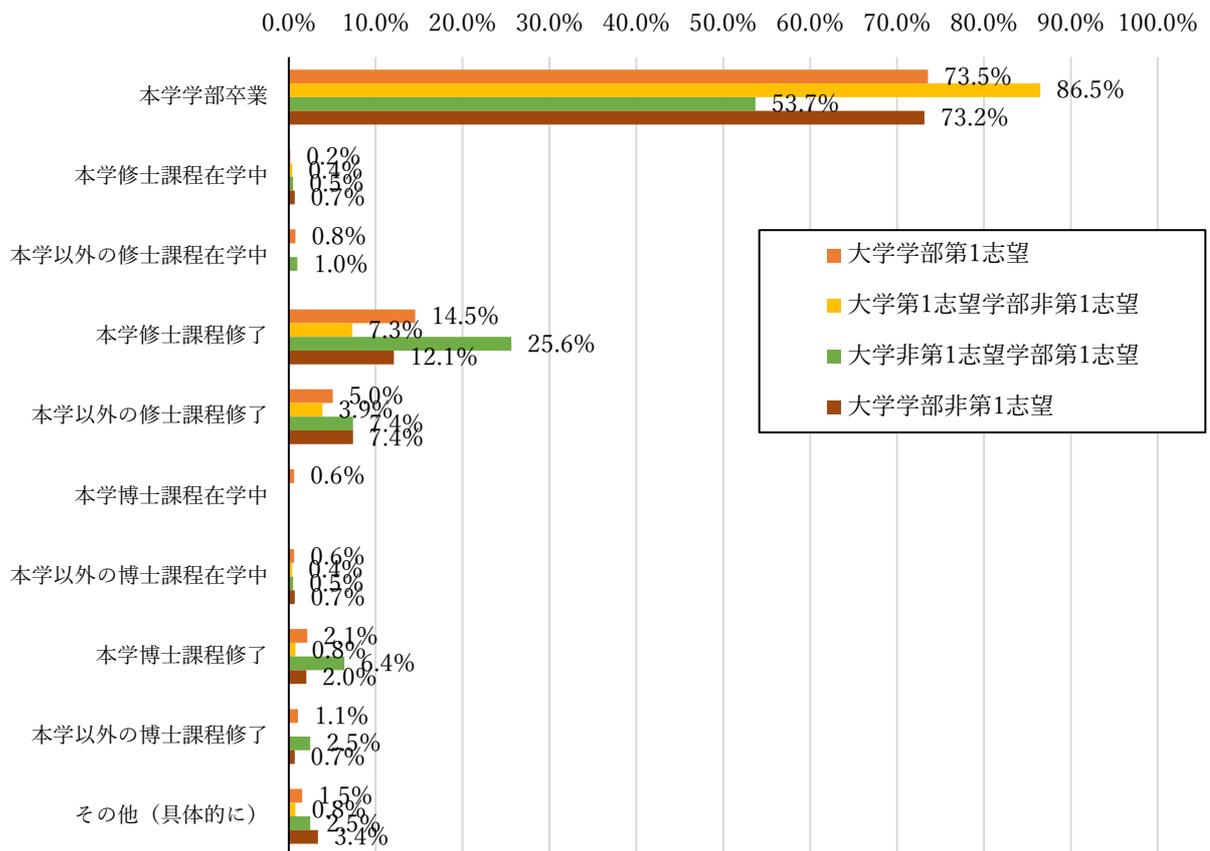


図3-54 最終学歴(志望度タイプ別)

・勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する

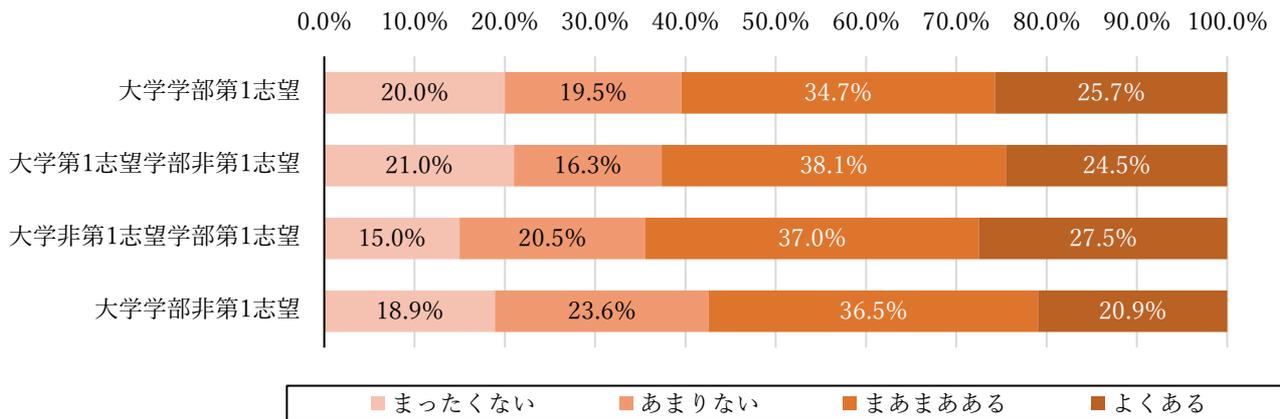


図3-55 現在の仕事上の活動（志望度タイプ別）

・単発の講座、セミナー、勉強会に参加する

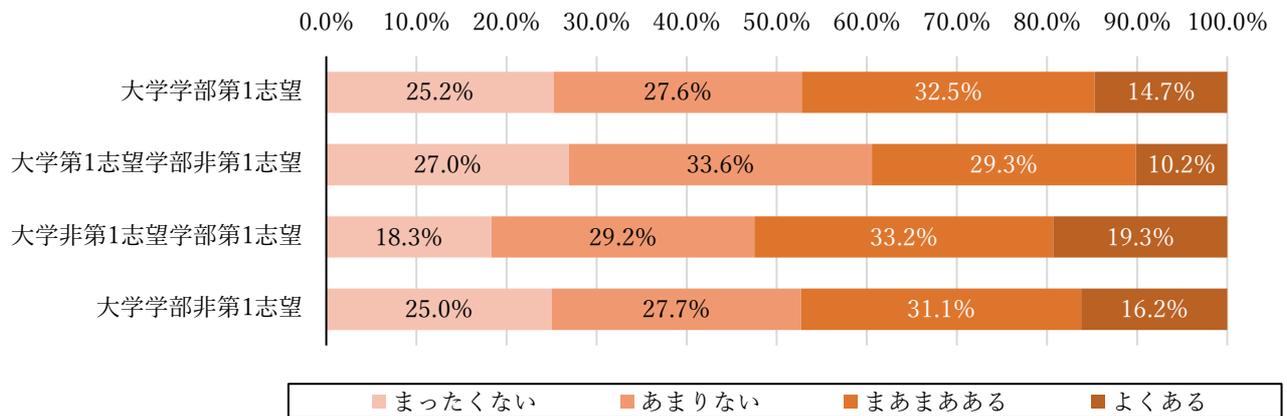


図3-56 現在の生活上の活動_単発の講座、セミナー、勉強会（志望度タイプ別）

・学校に通う

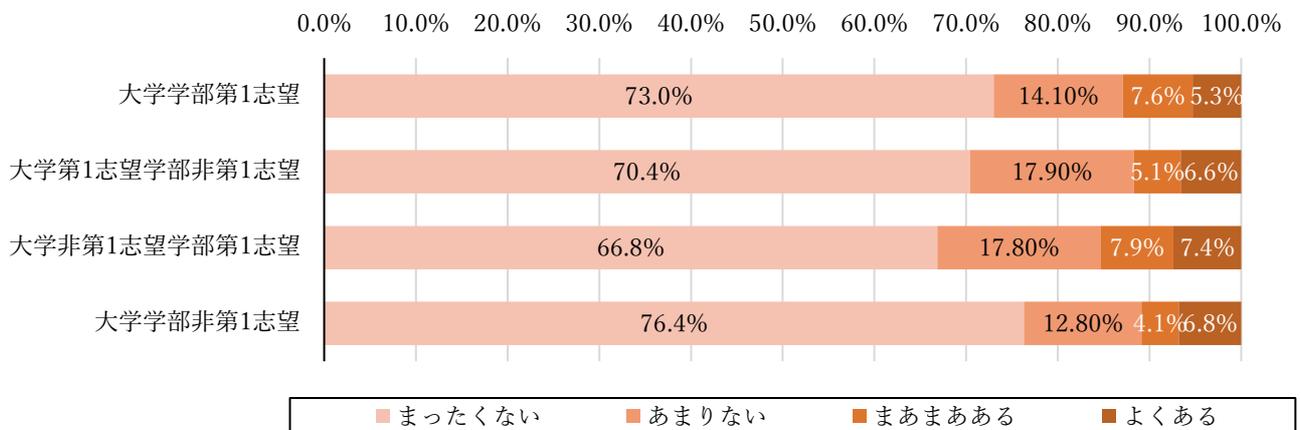


図3-57 現在の生活上の活動_学校に通う（志望度タイプ別）

・本を読む

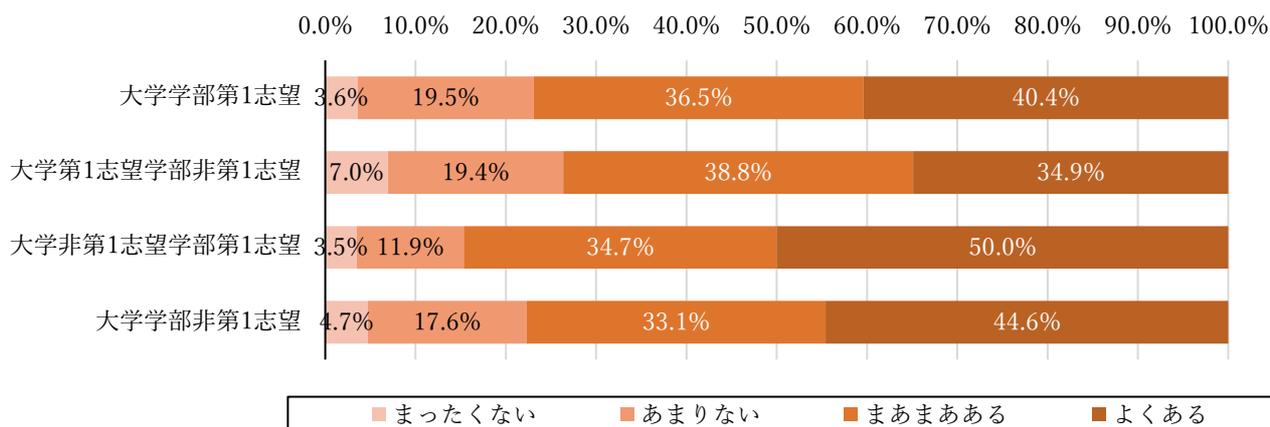


図3-58 現在の生活上の活動_読書(志望度タイプ別)

3-6. 役立ち度

・専門科目

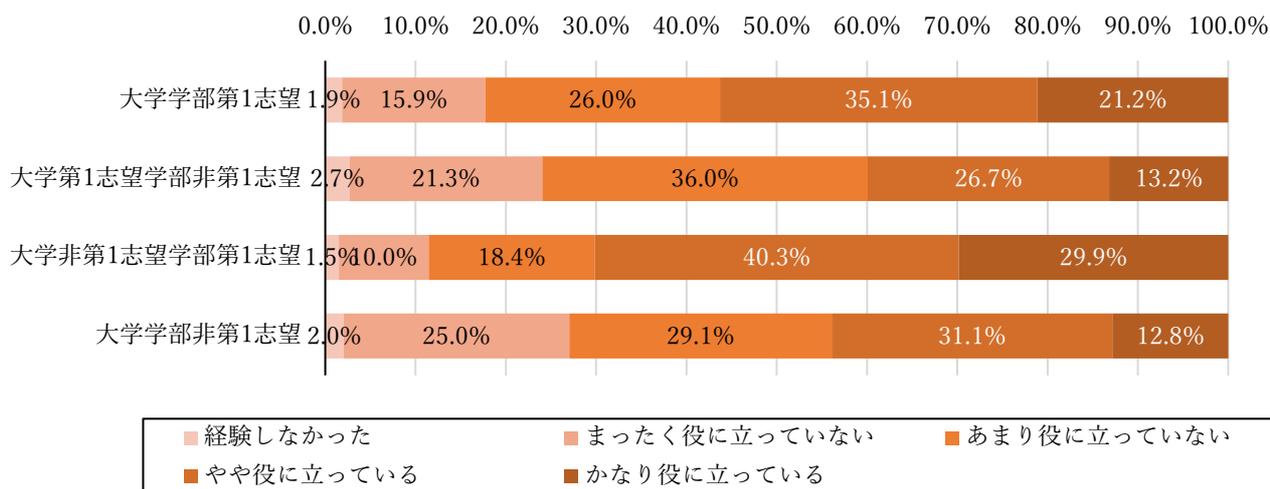


図3-59 教育経験の役立ち度_専門科目(志望度タイプ別)

・一般教育科目

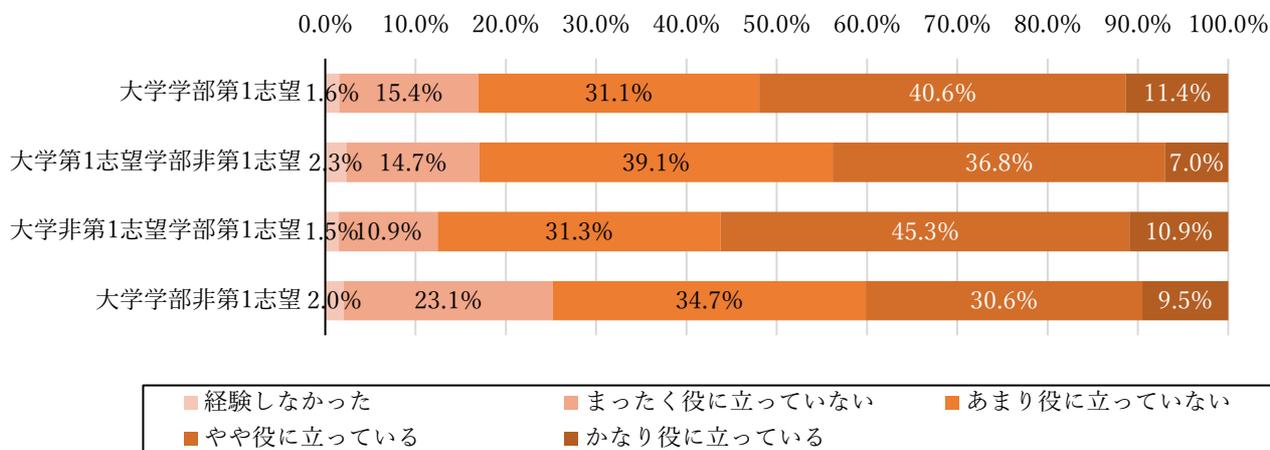


図3-60 教育経験の役立ち度_一般教育科目(志望度タイプ別)

・ゼミ

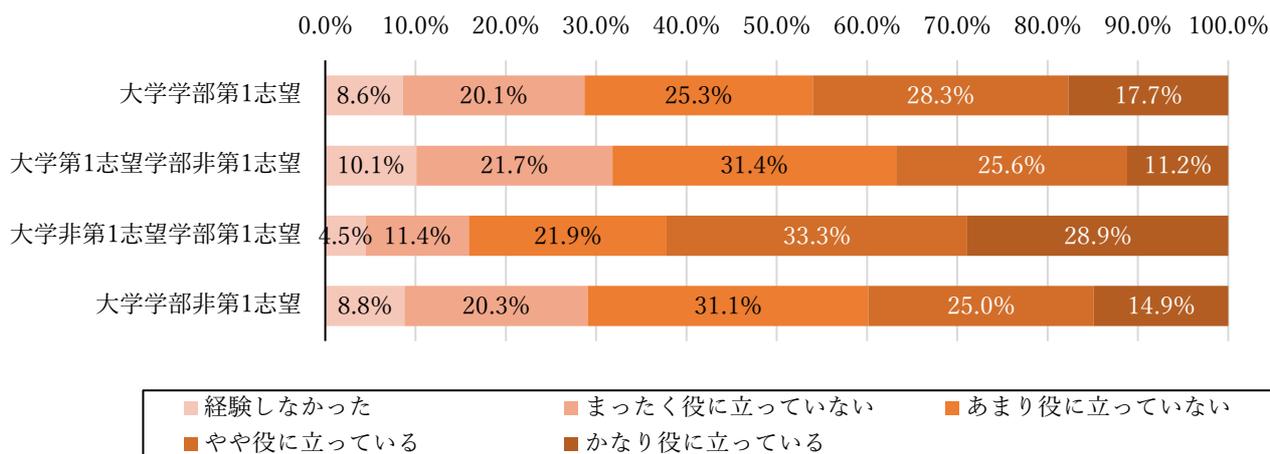


図3-61 教育経験の役立ち度_ゼミ (志望度タイプ別)

・卒業論文作成

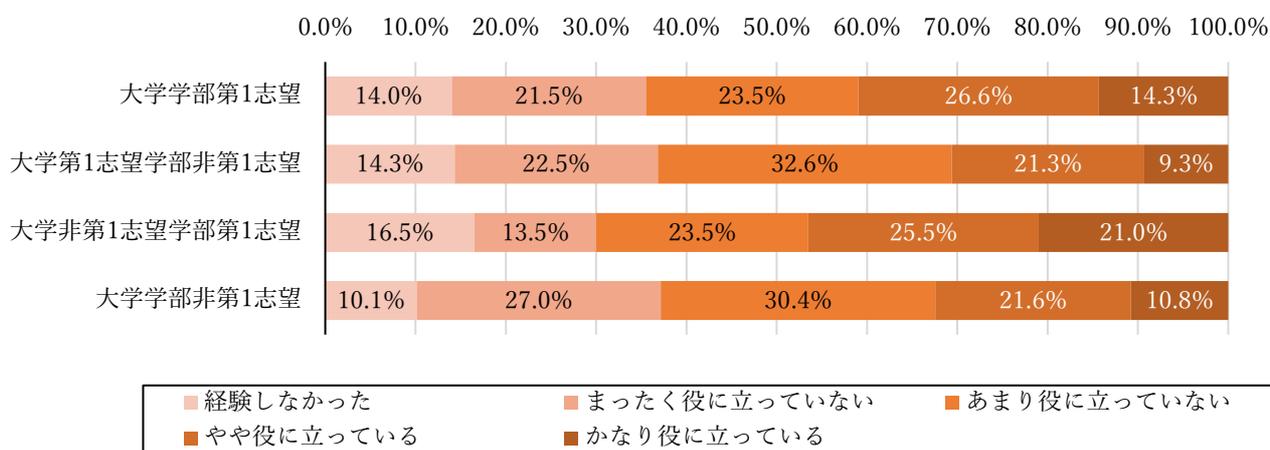


図3-62 教育経験の役立ち度_卒業論文作成 (志望度タイプ別)

・部活動、サークル活動

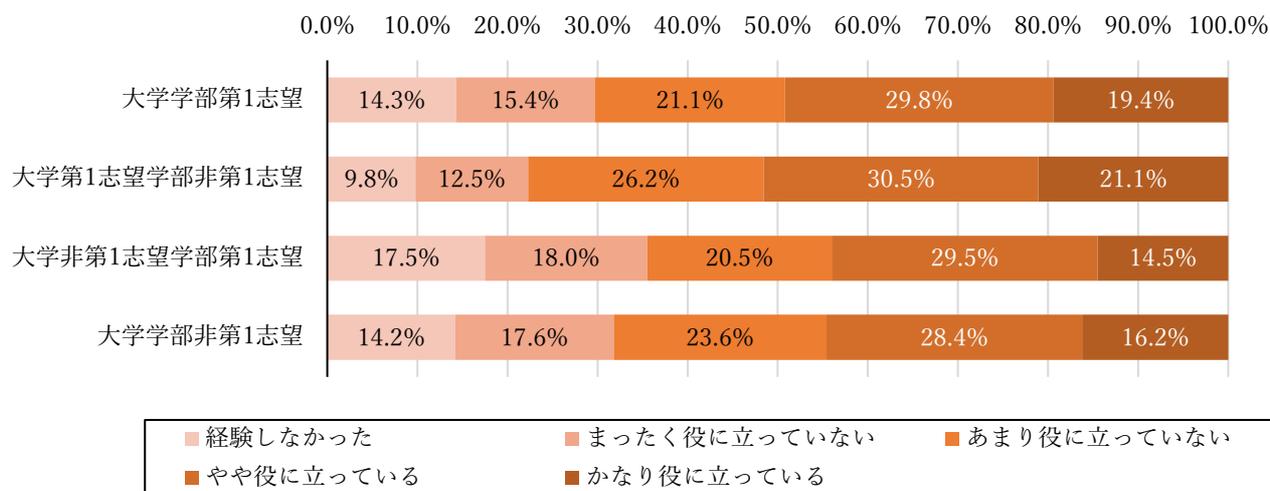


図3-63 大学時の経験の役立ち度_部活動、サークル活動 (志望度タイプ別)

・学内のアルバイト

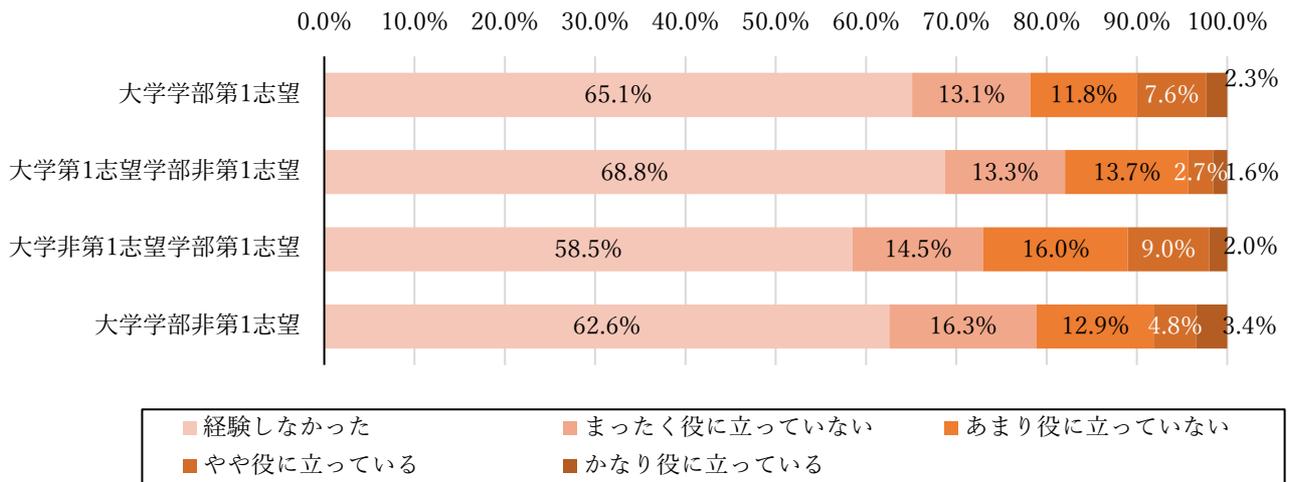


図3-64 大学時の経験の役立ち度__学内のアルバイト (志望度タイプ別)

・学外のアルバイト

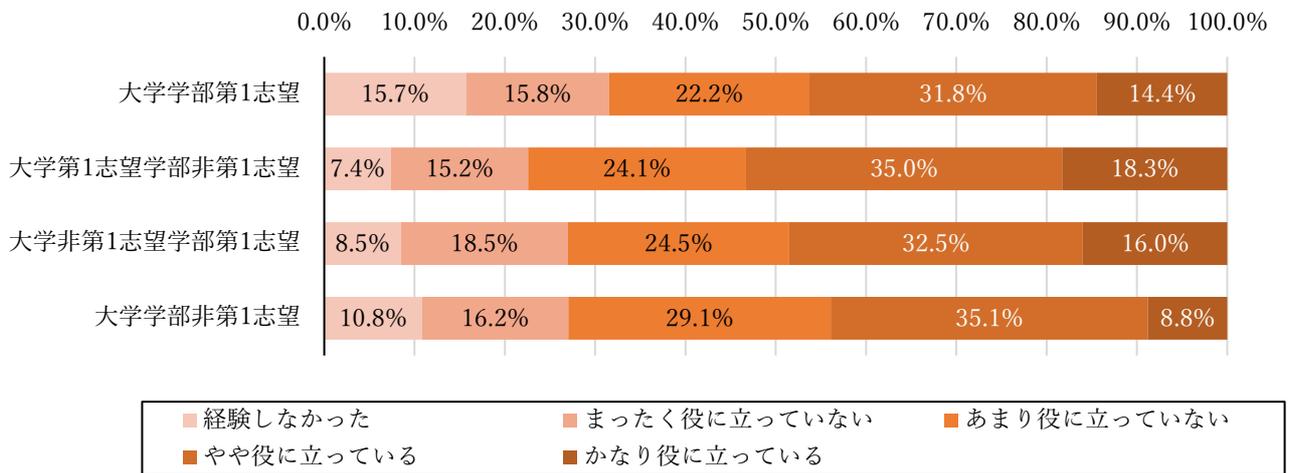


図3-65 大学時の経験の役立ち度__学外のアルバイト (志望度タイプ別)

・留学

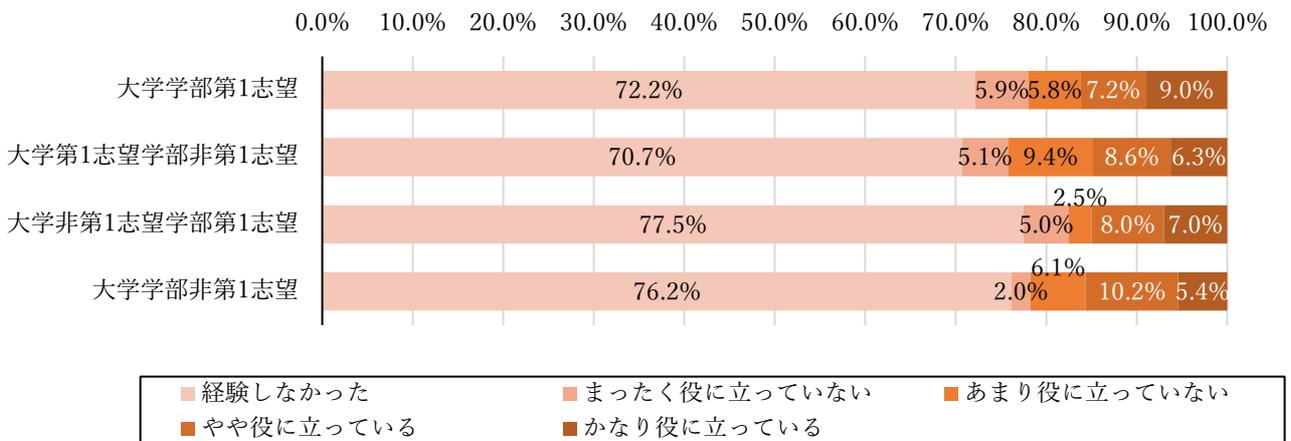


図3-66 大学時の経験の役立ち度__留学 (志望度タイプ別)

・ボランティア

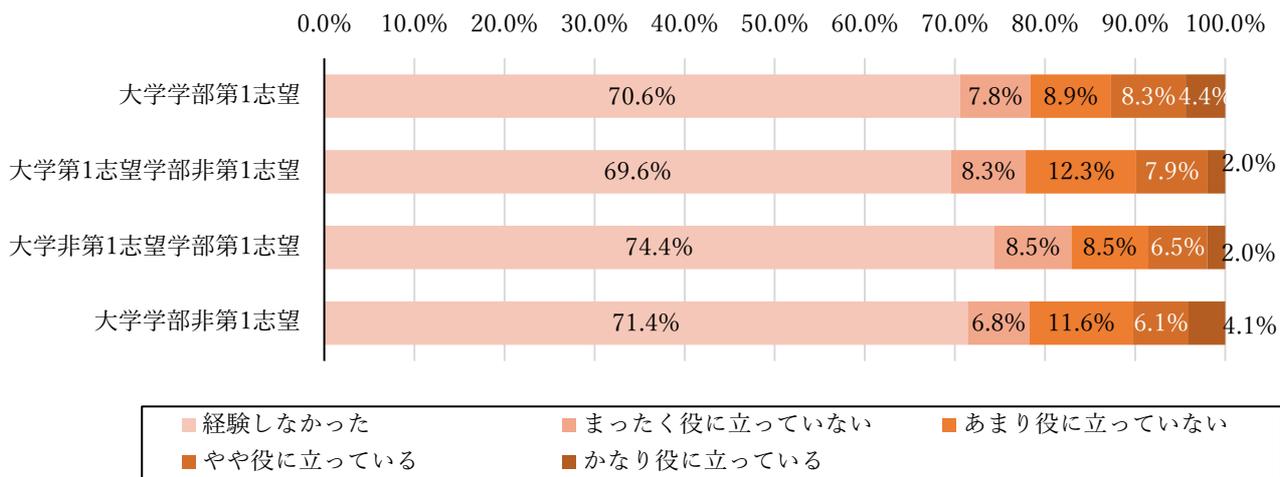


図3-67 大学時の経験の役立ち度__ボランティア (志望度タイプ別)

・インターンシップ

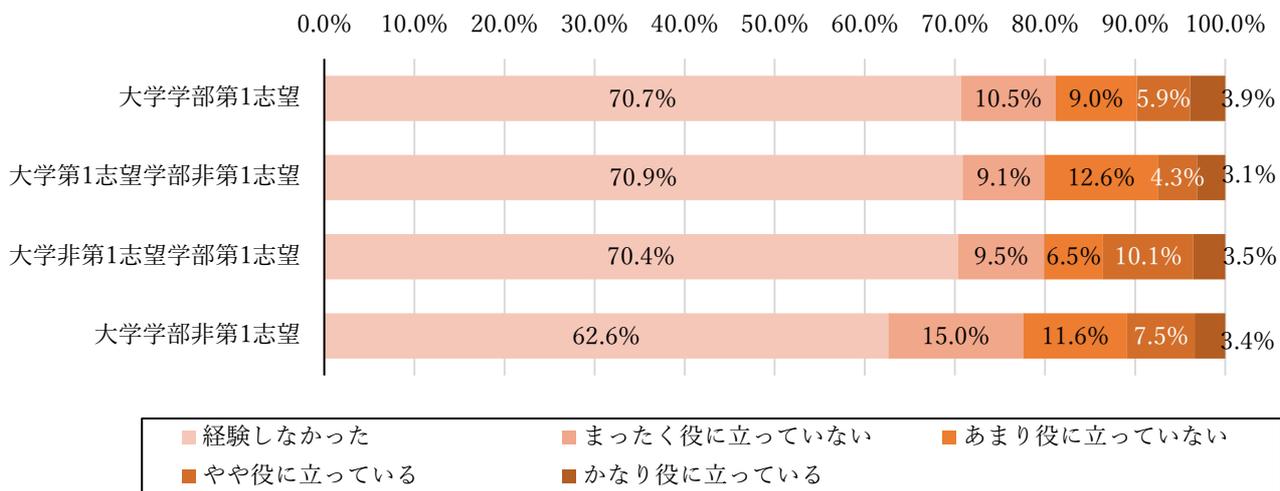


図3-68 大学時の経験の役立ち度__インターンシップ (志望度タイプ別)

・早稲田大学以外での勉強

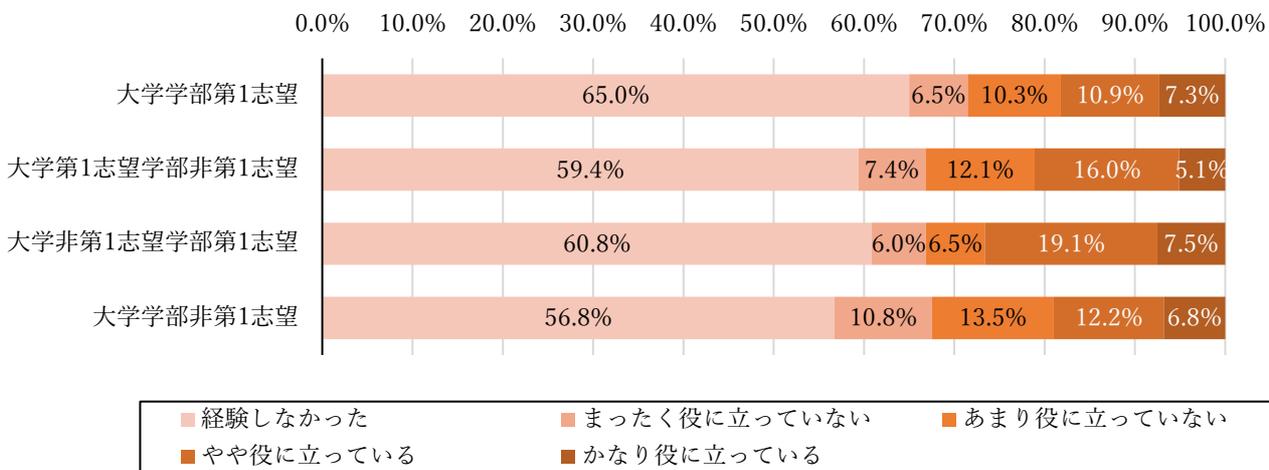


図3-69 大学時の経験の役立ち度__早稲田大学以外での勉強 (志望度タイプ別)

・資格取得や教職、国家試験勉強

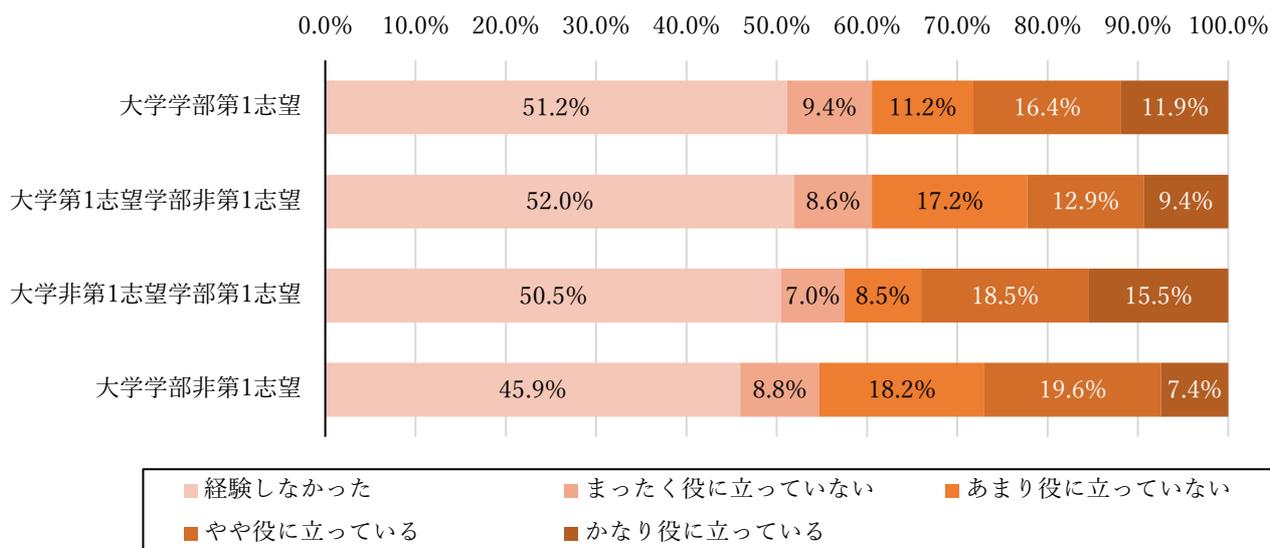


図3-70 大学時の経験の役立ち度_資格取得や教職、国家試験勉強（志望度タイプ別）

3-7. 校友関連

・早稲田大学との関わり

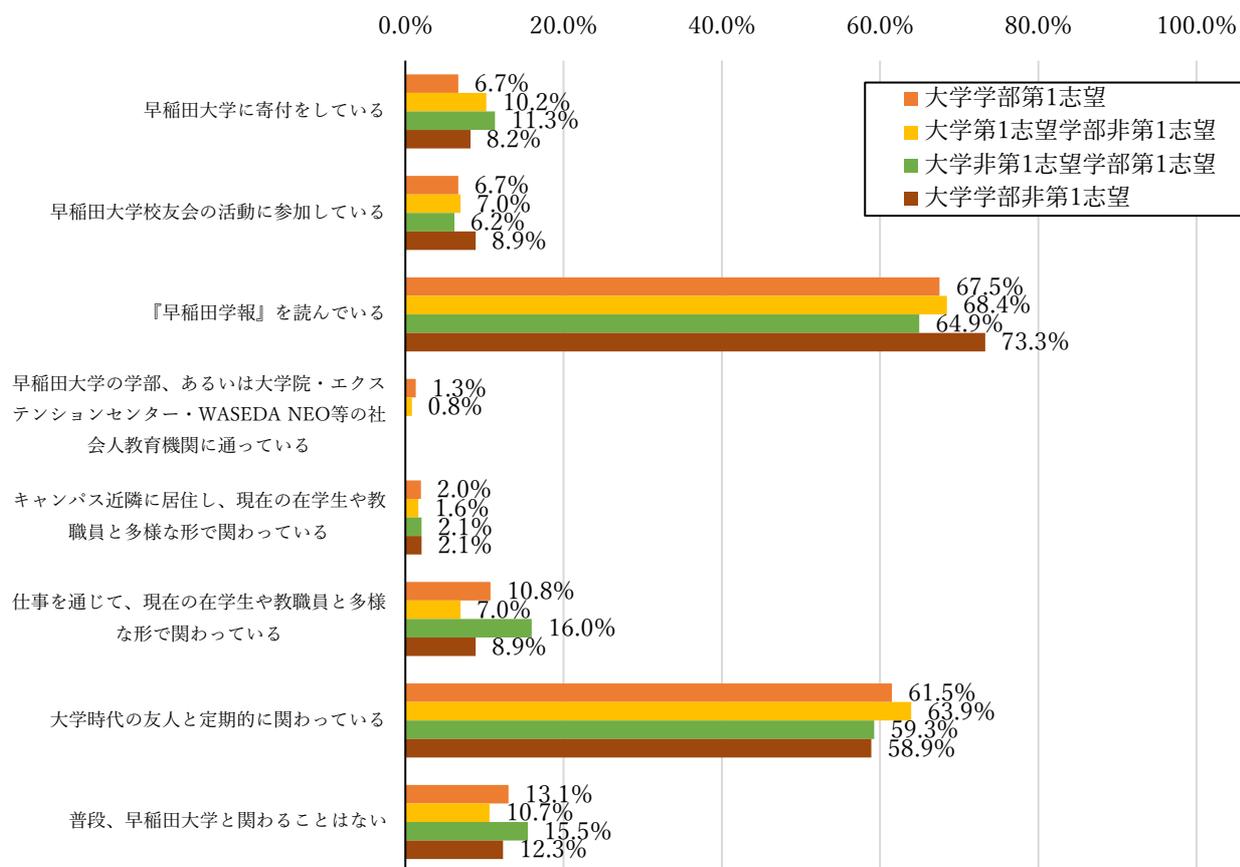


図3-71 校友としての活動（志望度タイプ別）

・早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時

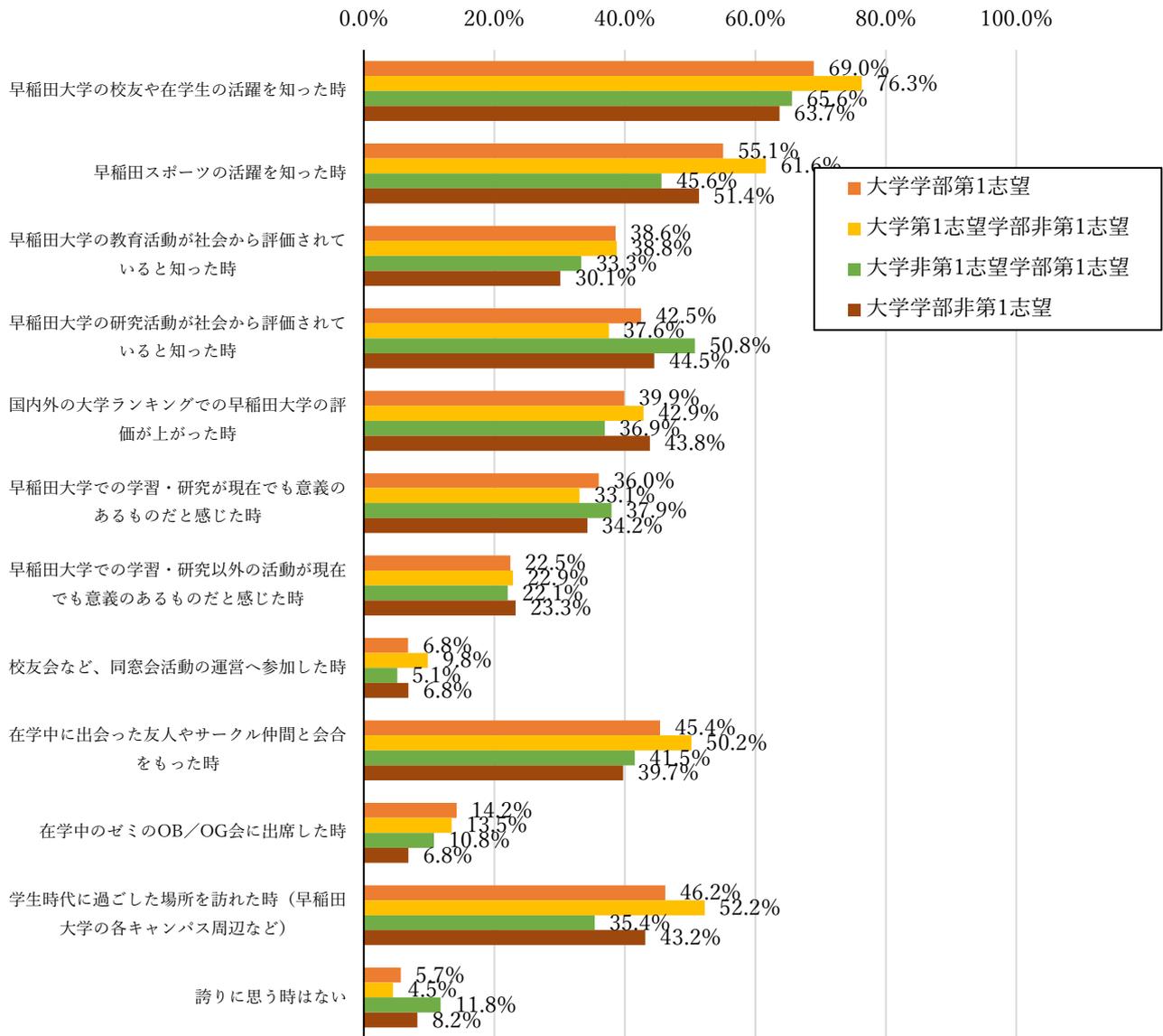


図3-72 校友として誇りを感じる時（志望度タイプ別）

・早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段

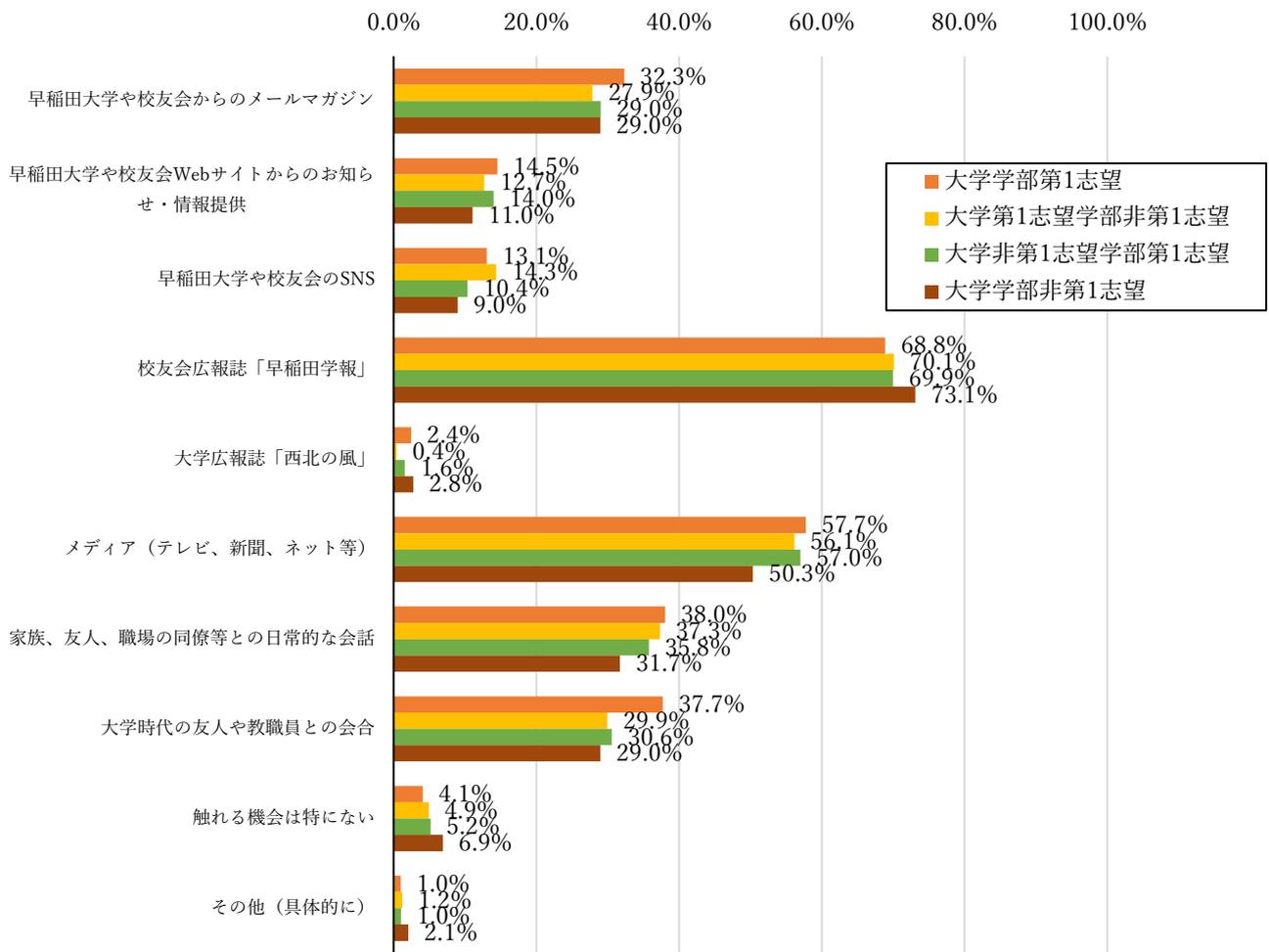


図3-73 校友として早稲田大学に関する情報に触れる機会（志望度タイプ別）

第4章 移動タイプの分析

4-1. タイプの基本情報と概要

第4章では、大学入学前の居住地と卒業後10年を経た現在の居住地2時点のデータをもとに、移動タイプを作成し、それぞれのインプット（4-2）やスループット（4-3）、アウトプット（4-4、4-5）、役立ち度（4-6）、校友関連（4-7）の記述分析の結果を示す。

タイプの作成にあたって使用した質問項目の教示文は、「Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください」と「Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください」を用いた。なお、ここでは国内状況のみを対象とし、高校卒業時あるいは現在の居住地が海外と回答したものは除外した。海外を含めた状況については次年度以降集中的に扱いたい。

上記2つの項目をもとに、首都圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）と非首都圏（一都三県以外）に分けて、4つのタイプを作成した（図4-1）。まず大学入学前の居住地が首都圏であった者に着目すると、現在の居住地も首都圏である「首都圏首都圏」は4つのタイプのなかで最も高く（54.0%）、現在首都圏以外に居住する「首都圏非首都圏」は作成したタイプのなかで最も割合が少なかった（7.8%）。一方、大学入学前の居住地が非首都圏であった者に着目すると、現在の居住地が首都圏である「非首都圏首都圏」は23.5%であり、現在の居住地が非首都圏の者は14.7%であった。以上のタイプ作成にあたっては、あくまで2時点のデータを用いているために、学部卒業10年間の移動歴を考慮していない点には留意されたい。今回収集したデータ全体では現在の居住地が首都圏である者は77.5%であり、この割合の意味づけ、評価については他大学や同世代データとの比較によって行われることが期待される。

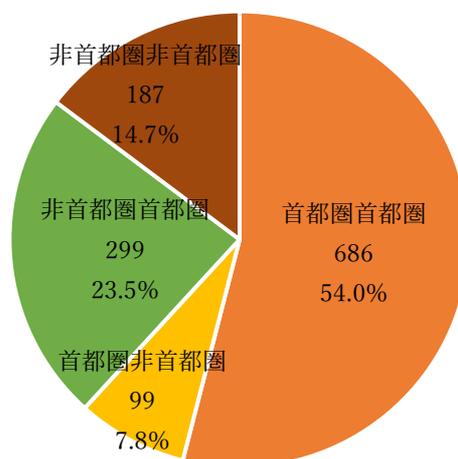


図4-1 移動タイプの分布

また4つのタイプの分布を学部別（匿名）で示したものが図4-2である。学部によってタイプの分布が異なっている。「首都圏首都圏」が多いのはK学部（66.5%）やN学部（63.3%）であった。「首都圏非首都圏」が多いのはB学部（18.6%）やM学部（16.9%）であった。この2学部は理系学部であり、理系のほうが非首都圏に居住する傾向にあるようだ。また「非首都圏首都圏」が多いのはA学部

(33.3%) や F 学部 (29.6%) であり、「非首都圏非首都圏」が多いのは C 学部 (27.3%) や I 学部 (26.0%)、F 学部 (25.9%) であった。

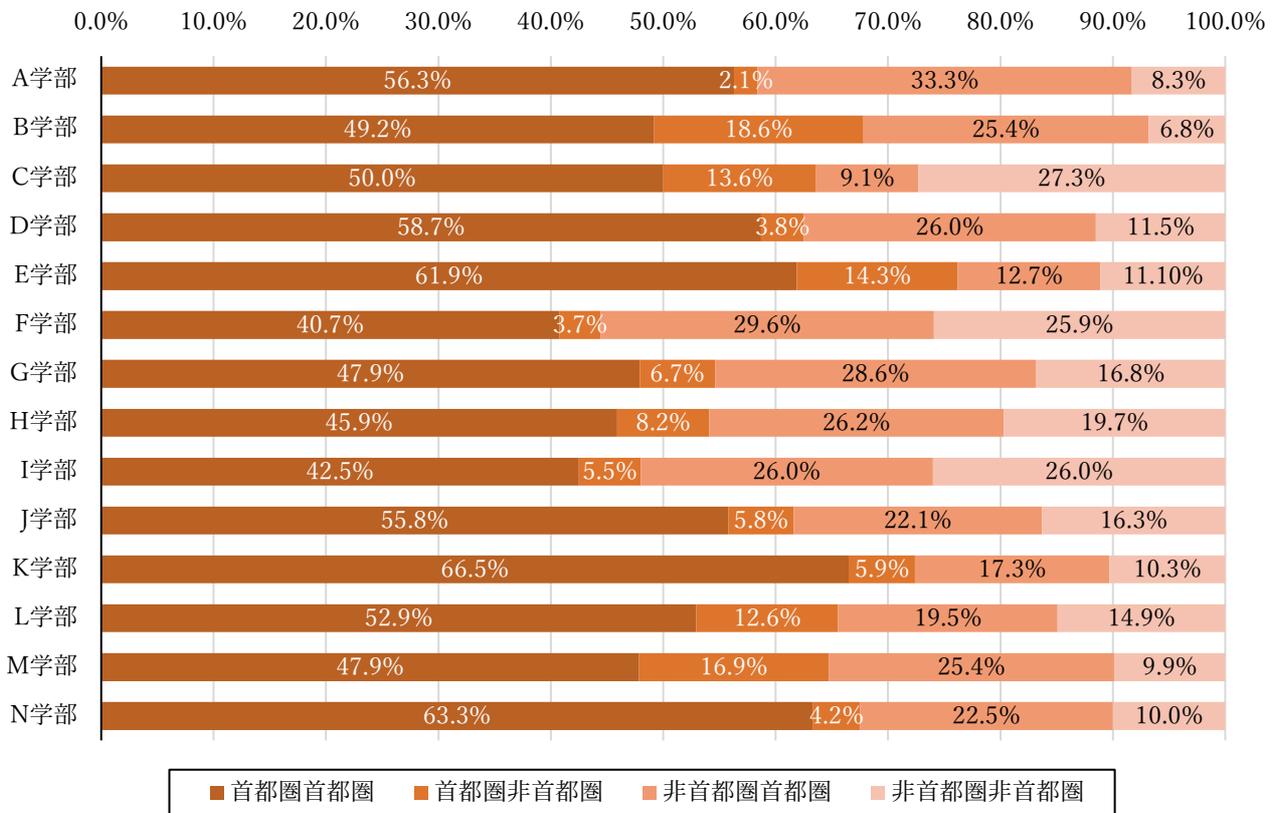


図 4 - 2 移動タイプの分布 (学部別)

また入試区分ごとに移動タイプを示すと (図 4 - 3)、顕著な違いを確認できる。たとえば、附属・系属校からの推薦は、首都圏首都圏の割合が 80.7% と高く、指定校推薦ではその割合は 32.7% である。指定校推薦では入学前の居住地が非首都圏の割合が 62.5% と他の入試区分と比べて高く、そのうち現在も非首都圏に居住している者は 25.5% であった。

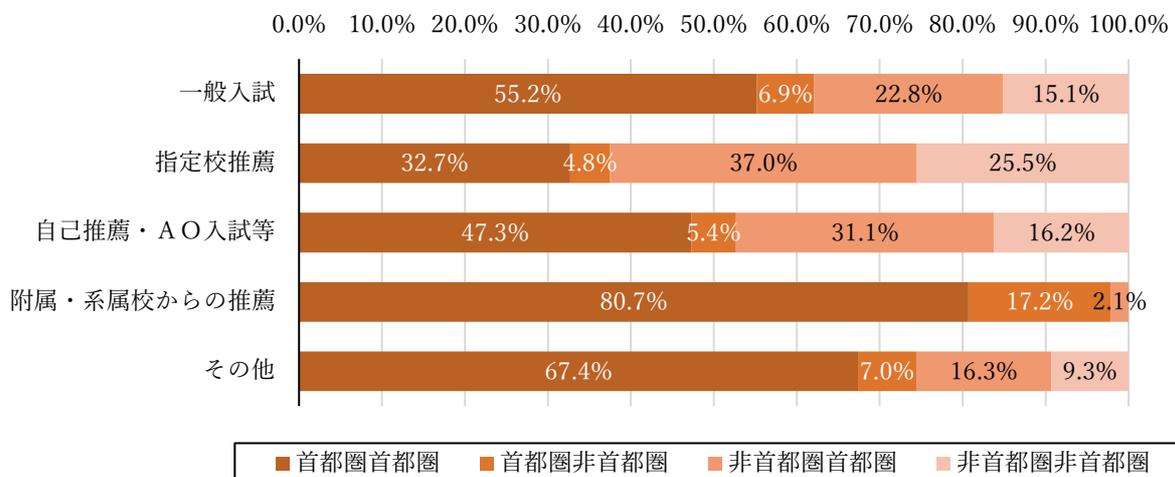


図 4 - 3 移動タイプの分布 (入試区分別)

なお入学種類別で見ると（図4-4）、「その他」は入学前の居住地が非首都圏である割合が52.5%と現役、浪人と比較して高く、30.0%は現在非首都圏に居住している。

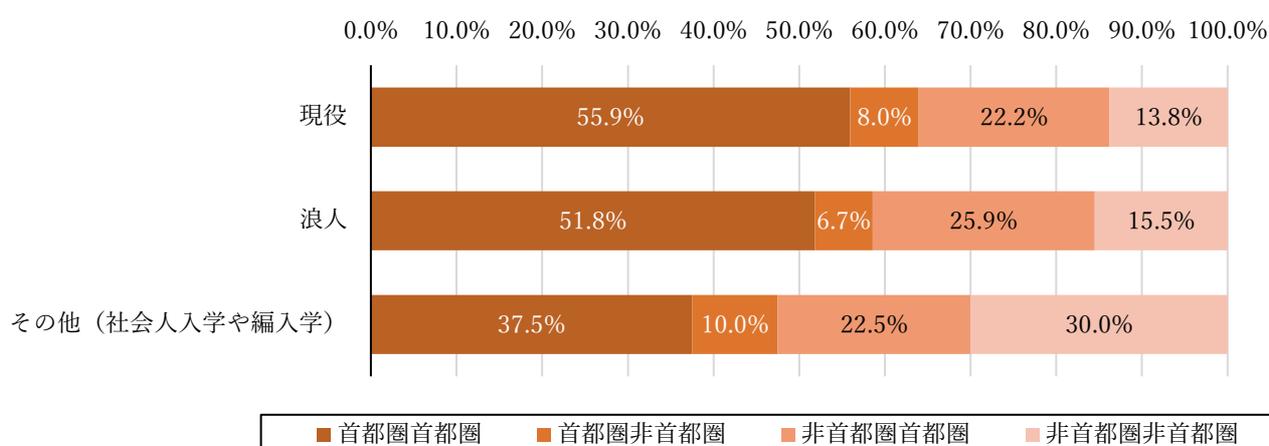


図4-4 移動タイプの分布（入学種類別）

以下ではインプット（4-2）やスループット（4-3）、アウトプット（4-4、4-5）、役立ち度（4-6）、校友関連（4-7）についてタイプ別の分析を行う。表4-1では、項目ごとの分析において、肯定的な回答がより高くなるよう得点化し、各タイプで比較し有意に高い分析結果のみを要約として示した。第3章の志望度タイプの分析結果要約（表3-1、p.34）と比較すると、各項目の違いはそれほど見られない。

表4-1 移動タイプ別の分析結果要約

	a.首都圏首都圏	b.首都圏非首都圏	c.非首都圏首都圏	d.非首都圏非首都圏
インプット				
1 大学第1志望			+(a)	
2 希望職業分野の勉強				+(a,c)
3 指導してほしい教員				+(a,c)
4 中3時の学力			+(a)	
5 高3時の学力			+(a)	
6 高校卒業までに留学、海外居住	+(d)			
スループット				
7 学外アルバイト	+(d)	+(d)		
アウトプット2				
8 最終学歴		+(a)		
役立ち度				
9 学内のアルバイト		+(a)		
校友関連				
10 校友会活動に参加		+(a,c)		
11 近隣に居住し大学と関わる			+(a,d)	
12 日常会話で早稲田に触れる			+(d)	

まず特徴として指摘できるのは、インプット（1～6）である。「c. 非首都圏首都圏」は「a. 首都圏首都圏」と比較して大学第一志望の割合が高く、中等教育の相対的な学力も高い。一方、「d. 非首都圏非首都圏」は「a. 首都圏首都圏」や「c. 非首都圏首都圏」と比較して「2. 希望職業分野の勉強」や「3. 指導してほしい教員」が高い。

また、スループットでは大きな違いは見られなかった。唯一「7. 学外アルバイト」において「a. 首都圏首都圏」や「b. 首都圏非首都圏」は「d. 非首都圏非首都圏」よりも高い結果となった。なお質問項目はアルバイト従事時間ではなく、主観的な熱心度である点にも注意されたい。

アウトプットや役立ち度についてタイプごとに異なる項目はそれほどなかったものの、「b. 首都圏非首都圏」は「8. 最終学歴」や「9. 学内のアルバイト」において「a. 首都圏首都圏」よりも高い。

最後に校友関連（10-12）においては、「b. 首都圏非首都圏」が「a. 首都圏首都圏」や「c. 非首都圏首都圏」よりも「10. 校友会活動に参加」しており、校友活動の広がりを確認できる。また「c. 非首都圏首都圏」は、「a. 首都圏首都圏」や「d. 非首都圏非首都圏」と比較して「11. 近隣に居住し大学と関わる」、「12. 日常会話で早稲田に触れる」回答が高い。

総じて、卒業生の居住地とその後の移動経験をもとに作成した移動タイプの分析においては、入学時や校友関連の活動で違いは見られるものの、在学時の教育、学生生活ではそれほど違いが見られない結果となった。

4-2. インプット

- ・勉強したい分野がその学部にあったから

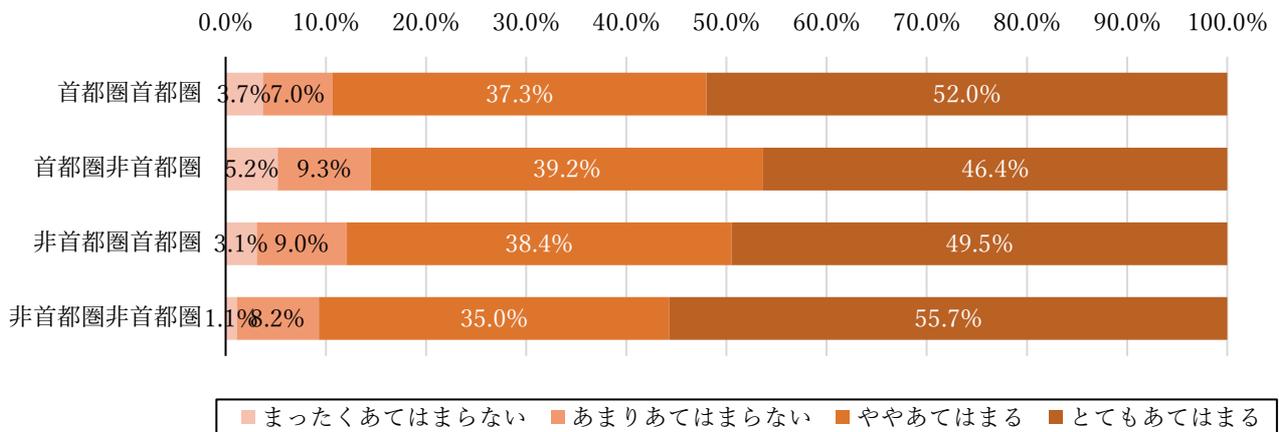


図4-5 受験理由_勉強したい分野がその学部にあったから (移動タイプ別)

- ・就職に有利であると思ったから

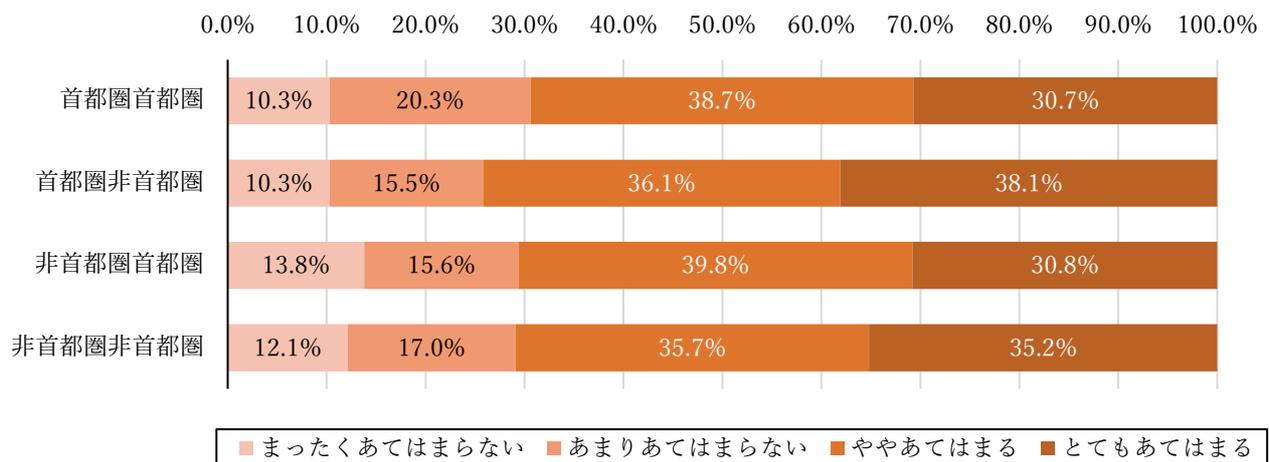


図4-6 受験理由_就職に有利であると思ったから (移動タイプ別)

- ・将来の希望する職業分野を勉強できるから

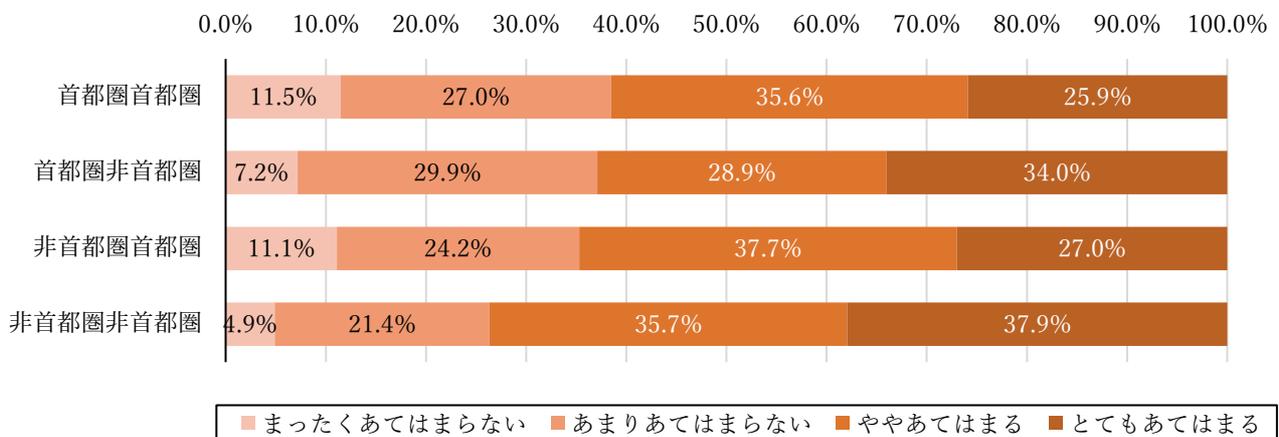


図4-7 受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから (移動タイプ別)

・資格の取得が有利であるから

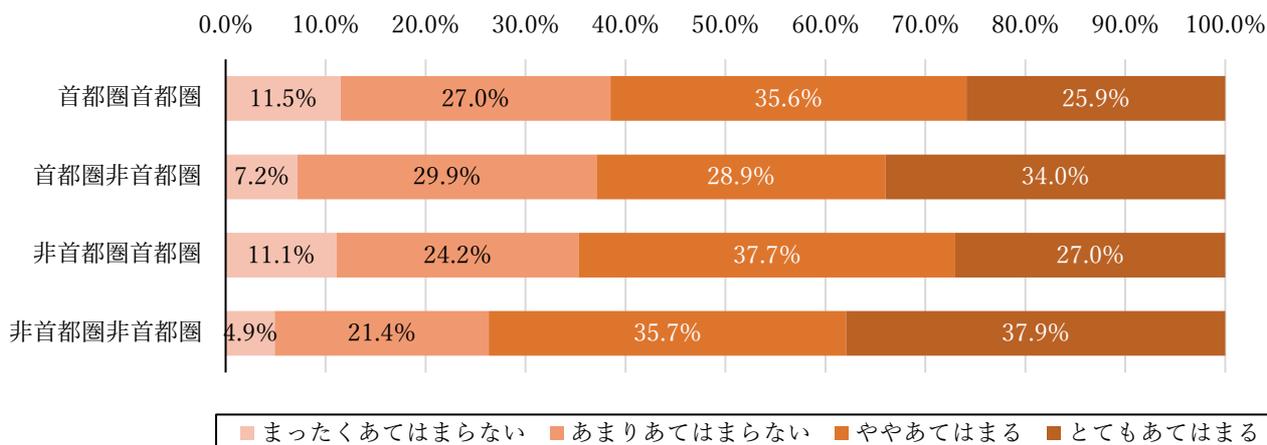


図 4-8 受験理由_資格の取得が有利であるから (移動タイプ別)

・指導してほしい教員がその学部にいるから

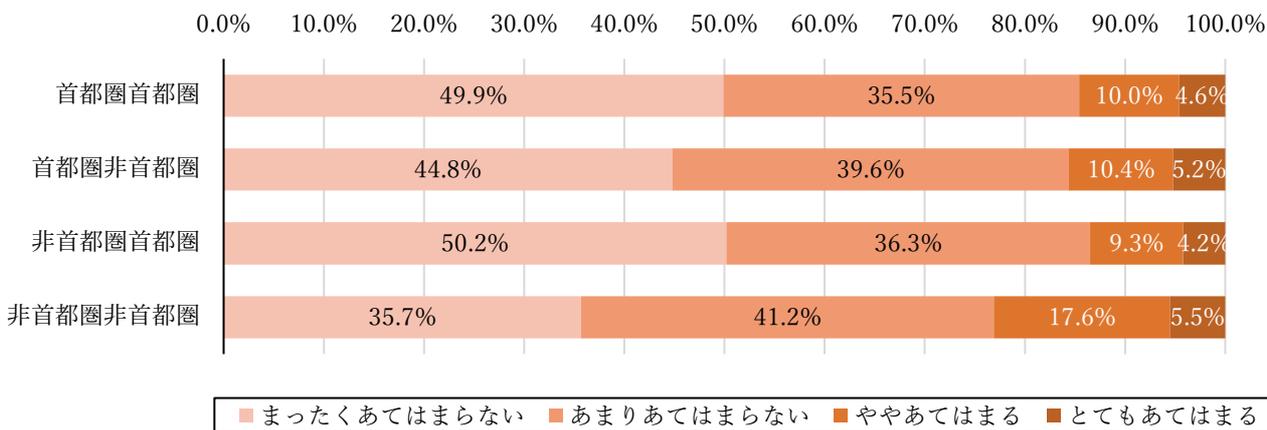


図 4-9 受験理由_指導してほしい教員がその学部にいるから (移動タイプ別)

・学力(偏差値など)が適当であったから

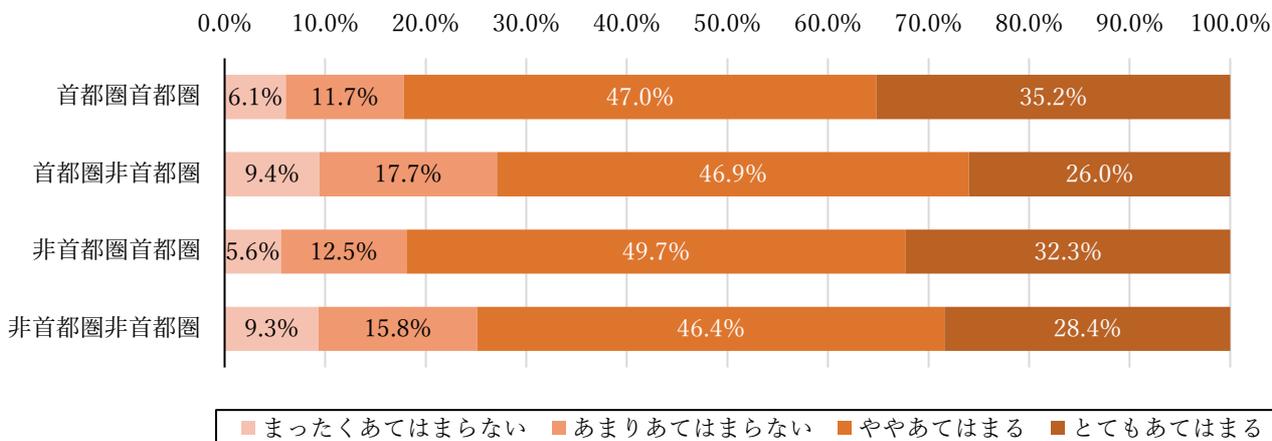


図 4-10 受験理由_学力(偏差値など)が適当であったから (移動タイプ別)

・進路選択の幅が広い学部を選択した

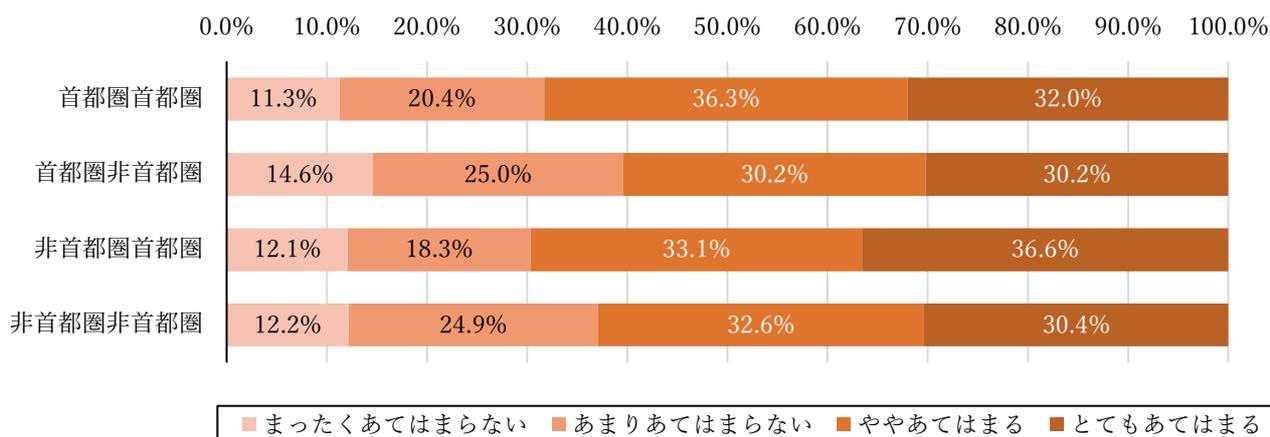


図 4-11 受験理由__進路選択の幅が広い学部を選択した (移動タイプ別)

・高校の先生や家族または塾などで勧められたから

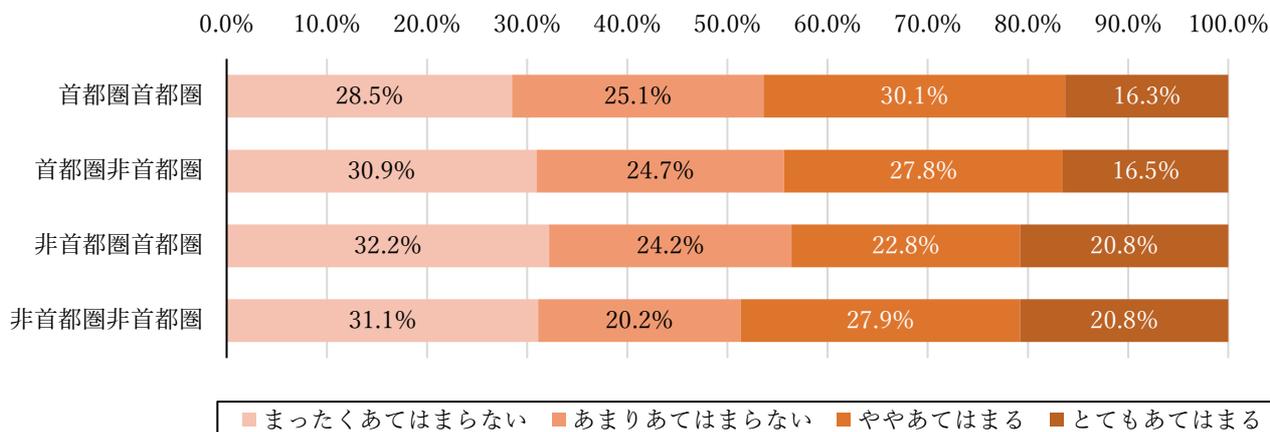


図 4-12 受験理由__高校の先生や家族または塾などで勧められたから (移動タイプ別)

・伝統・校風が好きだから

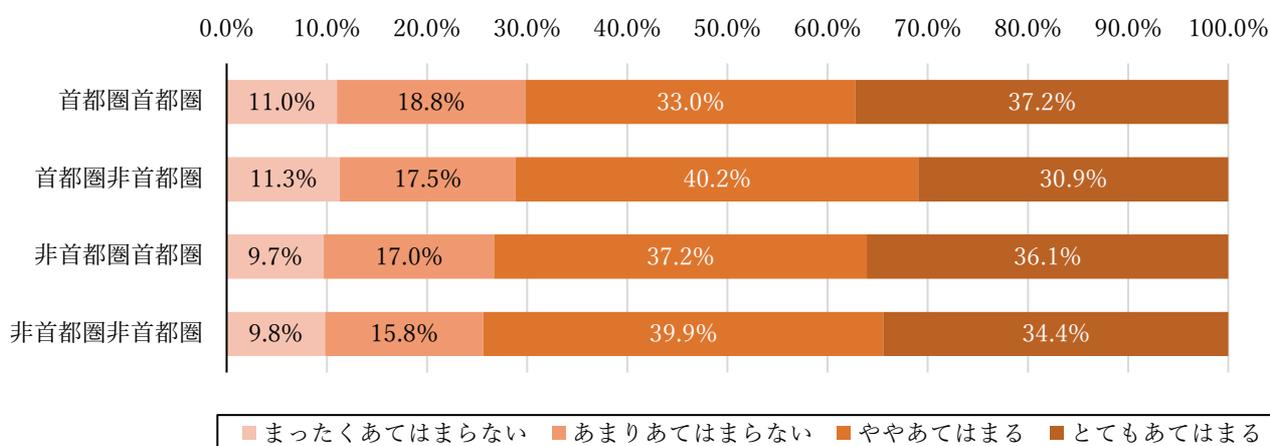


図 4-13 受験理由__伝統・校風が好きだから (移動タイプ別)

・国際化が進んでいるから

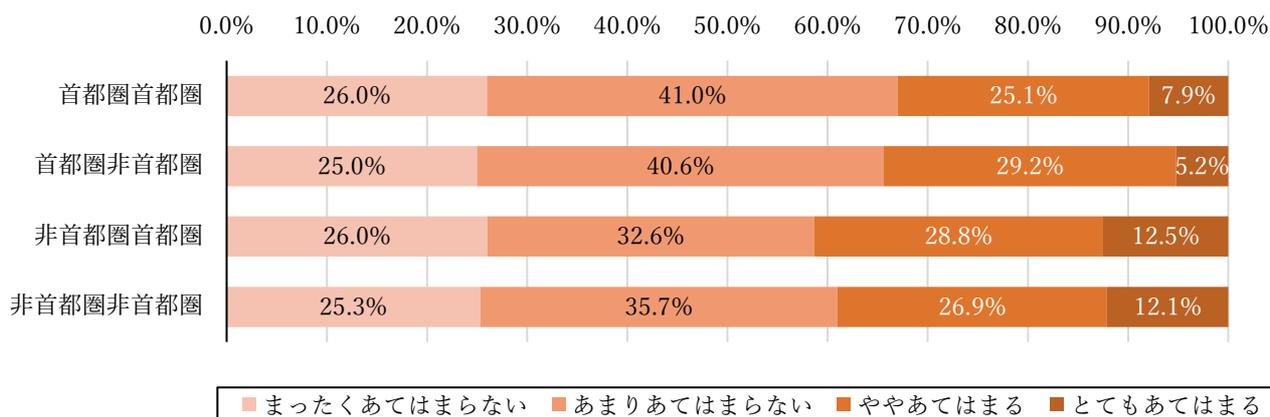


図 4-14 受験理由_国際化が進んでいるから (移動タイプ別)

・中学3年の時の成績

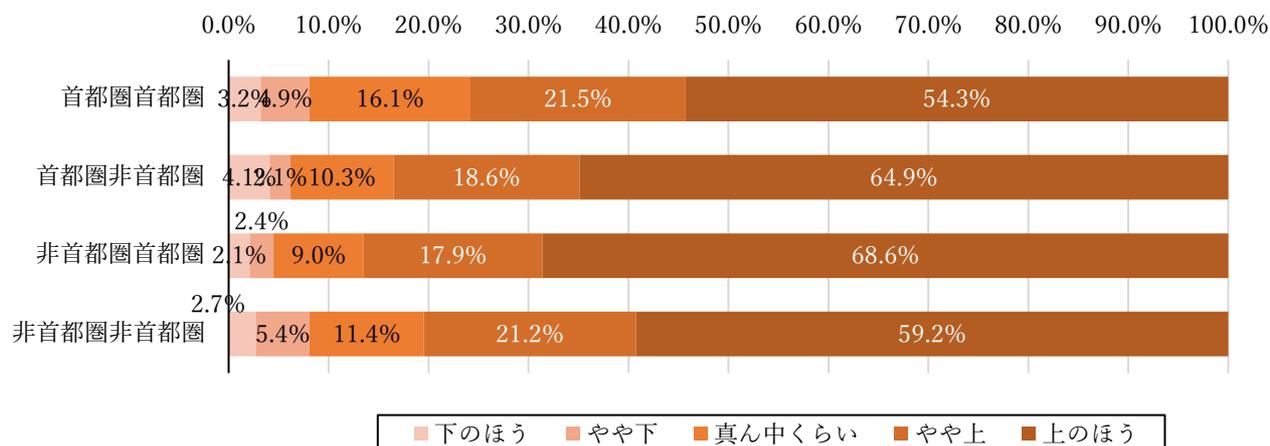


図 4-15 中学3年の時の成績 (移動タイプ別)

・高校3年の時の成績

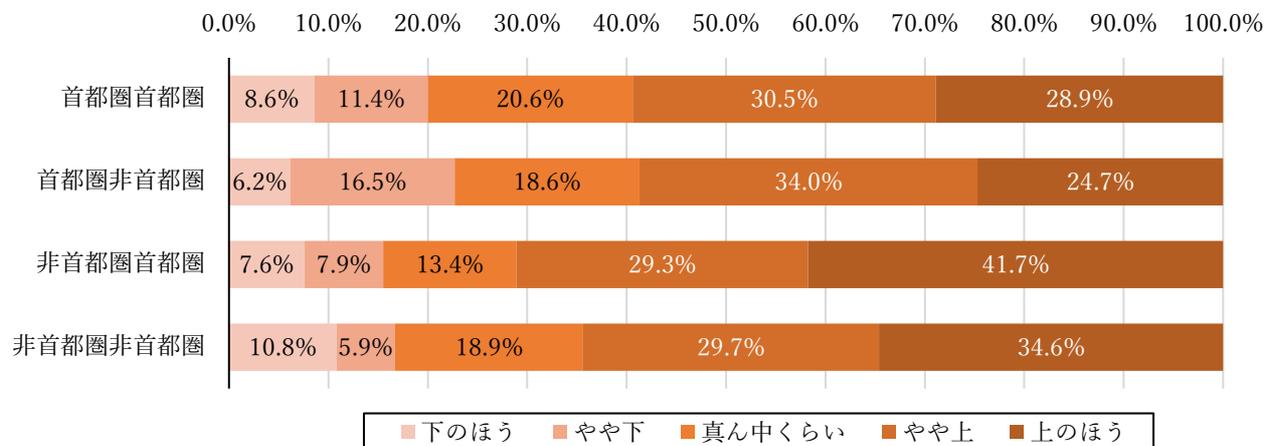


図 4-16 高校3年の時の成績 (移動タイプ別)

- ・少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

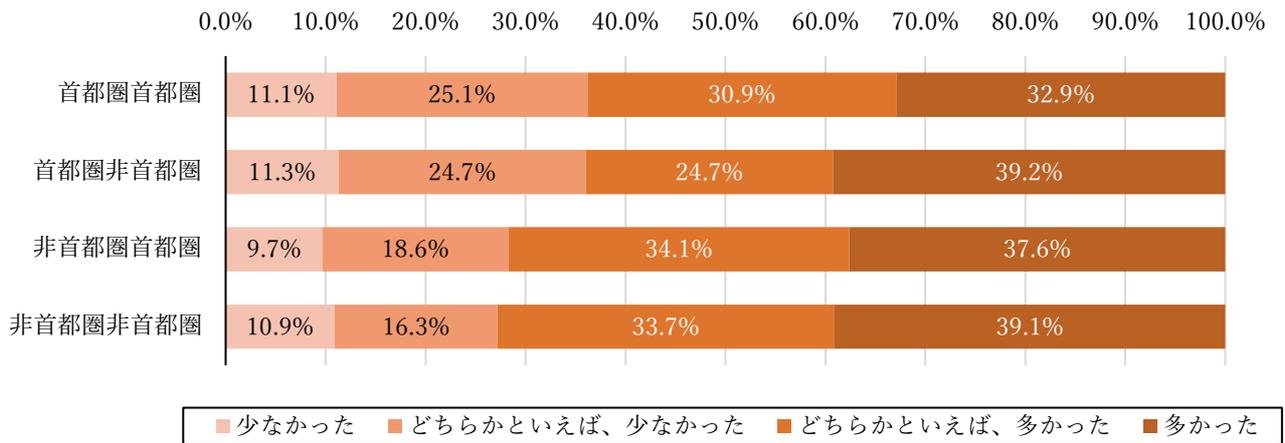


図4-17 中学時の経験（1）勤勉性（移動タイプ別）

- ・学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

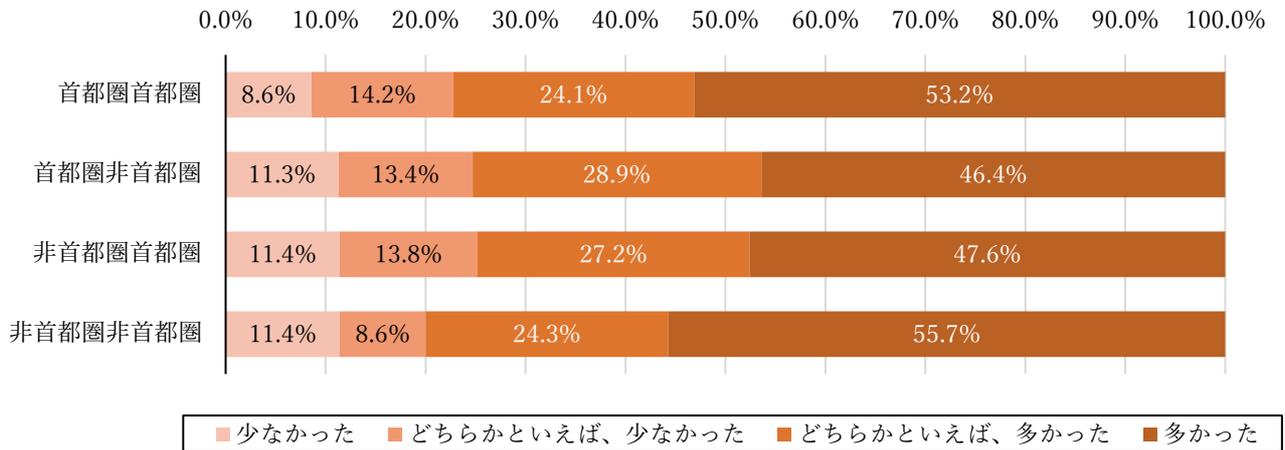


図4-18 中学時の経験（2）まじめさ（移動タイプ別）

- ・なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

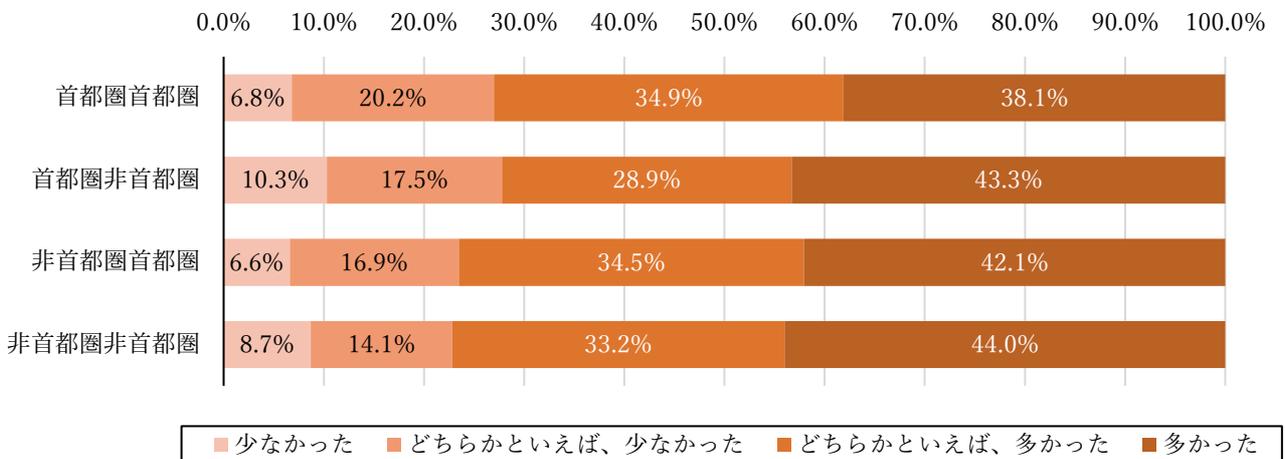


図4-19 中学時の経験（3）忍耐力（移動タイプ別）

4-3. スループット

・専門科目

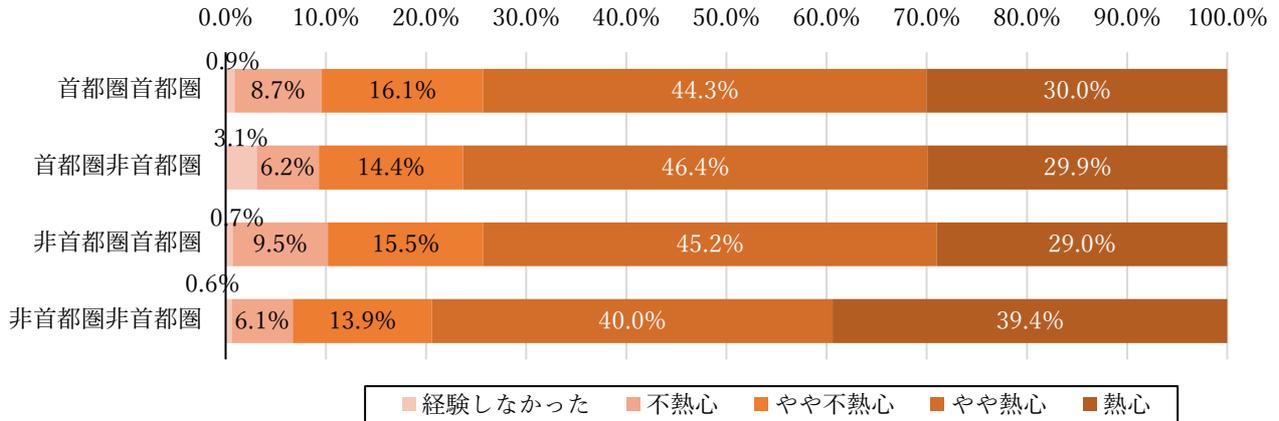


図4-20 在学時の活動の熱心さ__専門科目（移動タイプ別）

・一般科目

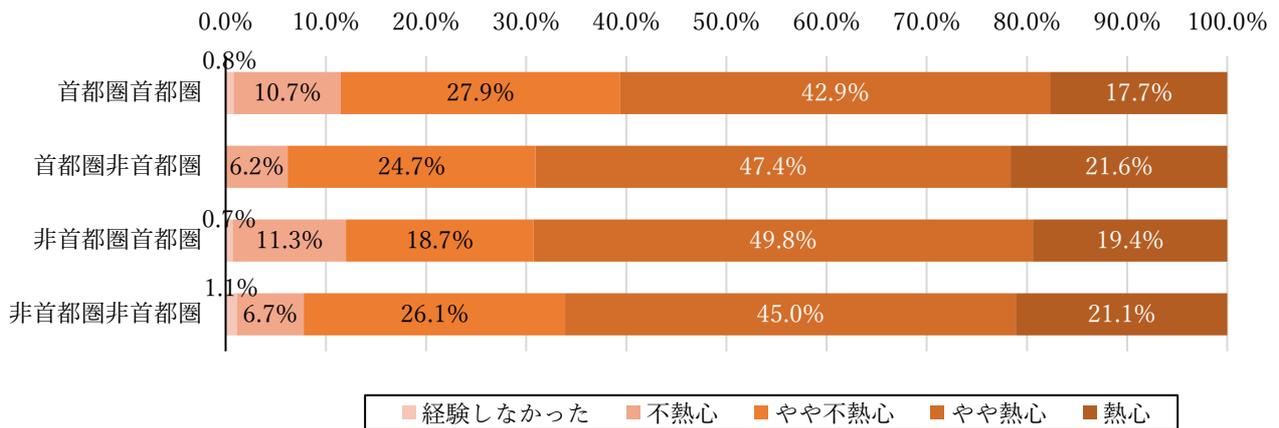


図4-21 在学時の活動の熱心さ__一般科目（移動タイプ別）

・ゼミ

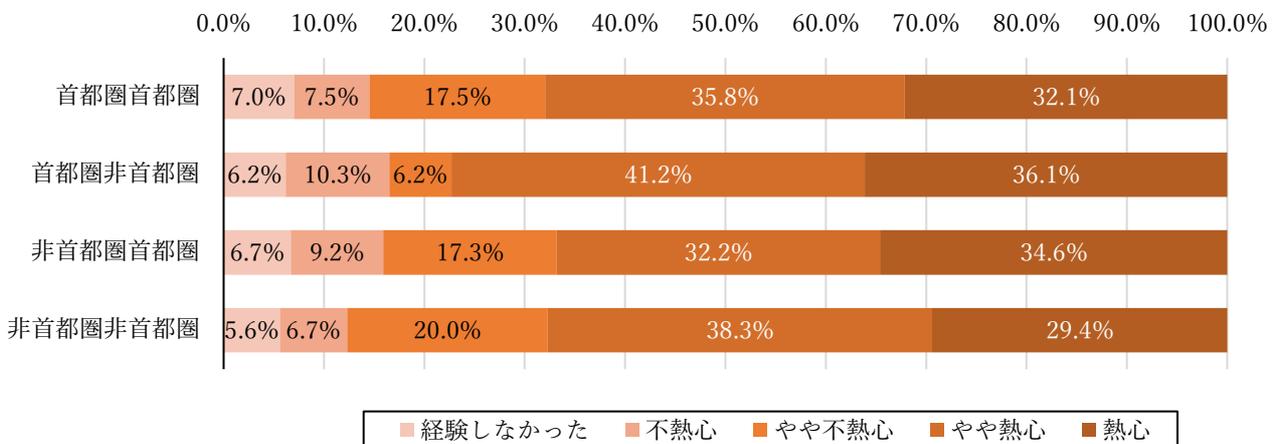


図4-22 在学時の活動の熱心さ__ゼミ（移動タイプ別）

・卒業論文作成

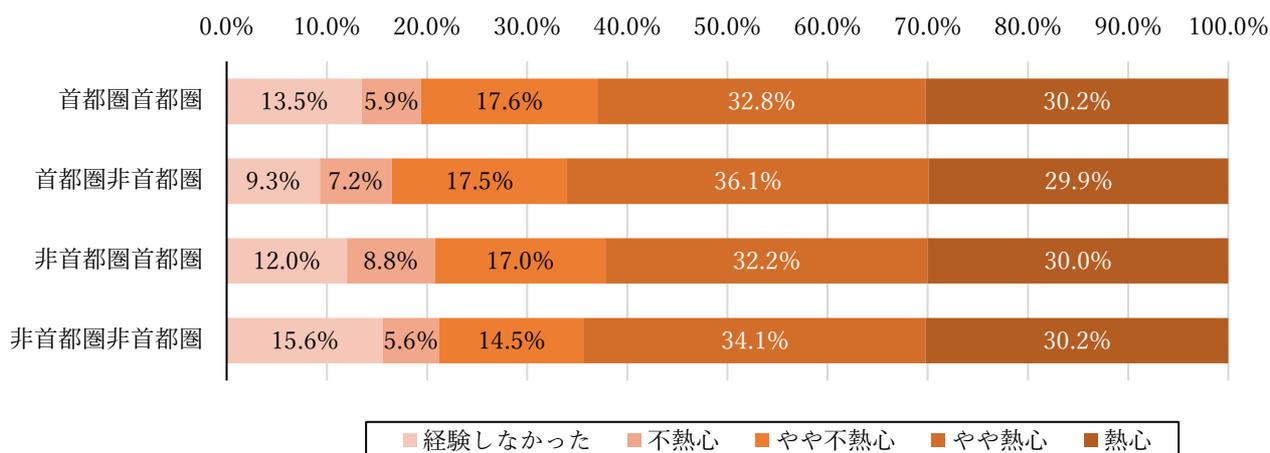


図 4-23 在学時の活動の熱心さ__卒業論文作成（移動タイプ別）

・部活動、サークル活動

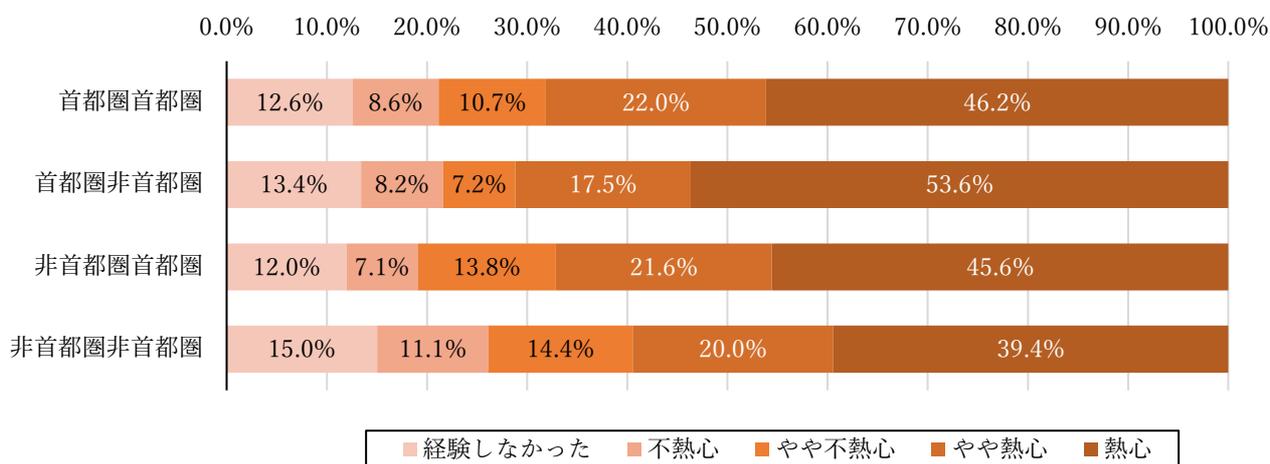


図 4-24 在学時の活動の熱心さ__部活動、サークル活動（移動タイプ別）

・学内のアルバイト

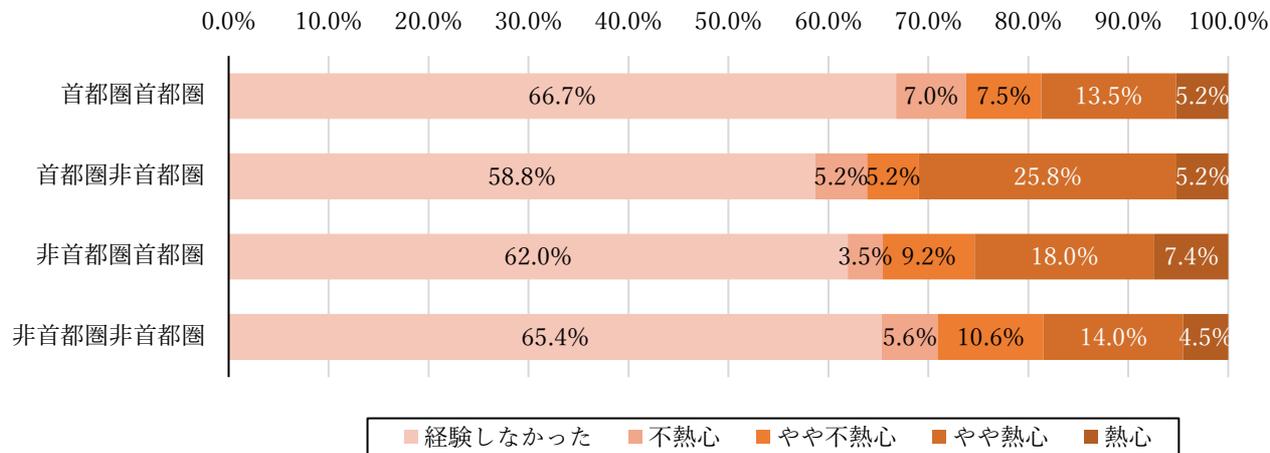


図 4-25 在学時の活動の熱心さ__学内のアルバイト（移動タイプ別）

・学外のアパート・定職

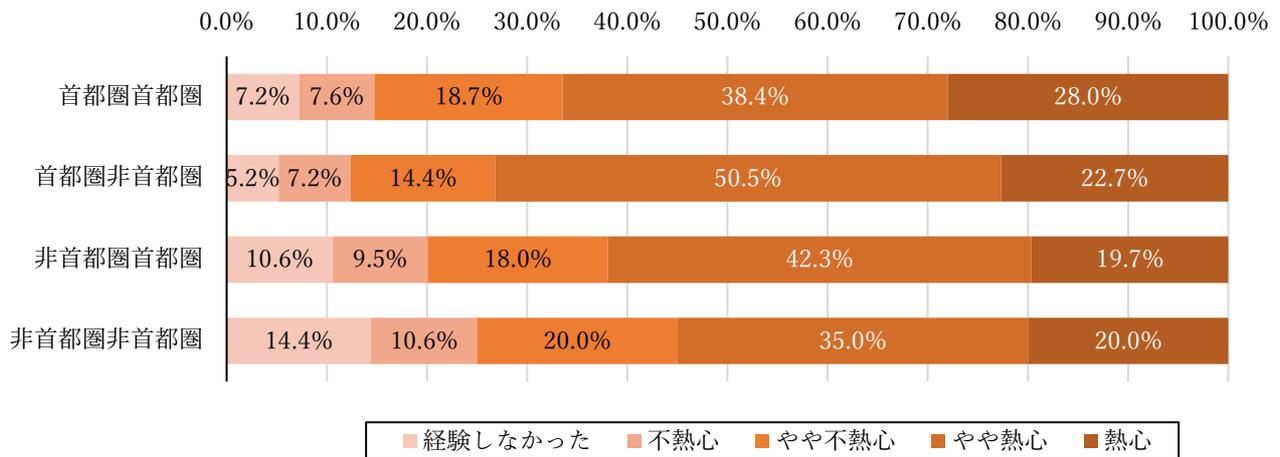


図 4-26 在学時の活動の熱心さ__学外のアパート・定職 (移動タイプ別)

・ボランティア

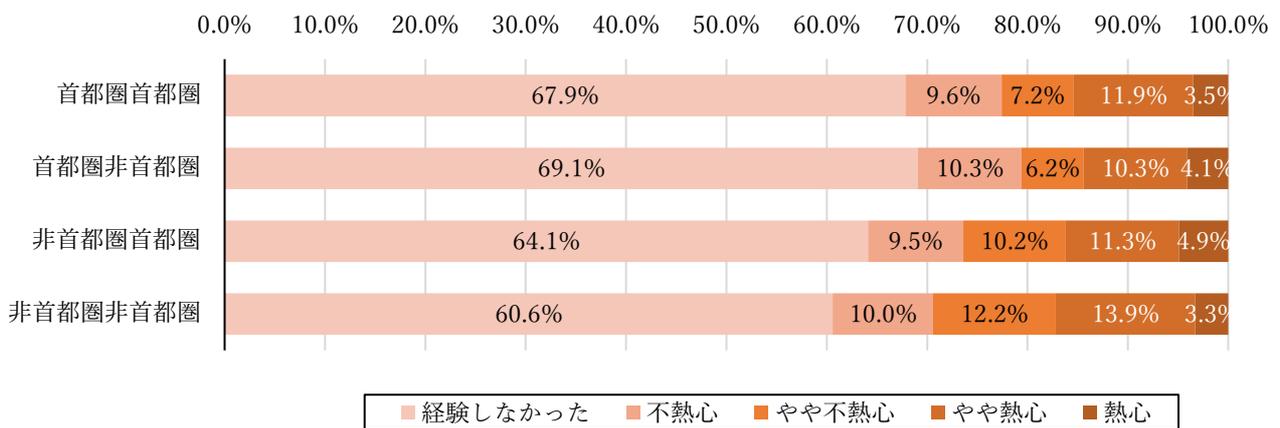


図 4-27 在学時の活動の熱心さ__ボランティア (移動タイプ別)

・インターンシップ

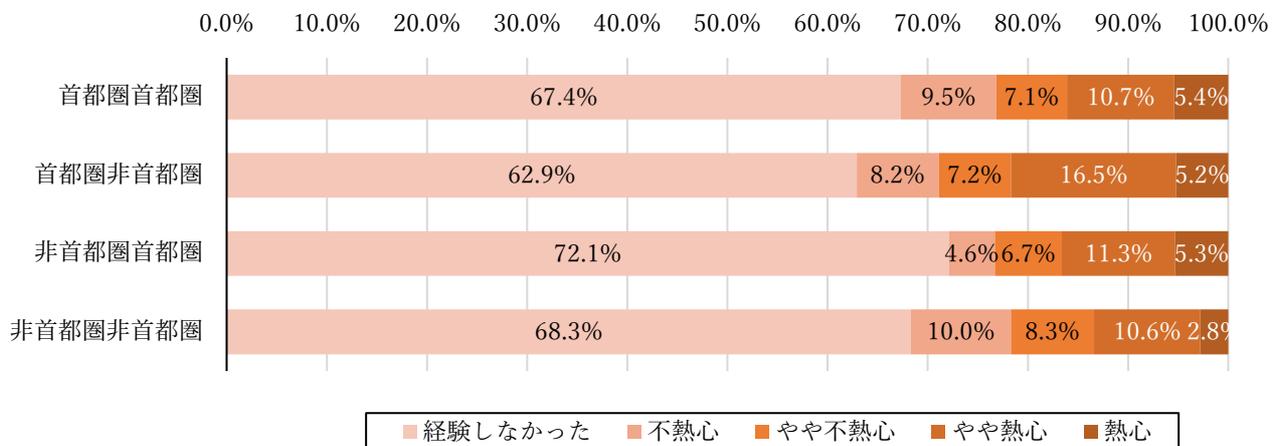


図 4-28 在学時の活動の熱心さ__インターンシップ (移動タイプ別)

・早稲田大学以外での勉強

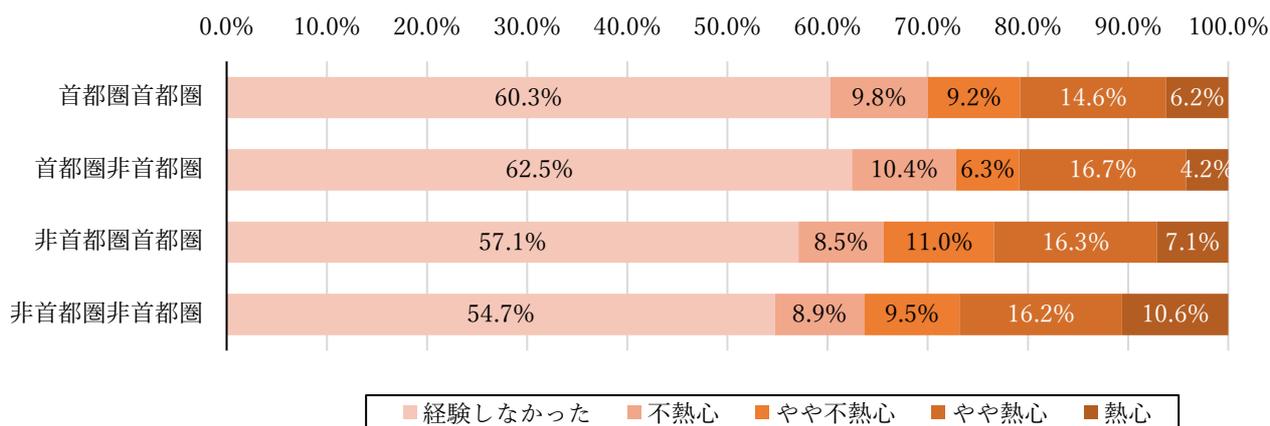


図 4-29 在学時の活動の熱心さ__早稲田大学以外での勉強（移動タイプ別）

・資格取得や教職、国家試験勉強

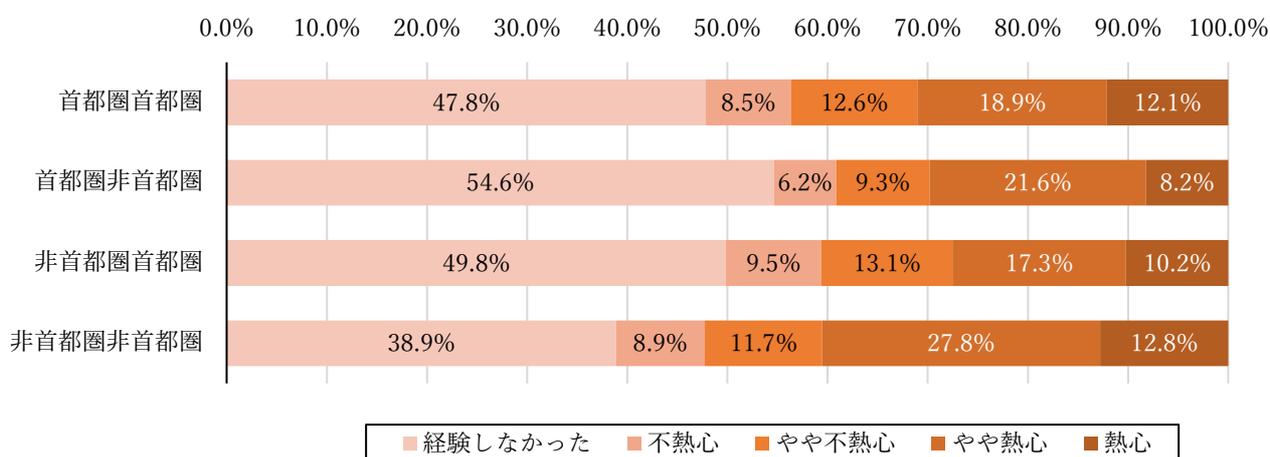


図 4-30 在学時の活動の熱心さ__資格取得や教職、国家試験勉強（移動タイプ別）

・大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）

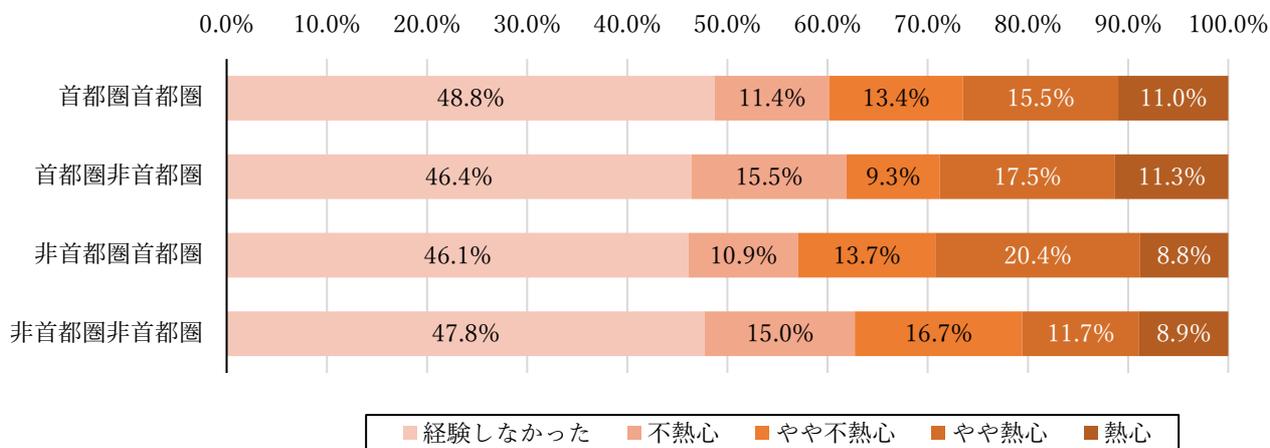


図 4-31 在学時の活動の熱心さ__大学関係の活動（早稲田祭、100キロハイクなど）（移動タイプ別）

・図書館を利用した

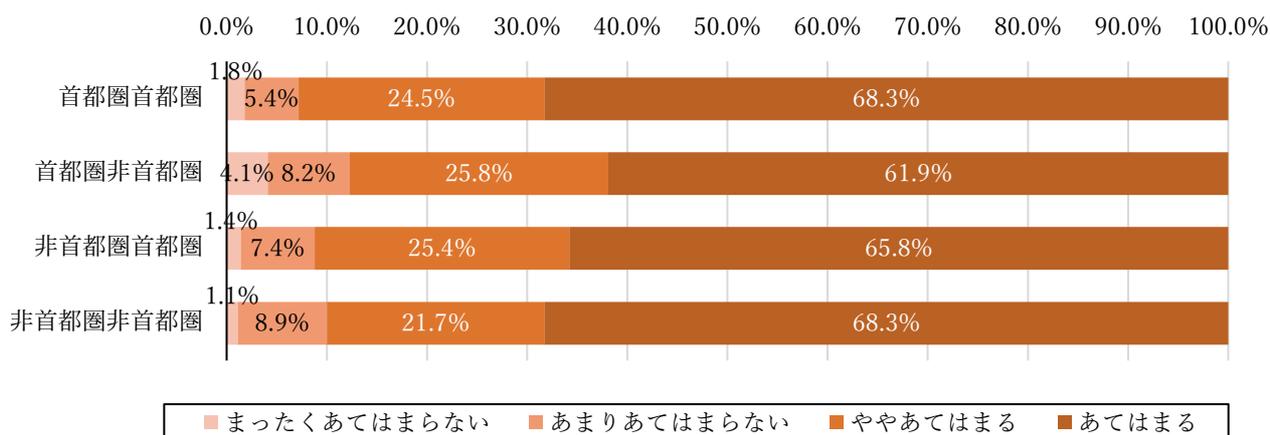


図 4-32 在学時の活動__図書館の利用 (移動タイプ別)

・読書 (漫画や雑誌を除く) をした

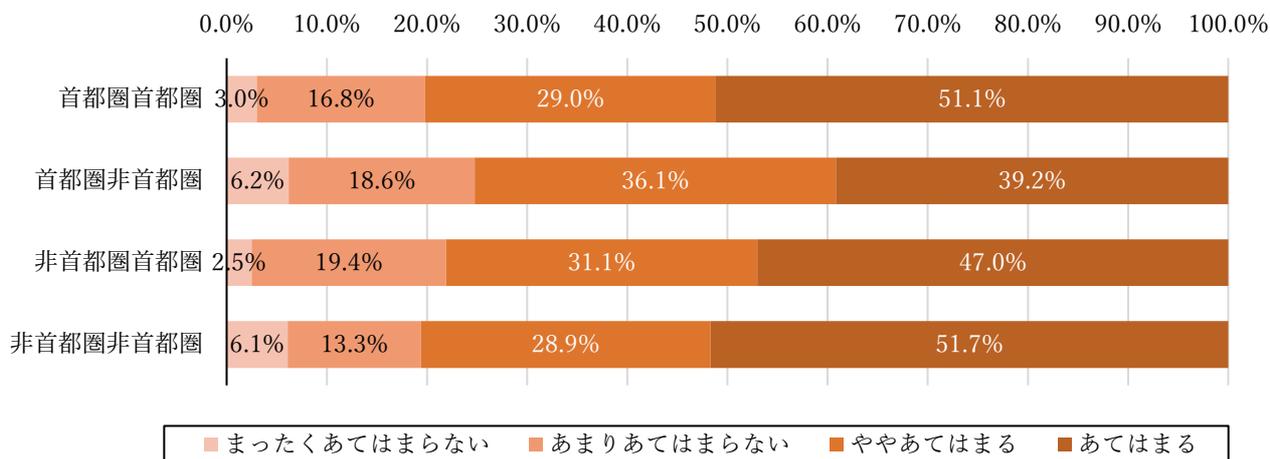


図 4-33 在学時の活動__読書 (移動タイプ別)

・自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした

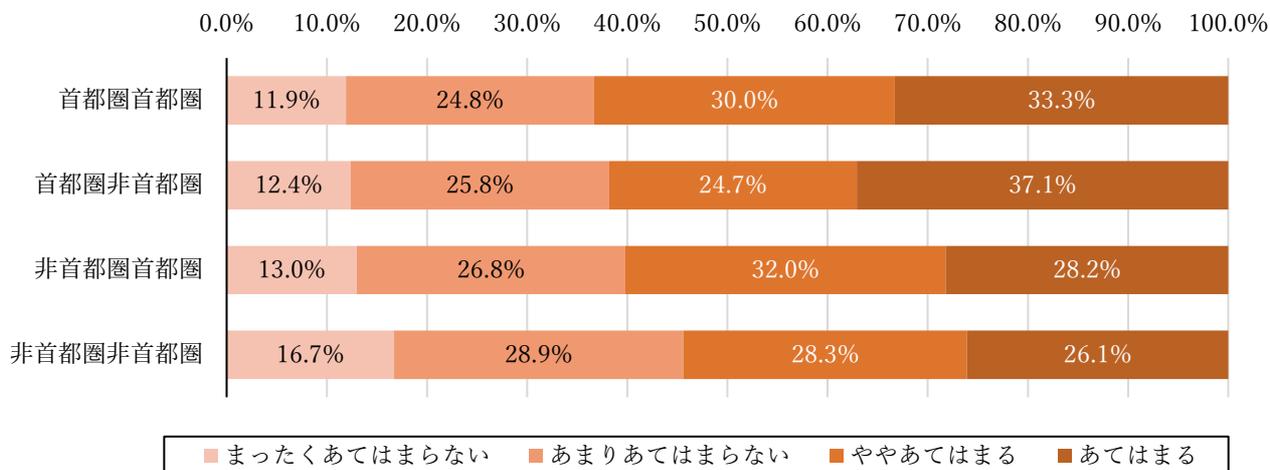


図 4-34 在学時の活動__研究・発表 (移動タイプ別)

・授業内容について、他の学生と議論した

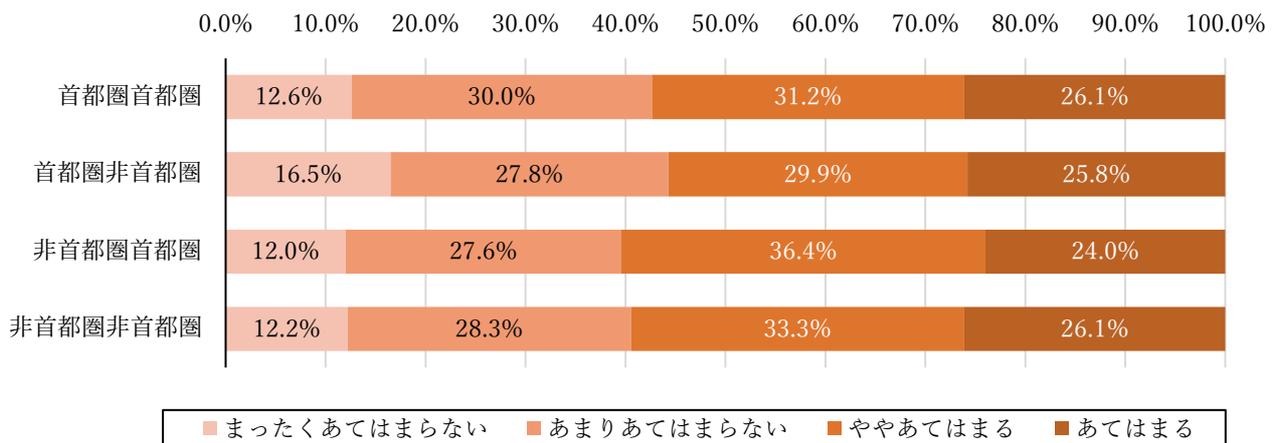


図 4-35 在学時の活動_授業内容についての学生との議論 (移動タイプ別)

・授業内容について、教員と議論した

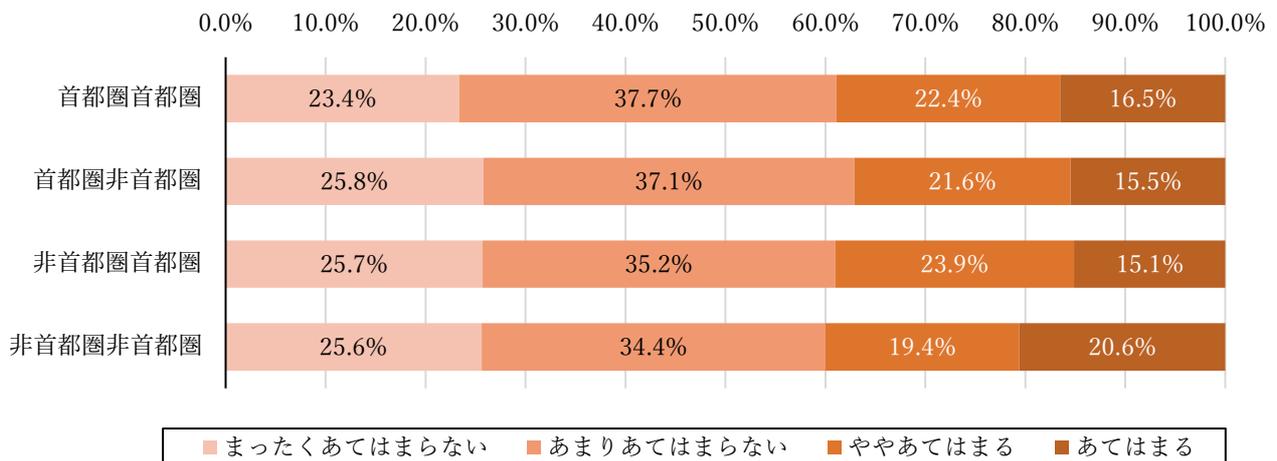


図 4-36 在学時の活動_授業内容についての教員との議論 (移動タイプ別)

・語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした

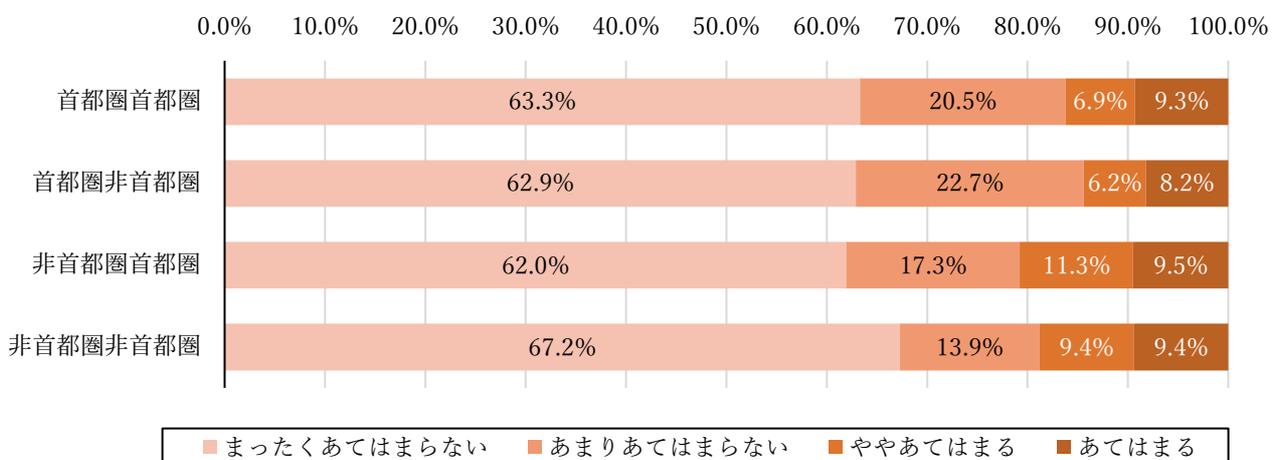


図 4-37 在学時の活動_外国語での議論や発表 (語学の授業以外) (移動タイプ別)

・留学生と一緒に学んだ

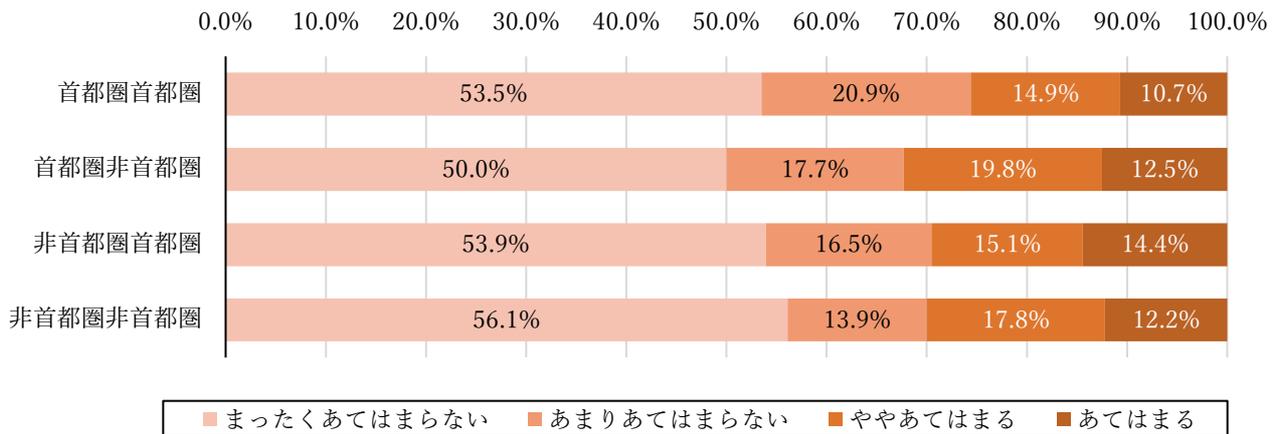


図4-38 在学時の活動_留学生との学習（移動タイプ別）

・授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）

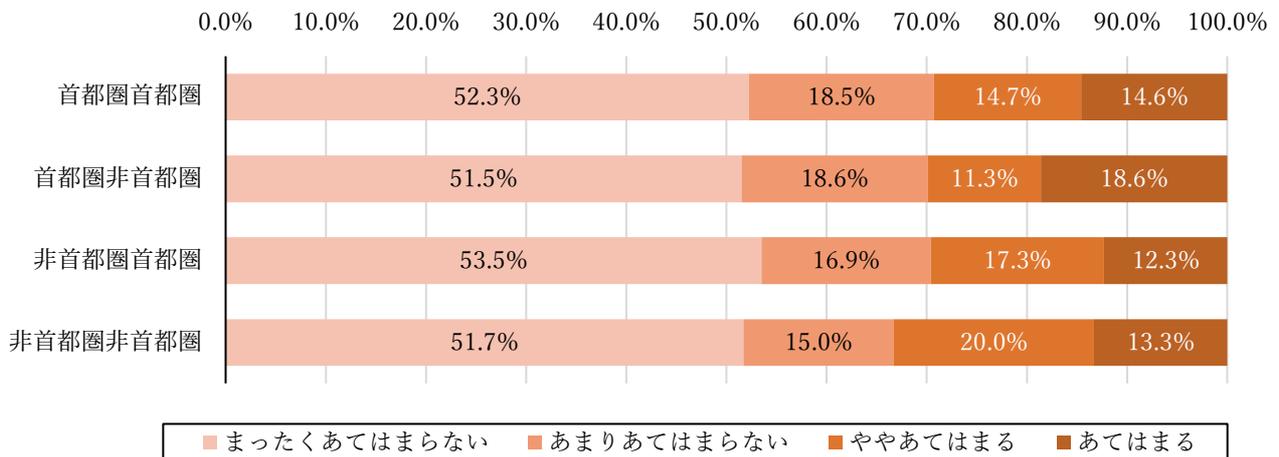


図4-39 在学時の活動_授業の一環としての大学外での学び（移動タイプ別）

・特別な理由なく授業を欠席した

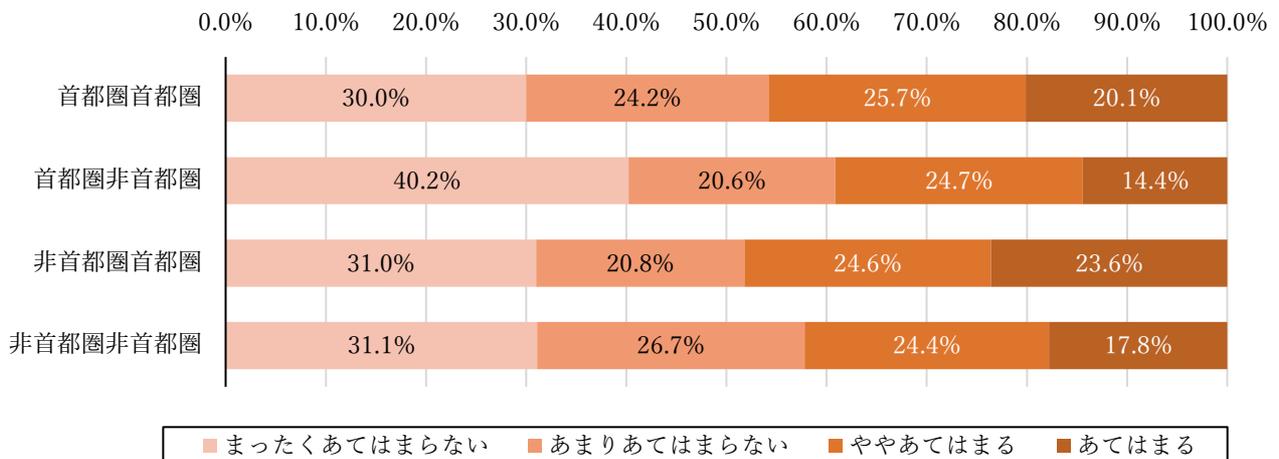


図4-40 在学時の活動_特別な理由のない授業の欠席（移動タイプ別）

・よい教員に巡り合えた

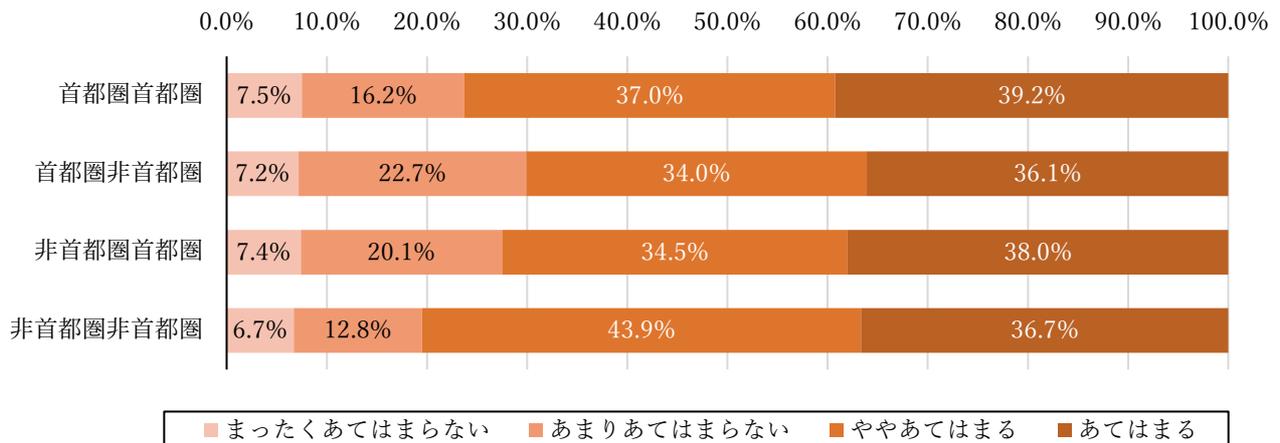


図4-41 在学時の活動__よい教員との出会い（移動タイプ別）

・学部の成績（1～2年）

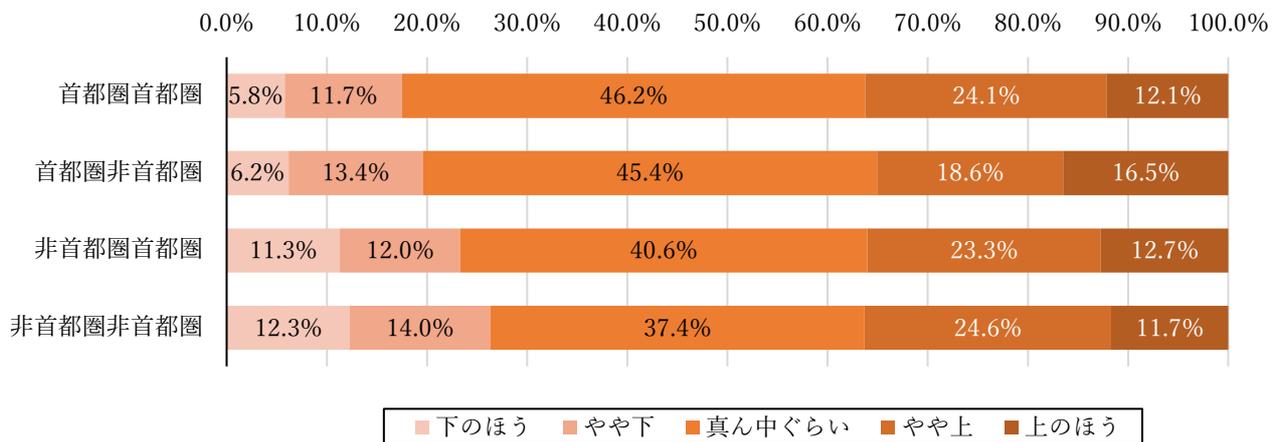


図4-42 在学時の成績（1～2年）（移動タイプ別）

・学部の成績（3～4年）

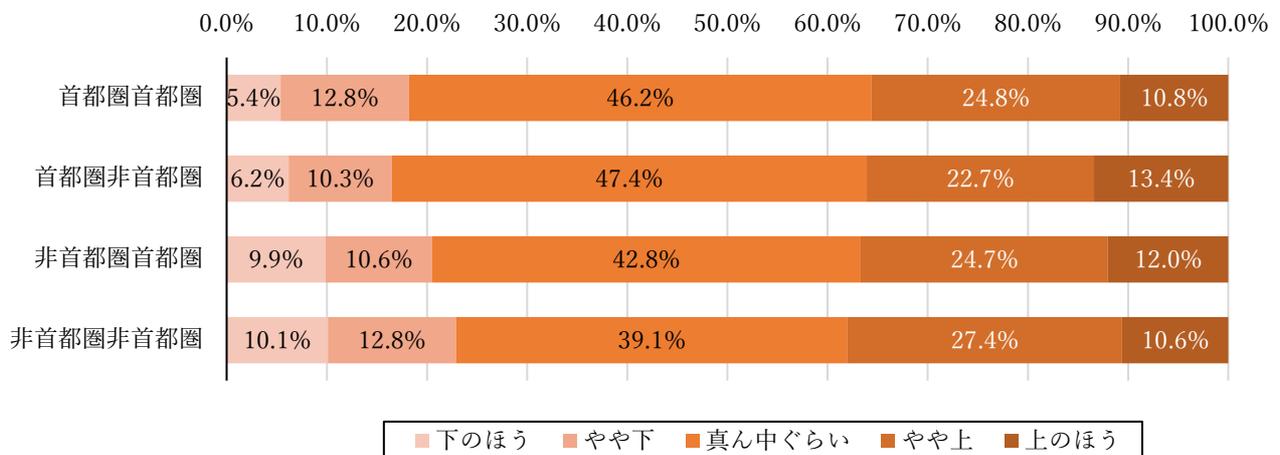


図4-43 在学時の成績（3～4年）（移動タイプ別）

4-4. アウトプット1

- ・既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

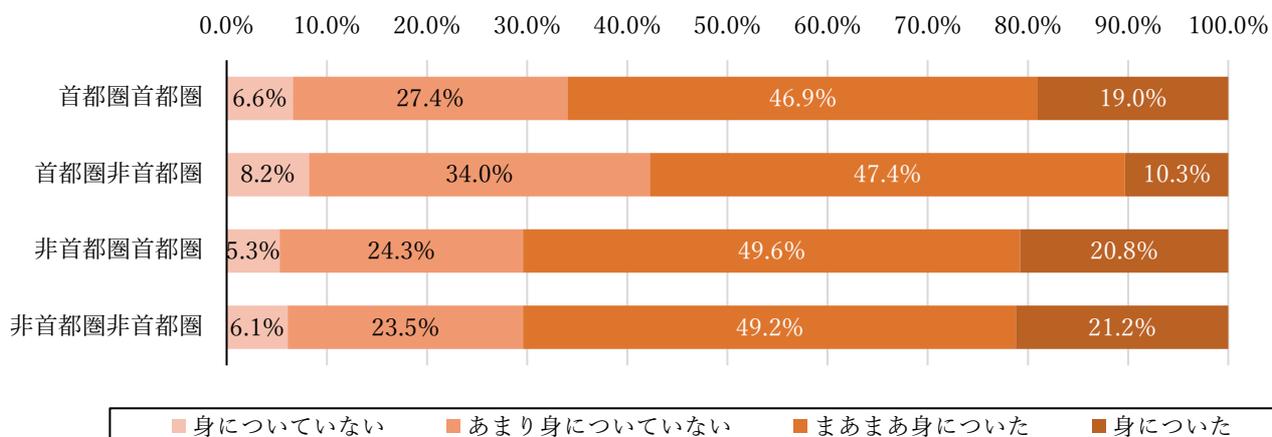


図4-44 学部で身につけたもの__アイデア創出力（移動タイプ別）

- ・物事を論理的に考えることができる

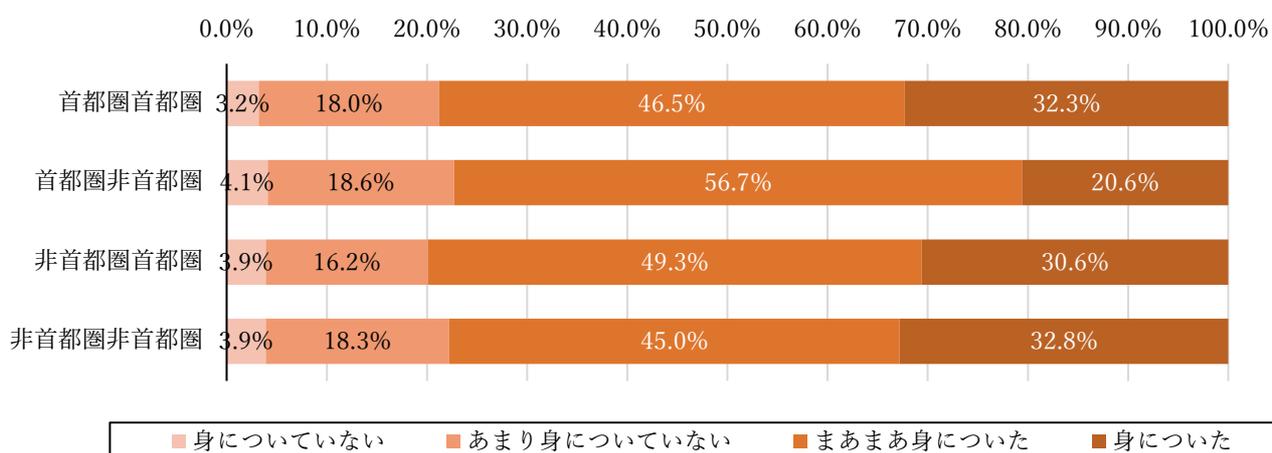


図4-45 学部で身につけたもの__論理的思考力（移動タイプ別）

- ・課題の解決方法を提案できる

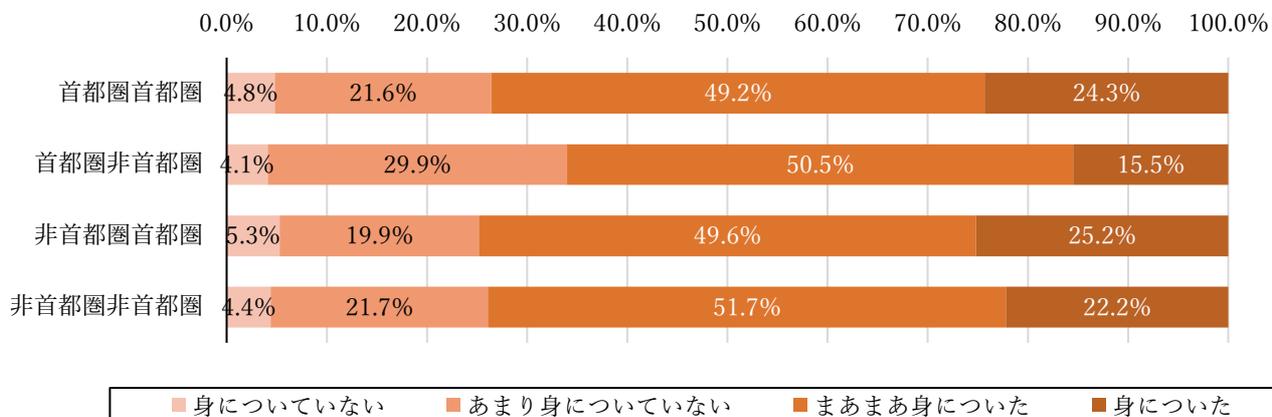


図4-46 学部で身につけたもの__課題解決力（移動タイプ別）

・自分の考えを分かりやすく表現できる

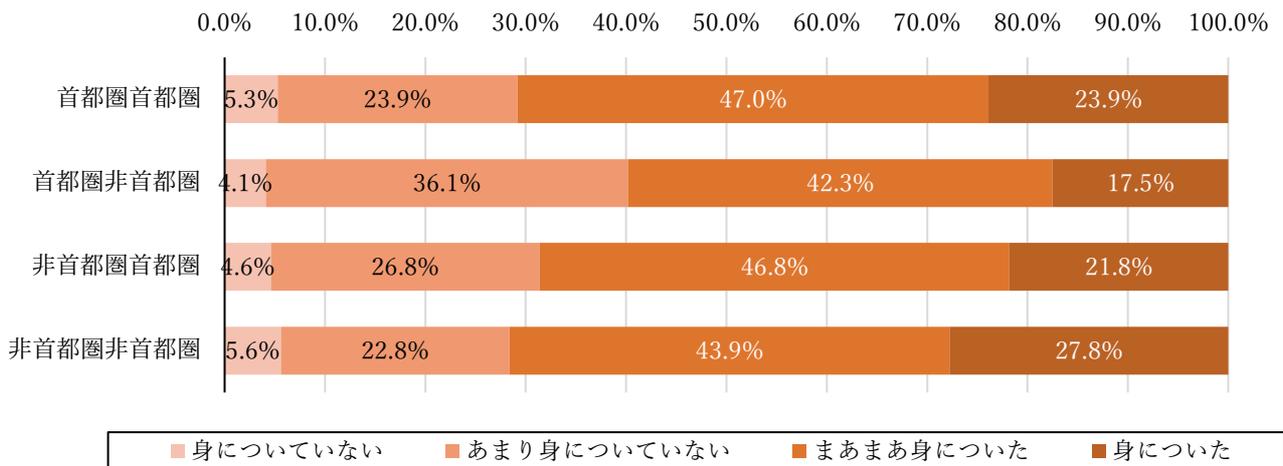


図 4-47 学部で身につけたもの__表現力・プレゼンテーション能力 (移動タイプ別)

・相手の状況や考え方を尊重できる

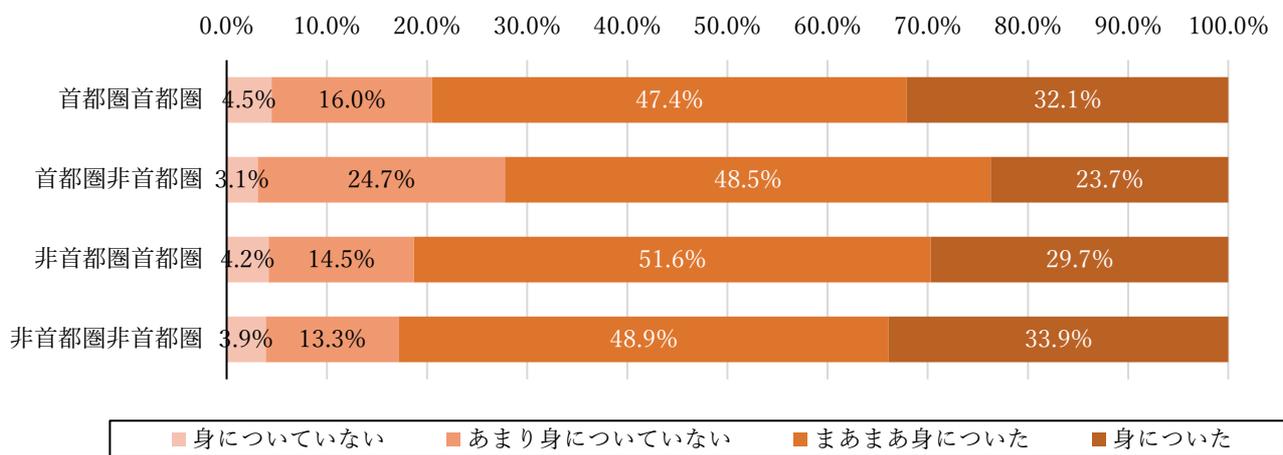


図 4-48 学部で身につけたもの__相手の状況や考え方を尊重できる (移動タイプ別)

・物事を多面的に考えることができる

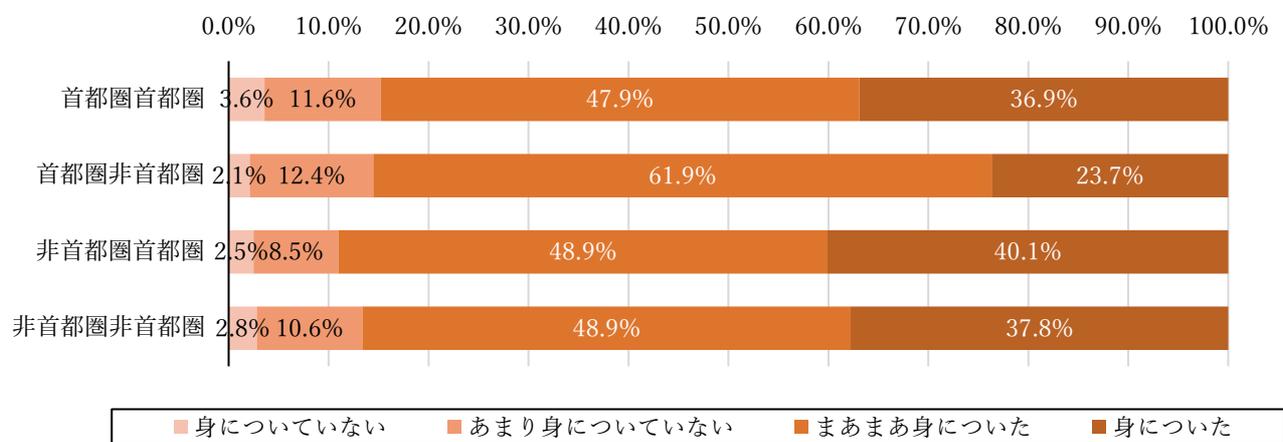


図 4-49 学部で身につけたもの__物事を多面的に考えることができる (移動タイプ別)

・健全に批判することができる

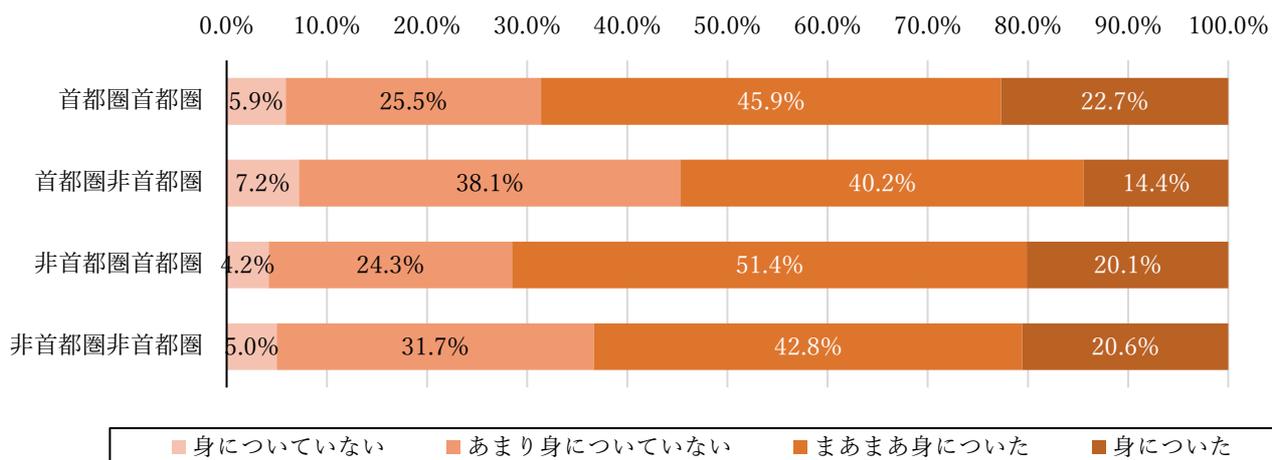


図4-50 学部で身につけたもの__健全に批判することができる (移動タイプ別)

・多様性を受け入れられる

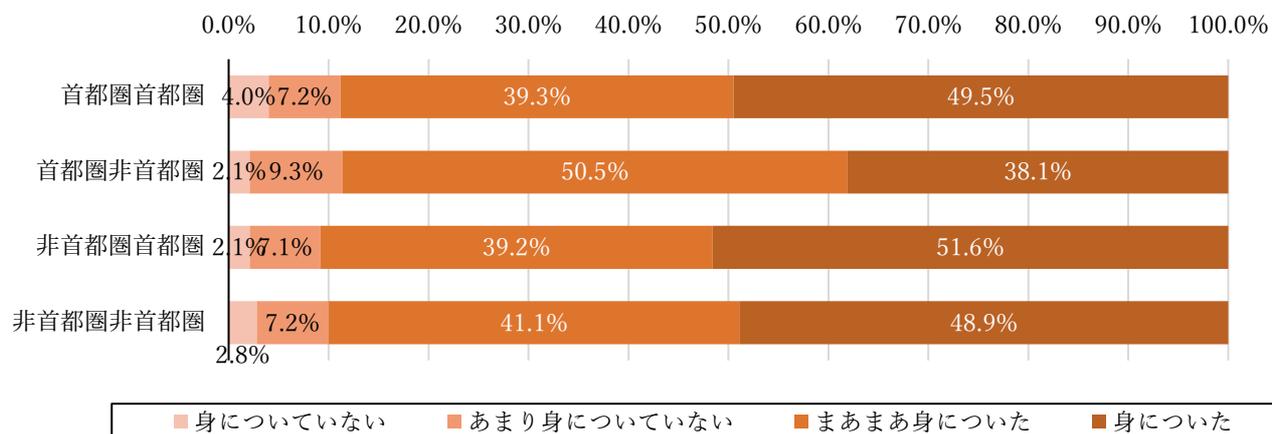


図4-51 学部で身につけたもの__多様性を受け入れられる (移動タイプ別)

・異文化を理解できる

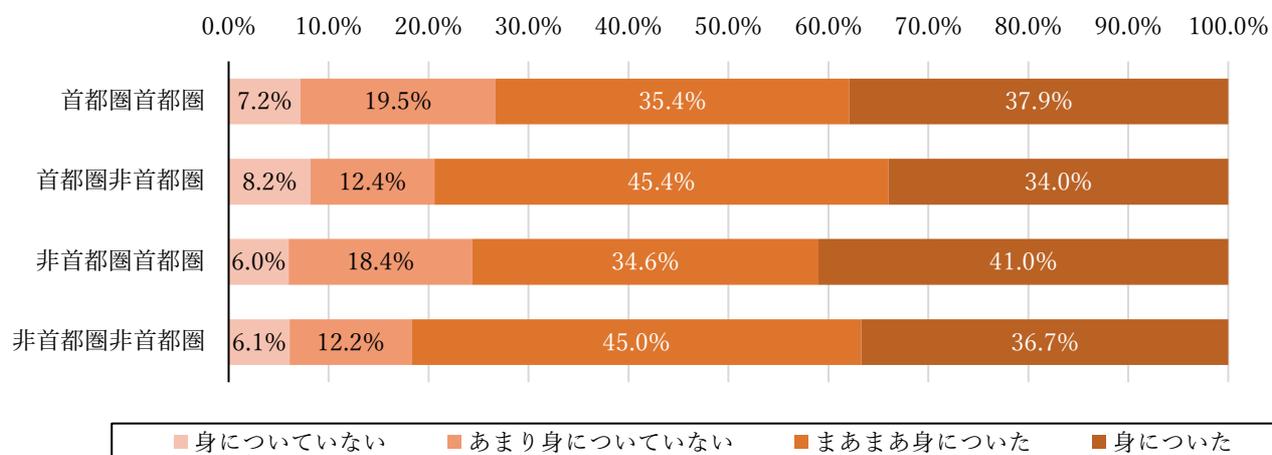


図4-52 学部で身につけたもの__異文化を理解できる (移動タイプ別)

・外国語を理解し、話せる

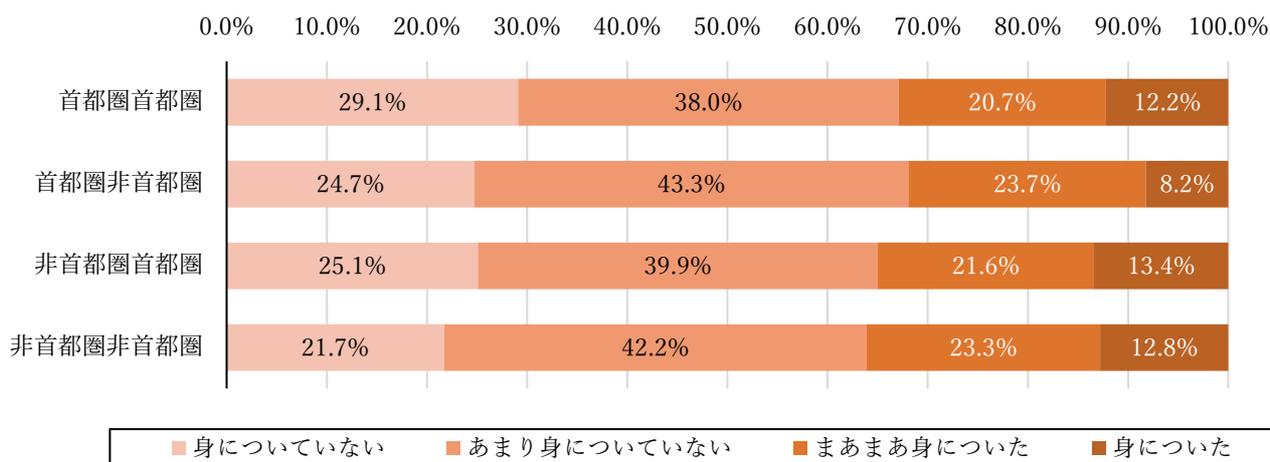


図 4-53 学部で身につけたもの_外国語を理解し、話せる (移動タイプ別)

4-5. アウトプット2

・最終学歴

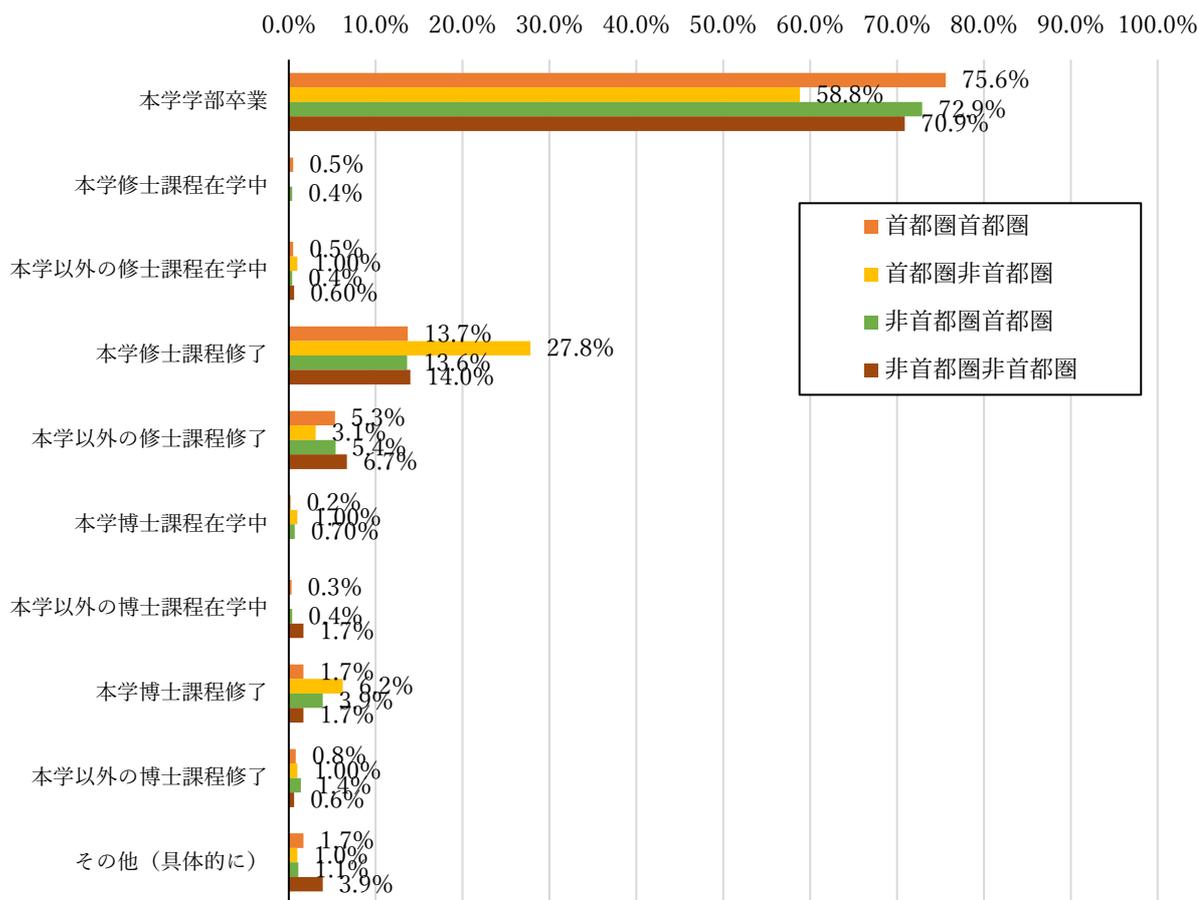


図 4-54 最終学歴 (移動タイプ別)

・勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する

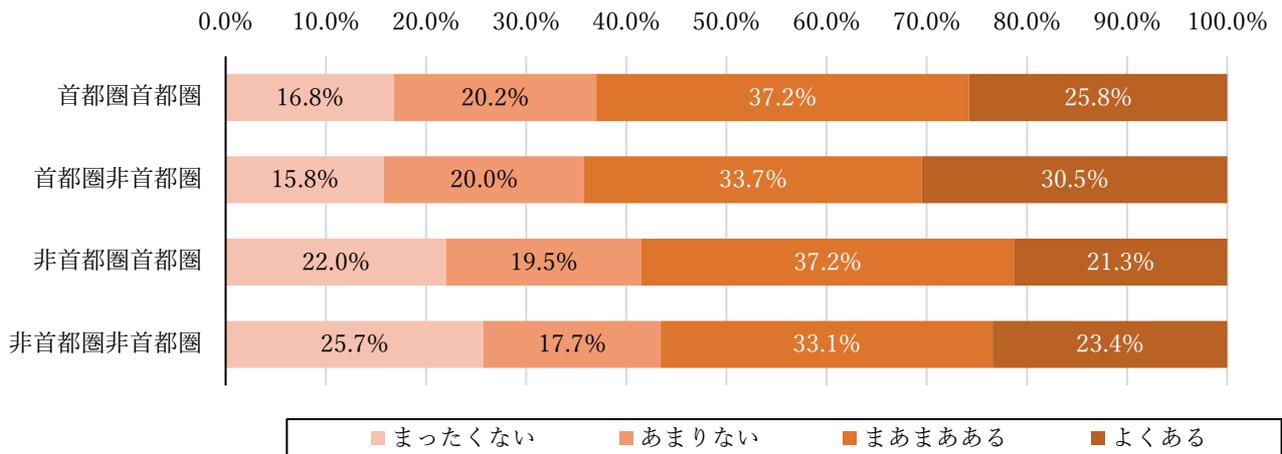


図 4-55 現在の仕事上の活動（移動タイプ別）

・単発の講座、セミナー、勉強会に参加する

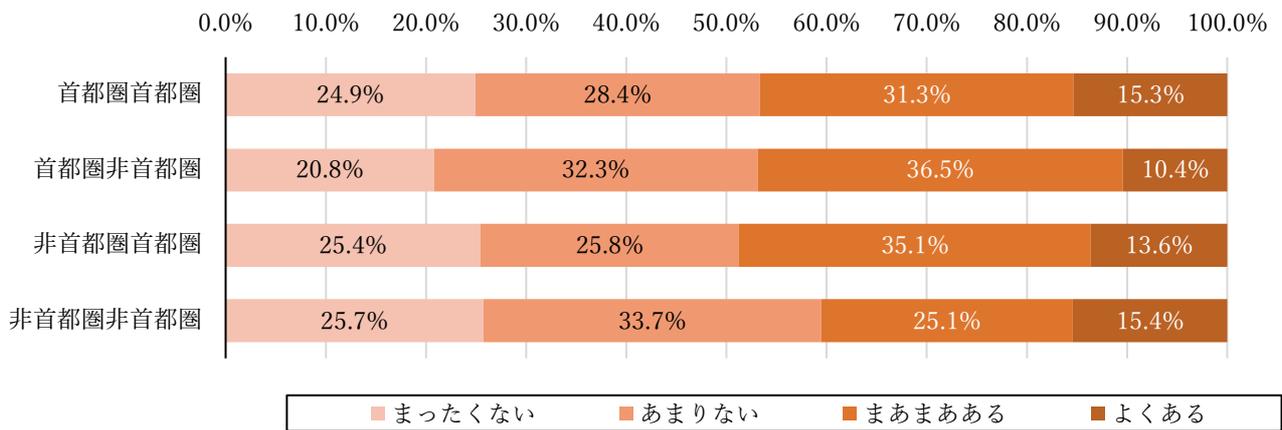


図 4-56 現在の生活上の活動__単発の講座、セミナー、勉強会（移動タイプ別）

・学校に通う

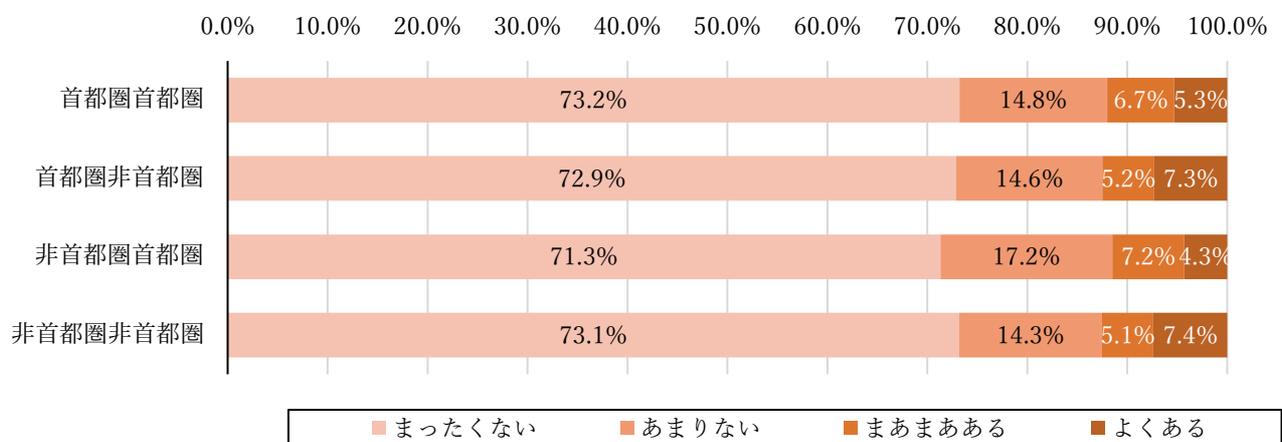


図 4-57 現在の生活上の活動__学校に通う（移動タイプ別）

・本を読む

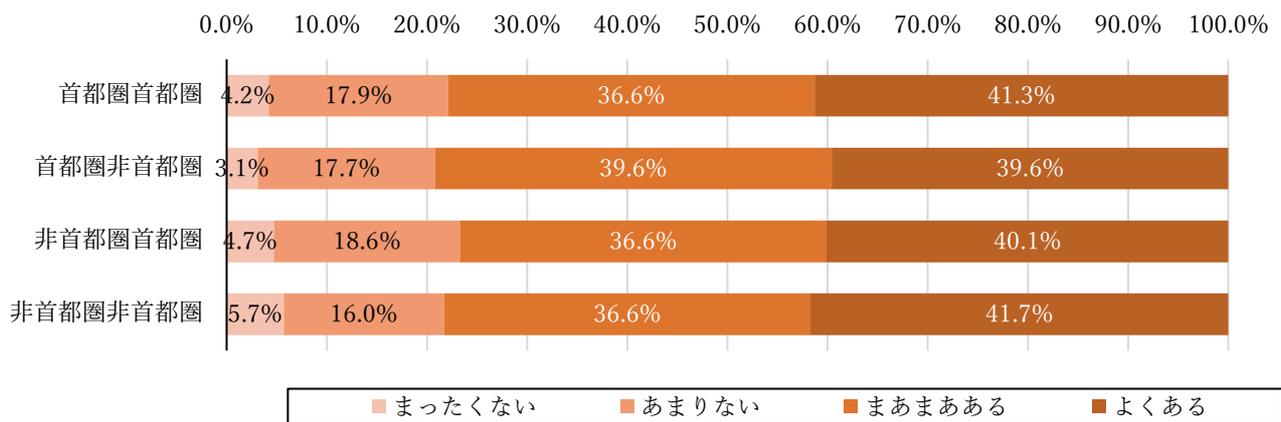


図4-58 現在の生活上の活動__読書（移動タイプ別）

4-6. 役立ち度

・専門科目

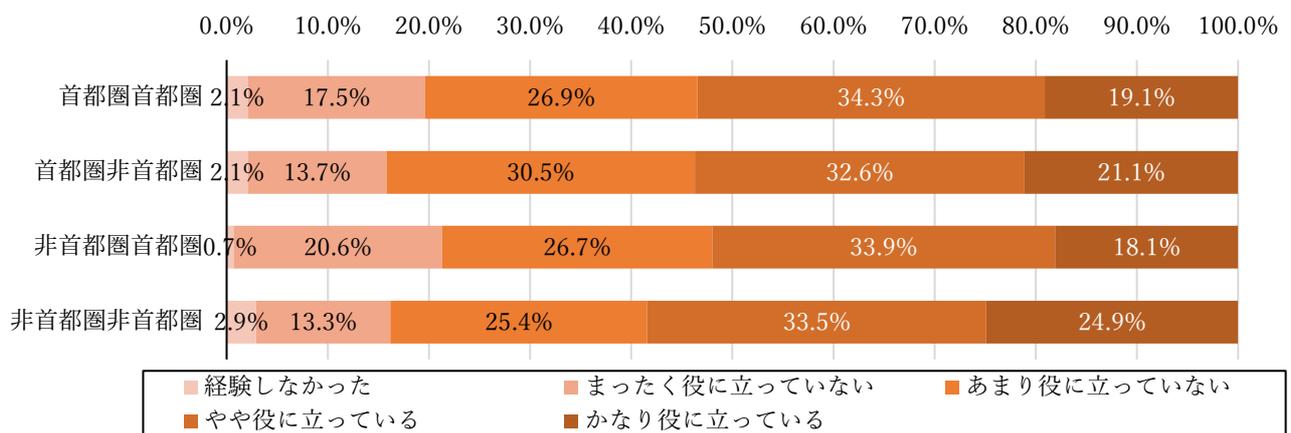


図4-59 教育経験の役立ち度__専門科目（移動タイプ別）

・一般教育科目

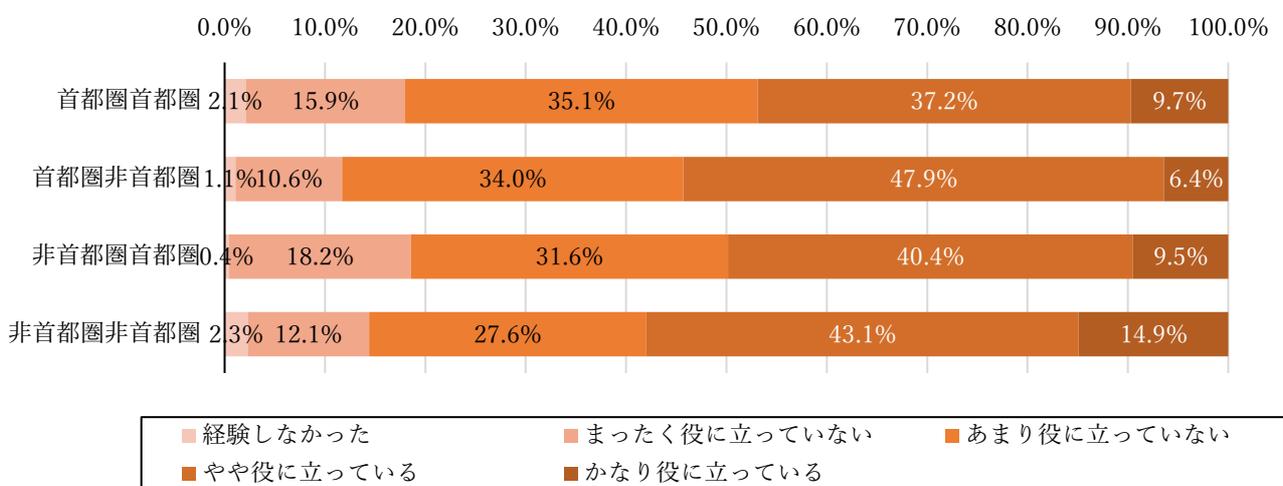


図4-60 教育経験の役立ち度__一般教育科目（移動タイプ別）

・ゼミ

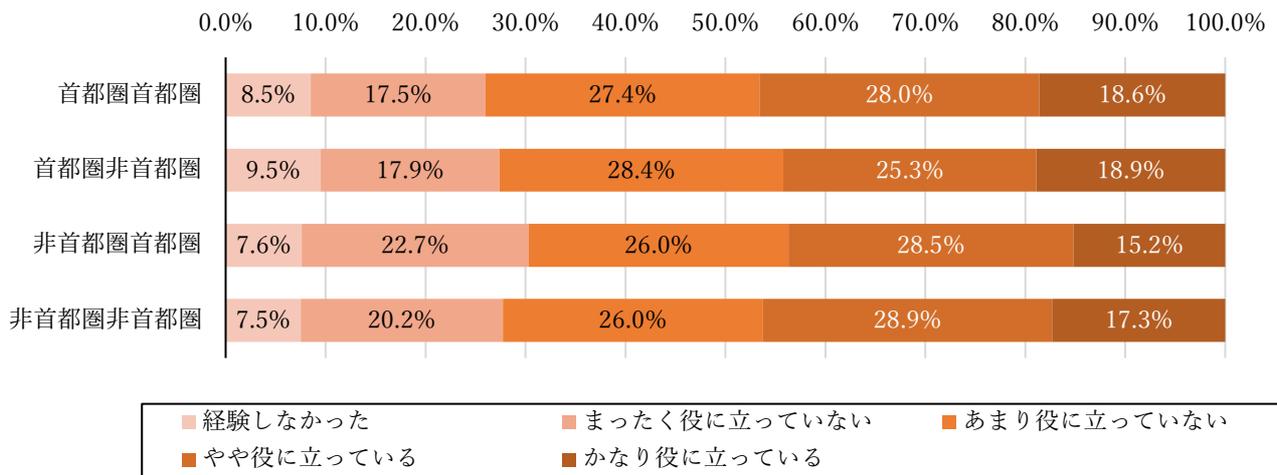


図4-61 教育経験の役立ち度__ゼミ (移動タイプ別)

・卒業論文作成

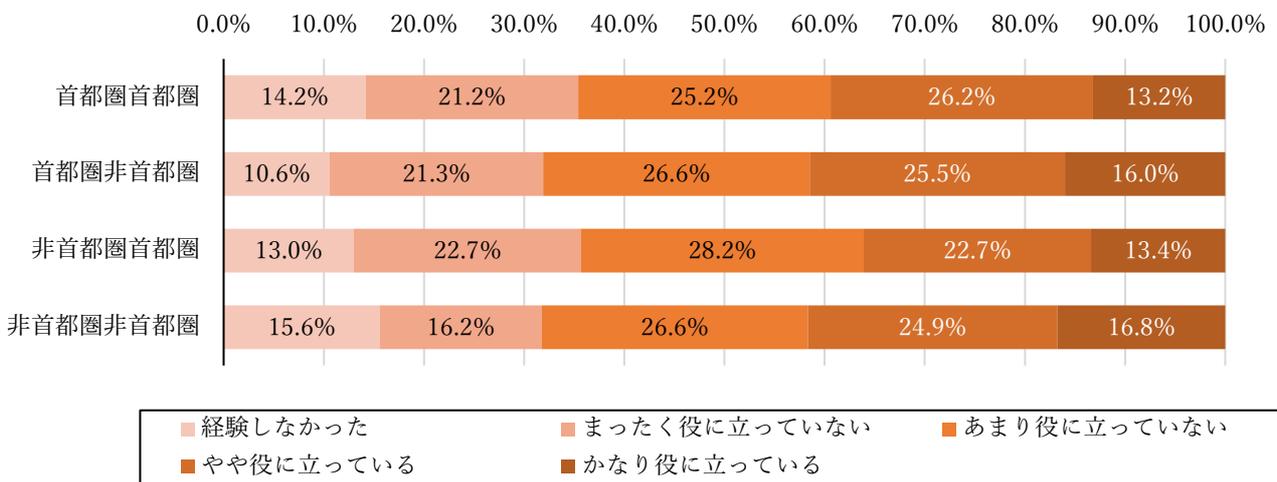


図4-62 教育経験の役立ち度__卒業論文作成 (移動タイプ別)

・部活動、サークル活動

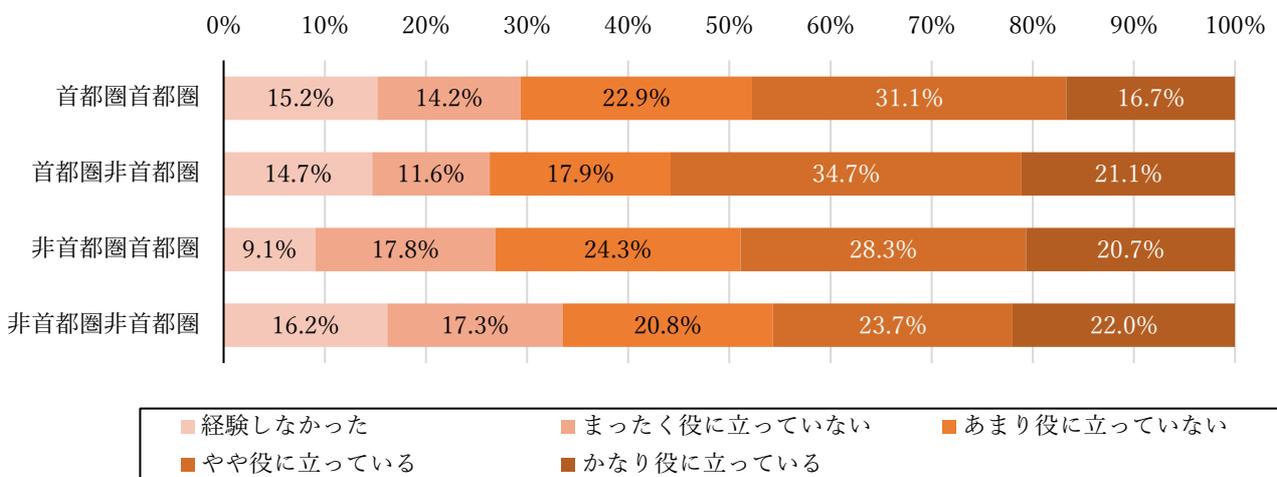


図4-63 教育経験の役立ち度__部活動、サークル活動 (移動タイプ別)

・学内のアルバイト

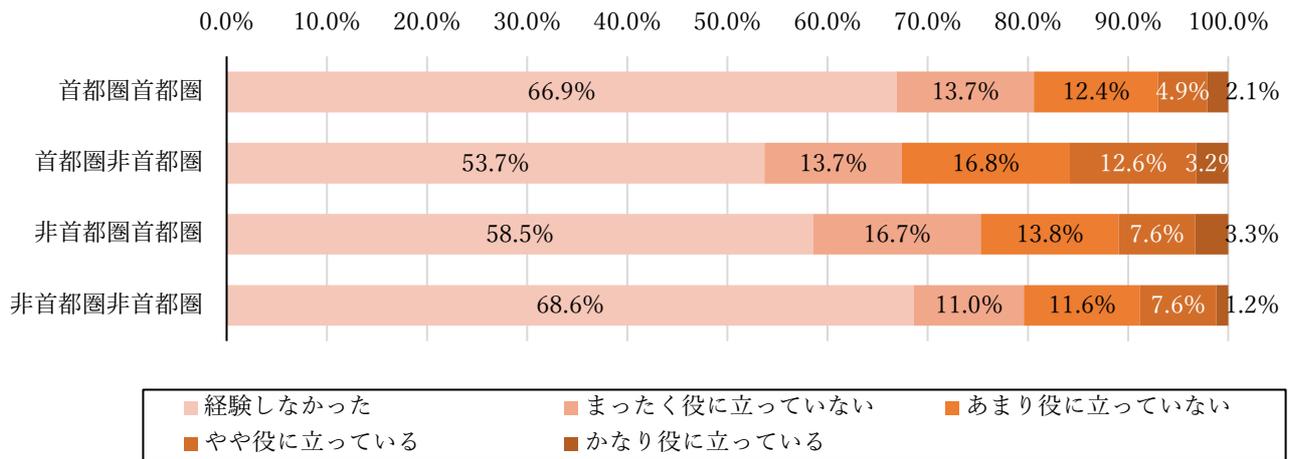


図 4-64 大学時の経験の役立ち度_学内のアルバイト (移動タイプ別)

・学外のアルバイト

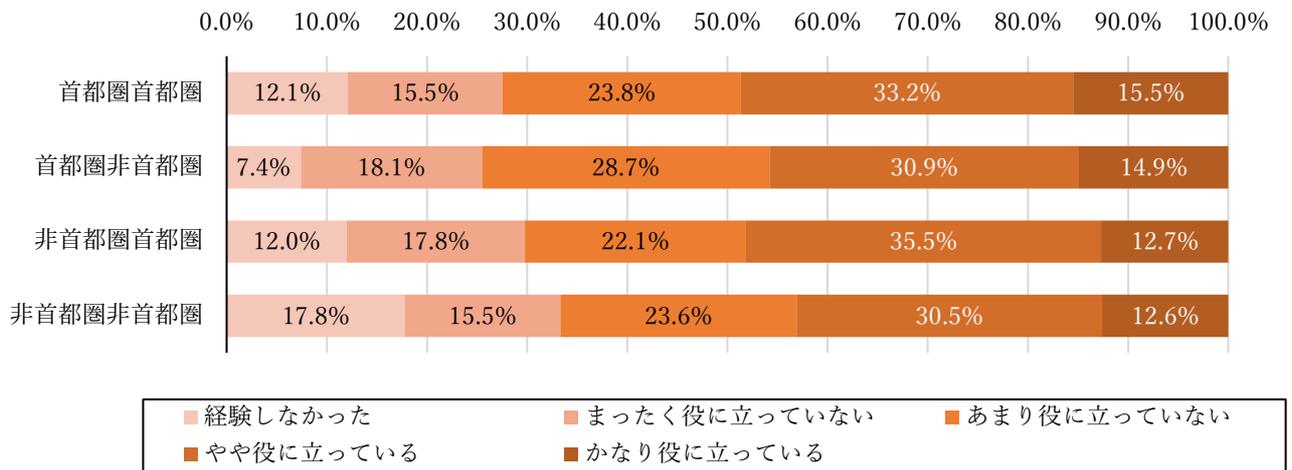


図 4-65 大学時の経験の役立ち度_学外のアルバイト (移動タイプ別)

・留学

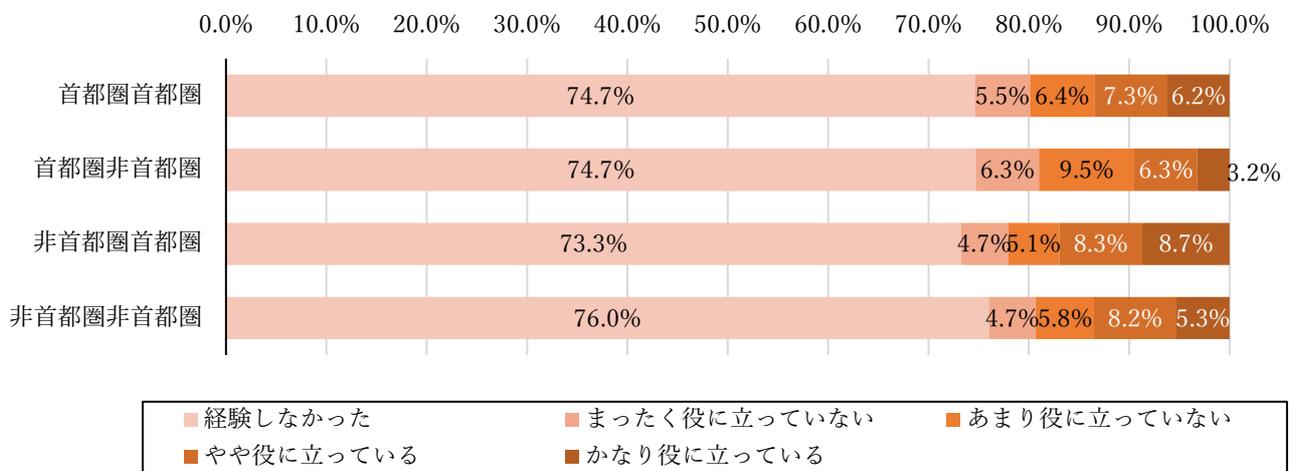


図 4-66 大学時の経験の役立ち度_留学 (移動タイプ別)

・ボランティア

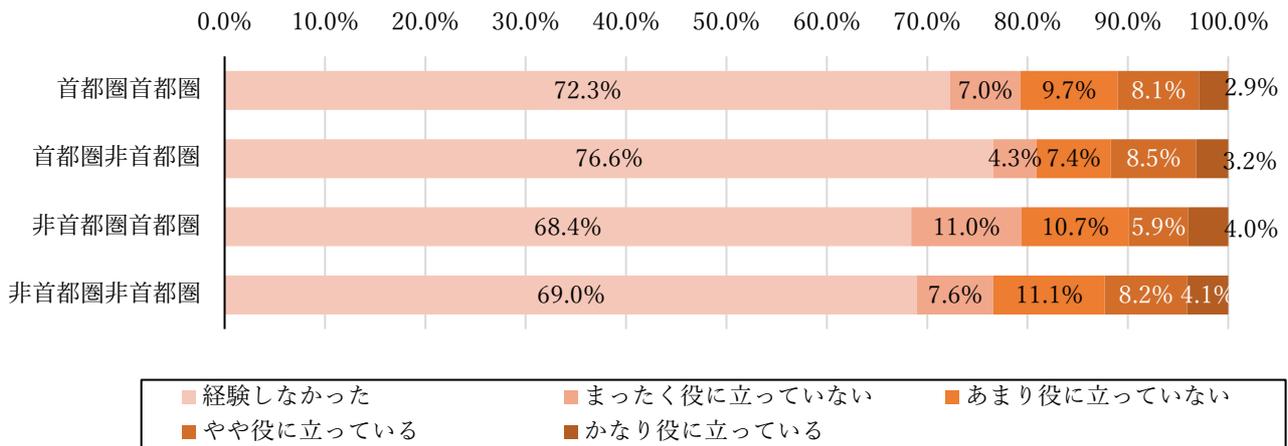


図 4-67 大学時の経験の役立ち度__ボランティア (移動タイプ別)

・インターンシップ

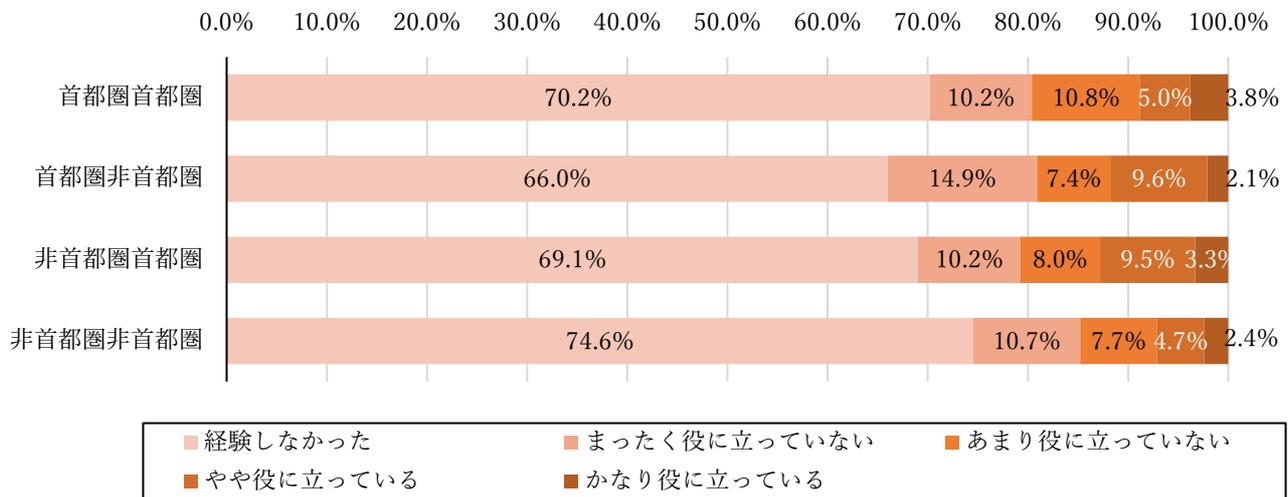


図 4-68 大学時の経験の役立ち度__インターンシップ (移動タイプ別)

・早稲田大学以外での勉強

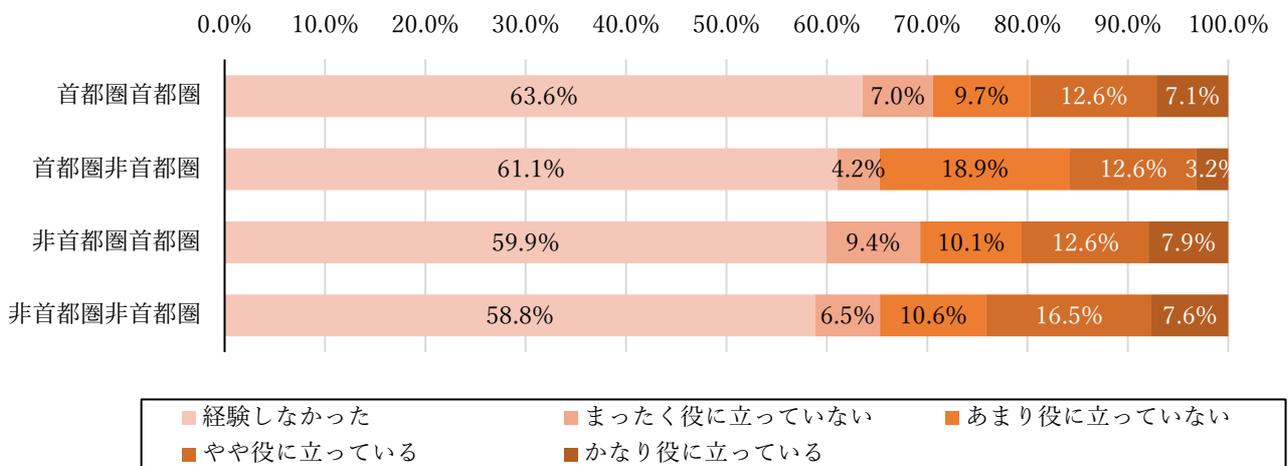


図 4-69 大学時の経験の役立ち度__早稲田大学以外での勉強 (移動タイプ別)

・資格取得や教職、国家試験勉強

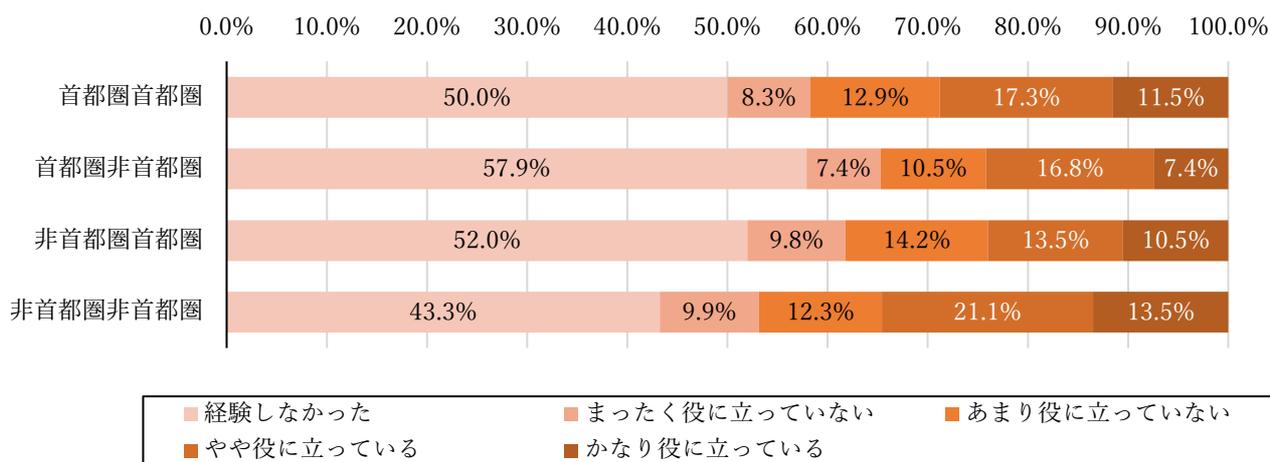


図4-70 大学時の経験の役立ち度_資格取得や教職、国家試験勉強（移動タイプ別）

4-7. 校友関連

・早稲田大学との関わり

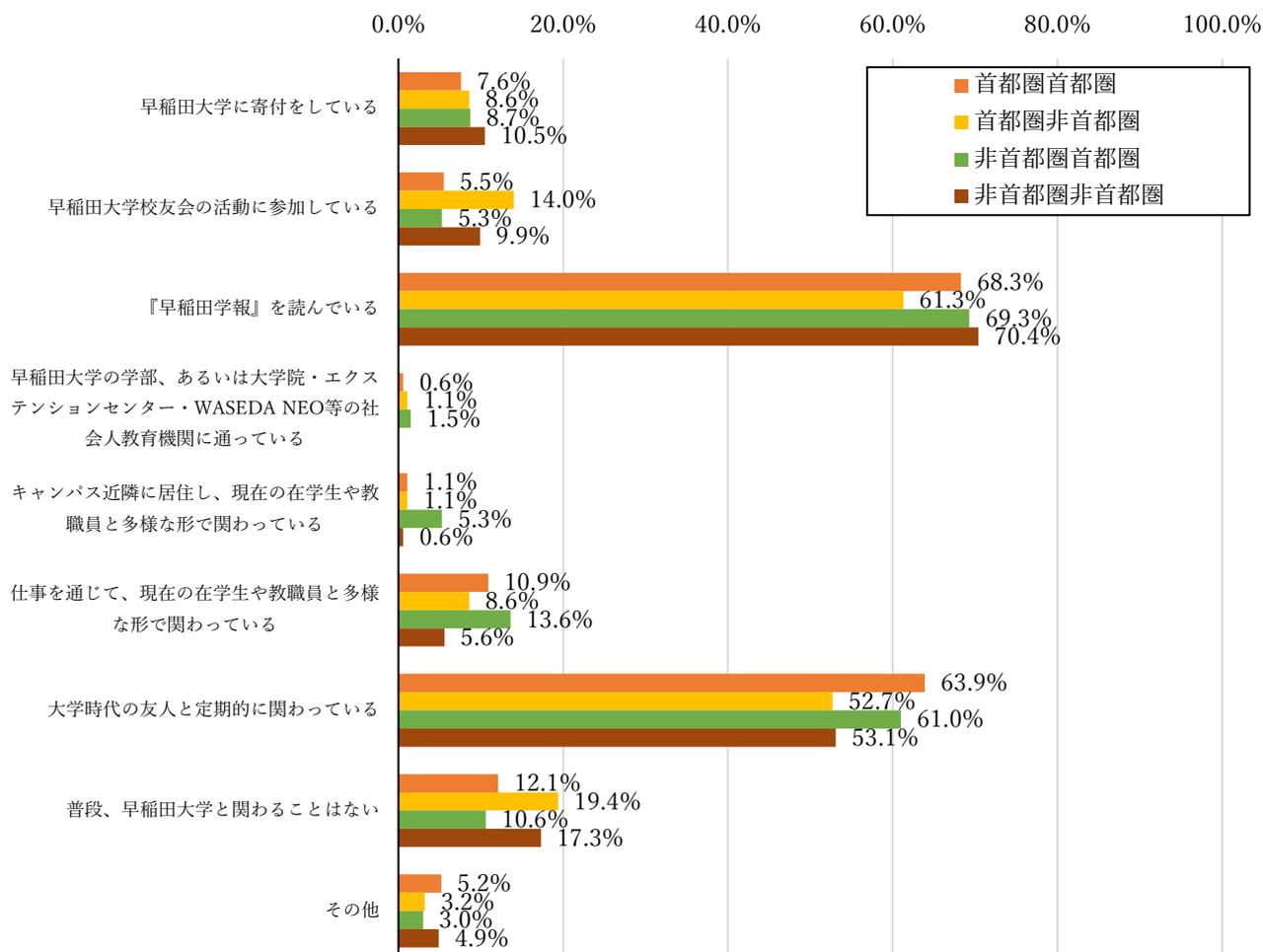


図4-71 校友としての活動（移動タイプ別）

・早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時

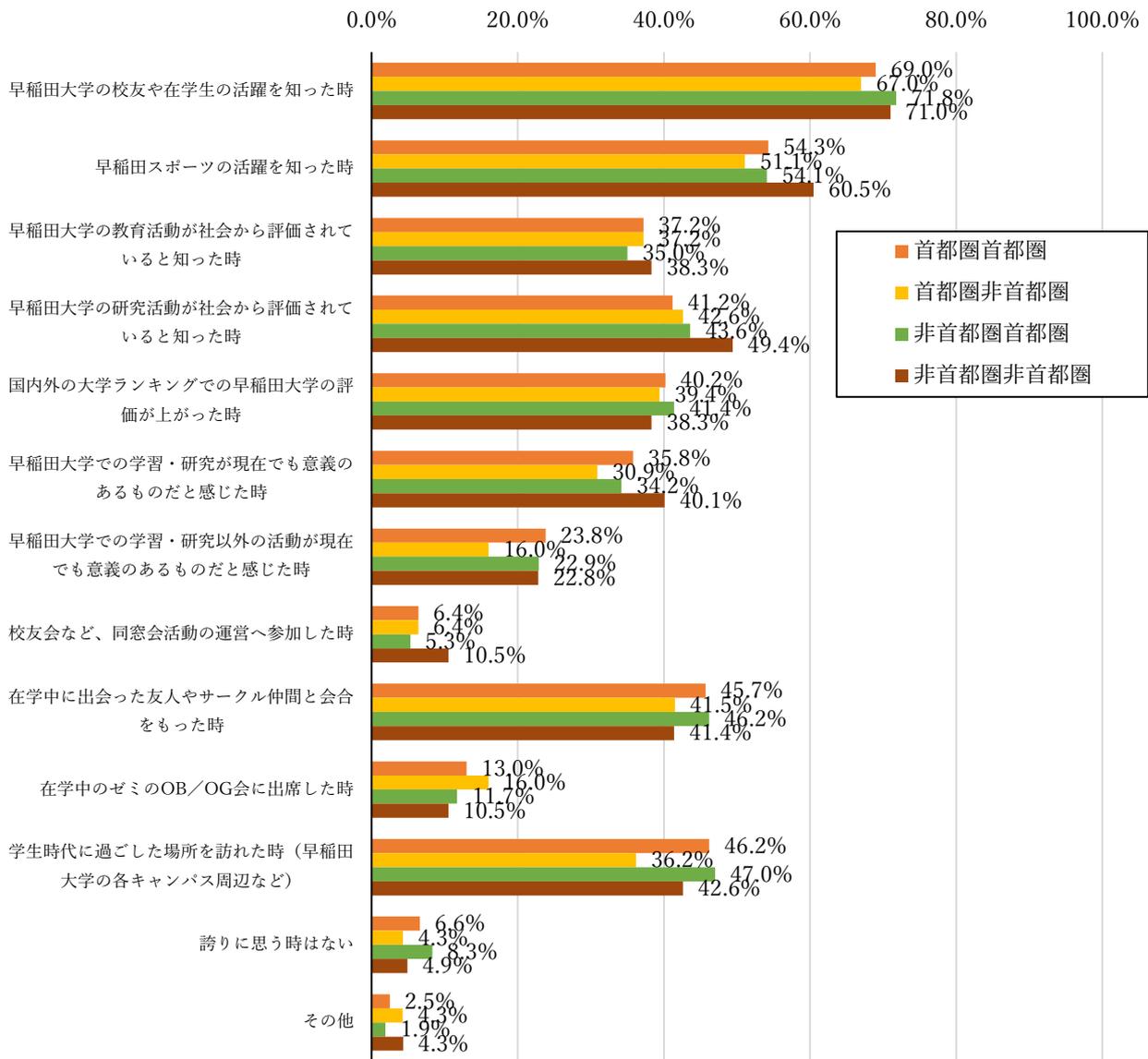


図4-72 校友として誇りを感じる時（移動タイプ別）

・早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段

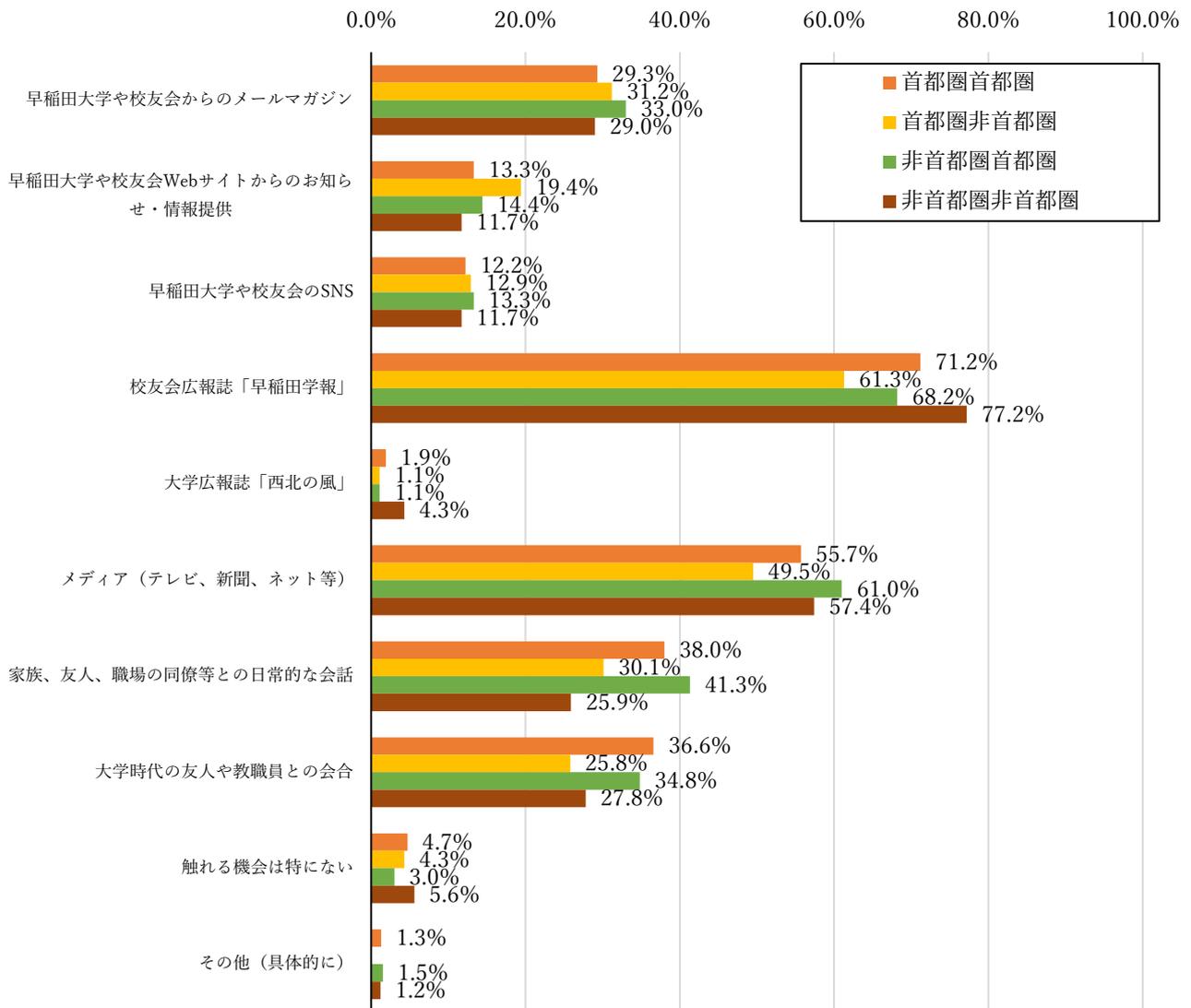


図 4-73 校友として早稲田大学に関する情報に触れる機会（移動タイプ別）

2020年度 卒業生調査 集計表

目次

I. 調査概要	93
----------------	-----------

II. 調査項目（グレー部分の自由記述は省略）	94
--------------------------------	-----------

1. 基本情報	94
----------------	-----------

- Q01. あなたの年齢（2020年1月1日現在）を記入してください。
- Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。
- Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。
- Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。
- Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

2. 入学時について	103
-------------------	------------

- Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。
- Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。
- Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。
- Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。
- Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。
- Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。
- Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

3. 在学時の経験	109
------------------	------------

- Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。
- Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きます。以下のような経験はどのくら

いありましたか。

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

4. 卒業後の経験・生活

113

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。

Q36. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するものを一つだけお選びください。

Q37. その友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。

Q40. あなたが本学での学びから得た知識やスキル・経験は、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。

Q41. 授業、カリキュラム、教員の指導など、本学が改善すべきであると思う点などについて、ご意見をお聞かせください。

Q42. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q43. 早稲田大学の校友(卒業生)であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

Q44. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

I. 調査概要

- ◆ **調査方法** ダイレクトメールの送付とメール配信を通じた「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ **調査時期** 2020年12月26日（土）～2021年2月10日（水）
- ◆ **調査対象者** 早稲田大学の2007年度学部入学者 8,762名
- ◆ **回収状況** 1,350件 回収率（15.4%）
- ◆ **調査結果引用に関するお願い**

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

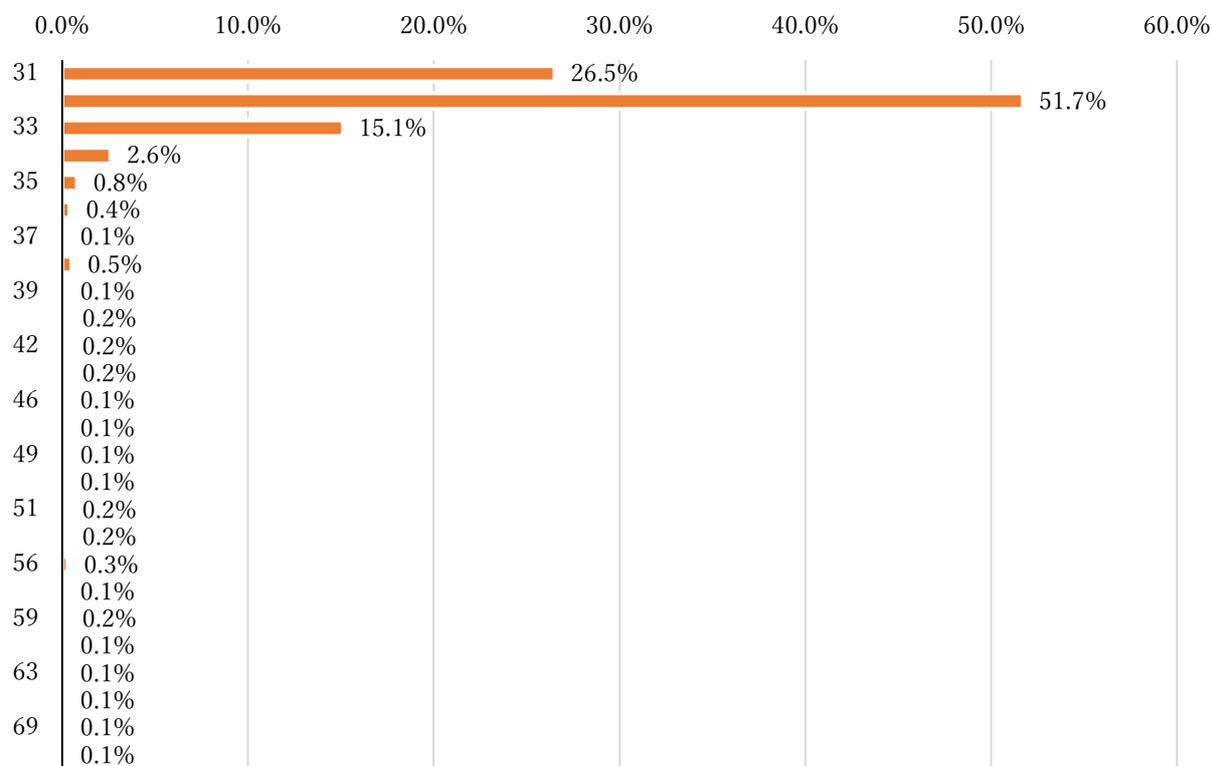
著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2020年度 早稲田大学卒業生調査

II. 調査項目

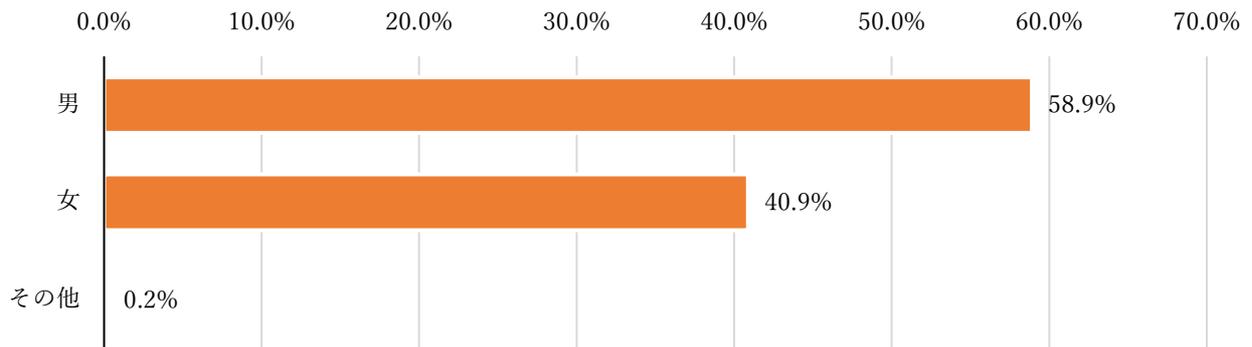
1. 基本情報

Q01. あなたの年齢（2020年1月1日現在）を記入してください。



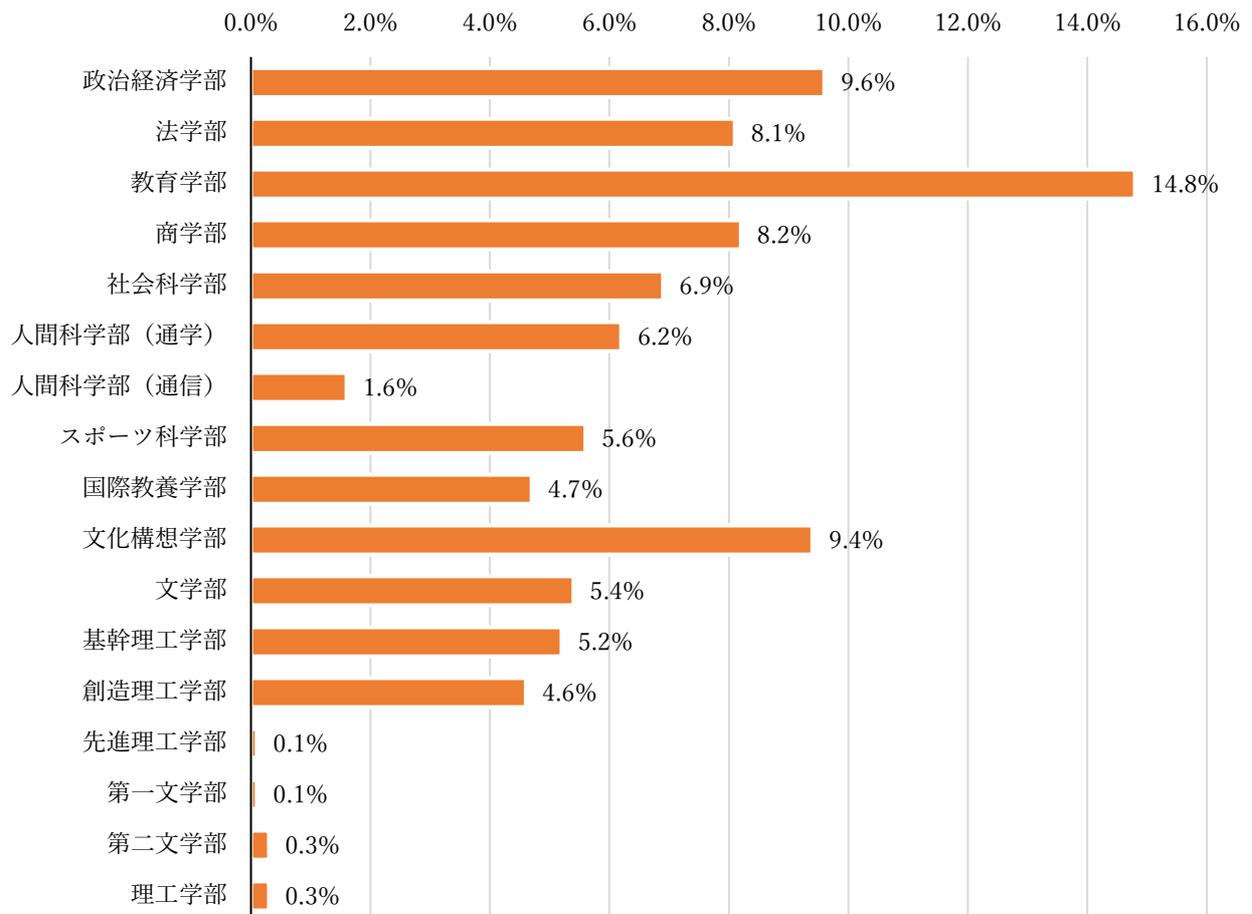
31 歳	341	48 歳	1
32 歳	665	49 歳	1
33 歳	194	50 歳	1
34 歳	34	51 歳	2
35 歳	10	55 歳	2
36 歳	5	56 歳	4
37 歳	1	58 歳	1
38 歳	7	59 歳	3
39 歳	1	60 歳	1
40 歳	3	63 歳	1
42 歳	3	64 歳	1
43 歳	2	69 歳	1
46 歳	1	71 歳	1

Q02. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。



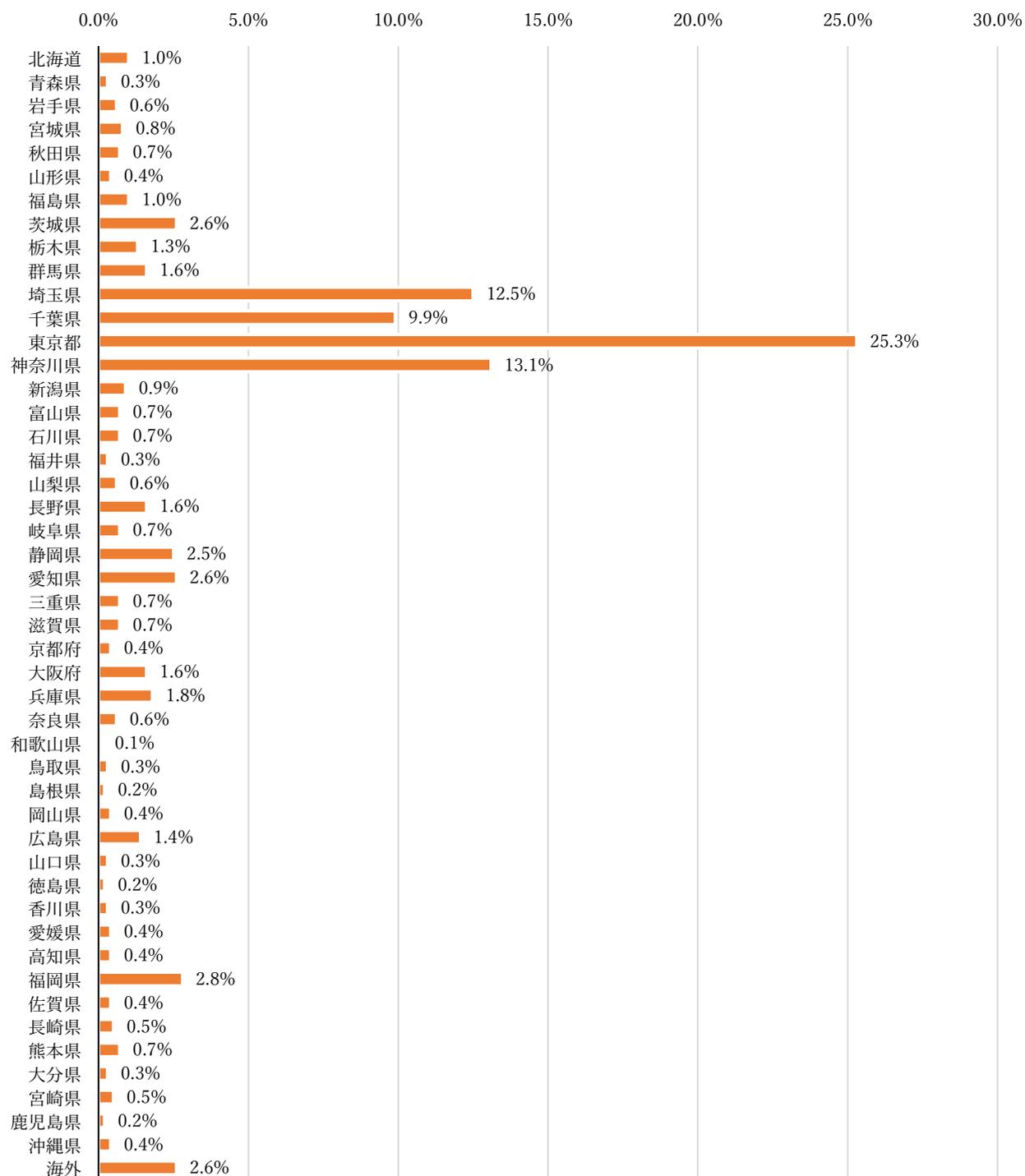
男	791
女	549
その他	3

Q03. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。



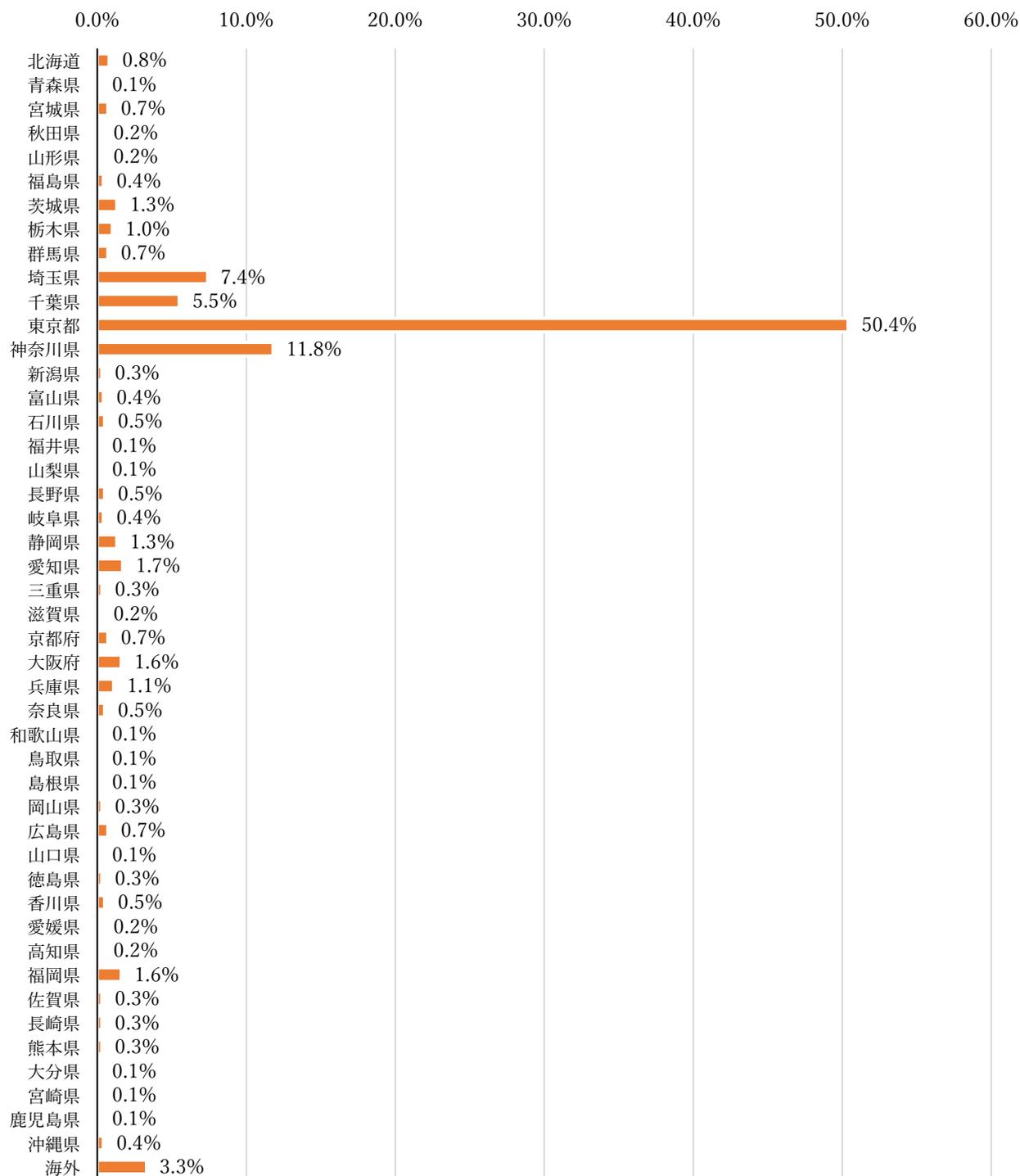
政治経済学部	129	文化構想学部	122
法学部	109	文学部	126
教育学部	199	基幹理工学部	72
商学部	110	創造理工学部	70
社会科学部	92	先進理工学部	62
人間科学部（通学）	83	第一文学部	2
人間科学部（通信）	22	第二文学部	2
スポーツ科学部	75	理工学部	4
国際教養学部	63		

Q04. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



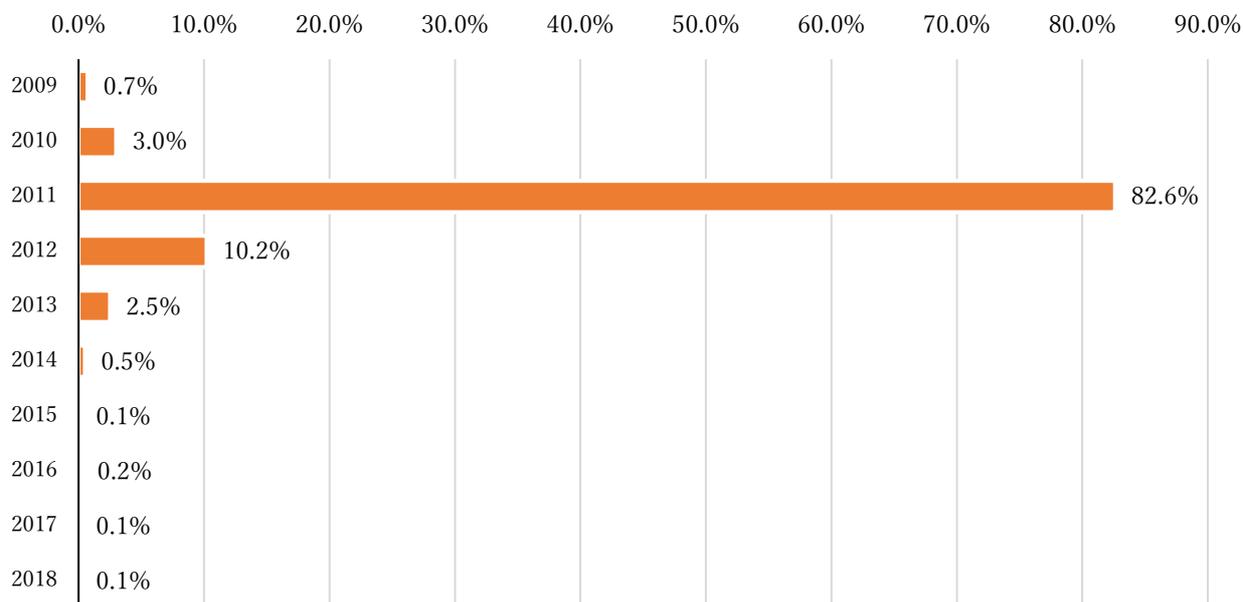
北海道	14	滋賀県	9
青森県	4	京都府	6
岩手県	8	大阪府	22
宮城県	11	兵庫県	24
秋田県	10	奈良県	8
山形県	6	和歌山県	2
福島県	13	鳥取県	4
茨城県	35	島根県	3
栃木県	17	岡山県	5
群馬県	22	広島県	19
埼玉県	168	山口県	4
千葉県	133	徳島県	3
東京都	340	香川県	4
神奈川県	176	愛媛県	5
新潟県	12	高知県	5
富山県	10	福岡県	37
石川県	9	佐賀県	5
福井県	4	長崎県	7
山梨県	8	熊本県	9
長野県	22	大分県	4
岐阜県	9	宮崎県	7
静岡県	33	鹿児島県	3
愛知県	35	沖縄県	6
三重県	10	海外	35

Q05. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

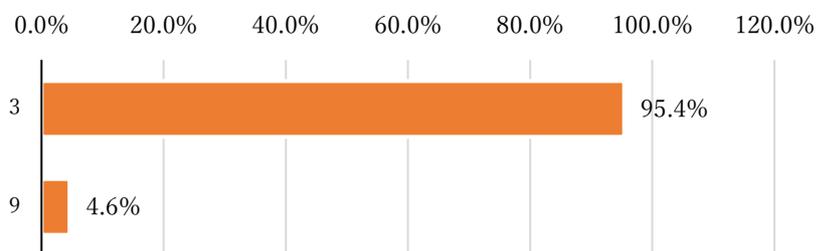


北海道	11	京都府	9
青森県	2	大阪府	22
宮城県	9	兵庫県	15
秋田県	3	奈良県	7
山形県	3	和歌山県	2
福島県	6	鳥取県	2
茨城県	18	島根県	1
栃木県	14	岡山県	4
群馬県	9	広島県	10
埼玉県	100	山口県	2
千葉県	74	徳島県	4
東京都	679	香川県	7
神奈川県	159	愛媛県	3
新潟県	4	高知県	3
富山県	5	福岡県	21
石川県	7	佐賀県	4
福井県	1	長崎県	4
山梨県	2	熊本県	4
長野県	7	大分県	2
岐阜県	6	宮崎県	2
静岡県	18	鹿児島県	2
愛知県	23	沖縄県	5
三重県	4	海外	44
滋賀県	3		

Q06. あなたが早稲田大学を卒業した年（西暦）・月を記入してください。※大学院等へ進学し、修了した方も「学部」の卒業年月をお答えください。

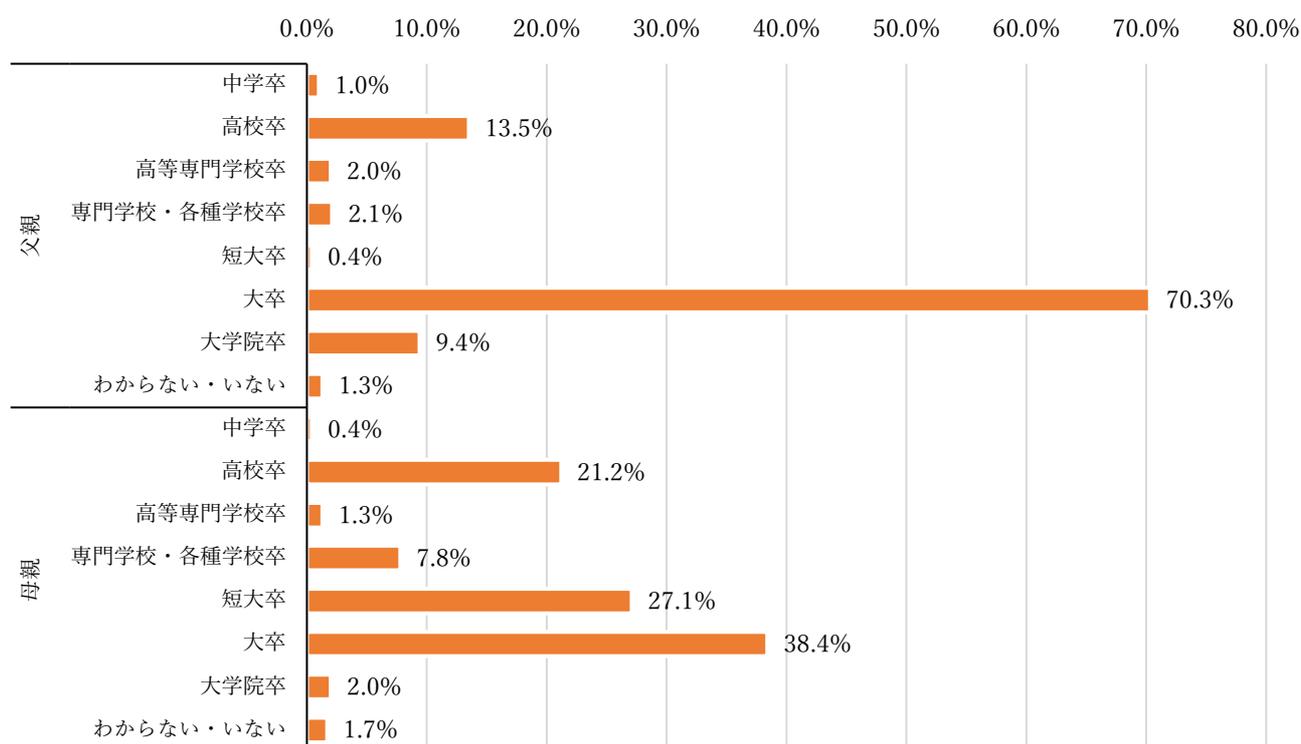


2009年	10
2010年	40
2011年	1,112
2012年	137
2013年	34
2014年	7
2015年	1
2016年	3
2017年	1
2018年	1



3月	1,274
9月	62

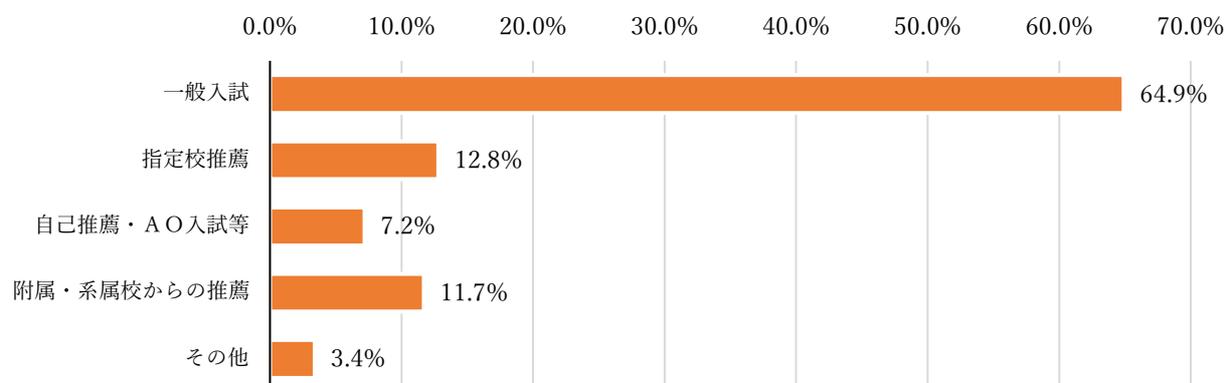
Q07. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。



父親	中学卒	13
	高校卒	182
	高等専門学校卒	27
	専門学校・各種学校卒	28
	短大卒	6
	大卒	947
	大学院卒	127
	わからない・いない	17
母親	中学卒	6
	高校卒	285
	高等専門学校卒	17
	専門学校・各種学校卒	105
	短大卒	364
	大卒	516
	大学院卒	27
	わからない・いない	23

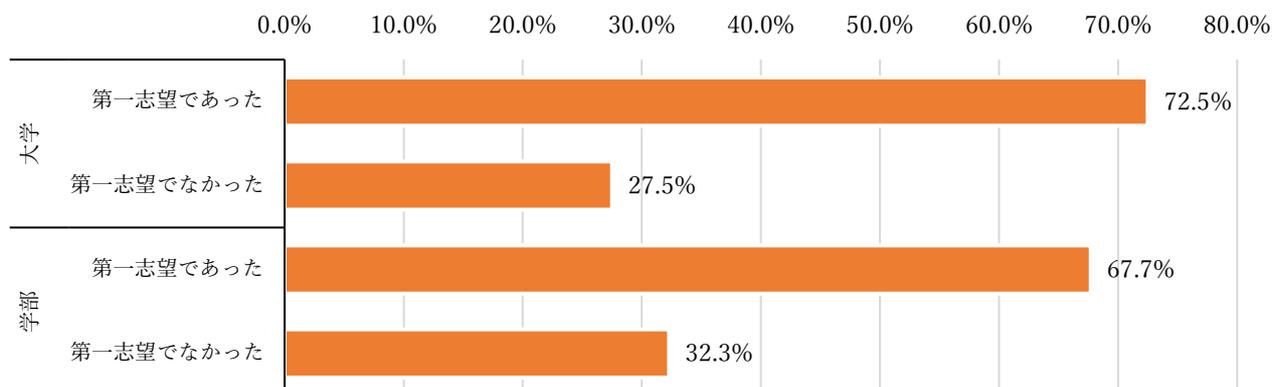
2. 入学時について

Q08. あなたが大学に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。



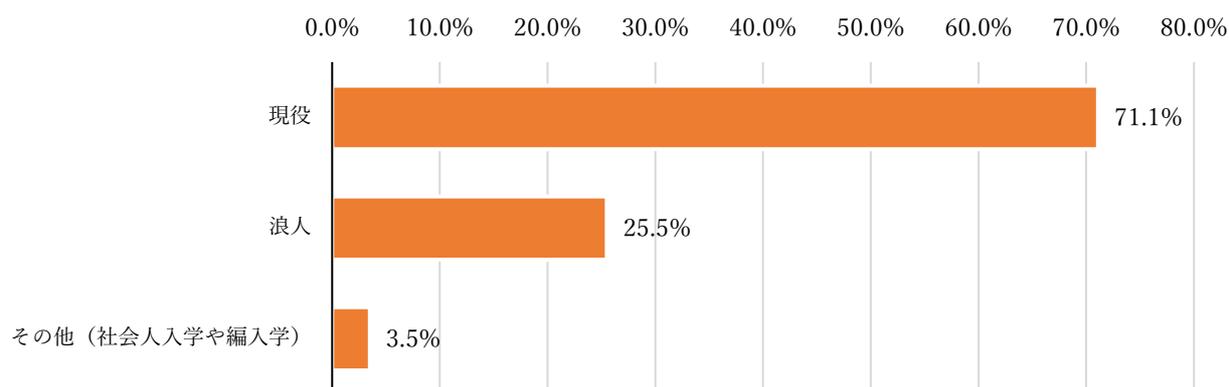
一般入試	858
指定校推薦	170
自己推薦・AO入試等	95
附属・系属校からの推薦	155
その他	45

Q09. 早稲田大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。それぞれお選びください。



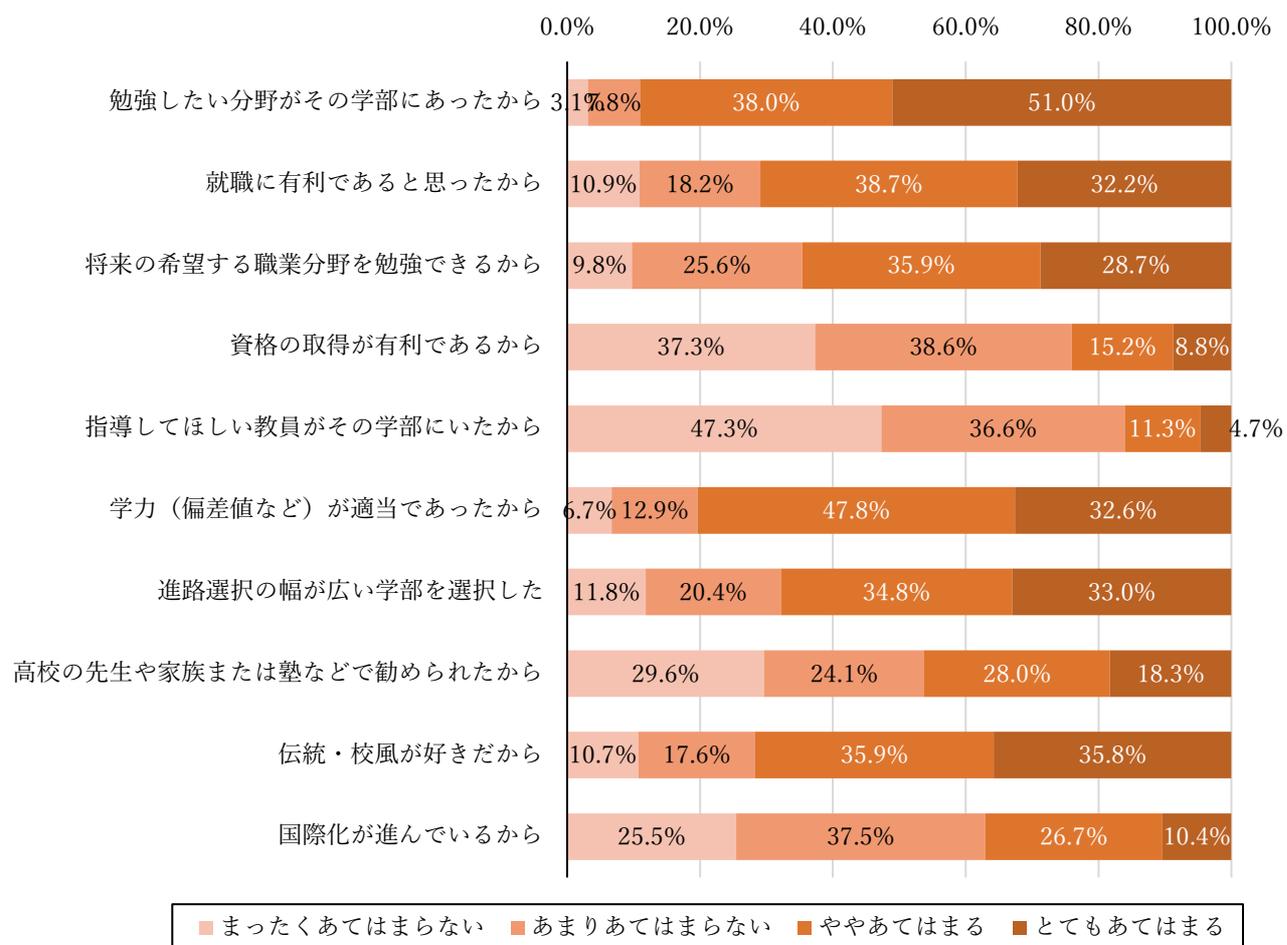
大学	第一志望であった	960
	第一志望でなかった	364
学部	第一志望であった	877
	第一志望でなかった	419

Q10. あなたは現役で入学しましたか。あてはまるものを一つだけお選びください。



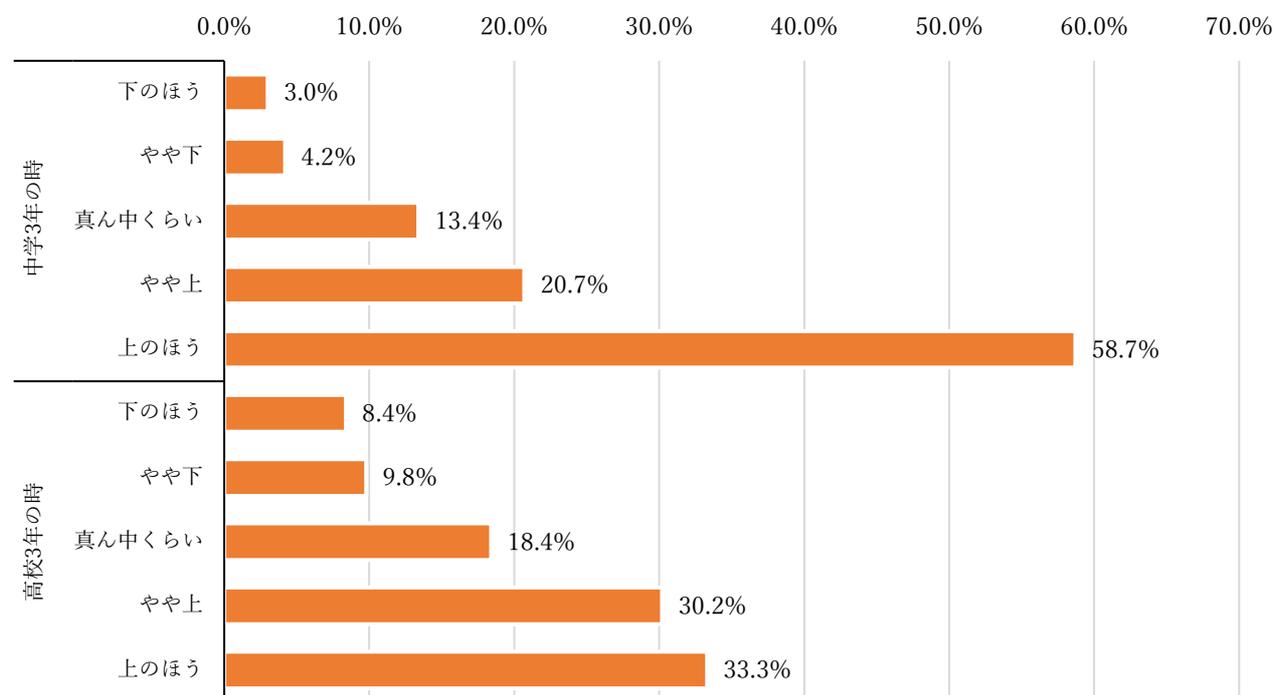
現役	940
浪人	337
その他 (社会人入学や編入学)	46

Q11. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。



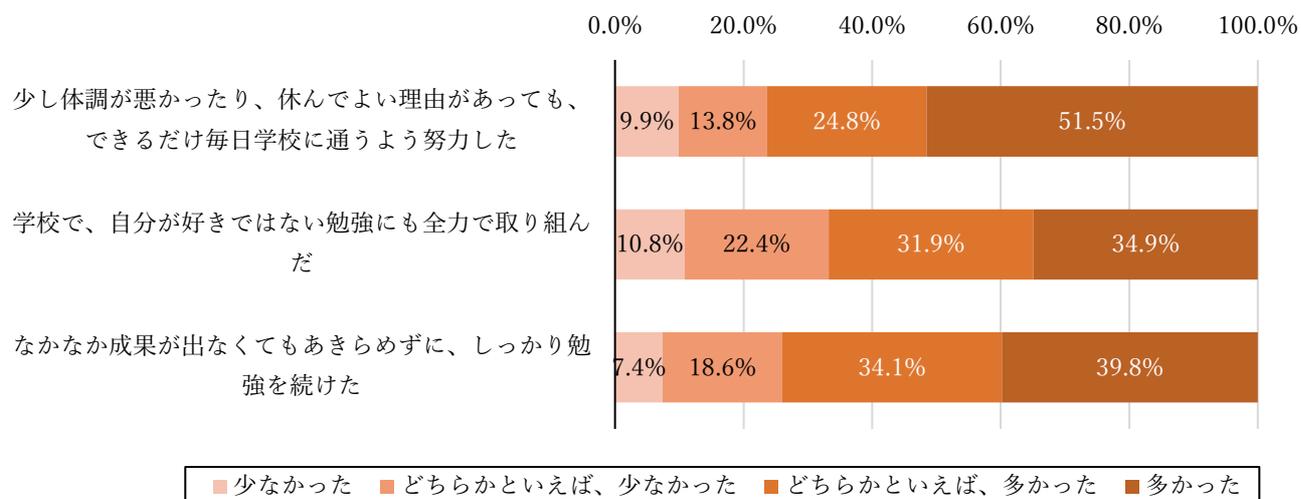
	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
勉強したい分野がその学部にあったから	41	103	500	671
就職に有利であると思ったから	143	238	508	422
将来の希望する職業分野を勉強できるから	128	336	471	377
資格の取得が有利であるから	488	505	199	115
指導してほしい教員がその学部にいるから	619	479	148	62
学力（偏差値など）が適当であったから	88	170	627	428
進路選択の幅が広い学部を選択した	155	267	457	433
高校の先生や家族または塾などで勧められたから	389	316	367	240
伝統・校風が好きだから	141	231	471	470
国際化が進んでいるから	333	490	349	136

Q12. 中学3年の時と高校3年の時の成績は、あなたの通っていた学校のなかでどのあたりでしたか。



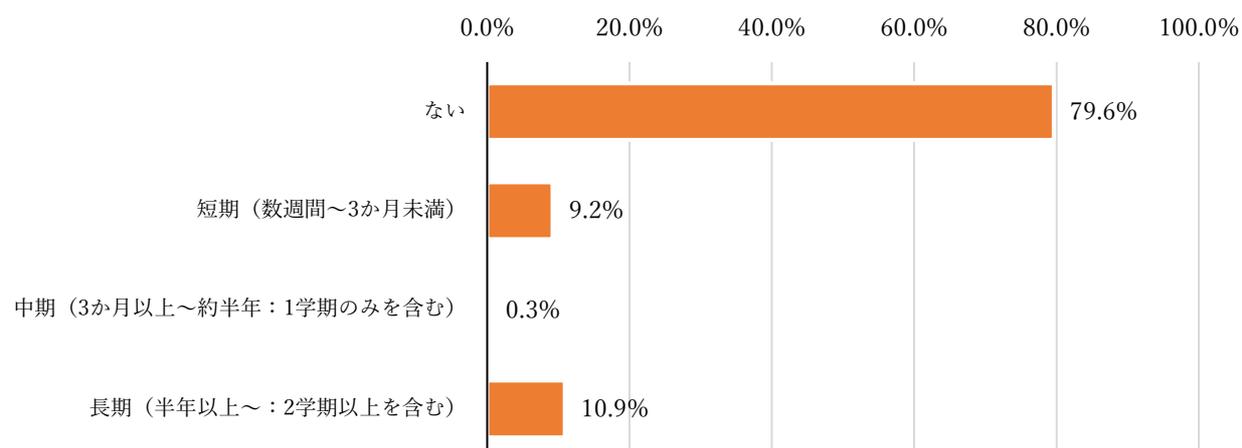
中学3年の時	下のほう	40
	やや下	55
	真ん中くらい	177
	やや上	274
	上のほう	776
高校3年の時	下のほう	111
	やや下	129
	真ん中くらい	243
	やや上	399
	上のほう	441

Q13. あなたが中学生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



	少なかった	どちらか といえ ば、少 な か っ た	どちらか といえ ば、多 か っ た	多 か っ た
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があっても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	131	182	328	681
学校で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	143	296	421	461
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	98	246	451	526

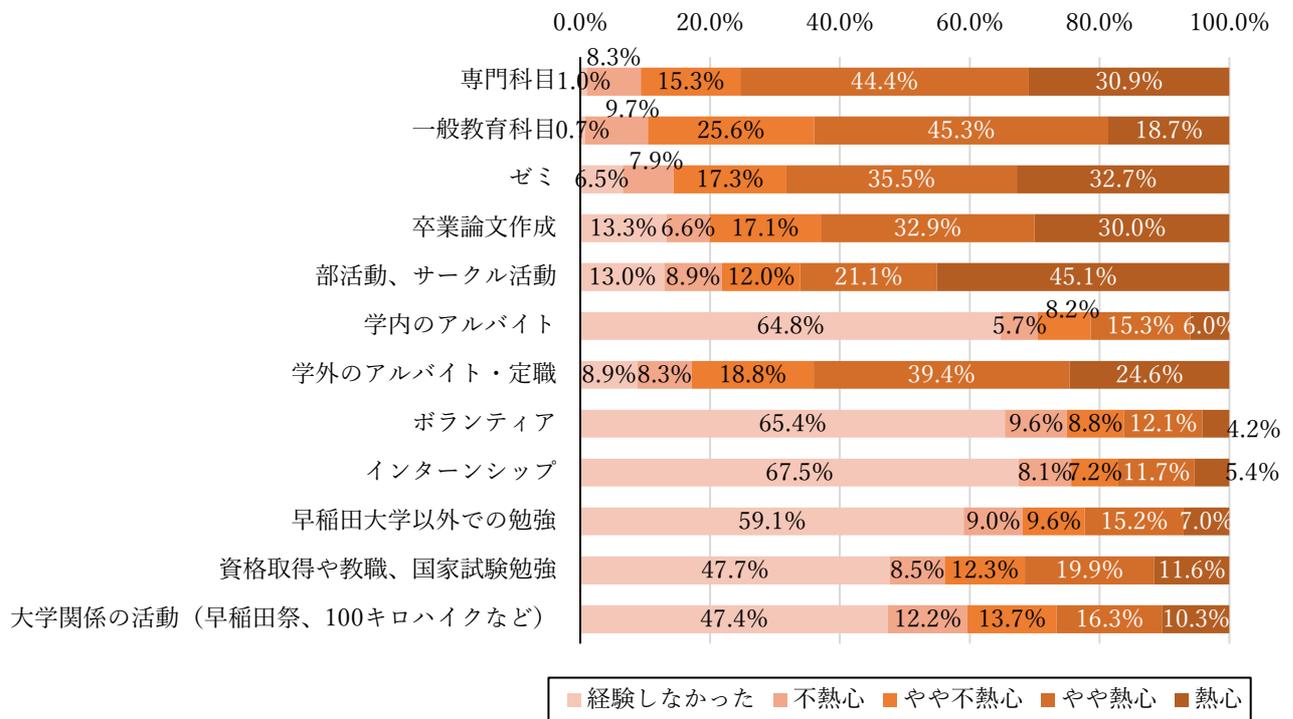
Q14. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。



ない	1,054
短期 (数週間～3か月未満)	122
中期 (3か月以上～約半年：1学期のみを含む)	4
長期 (半年以上～：2学期以上を含む)	144

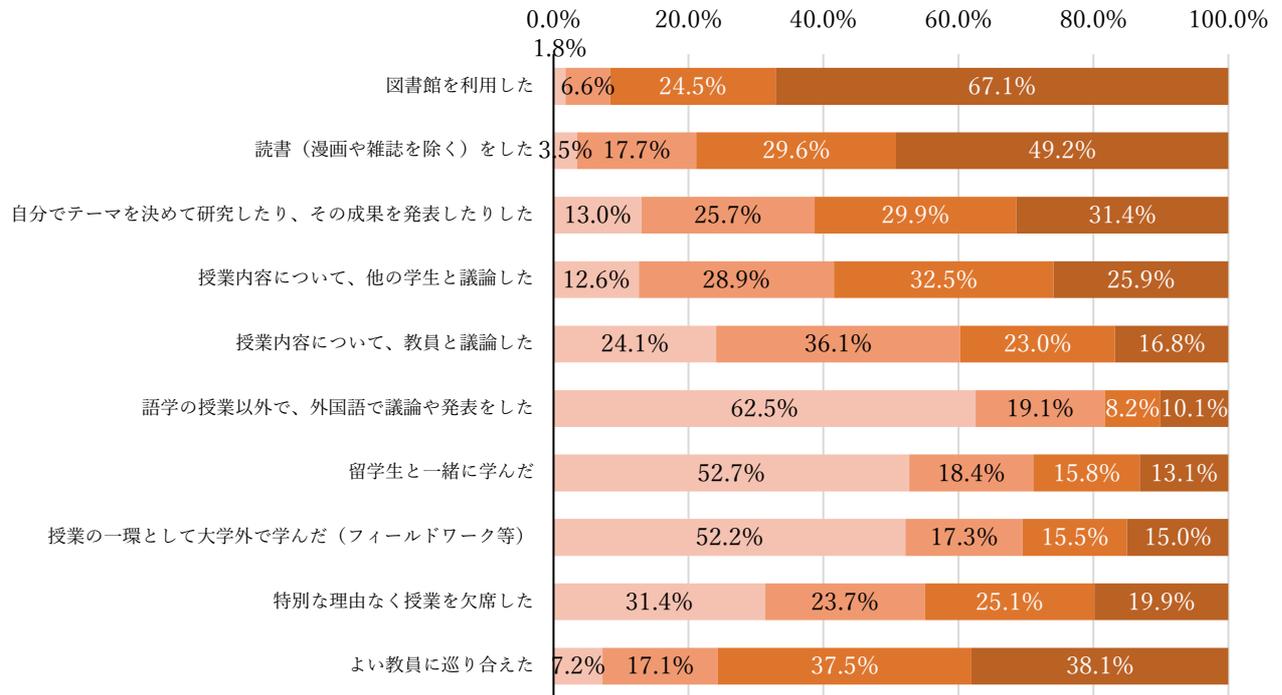
3. 在学時の経験

Q15. あなたは学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。



	経験しなかった	不熱心	やや不熱心	やや熱心	熱心
専門科目	13	108	199	576	401
一般教育科目	9	126	332	588	242
ゼミ	85	102	225	461	425
卒業論文作成	172	86	222	426	389
部活動、サークル活動	168	115	156	273	584
学内のアルバイト (TA、研究補助、入試監督、PCルーム管理、図書貸出、キャンパスツアーガイドなど)	841	74	106	199	78
学外のアパート・定職	115	108	244	512	320
ボランティア	849	124	114	157	54
インターンシップ	876	105	94	152	70
早稲田大学以外での勉強	764	117	124	197	91
資格取得や教職、国家試験勉強	619	110	160	258	151
大学関係の活動 (早稲田祭、100キロハイクなど)	615	159	178	212	134

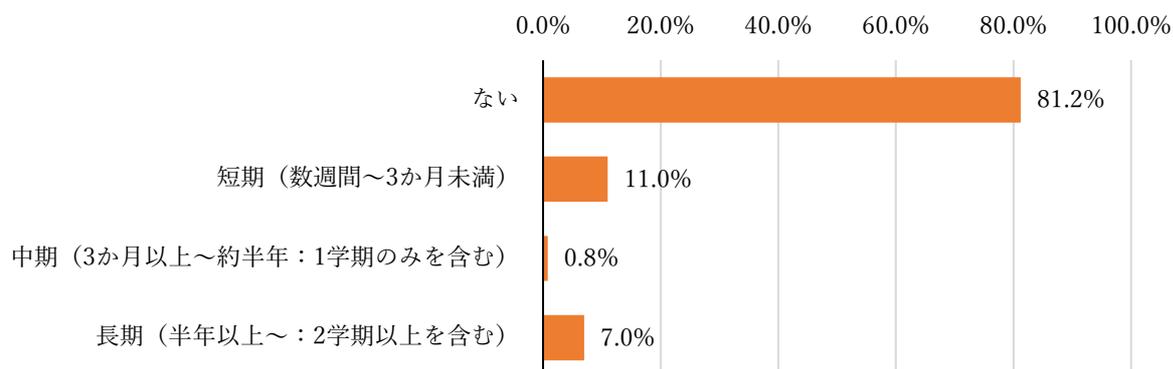
Q16. 学部在学中の早稲田大学におけるあなたの経験をお聞きします。以下のような経験はどのくらいありましたか。



■まったくあてはまらない ■あまりあてはまらない ■ややあてはまる ■あてはまる

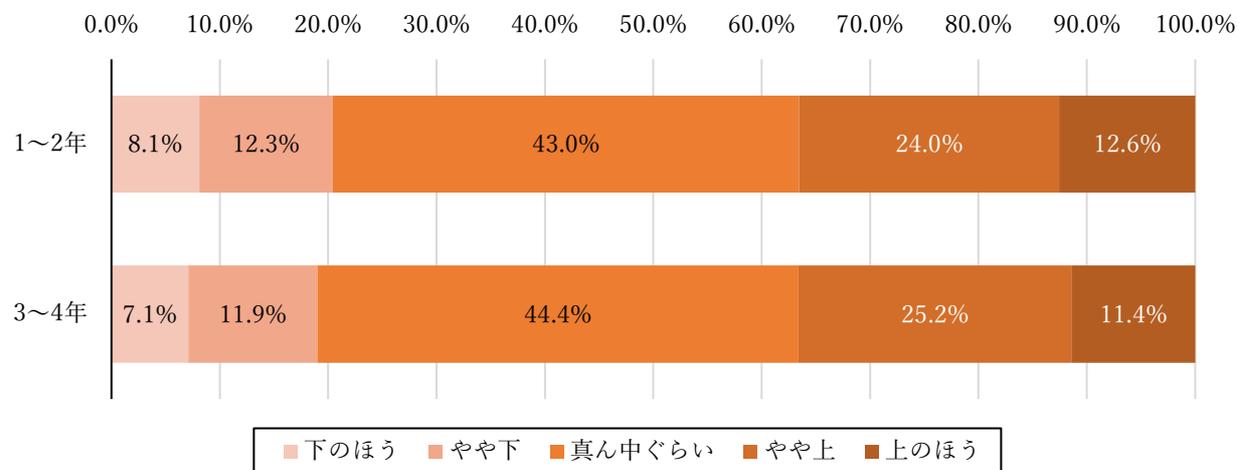
	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
図書館を利用した	23	86	318	871
読書（漫画や雑誌を除く）をした	45	229	384	638
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	169	333	388	408
授業内容について、他の学生と議論した	164	375	422	336
授業内容について、教員と議論した	313	469	298	218
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	811	248	107	131
留学生と一緒に学んだ	683	238	205	170
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	677	225	201	195
特別な理由なく授業を欠席した	407	307	326	258
よい教員に巡り合えた	94	222	487	494

Q17. 大学（学部）在学中に留学をしたことはありますか。複数ある場合には、より長い期間を選んでください。



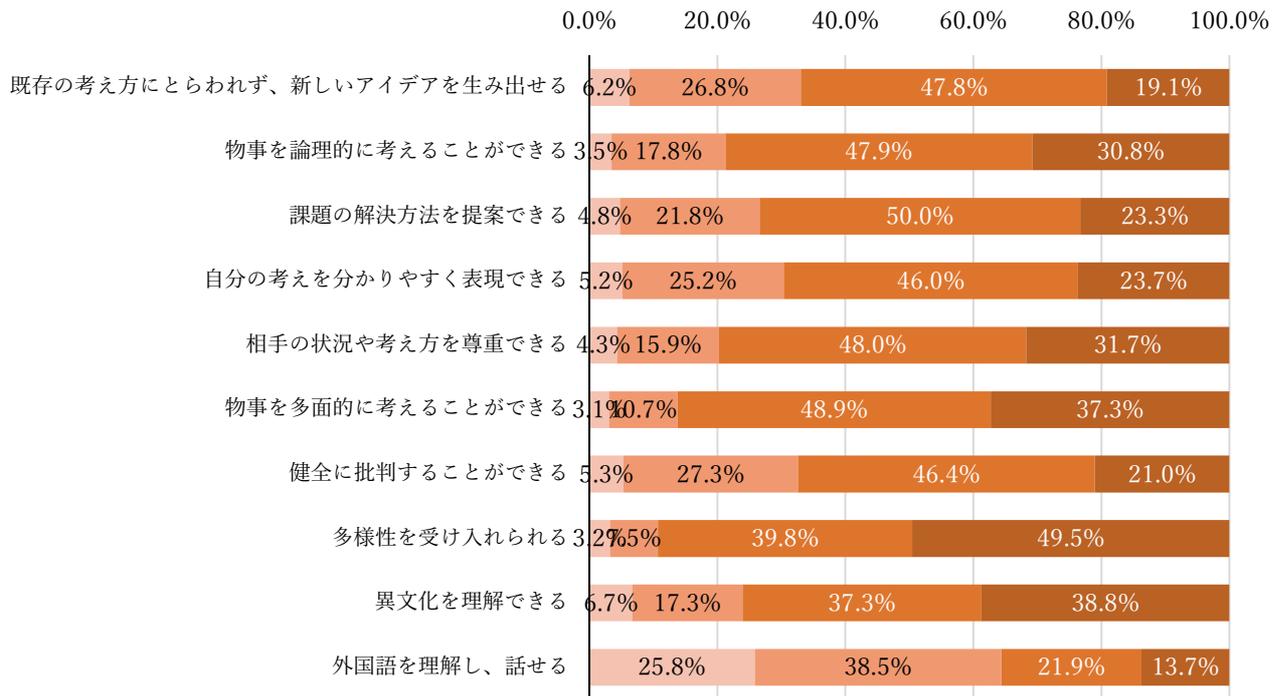
ない	1,054
短期（数週間～3か月未満）	143
中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	10
長期（半年以上～：2学期以上を含む）	91

Q18. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。



	下のほう	やや下	真ん中ぐら い	やや上	上のほう
1～2年	105	160	558	311	163
3～4年	92	154	575	326	148

Q19. 早稲田大学の学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

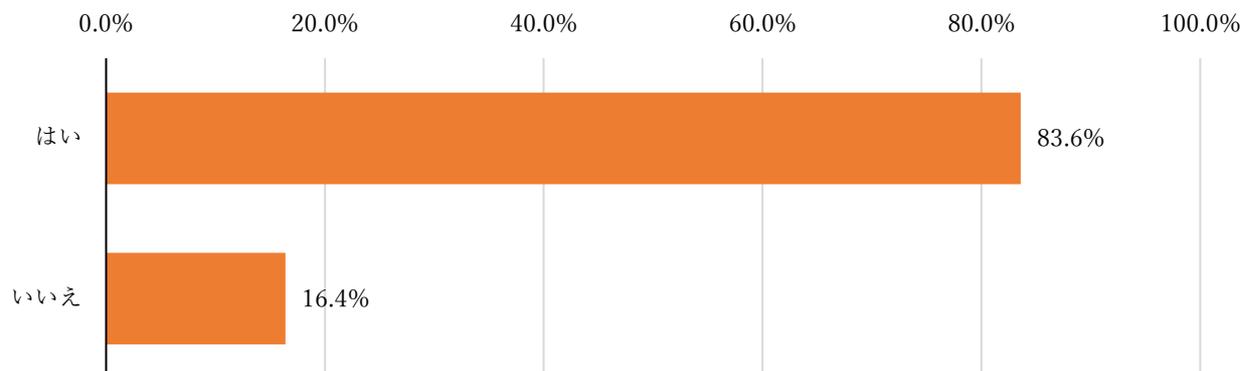


■ 身につけていない ■ あまり身につけていない ■ まあまあ身についた ■ 身についた

	身につけていない	あまり身につけていない	まあまあ身についた	身についた
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	81	348	621	248
物事を論理的に考えることができる	45	231	622	400
課題の解決方法を提案できる	62	283	649	302
自分の考えを分かりやすく表現できる	67	327	597	307
相手の状況や考え方を尊重できる	56	207	623	412
物事を多面的に考えることができる	40	139	635	484
健全に批判することができる	69	354	602	273
多様性を受け入れられる	42	97	516	643
異文化を理解できる	87	224	484	503
外国語を理解し、話せる	335	500	284	178

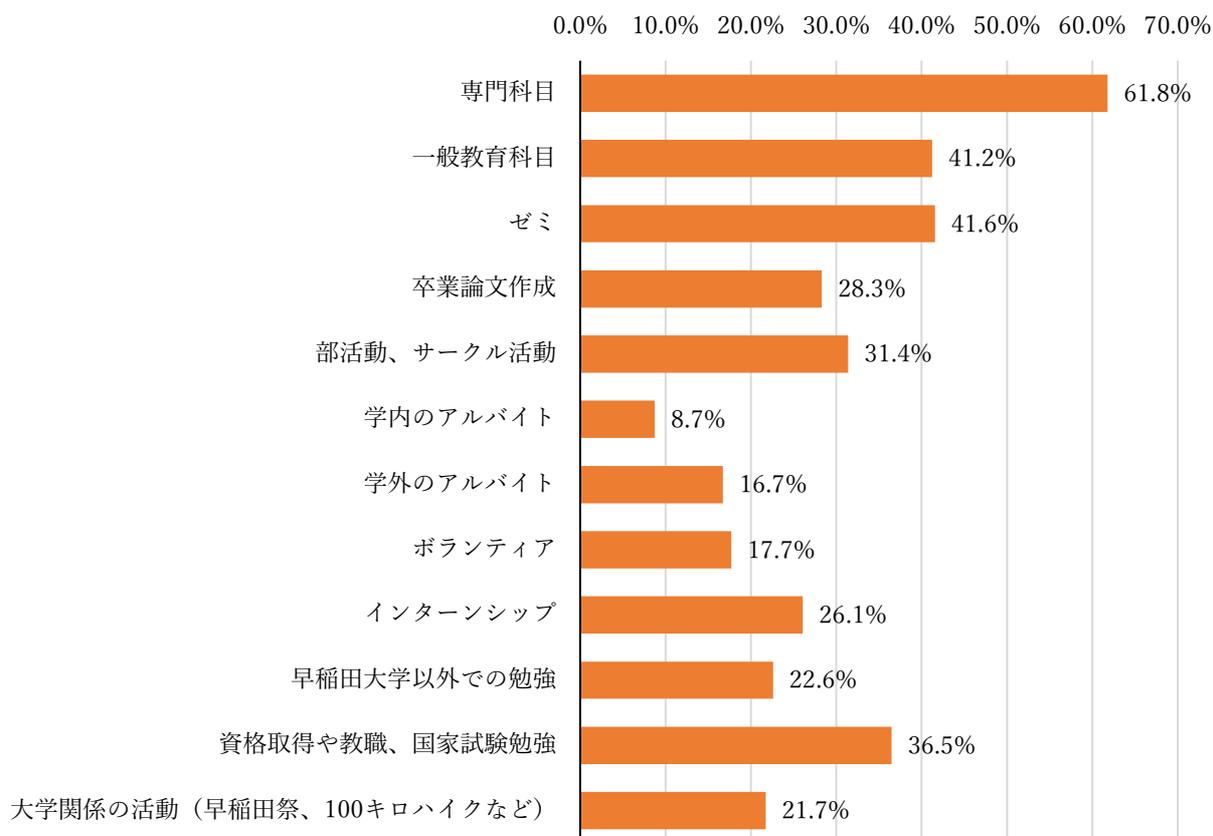
4. 卒業後の経験・生活

Q20. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。



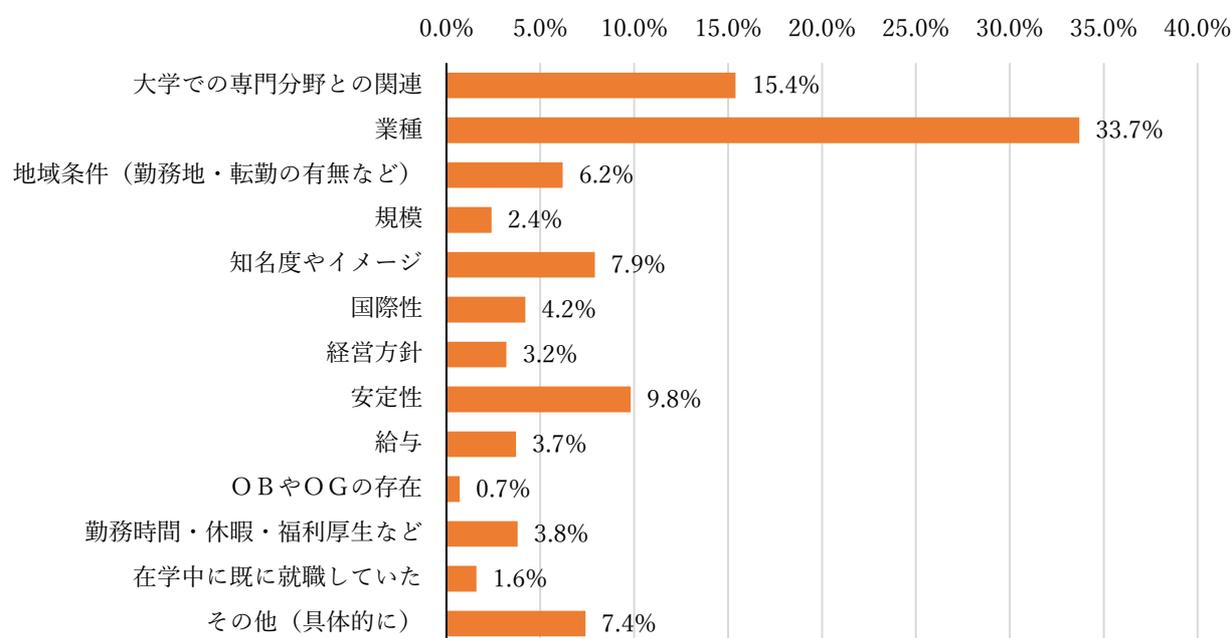
はい	1,078
いいえ	212

Q21. 学部在学中にもっと熱心に取り組めばよかったと思うものを、すべて選んでください。



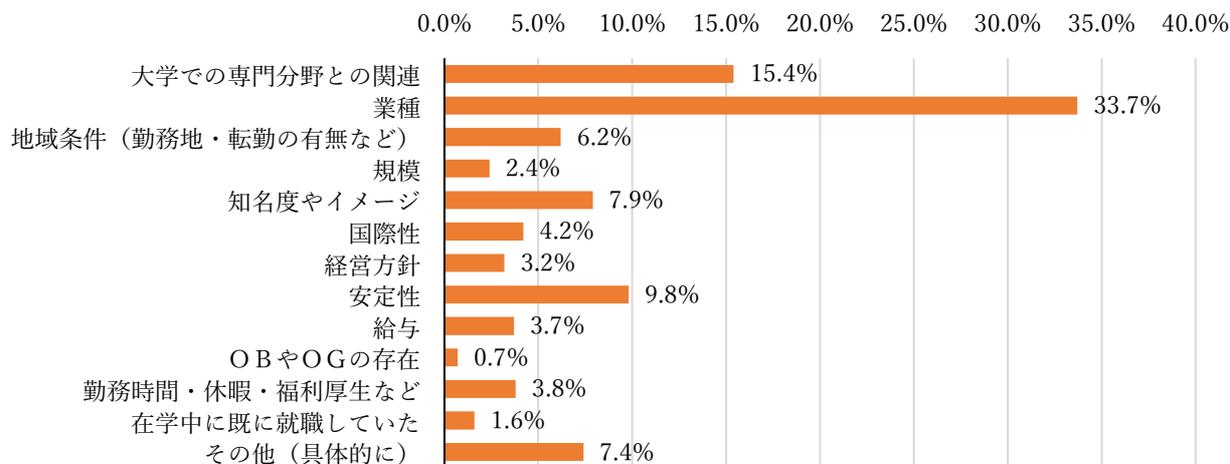
専門科目	779	学外のアルバイト	211
一般教育科目	520	ボランティア	223
ゼミ	524	インターンシップ	329
卒業論文作成	357	早稲田大学以外での勉強	285
部活動、サークル活動	396	資格取得や教職、国家試験勉強	460
学内のアルバイト	110	大学関係の活動（早稲田祭、 100キロハイクなど）	274

Q22. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。該当するものを一つだけお選びください。



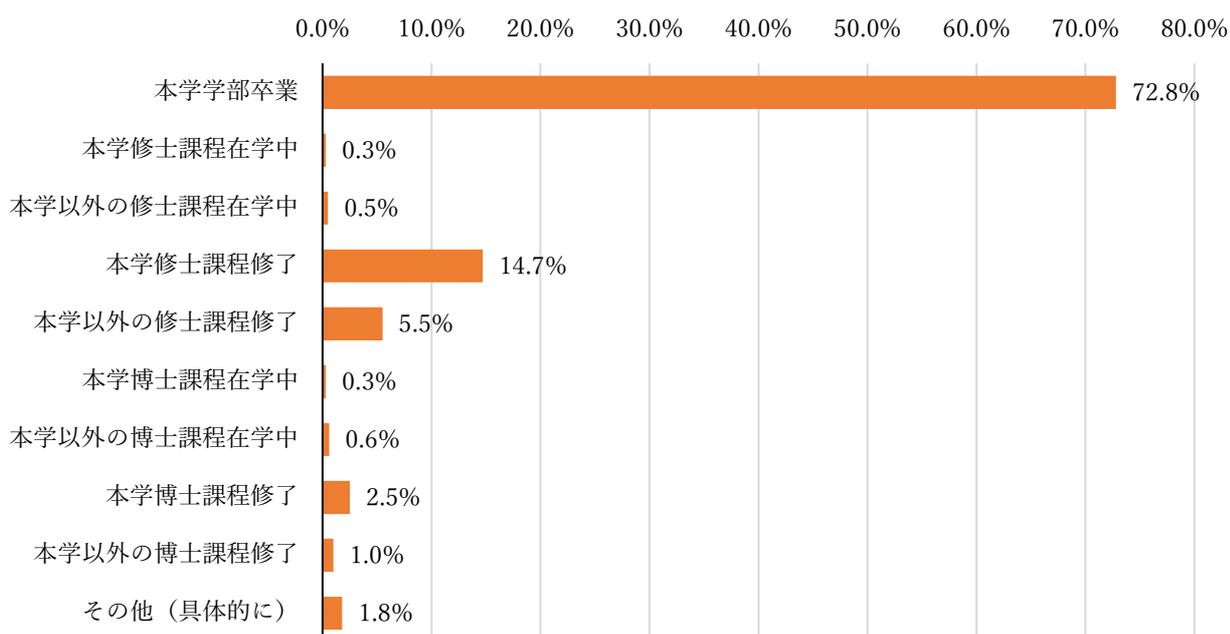
就職した	859
自分で事業（自営）を始めた	6
早稲田大学の大学院に進学した	237
他大学の大学院に進学した	74
就職活動を行った	28
資格試験準備を行った	19
仕事にも就かず、学校にも行かなかった	21
在学中に既に就職していた	14
その他（具体的に）	37

Q23. 就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。該当するものを一つだけお選びください。



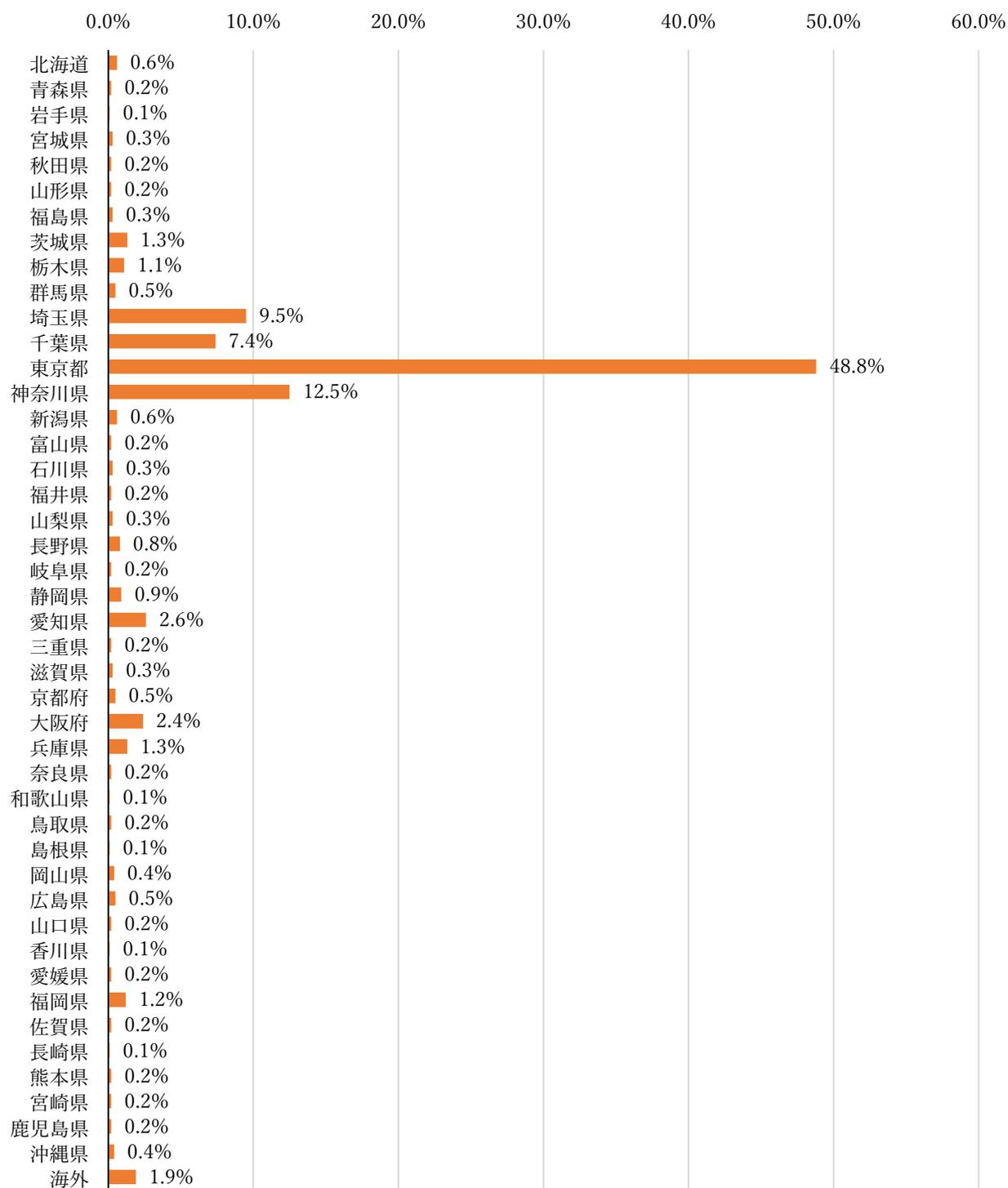
大学での専門分野との関連	198	安定性	126
業種	433	給与	47
地域条件（勤務地・転勤の有無など）	79	OBやOGの存在	9
規模	31	勤務時間・休暇・福利厚生など	49
知名度やイメージ	101	在学中に既に就職していた	20
国際性	54	その他（具体的に）	95
経営方針	41		

Q24. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。



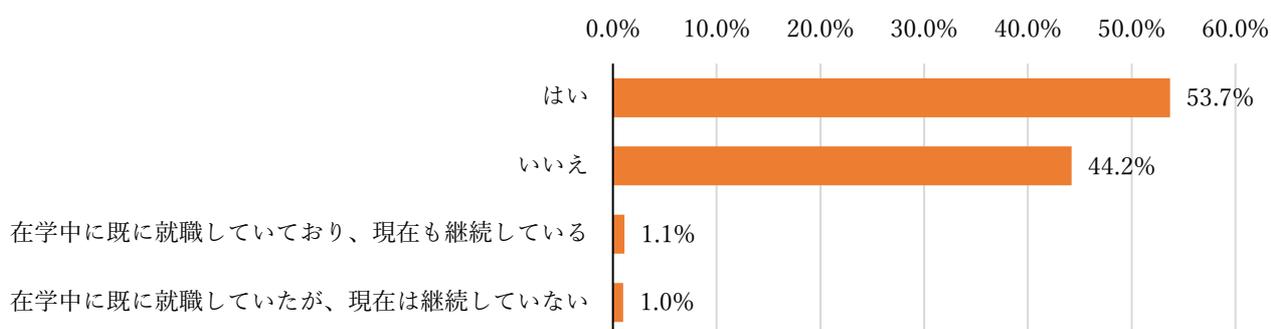
本学学部卒業	941
本学修士課程在学中	4
本学以外の修士課程在学中	7
本学修士課程修了	190
本学以外の修士課程修了	71
本学博士課程在学中	4
本学以外の博士課程在学中	8
本学博士課程修了	32
本学以外の博士課程修了	13
その他（具体的に）	23

Q25. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。



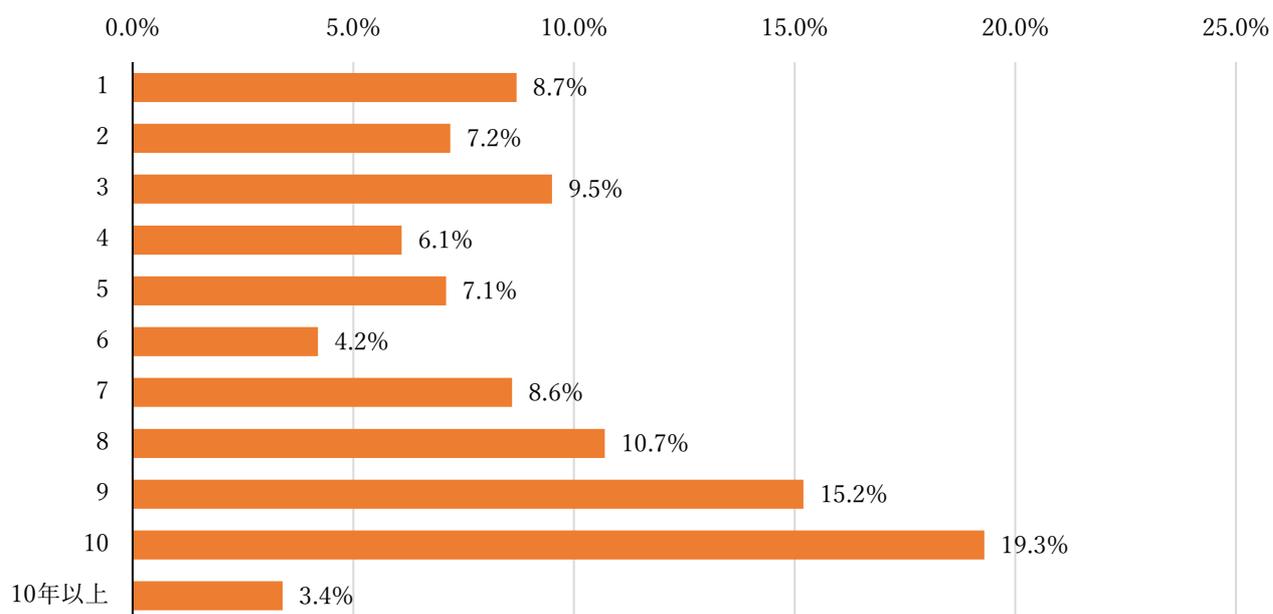
北海道	8	三重県	2
青森県	2	滋賀県	4
岩手県	1	京都府	6
宮城県	4	大阪府	31
秋田県	2	兵庫県	17
山形県	3	奈良県	3
福島県	4	和歌山県	1
茨城県	17	鳥取県	2
栃木県	14	島根県	1
群馬県	7	岡山県	5
埼玉県	123	広島県	6
千葉県	95	山口県	2
東京都	629	香川県	1
神奈川県	161	愛媛県	3
新潟県	8	福岡県	16
富山県	2	佐賀県	2
石川県	4	長崎県	1
福井県	2	熊本県	3
山梨県	4	宮崎県	2
長野県	10	鹿児島県	3
岐阜県	3	沖縄県	5
静岡県	12	海外	24
愛知県	33		

Q26. 卒業後最初についてのお仕事は、現在も継続されていますか。出向や転勤などで異動している場合は、同じ会社・団体・組織としてください。



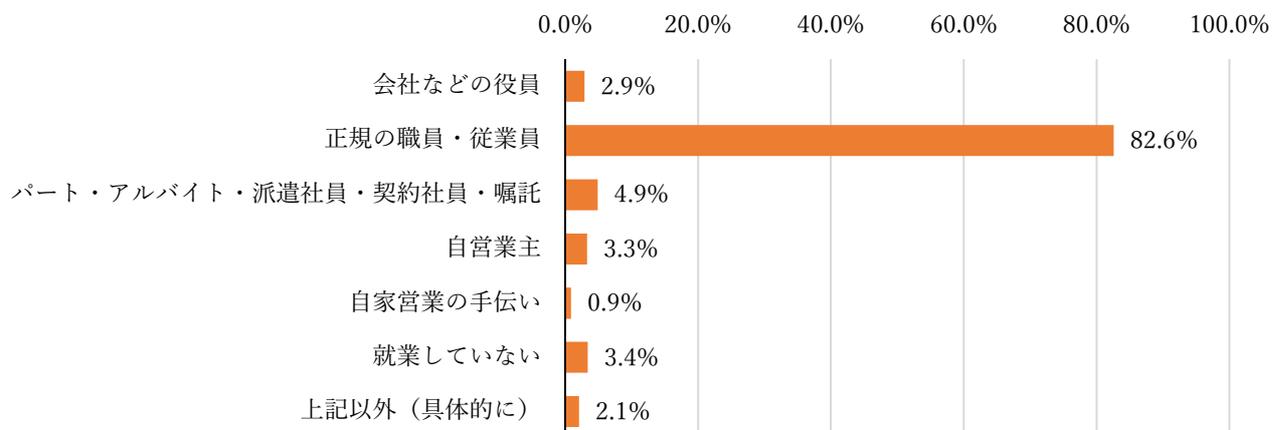
はい	695
いいえ	572
在学中に既に就職しており、現在も継続している	14
在学中に既に就職していたが、現在は継続していない	13

Q27. 学部・大学院等の卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。



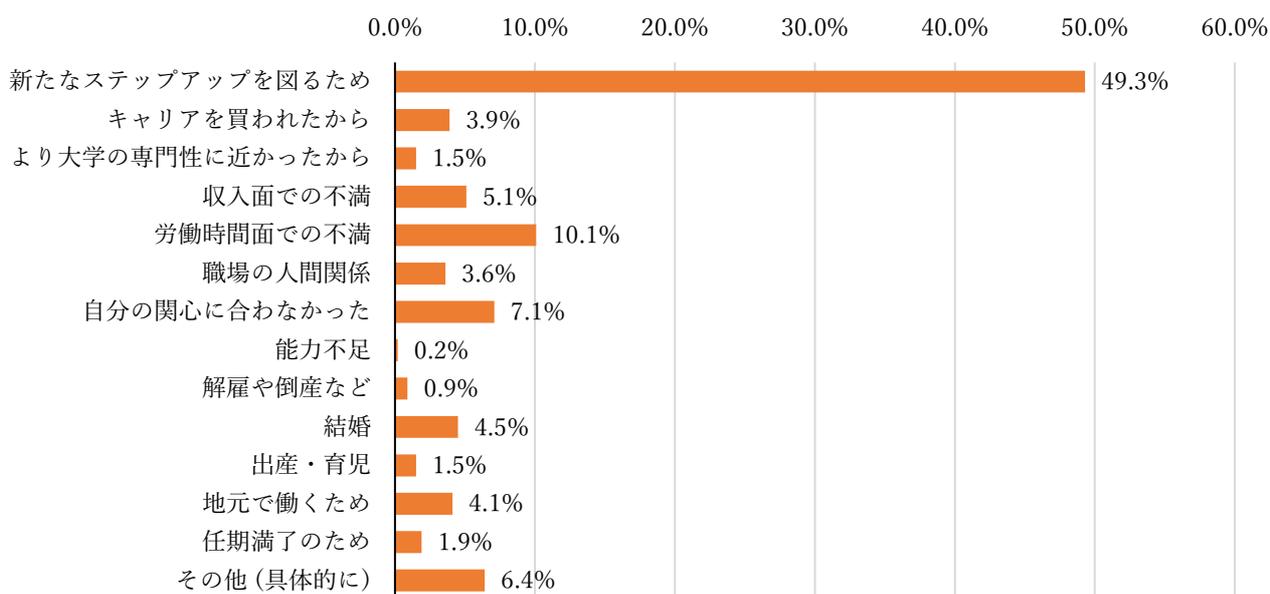
1年	109
2年	90
3年	118
4年	76
5年	89
6年	52
7年	107
8年	134
9年	190
10年	241
10年以上	42

Q28. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。 ※
 現在、就業していない方は、「就業していない」を選択してください。



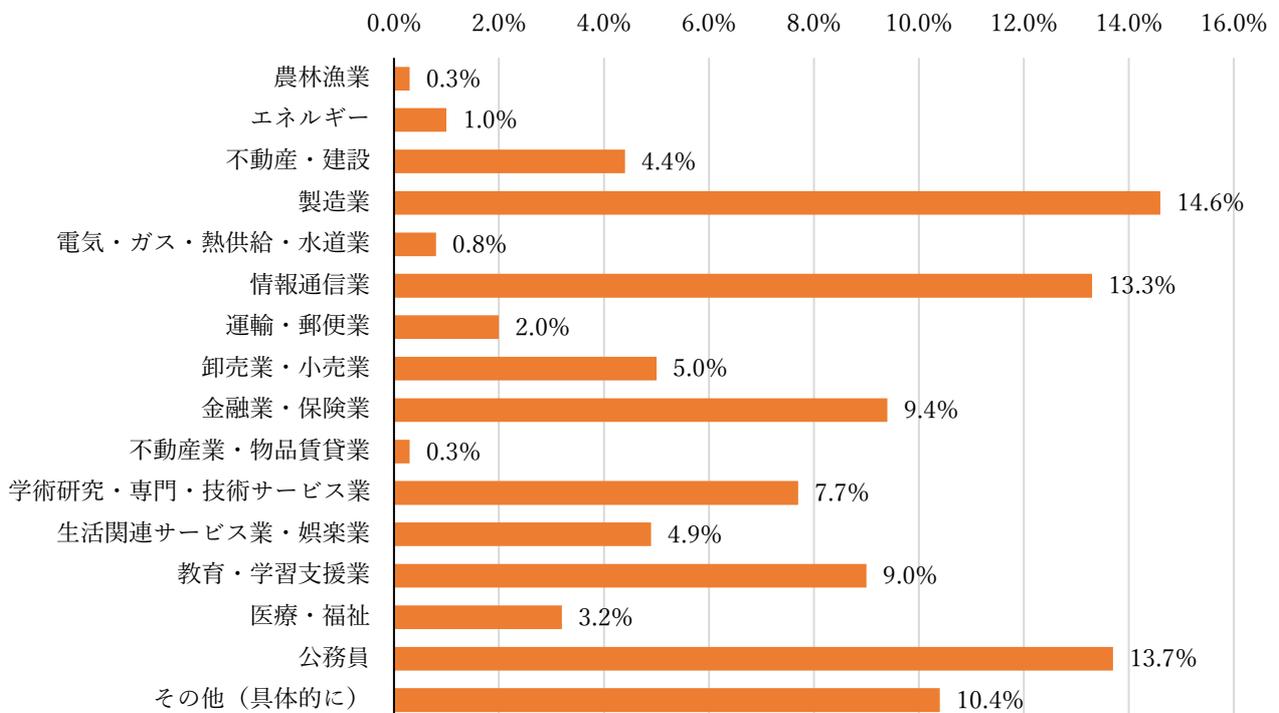
会社などの役員	37
正規の職員・従業員	1,066
パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託	63
自営業主	42
自家営業の手伝い	12
就業していない	44
上記以外 (具体的に)	27

Q29. 転職または辞職された理由は何ですか。最も大きい理由を一つだけお選びください。



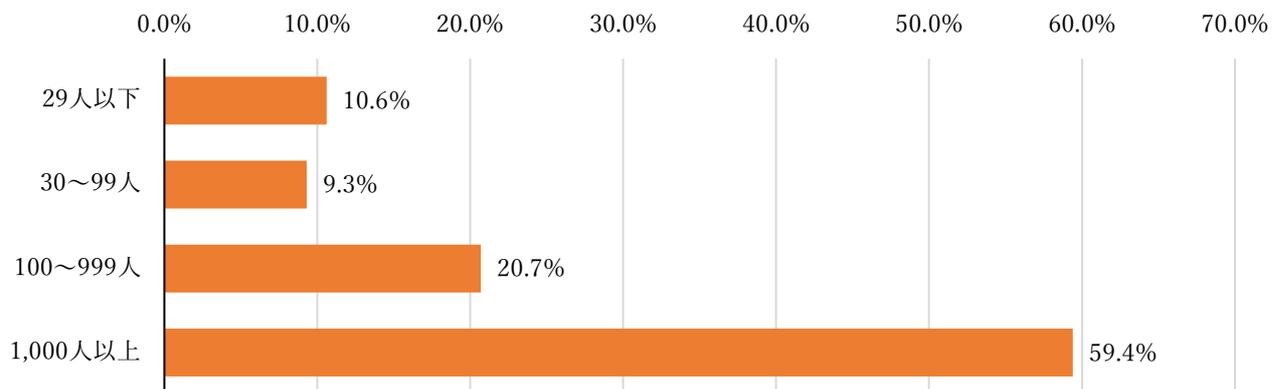
新たなステップアップを図るため	263
キャリアを買われたから	21
より大学の専門性に近かったから	8
収入面での不満	27
労働時間面での不満	54
職場の人間関係	19
自分の関心に合わなかった	38
能力不足	1
解雇や倒産など	5
結婚	24
出産・育児	8
地元で働くため	22
任期満了のため	10
その他（具体的に）	34

Q30. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。



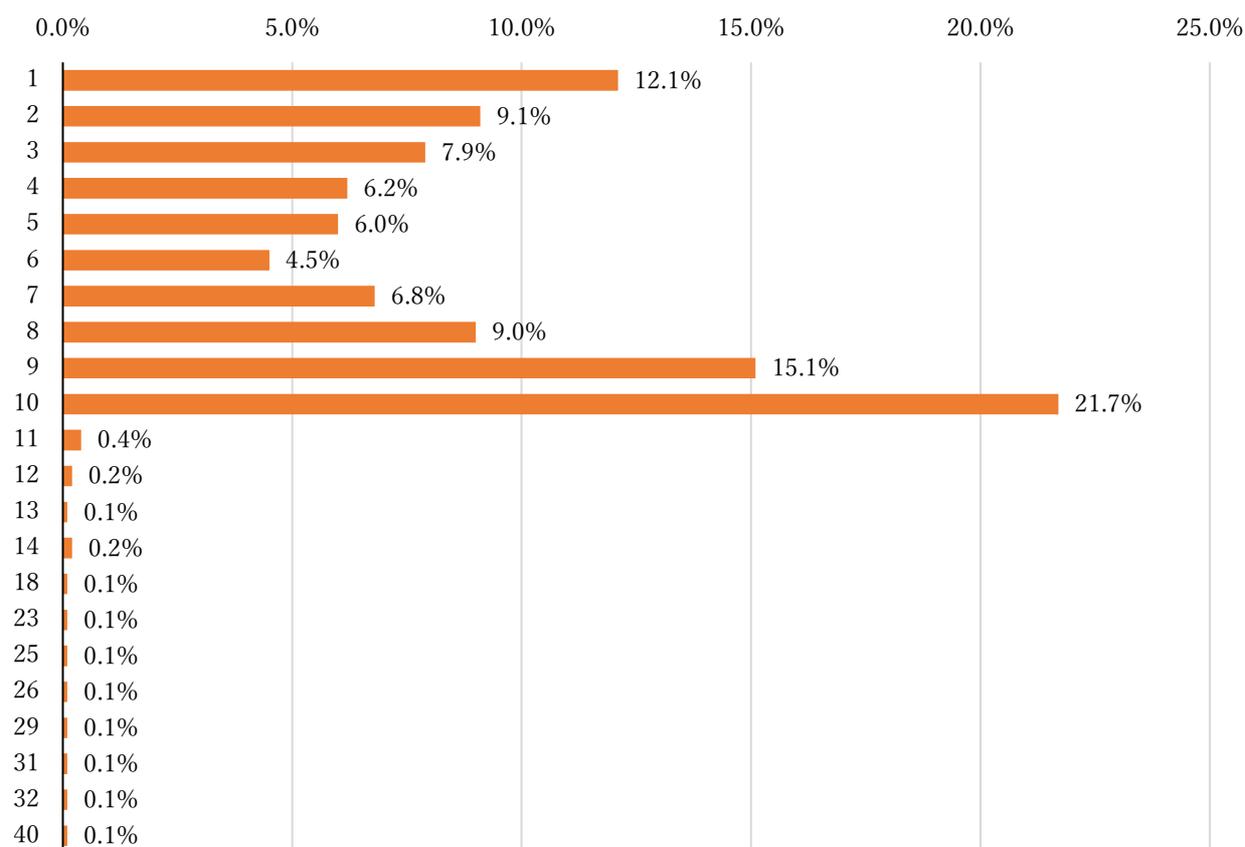
農林漁業	4
エネルギー	12
不動産・建設	54
製造業	181
電気・ガス・熱供給・水道業	10
情報通信業	165
運輸・郵便業	25
卸売業・小売業	62
金融業・保険業	116
不動産業・物品賃貸業	4
学術研究・専門・技術サービス業	95
生活関連サービス業・娯楽業	60
教育・学習支援業	111
医療・福祉	40
公務員	169
その他（具体的に）	128

Q31. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。



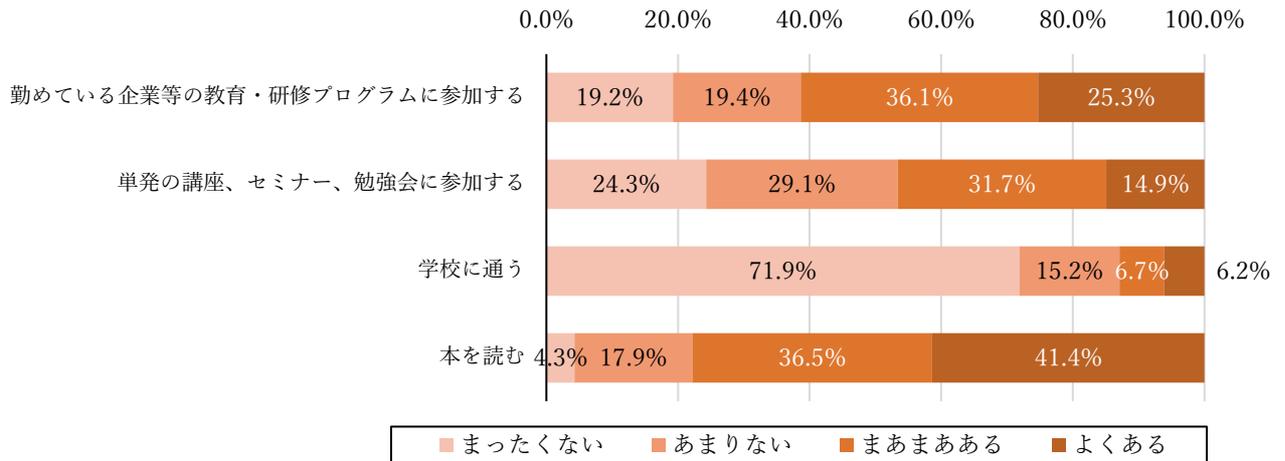
29人以下	131
30~99人	115
100~999人	256
1,000人以上	733

Q32. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。



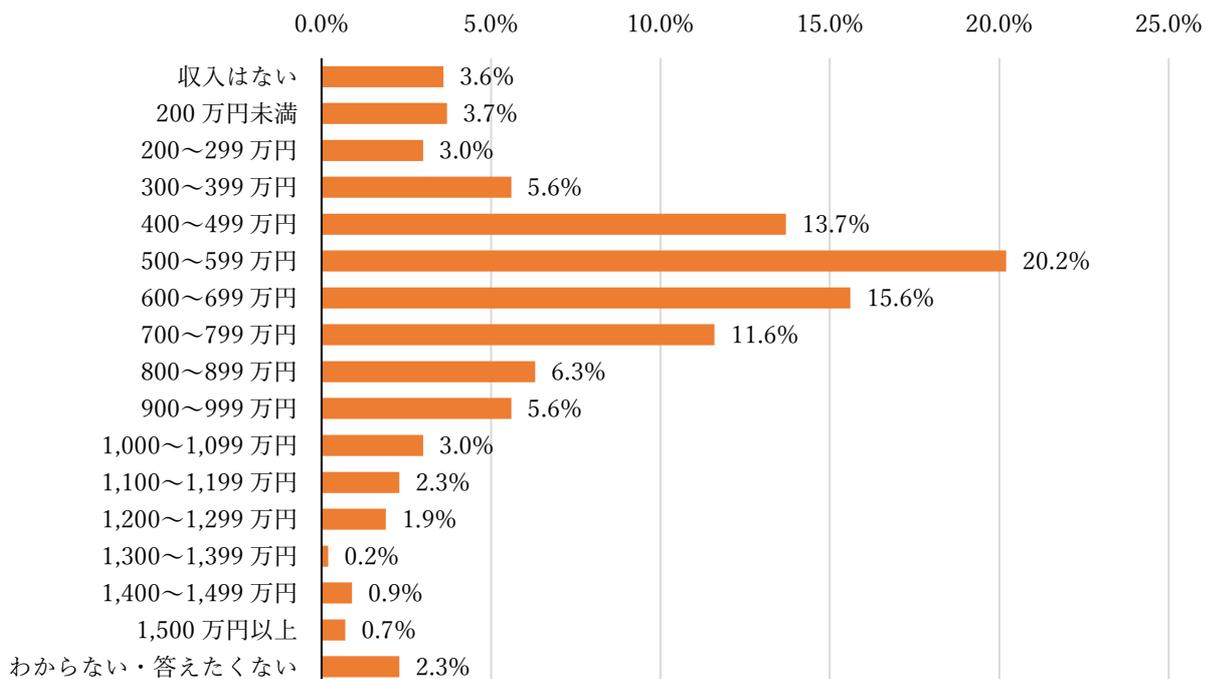
1年	149	12年	3
2年	112	13年	1
3年	97	14年	2
4年	76	18年	1
5年	74	23年	1
6年	55	25年	1
7年	84	26年	1
8年	111	29年	1
9年	185	31年	1
10年	267	32年	1
11年	5	40年	1

Q33. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。



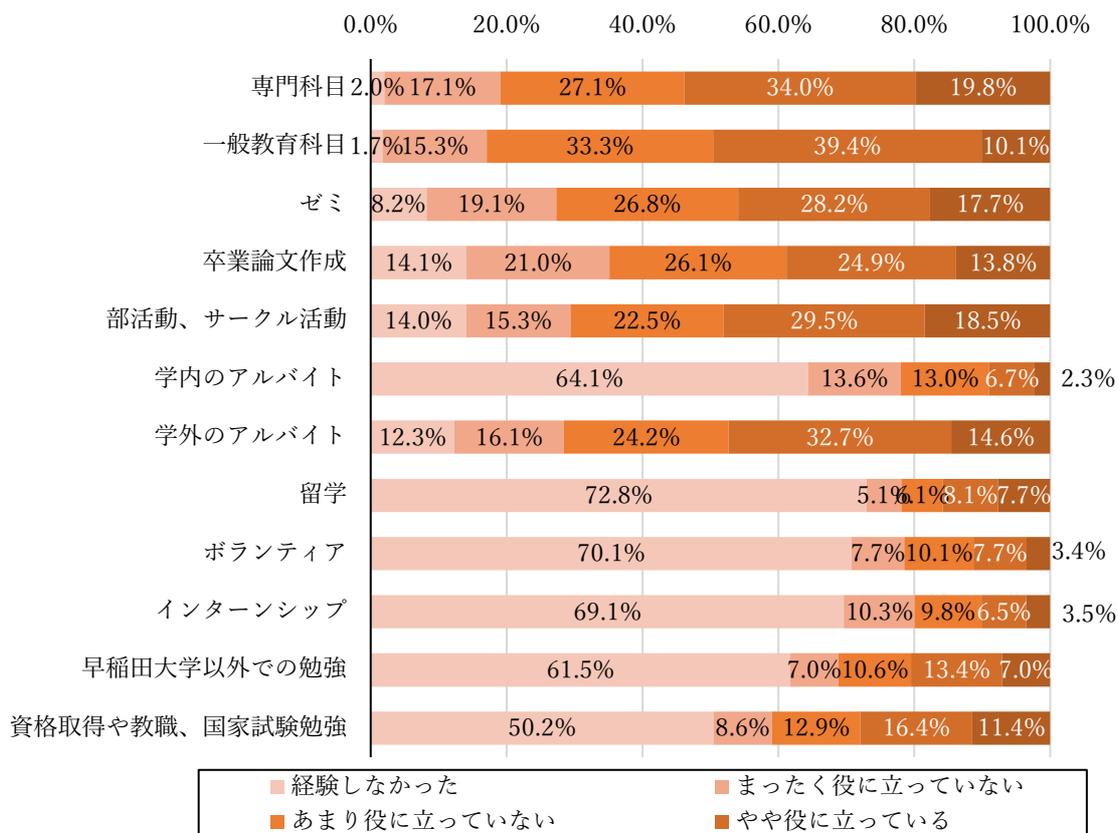
	ま た く な い	あ ま り な い	ま あ ま あ る	よ く あ る
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	246	248	461	323
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	311	372	406	191
学校に通う	919	195	86	79
本を読む	55	229	467	530

Q34. あなたの現在の年収（税込）について、該当するもの一つだけお選びください。



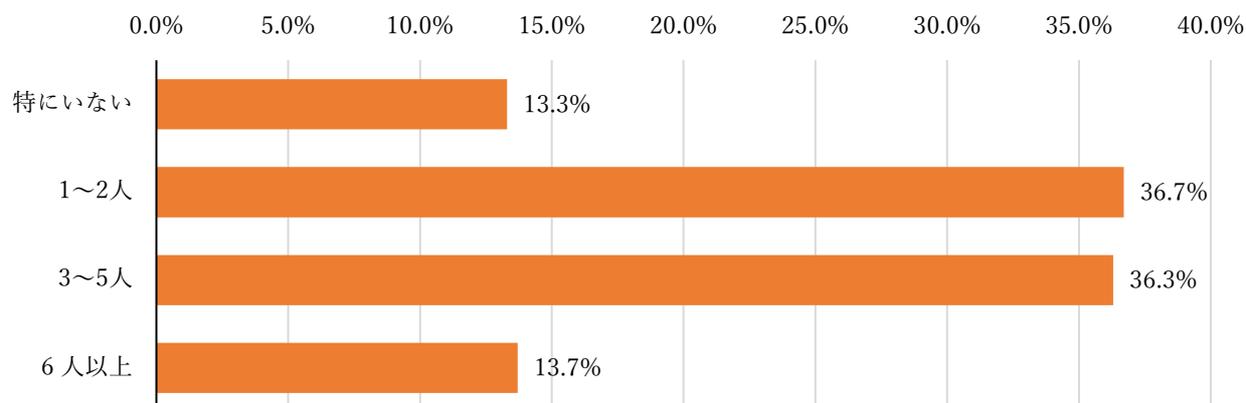
収入はない	46
200 万円未満	48
200～299 万円	38
300～399 万円	72
400～499 万円	176
500～599 万円	259
600～699 万円	200
700～799 万円	149
800～899 万円	81
900～999 万円	72
1,000～1,099 万円	39
1,100～1,199 万円	29
1,200～1,299 万円	24
1,300～1,399 万円	3
1,400～1,499 万円	11
1,500 万円以上	9
わからない・答えたくない	29

Q35. あなたの学部時代の経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。該当するものをお選びください。



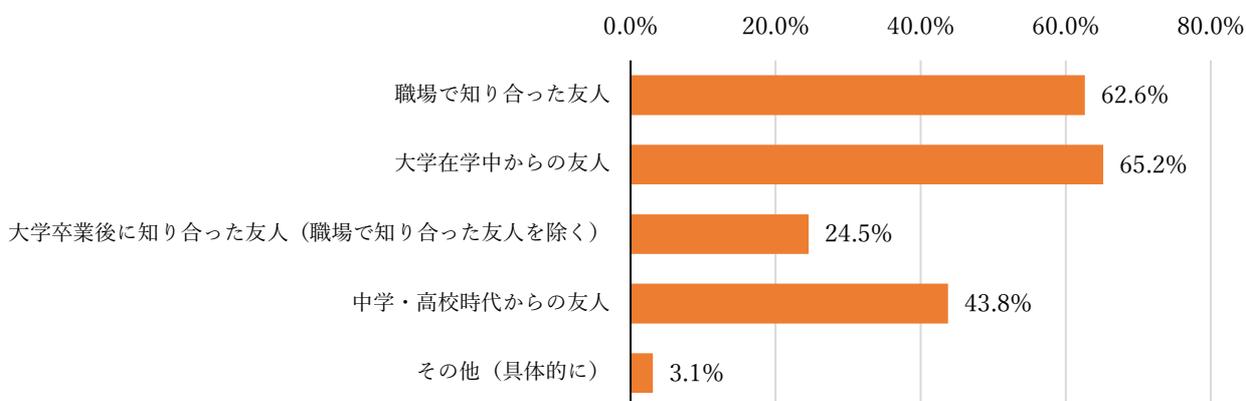
	経験しなかった	まったく役に立っていない	あまり役に立っていない	やや役に立っている	かなり役に立っている
専門科目	26	218	346	435	253
一般教育科目	22	196	425	504	129
ゼミ	105	244	342	361	226
卒業論文作成	180	268	333	318	177
部活動、サークル活動	179	196	288	377	236
学内のアルバイト	819	174	166	85	29
学外のアルバイト	157	206	309	418	186
留学	930	65	78	103	98
ボランティア	896	98	129	99	44
インターンシップ	883	132	125	83	45
早稲田大学以外での勉強	786	90	136	171	90
資格取得や教職、国家試験勉強	642	110	165	210	146

Q36. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。該当するものを一つだけお選びください。



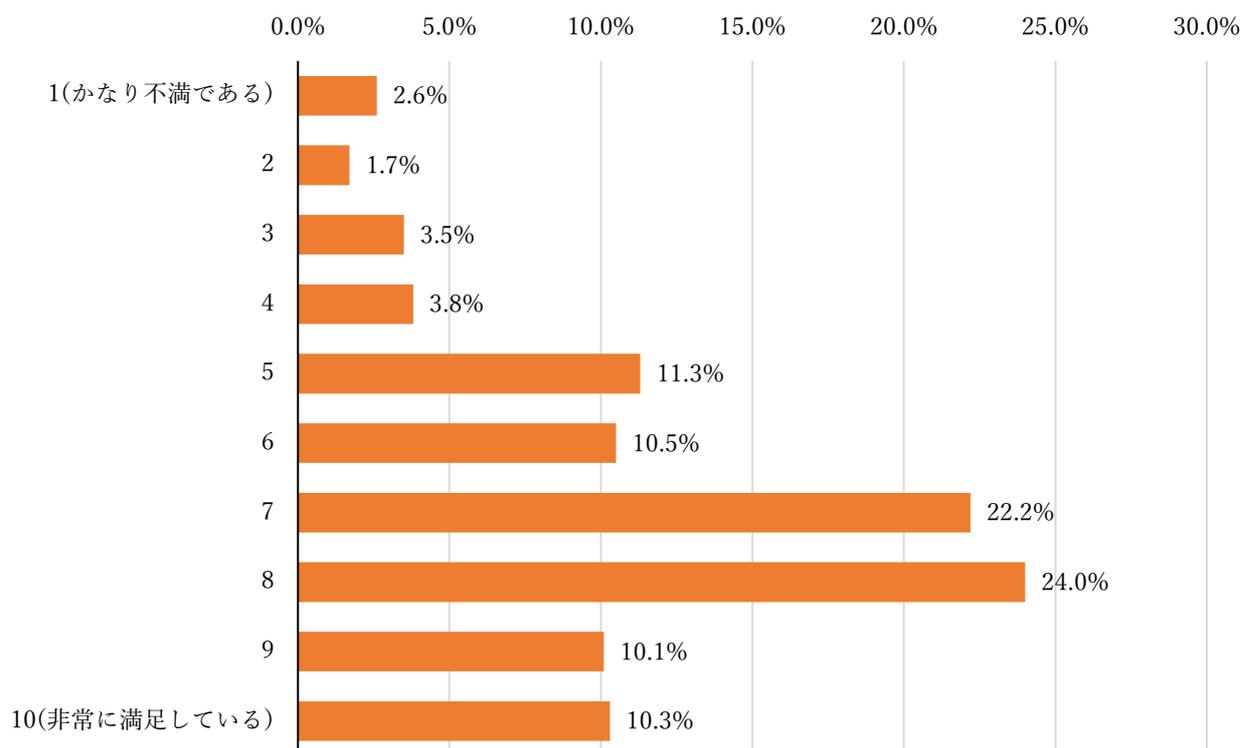
特にない	170
1~2人	471
3~5人	466
6人以上	176

Q37. その友人は、どのような関係にある方ですか。あてはまるものすべてをお選びください。



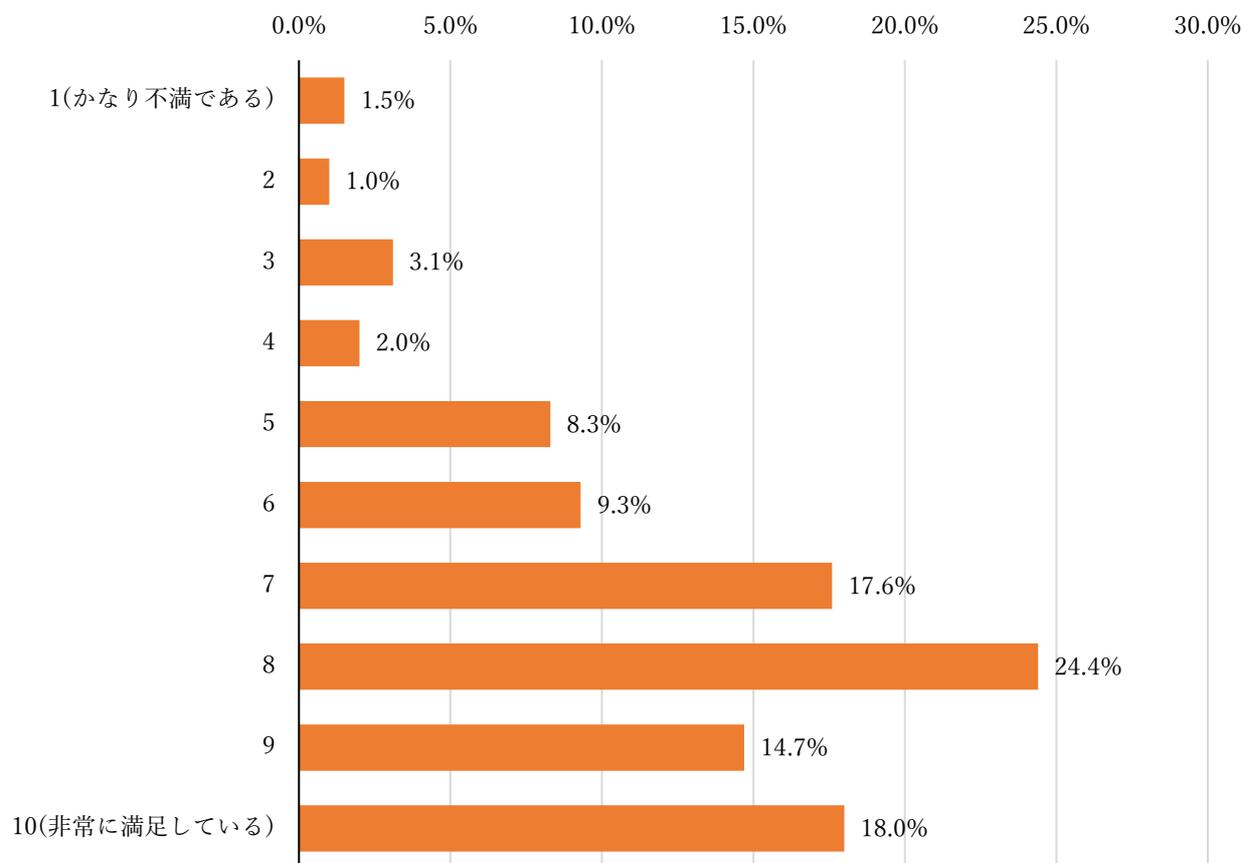
職場で知り合った友人	694
大学在学中からの友人	722
大学卒業後に知り合った友人（職場で知り合った友人を除く）	272
中学・高校時代からの友人	485
その他（具体的に）	34

Q38. あなたの現在の仕事の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	33
2	21
3	45
4	48
5	144
6	134
7	283
8	305
9	128
10(非常に満足している)	131

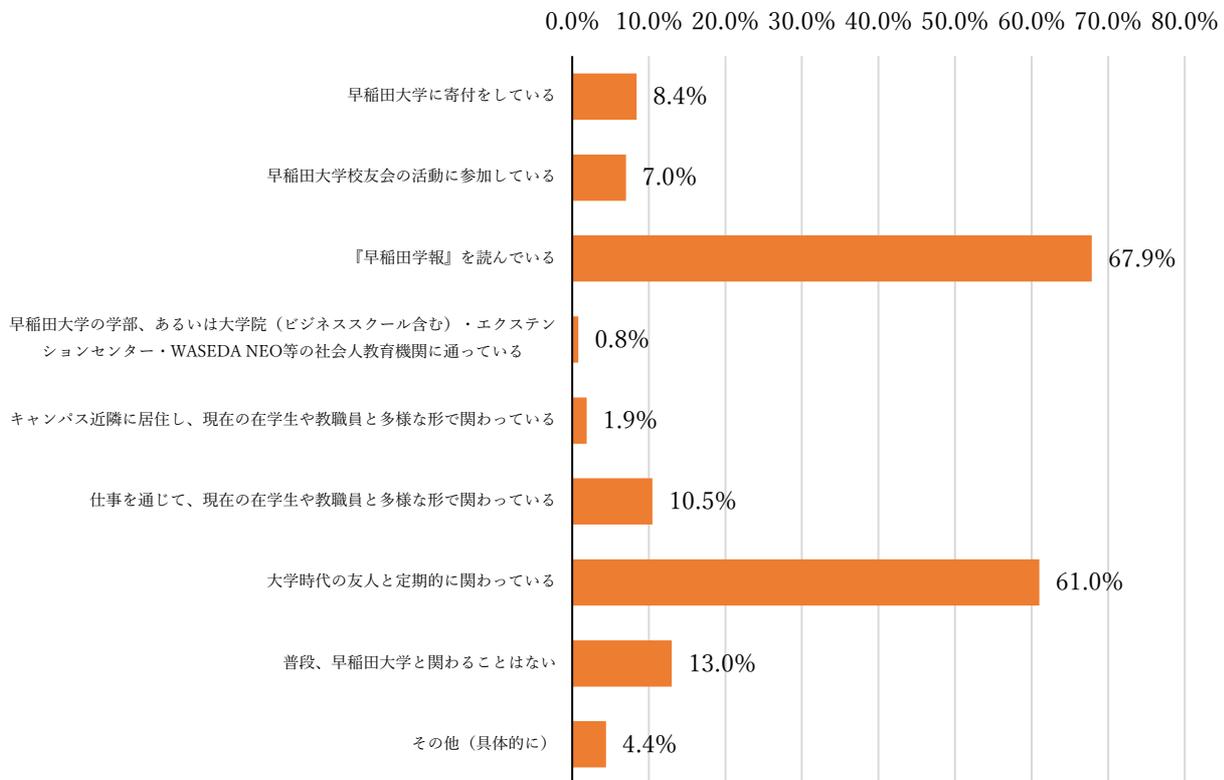
Q39. あなたの生活（仕事を除く）の満足度はどの程度ですか。それぞれ一つずつお選びください。



1(かなり不満である)	19
2	13
3	39
4	26
5	106
6	119
7	225
8	312
9	188
10(非常に満足している)	230

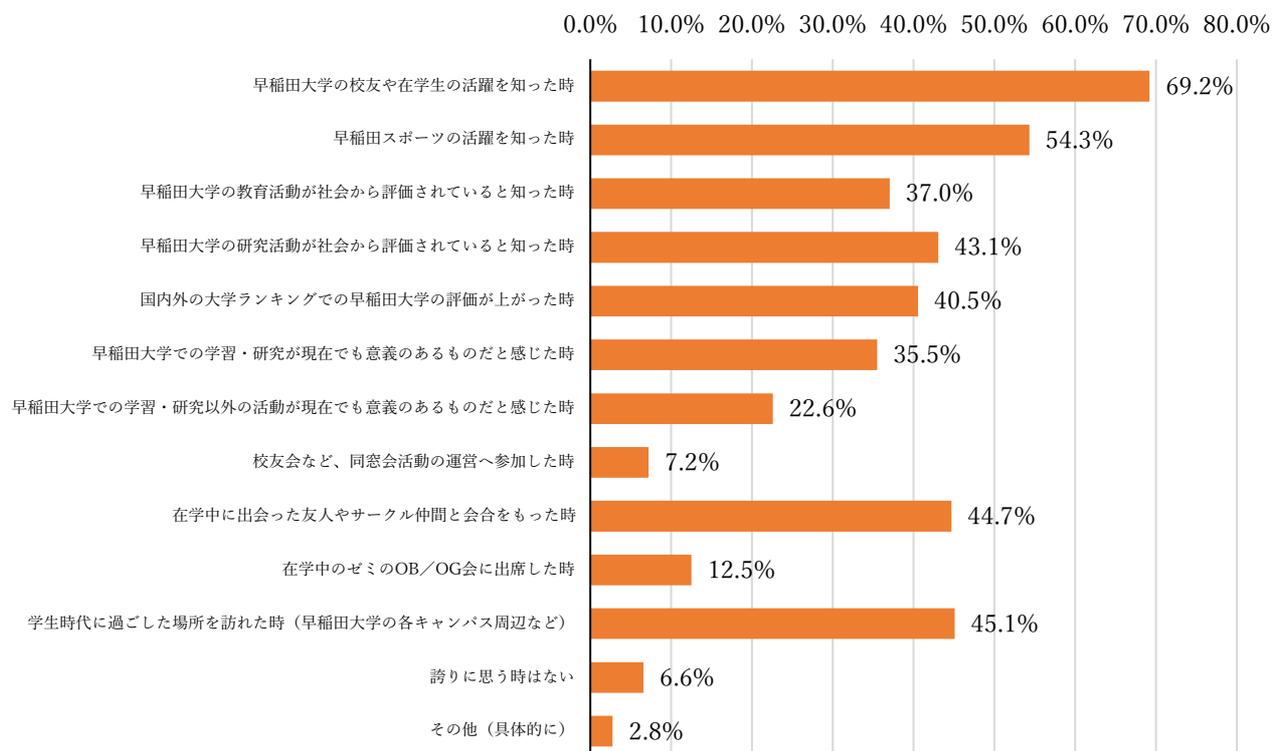
5. 交友関連・自由記述

Q42. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。



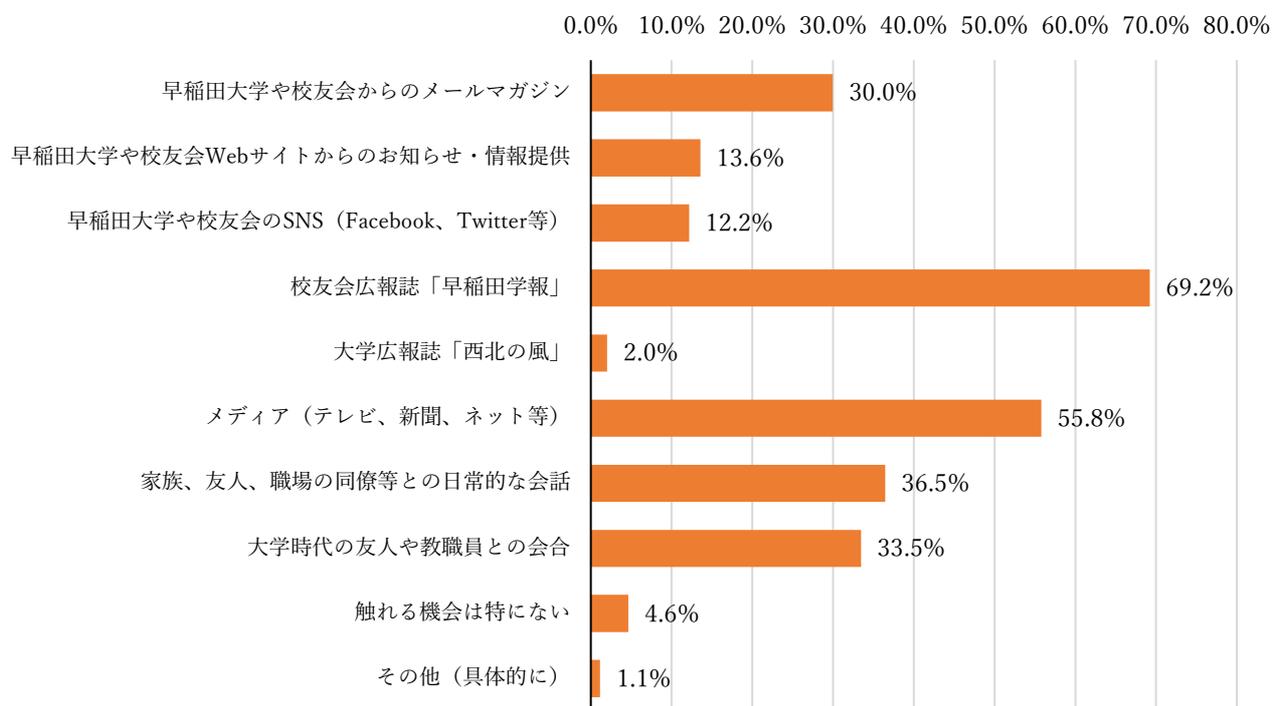
早稲田大学に寄付をしている	103
早稲田大学校友会の活動に参加している	86
『早稲田学報』を読んでいる	830
早稲田大学の学部、あるいは大学院（ビジネススクール含む）・エクステンションセンター・WASEDA NEO等の社会人教育機関に通っている	10
キャンパス近隣に居住し、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	23
仕事を通じて、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	128
大学時代の友人と定期的に関わっている	746
普段、早稲田大学と関わることはない	159
その他（具体的に）	54

Q43. 早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学の校友や在学生の活躍を知った時	852
早稲田スポーツの活躍を知った時	669
早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時	456
早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時	530
国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時	499
早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時	437
早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時	278
校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時	89
在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時	550
在学中のゼミのOB/OG会に出席した時	154
学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）	555
誇りに思う時はない	81
その他（具体的に）	34

Q44. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。



早稲田大学や校友会からのメールマガジン	369
早稲田大学や校友会 Web サイトからのお知らせ・情報提供	167
早稲田大学や校友会の SNS (Facebook、Twitter 等)	150
校友会広報誌「早稲田学報」	852
大学広報誌「西北の風」	25
メディア (テレビ、新聞、ネット等)	687
家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話	449
大学時代の友人や教職員との会合	412
触れる機会はない	57
その他 (具体的に)	14

2020年度 早稲田大学卒業生調査 報告書

2021年10月

早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (7号館4F)